

Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(アプリケーション/リ ソース定義)

文法書

3020-3-Y17-60

■ 対象製品

マニュアル「アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説」の前書きの対象製品の説明を参照してください。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

CORBA は、Object Management Group が提唱する分散処理環境アーキテクチャの名称です。

GIF は、米国 CompuServe Inc.が開発したフォーマットの名称です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

OMG, CORBA, IIOP, UML, Unified Modeling Language, MDA, Model Driven Architecture は、Object Management Group, Inc.の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

X/Open は、The Open Group の英国ならびに他の国における登録商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

■ 発行

2015 年 4 月 3020-3-Y17-60

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2012, 2015, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(3020-3-Y17-60) uCosminexus Application Server 09-70, uCosminexus Application Server(64) 09-70, uCosminexus Client 09-70, uCosminexus Developer 09-70, uCosminexus Service Architect 09-70, uCosminexus Service Platform 09-70, uCosminexus Service Platform(64) 09-70

追加・変更内容	変更箇所
記載内容は変更なし（リンク情報だけを変更した）。	—

uCosminexus Application Server 09-60, uCosminexus Application Server(64) 09-60, uCosminexus Client 09-60, uCosminexus Developer 09-60, uCosminexus Service Architect 09-60, uCosminexus Service Platform 09-60, uCosminexus Service Platform(64) 09-60

追加・変更内容	変更箇所
記載内容は変更なし（リンク情報だけを変更した）。	—

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルをお読みになる際の前提情報については、マニュアル「アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説」のはじめにの説明を参照してください。

目次

1	ファイルの概要	1
1.1	ファイルの種類	2
1.2	属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先	4
1.3	ファイルの説明の記述形式	6
1.4	ファイル編集時の注意事項	8
2	アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)	9
2.1	アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容	10
2.2	アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で指定する各属性の詳細	61
2.2.1	アプリケーション統合属性の詳細	61
2.2.2	EJB-JAR 属性の詳細	67
2.2.3	Session Bean 属性の詳細	69
2.2.4	Entity Bean 属性の詳細	87
2.2.5	Message-driven Bean 属性の詳細	109
2.2.6	War 属性の詳細	122
2.2.7	Filter 属性の詳細	149
2.2.8	Servlet 属性の詳細	150
2.2.9	Connector 属性の詳細	152
3	J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル	181
3.1	アプリケーション統合属性ファイル	182
3.1.1	アプリケーション統合属性ファイルの指定内容	182
3.2	アプリケーション属性ファイル	185
3.2.1	アプリケーション属性ファイルの指定内容	185
3.2.2	DD との対応	187
3.2.3	cosminexus.xml との対応	188
3.3	EJB-JAR 属性ファイル	189
3.3.1	EJB-JAR 属性ファイルの指定内容	189
3.3.2	DD との対応	197
3.3.3	cosminexus.xml との対応	205
3.4	Session Bean 属性ファイル	207
3.4.1	Session Bean 属性ファイルの指定内容	207
3.4.2	DD との対応	223
3.4.3	cosminexus.xml との対応	228
3.5	Entity Bean 属性ファイル	232
3.5.1	Entity Bean 属性ファイルの指定内容	232

3.5.2	DD との対応	250
3.5.3	cosminexus.xml との対応	254
3.6	MessageDrivenBean 属性ファイル	259
3.6.1	MessageDrivenBean 属性ファイルの指定内容	259
3.6.2	DD との対応	268
3.6.3	cosminexus.xml との対応	273
3.7	WAR 属性ファイル	277
3.7.1	WAR 属性ファイルの指定内容	277
3.7.2	DD との対応	312
3.7.3	cosminexus.xml との対応	332
3.8	フィルタ属性ファイル	337
3.8.1	フィルタ属性ファイルの指定内容	337
3.8.2	DD との対応	338
3.8.3	cosminexus.xml との対応	339
3.9	サーブレット属性ファイル	340
3.9.1	サーブレット属性ファイルの指定内容	340
3.9.2	DD との対応	341
3.9.3	cosminexus.xml との対応	343

4

リソースの設定で使用する属性ファイル	345	
4.1	Connector 属性ファイル	346
4.1.1	Connector 属性ファイルの指定内容	346
4.1.2	リソースアダプタの定義	365
4.1.3	リソースアダプタの設定	369
4.1.4	ResourceAdapter インスタンスに関するコンフィグレーションプロパティの定義	370
4.1.5	アウトバウンドリソースアダプタの定義	372
4.1.6	インバウンドリソースアダプタの定義	381
4.1.7	管理対象オブジェクトの定義	383
4.1.8	セキュリティパーミッションの定義	387
4.1.9	リソースアダプタの実行時情報	387
4.1.10	DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ	389
4.1.11	TP1 インバウンドアダプタに設定する<config-property>に指定できるプロパティ	408
4.1.12	CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ	411
4.1.13	<property>タグに指定できるプロパティ	414
4.1.14	Connector 属性ファイルのテンプレートファイル	419
4.1.15	DD との対応	421
4.1.16	cosminexus.xml との対応	427
4.2	JavaBeans リソース属性ファイル	430
4.2.1	JavaBeans リソース属性ファイルの指定内容	430

4.3 メール属性ファイル	433
---------------	-----

索引	435
----	-----

1

ファイルの概要

この章では、アプリケーションサーバで使用するファイルの種類、記述規則、文法の記述形式について説明します。

なお、このマニュアルでは、アプリケーションサーバで使用するファイルのうち、J2EE アプリケーションやリソースを設定する場合に、属性情報を設定するファイルについて説明します。

アプリケーションサーバで使用するファイルのうち、サーバに関する定義情報を記載するファイルについては、マニュアル「アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義)」の「1. ファイルの概要」を参照してください。

1.1 ファイルの種類

J2EE アプリケーションの設定では、属性ファイルを使用します。なお、属性ファイルのファイル名は任意です。

このマニュアルでは、ファイルを次の二つに分類しています。

- アプリケーションに含めて使用するファイル
- サーバ管理コマンド実行時の引数に指定するファイル

それぞれの属性ファイルについて説明します。

(1) アプリケーションに含めて使用するファイル

アプリケーションサーバで使用するファイルのうち、アプリケーションに含めて使用するファイルについて説明します。

ファイルの種類

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

概要

アプリケーション、EJB-JAR、Session Bean、Entity Bean、Message-driven Bean、WAR、フィルタ、サーブレット/JSP およびリソースアダプタのアプリケーションサーバ独自の情報を定義するファイルです。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の詳細については、「2. アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)」を参照してください。

(2) サーバ管理コマンド実行時の引数に指定するファイル

アプリケーションサーバで使用するファイルのうち、サーバ管理コマンドを実行する場合に、引数に指定するファイルについて次の表に示します。

表 1-1 サーバ管理コマンド実行時の引数に指定するファイル

ファイルの種類	概要	参照先マニュアル	参照先
アプリケーション統合属性ファイル	アプリケーション、EJB-JAR、Session Bean、Entity Bean、Message-driven Bean、WAR、フィルタ、サーブレット/JSP およびリソースアダプタの属性を一括して取得、編集する場合に使用するファイルです。	このマニュアル	3.1
アプリケーション属性ファイル	アプリケーションの属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。		3.2
EJB-JAR 属性ファイル	EJB-JAR の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。		3.3
Session Bean 属性ファイル	Session Bean の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。		3.4
Entity Bean 属性ファイル	Entity Bean の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。		3.5
MessageDrivenBean 属性ファイル	MessageDrivenBean の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。		3.6

ファイルの種類	概要	参照先マニュアル	参照先
WAR 属性ファイル	WAR の属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。	このマニュアル	3.7
フィルタ属性ファイル	フィルタの属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		3.8
サーブレット属性ファイル	サーブレット/JSP の属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		3.9
Connector 属性ファイル	リソースアダプタの属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		4.1
JavaBeans リソース属性ファイル	JavaBeans の属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		4.2
データソース設定ファイル	データソースの動作に使用する情報を設定する場合に使用するファイルです。	機能解説 互換編	2.11.3
データソース属性ファイル	データソースの属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		2.11.4
プール管理情報設定ファイル	Web コンテナのコネクションプール機能を設定する場合に使用するファイルです。		3.11.6
メール属性ファイル	メールコンフィグレーションの属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。	このマニュアル	4.3

注 1 「参照先マニュアル」に示したマニュアル名の「アプリケーションサーバ」は省略しています。

注 2 バッチアプリケーションを実行するシステムの場合，使用できるのはこの表で示した属性ファイルのうち Connector 属性ファイルだけです。

1.2 属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先

属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先について説明します。属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先を OS ごと（Windows および UNIX）に分けて表に示します。

表 1-2 属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先（Windows の場合）

属性ファイル	DTD ファイルの格納先
cosminexus.xml（アプリケーション属性ファイル）	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%cosminexus_9_5.dtd
アプリケーション統合属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-application-all-property_9_0.dtd
アプリケーション属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-application-property_8_0.dtd
EJB-JAR 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-ejb-jar-property_9_0.dtd
Session Bean 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-session-bean-property_9_0.dtd
Entity Bean 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-entity-bean-property_7_6.dtd
MessageDrivenBean 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-message-bean-property_7_6.dtd
WAR 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-war-property_9_0.dtd
フィルタ属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-filter-property_7_0.dtd
サーブレット属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-servlet-property_7_0.dtd
Connector 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-connector-property_7_6.dtd
JavaBeans リソース属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-javabeans-resource-property_7_0.dtd
データソース設定ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-datasource-configuration_6_0.dtd
データソース属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-datasource-property_6_0.dtd
プール管理情報設定ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-webconpool-configuration_6_0.dtd
メール属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%dtlds%hitachi-mail-property_7_1.dtd

表 1-3 属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先 (UNIX の場合)

属性ファイル	DTD ファイルの格納先
cosminexus.xml (アプリケーション属性ファイル)	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/cosminexus9_5.dtd
アプリケーション統合属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-application-all-property_9_0.dtd
アプリケーション属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-application-property_8_0.dtd
EJB-JAR 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-ejb-jar-property_9_0.dtd
Session Bean 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-session-bean-property_9_0.dtd
Entity Bean 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-entity-bean-property_7_6.dtd
MessageDrivenBean 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-message-bean-property_7_6.dtd
WAR 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-war-property_9_0.dtd
フィルタ属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-filter-property_7_0.dtd
サーブレット属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-servlet-property_7_0.dtd
Connector 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-connector-property_7_6.dtd
JavaBeans リソース属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-javabeans-resource-property_7_0.dtd
データソース設定ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-datasource-configuration_6_0.dtd
データソース属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-datasource-property_6_0.dtd
プール管理情報設定ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-webconpool-configuration_6_0.dtd
メール属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-mail-property_7_1.dtd

DTD ファイルを使用するときの注意事項を次に示します。

- DTD ファイルの内容は変更しないでください。
- DTD ファイルをコピーして使用しないでください。
- サーバ管理コマンドを実行したマシン以外の環境で属性ファイルを XML エディタなどで使用する場
合、使用する環境に合わせて属性ファイルの URI 指定を書き直してください。

1.3 ファイルの説明の記述形式

ファイルの説明の記述形式について説明します。また、文法で使用する記号についても説明します。

(1) 記述形式

2章以降、ファイルの説明を次の形式で記述します。

- 指定内容
属性ファイルの構成を示します。
- 各属性の詳細
属性ファイルに定義するタグの詳細について説明します。
- テンプレートファイル
属性ファイルのテンプレートファイルを示します。
- DD との対応
属性ファイルと DD との対応を示します。
- cosminexus.xml との対応
DD と cosminexus.xml との対応を示します。次のような場合に、参考情報として参照してください。
 - 既存の属性ファイルから cosminexus.xml に変更する場合
 - cosminexus.xml で設定した内容をサーバ管理コマンドで属性ファイルとして取得する場合

参考

すべてのファイルで上記の項目をすべて説明しているわけではありません。また、上記以外に、各ファイルの固有情報を記載している場合があります。

(2) 文法で使用する記号

文法は次の表に示す記号および構文要素を使用して記述します。

表 1-4 文法で使用している記号

記号	意味
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」を意味します。 (例) A B A または B を指定することを示します。
[]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。複数の項目が横に並べて記述されている場合には、すべてを省略するか、記号 { } と同じくどれか一つを選択します。 (例 1) [A] 「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。 (例 2) [B C] 「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。項目が横に並べられ、記号 で区切られている場合は、そのうちの一つを選択します。 (例) {A B C} A, B または C のどれかを指定することを示します。
...	記述が省略されていることを示します。

記号	意味
...	(例) ABC... ABCの後ろに記述があり、その記述が省略されていることを示します。
< >	この記号で囲まれている項目は、該当する要素やファイルなどを指定したり、該当する要素が表示されたりすることを示します。 (例1) <プロパティ> プロパティを記述します。またはプロパティが表示されます。 (例2) <ファイル名> ファイル名を指定します。
...	この記号の直前に示す記号を繰り返し、複数個指定できることを示します。 (例) <プロパティ>... プロパティは複数個、繰り返して指定できます。

表 1-5 文法で使用している構文要素

構文要素	定義
英字	A~Z a~z
英小文字	a~z
英大文字	A~Z
数字	0~9
英数字	A~Z a~z 0~9
記号	! " # \$ % & ' () + , _ . / : ; < = > @ [] ^ - { } ~ タブ 空白

注 すべての半角文字を使用してください。

1.4 ファイル編集時の注意事項

Windows Server 2012, Windows Server 2008, Windows 8, Windows 7, または Windows Vista でファイルを編集する場合の注意事項を次に示します。なお、システムドライブを C ドライブとして説明します。

定義ファイルを更新する場合

アプリケーションサーバが提供する定義ファイルは、管理者特権で更新する必要があります。管理者特権のないユーザが定義ファイルを更新しても、C:*Program Files 以下のディレクトリにある定義ファイルは更新されません。管理者特権のないユーザが更新したファイルは、次に示すディレクトリ以下に保存されます。

C:*Users*ユーザー名*AppData*Local*VirtualStore

なお、アプリケーションサーバは管理者特権で起動されるため、管理者特権のないユーザが更新した定義ファイルの内容は無視されます。

Unicode の補助文字を使用する場合

Windows Server 2012, Windows Server 2008, Windows 8, Windows 7, または Windows Vista で追加された文字には Unicode の補助文字が含まれます。アプリケーションサーバで使用する定義ファイルに、Unicode の補助文字は使用できません。

Unicode の補助文字を使用できない定義の例を示します。

- EAR, WAR, JAR, EJB-JAR, サブレット, JSP, クラス, メソッド, 引数, および変数の名称
- DD 内の各種定義
- そのほか, 各種定義ファイルの設定値

また、実行時の文字エンコーディングに変換できない文字をログファイルへ出力した場合、正しく出力されません。

2

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

この章では、アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) について説明します。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) は、EJB-JAR, Session Bean, Entity Bean, Message-driven Bean, WAR, フィルタ, サーブレット/JSP およびリソースアダプタに関する、アプリケーションサーバ独自の定義情報を設定するためのファイルです。

2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) は、アプリケーションサーバ独自の情報を取得、編集する場合に使用するファイルです。アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) には、設定値を変更した個所だけが記載されます。サーバ管理コマンドなどでデフォルト値を設定した場合、該当するタグがこのファイルから削除されます。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で定義する属性を次に示します。

- アプリケーションの属性
- EJB-JAR の属性
- Session Bean の属性
- Entity Bean の属性
- Message-driven Bean の属性
- WAR の属性
- フィルタの属性
- サーブレット/JSP の属性
- リソースアダプタの属性

なお、アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) はアプリケーションサーバのバージョンが 08-00 以降の場合に使用できます。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の形式および格納先を記します。

形式

xml 形式です。

格納先

<EAR のルート>/META-INF/cosminexus.xml

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の表中で定義する項目について説明します。

項目名	説明
タグ名	設定するタグを表します。
出現パターン	タグが出現する回数を示します。
内容	タグに定義する内容を示します。
指定可能値	タグに指定できる値を示します。
デフォルト	タグ、またはタグに指定する内容が省略されている場合に有効になる指定値を示します。デフォルト値がない場合は"なし"を記述します。
特定キー	DD およびモジュールを特定するためのキーであるかどうかを示します。凡例を次に示します。 D：DD の要素を特定するキーです。 K：モジュールを特定するためのキーです。 -：特定するキーではありません。

各タグの詳細、およびキーの省略、値の省略、ほかのタグとの依存関係については、「2.2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で指定する各属性の詳細」を参照してください。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) は次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。なお、DOCTYPE 宣言を編集する必要はありません。

```
<!DOCTYPE cosminexus-app PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Cosminexus 9.5//EN" 'file:///<Application Server
のインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/cosminexus_9_5.dtd'>
```

cosminexus.xml の構成および指定内容について説明します。

タグ名の欄にあるマニュアルの参照先には、そのタグの関連情報があります。マニュアル名に「アプリケーションサーバ」と記載されたマニュアルについては、名称を省略しています。

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<cosminexus-app>	0 または 1 回	ルートタグ。	—	なし	—
└─┬─<security-prop>	0 または 1 回	cosminexus-app のセキュリティの管理方法を指定します。	—	なし	—
└─┬─┬─<security-method>	1 回	セキュリティ設定を有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • disable_methods_without_roles • map_methods_without_roles • no_security_for_methods_without_roles • no_security_for_all_methods 	no_security_for_methods_without_roles	—
└─┬─┬─┬─<default-security-role>	0 または 1 回	<security-method>に map_methods_without_roles を指定した場合のデフォルトセキュリティロールを指定します。	入力は制限されません。	なし	—
└─┬─<start-order>	0 または 1 回	J2EE アプリケーションの開始および停止の順番を指定します。 開始した場合は昇順で開始処理が実行され、終了した場合は降順に停止処理が実行されます。	0~2147483647 の整数値を指定します。	10	—
└─┬─<scheduling-unit> 「機能解説 拡張編」－「3.2.5」	0 または 1 回	キューの配置モデルを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Application 	Application	—

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<scheduling-unit> 「機能解説 拡張編」 - 「3.2.5」	0 または 1 回	キューの配置モデルを指定します。	• Bean	Application	-
└ <scheduling> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	CTM 連携関連の情報を設定します。	-	なし	-
<queue-name> 「機能解説 拡張編」 - 「3.2.5」	0 または 1 回	スケジューリングを行うキュー名を指定します。	英数字, およびアンダースコア「_」を指定できます。 指定できる文字数は 1~63 文字です。	アプリケーション名※	-
<parallel-count> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	CTM スケジューラがアプリケーションを呼ぶために用意するスレッド数を指定します。	1~127 の整数値を指定します。	1	-
<queue-length> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	キューの長さを指定します。	1~32767 の整数値を指定します。	CTM デーモンで保持している CTM キューの生成時の長さ (-CTMMaxRequestCount オプションで指定した長さ)	-
<managed-by-ctm> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	CTM 連携をするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	-
<ref-libraries>	0 または 1 回	参照するライブラリ JAR を指定します。	-	なし	-
<classpath>	1 回以上	参照ライブラリのクラスパスを指定します。	入力は制限されません。	なし	-
<method-observation-recovery-mode>	0 または 1 回	メソッド時間監視機能の障害回復モードを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • thread	なし	-

タグ名			出現パ ターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定 キー		
			<ejb-name>	1 回	ejb-jar.xml を含まないアプリケーションの場合, @Stateless, @Stateful, または@Singleton の name の設定値を指定します。 name が指定されていない場合は, EJB 実装クラス名のパッケージ名を取り除いたクラス名を指定します。	-	なし	D	
			<security-identity>	0 また は 1 回	SessionBean のセキュリティアイデンティティを定義します。	-	なし	-	
				<run-as>	1 回	実行時アイデンティティを定義します。	-	なし	-
				<user-name>	1 回	ユーザ名を指定します。	-	なし	-
			<resource-ref>	0 回以 上	SessionBean から参照するリソースを定義します。	-	なし	-	
				<res-ref-name>	1 回	リソース参照の名称を指定します。	-	なし	D
				<linked-to>	1 回	対応するリソースアダプタ表示名, メール表示名を指定します。 クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	-
			<resource-env-ref>	0 回以 上	SessionBean から参照するリソース環境変数を定義します。	-	なし	-	
				<resource-env-ref-name>	1 回	リソース環境変数参照の名称を指定します。	-	なし	D
			<linked-queue>	1 回	キュー名称を指定します。	-	なし	-	
				<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	-
				<queue>	1 回	キュー名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	-

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー		
					ト	<linked-adminobject>	1回	管理対象オブジェクトを指定します。	—	なし	—
					ト	<resourceadapter-name>	1回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
					└	<adminobject-name>	1回	管理対象オブジェクト名を指定します。	英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 アンダースコア (_) が連続している名前 	なし	—
					└	<linked-to>	1回	JavaBeans リソースの表示名を指定します。 DD 要素<resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指	—	リンク解決はされません。	—

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<linked-to>	1 回	定された場合だけ有効です。	—	リンク解決はされません。	—
<lookup-name>	0 または 1 回	<p>クライアントから EJB をルックアップする時に使う名前を指定します。</p> <p>HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。</p> <p>このタグを省略した場合、デフォルト値としてリソース名が使用されますが、デフォルト値に含まれる英数字とアンダースコア (_) 以外の文字はすべてアンダースコアに変換されます。</p>	<p>英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できません。</p> <p>スペース (), ダブルクォーテーション ("), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レズザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~)</p> <p>ただし、次に示す名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 <p>文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。</p> <p>指定できる文字数は 1~255 文字です。</p>	リソース名	—

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<optional-name>	0 または 1 回	リモートインタフェースの別名を指定します。	<p>英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できません。</p> <p>スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), プラケット ({}), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({}), ストローク (), チルダ (~)</p> <p>ただし、次の名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 予約語の HITACHI_EJB (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 スラッシュ (/) またはピリオド (.) だけの名前 スラッシュ (/) が連続している名前 <p>文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取</p>	別名は付きません。	-

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
			ト <maximum-sessions>	0 または 1 回	セッションの最大数または Bean インスタンスの最大数を指定します。 Stateless Session Bean の場合、この設定値は無効になります。	0 (無制限) または $1 \leq \text{maximum-sessions} \leq 2147483647$ の整数値。	0	-
			ト <stateless>	0 または 1 回	Session Bean の種別が Stateless の場合に指定します。 <stateless> または <stateful> のどちらかを指定するか、またはどちらも指定しません。	-	なし	-
			ト <pooled-instance>	0 または 1 回	プール内のインスタンスを定義します。	-	なし	-
			ト <minimum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」 - 「2.9.1」	0 または 1 回	プール内のインスタンスの最小数を指定します。 ただし、プーリングの動作は最大数を指定することでカスタマイズできるため、このタグの設定値は無視されます。	0 または $1 \leq \text{minimum} \leq \text{maximum}$ の整数値。	0	-
			ト <maximum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」 - 「2.9.1」	0 または 1 回	プール内のインスタンスの最大数を指定します。	0 (無制限) または $1 \leq \text{maximum} \leq 2147483647$ の整数値。 また、<enable-scheduling> の値が true かつアプリケーション属性 <managed-by-ctm> の値が true の場合は、指定可能範囲が異なります。 アプリケーション属性 <scheduling-unit> の指定値が Bean の場合： 0 または <scheduling>-<parallel-count> 以上の整数値。 アプリケーション属性の <scheduling-unit> の指定値が Application の場合：	0	-

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
				└	<maximum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」 - 「2.9.1」	0 または 1 回	プール内のインスタンスの最大数を指定します。	0 またはアプリケーション属性 <scheduling>-<parallel-count>以上の整数値。	0	-
				└	<instance-timeout>	0 または 1 回	インスタンス取得タイムアウト時間 (秒) を指定します。 0 を指定するとタイムアウトしません。	0~86400 の整数値。	0	-
				┐	<stateful>	0 または 1 回	Session Bean の種別が Stateful の場合に指定します。 <stateless>および <stateful>のどちらか一つを指定するか、もしくはどちらも指定しません。	-	なし	-
				┐	<maximum-active-sessions>	0 または 1 回	アクティブセッションの最大数を指定します。	maximum-sessions が 0 (無制限) の場合、 0 (無制限) ≤ maximum-active-sessions ≤ 2147483647 の整数値。 maximum-sessions が 0 (無制限) 以外の場合、 1 ≤ maximum-active-sessions ≤ maximum-sessions の整数値。	0	-
				┐	<inactivity-timeout>	0 または 1 回	再びアクティブ化するまでに非アクティブ状態に保持しておく時間 (分) を指定します。	0 (無制限) または 1 ≤ inactivity-timeout ≤ 2147483647 の整数値。	0	-
				└	<removal-timeout>	0 または 1 回	セッションが削除されるまでに非アクティブ状態に保持しておく時間 (分) を指定します。	0 (無制限) または 1 ≤ removal-timeout ≤ 2147483647 の整数値。	0	-
				┐	<enable-scheduling> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	該当する Bean をスケジューラの Gate として使用するかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	-

タグ名			出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
			<pass-by-reference>	0 または 1 回	pass-by-reference での EJB 呼び出しを行うかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	—
			<scheduling> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	CTM 連携関連の情報を設定します。	—	なし	—
			<queue-name> 「機能解説 拡張編」 - 「3.2.5」	0 または 1 回	スケジューリングを行うキュー名を指定します。	英数字, アンダースコア「_」を使用できます。 指定できる文字数は 1~63 文字です。	ejb 名	—
			<parallel-count> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	CTM スケジューラがアプリケーションを呼ぶために用意するスレッド数を指定します。	1~127 の整数値。	1	—
			<queue-length> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	キューの長さを指定します。	1~32767 の整数値。	CTM デーモンで保持している CTM キューの生成時の長さ (-CTMMaxRequestCount オプションで指定した長さ)	—
			<front-ejb>	0 または 1 回	フロント EJB (クライアントが直接呼び出す EJB) かどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	—
			<start-order>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。	0~2147483647 の整数値。	10	—
			<ejb-method-observation-timeout> 「機能解説 運用/監視/連携編」 - 「5 章」	0 回以上	EJB メソッドに仕掛中メソッド監視用タイムアウト時間を設定する場合に指定します。<ejb-method-observation-	—	なし	—

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
			<ejb-method-observation-timeout> 「機能解説 運用／監視／連携編」－「5章」	0回以上	timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値(<description>タグを除く)が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>の<method-observation-timeout>の値が有効となります。	－	なし	－
			└ <method>	1回以上	メソッドについて定義します。	－	なし	－
			└ <method-intf>	0または1回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local	Home, Remote, LocalHome, Localのすべて。	－
			└ <method-name>	1回	対象となるメソッド名を指定します。 アスタリスク「*」を指定した場合、すべてのメソッドを意味します。	入力は制限されません。	なし	－
			└ <method-params>	0または1回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。	－	なし	－
			└ <method-param>	0回以上	引数のデータ型を指定します。	空白区切り文字、行区切り文字、および段落区切り文字以外を指定します。	なし	－
			└ <method-observation-timeout>	1回	仕掛中メソッド監視用タイムアウト時間(秒)を指定します。 0を指定した場合、タイムアウトしません。	0～86400の整数値。	0	－
			└ <ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」－「3.15.8」	0回以上	EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-transaction-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下	－	なし	－

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー		
		└	<ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コ ンテナ共通機能)」 - 「3.15.8」	0 回以上	の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された <ejb-transaction-timeout> の <transaction-timeout> の値が有効となります。	-	なし	-
		└	<method>	1 回以上	メソッドについて定義します。	-	なし	-
			└ <method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local	Home, Remote, LocalHome, Local のすべて。	-
			└ <method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。 アスタリスク [*] を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。	-	なし	-
			└ <method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。	-	なし	-
			└ <method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定します。	-	なし	-
		└	<transaction-timeout>	1 回	トランザクションタイムアウト時間 (秒) を指定します。 0 (ゼロ) を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。	0~2147483647 の整数値。	0	-
		└	<entity>	0 回以上	EntityBean について定義します。	-	なし	-
		└	<ejb-name>	1 回	ejb の名称を指定します。 なお、このキーは EntityBean を特定するためのキーとなります。 ejb-jar.xml の <ejb-jar>-<enterprise-beans>-<entity>-<ejb-name> の設定値を指定します。	入力には制限されません。	なし	D

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
			<ejb-name>	1 回	ejb の名称を指定します。 なお、このキーは EntityBean を特定するためのキーとなります。 ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<entity>-<ejb-name> の設定値を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
			<security-identity>	0 または 1 回	EntityBean のセキュリティアイデンティティを定義します。	—	なし	—
			└─<run-as>	1 回	実行時アイデンティティを定義します。	—	なし	—
			└─<user-name>	1 回	ユーザ名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
			<resource-ref>	0 回以上	EntityBean から参照するリソースを定義します。	—	なし	—
			└─<res-ref-name>	1 回	リソース参照の名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
			└─<linked-to>	1 回	対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。 クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—
			<resource-env-ref>	0 回以上	EntityBean から参照するリソース環境変数を定義します。	—	なし	—
			└─<resource-env-ref-name>	1 回	resource-env-ref の名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
			└─<linked-queue>	1 回	キュー名称を指定します。 DD 要素<resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。	—	なし	—
			└─<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
			└─<queue>	1 回	キュー名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー		
					ト	<linked-adminobject>	1回	管理対象オブジェクトを指定します。	—	なし	—
						<resourceadapter-name>	1回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
					└	<adminobject-name>	1回	管理対象オブジェクト名を指定します。	英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 アンダースコア (_) が連続している名前 	なし	—
					└	<linked-to>	1回	JavaBeans リソースの表示名を指定します。 DD の要素<resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースの	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<linked-to>	1 回	クラス名]が指定された場合だけ有効です。	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—
<lookup-name>	0 または 1 回	<p>クライアントから EJB をルックアップする時に使う名前を指定します。</p> <p>HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。</p> <p>このタグを省略した場合、デフォルト値としてリソース名が使用されますが、デフォルト値に含まれる英数字とアンダースコア (_) 以外の文字はすべてアンダースコアに変換されます。</p>	<p>英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できません。</p> <p>スペース (), ダブルクォーテーション ("), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レズザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~)</p> <p>ただし、次に示す名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 <p>文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。</p> <p>指定できる文字数は 1~255 文字です。</p>	リソース名	—

タグ名			出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
		ト <optional-name>	0 または 1 回	リモートインタフェースの別名を指定します。	り除かれて設定されます。また、文字列の途中に改行がある場合はエラーとなります。 指定できる文字数は 1~255 文字です。	別名は付きません。	—
		ト <local-optional-name>	0 または 1 回	ローカルインタフェースの別名を指定します。	指定できる文字に制限はありません。 指定できる文字数は 1~255 文字です。	別名は付きません。	—
		ト <maximum-instances>	0 または 1 回	Enterprise Bean インスタンスの最大数を指定します。	0 (無制限) または $1 \leq \text{maximum-instances} \leq 2147483647$ の整数値。	0	—

タグ名			出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
			<pooled-instance>	0 または 1 回	インスタンスプールのプロパティを指定します。	—	なし	—
			<minimum>	0 または 1 回	プール内のインスタンスの最小数を指定します。	0 (無制限) または $1 \leq \text{minimum} \leq \text{maximum}$ 。	0	—
			<maximum>	0 または 1 回	プール内のインスタンスの最大数を指定します。	【maximum-instances が 0 (無制限) の場合】 0 (無制限) $\leq \text{maximum} \leq 2147483647$ の整数値。 【maximum-instances が 0 (無制限) 以外の場合】 $1 \leq \text{maximum} \leq \text{maximum-instances}$ の整数値。	0	—
			<caching-model>	0 または 1 回	キャッシングモデルを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • full-caching • caching • no-caching 	caching	—
			<entity-timeout>	0 または 1 回	EJB オブジェクトの存在時間 (秒) を指定します。0 を指定した場合はタイムアウトしません。	0 ~ 2147483647 の整数値。	0	—
			<pass-by-reference>	0 または 1 回	pass-by-reference での EJB 呼び出しをするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	false	—
			<instance-timeout>	0 または 1 回	インスタンス取得タイムアウト時間 (秒) を指定します。0 を指定した場合はタイムアウトしません。	0 ~ 86400 の整数値。	0	—
			<front-ejb>	0 または 1 回	フロント EJB (クライアントが直接呼び出す EJB) かどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	false	—

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
			ト	<cmp-map>	0 または 1 回	Entity Bean のフィールドをデータベース上にマッピングします。	—	なし	—
			ト	<datasource-name>	1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先として開始されたリソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—
			ト	<catalog-name>	0 または 1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのカタログ名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
			ト	<schema-name>	0 または 1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのスキーマ名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
			ト	<table-name>	1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのテーブル名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
			ト	<read-only-access>	1 回	アプリケーションからデータベースへの書き込みを許可するかどうかを指定します。ただし、アプリケーションサーバでは指定しても無効になります。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	なし	—
			ト	<transaction-isolation>	0 または 1 回	トランザクション遮断レベルを指定します。 省略した場合、デフォルトのトランザクション遮断レベルが使われます (使用するデータベースおよび JDBC ドライバによって異なります)。	指定できる文字列を次に示します。 • none • read_committed • read_uncommitted • repeatable_read • serializable	なし	—
			ト	<concurrency-protection>	0 または 1 回	データベースに書き込むデータとレコードとの照合方法を指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • primary-key	primary-key	—
			ト	<field-impl>	0 回以上	Entity Bean のフィールドとテーブルのカラムとのマッピングを指定します。	—	なし	—

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
						<method-name>	1回	対象となるメソッド名を指定します。 アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。	入力は制限されません。	なし	—
						<method-params>	0または1回	メソッドが多重定義されている場合に、メソッドを特定するために指定します。	—	なし	—
						<method-param>	0回以上	引数のデータ型を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
						<method-observation-timeout>	1回	仕掛中メソッド監視用タイムアウト時間(秒)を指定します。0を指定した場合、タイムアウトしません。	0~86400の整数値。	0	—
						<ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 — [3.15.8]	0回以上	EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-transaction-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>の<transaction-timeout>の値が有効となります。	—	なし	—
						<method>	1回以上	メソッドについて定義します。	—	なし	—
						<method-intf>	0または1回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local	Home, Remote, LocalHome, Localのすべて。	—
						<method-name>	1回	対象となるメソッド名を指定します。 アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。	入力は制限されません。	なし	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
				└	<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。	—	なし	—
				└	<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				└	<transaction-timeout>	1 回	トランザクションタイムアウト時間 (秒) を指定します。 0 (ゼロ) を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。	0~2147483647 の整数値。	0	—
				└	<message>	0 回以上	Message-driven Bean について定義します。	—	なし	—
				└	<ejb-name>	1 回	ejb の名称を指定します。 なお、このキーは Message-driven Bean を特定するためのキーとなります。 ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<message-driven>-<ejb-name>の設定値を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
				└	<security-identity>	0 または 1 回	Message-driven Bean のセキュリティアイデンティティを定義します。	—	なし	—
				└	<run-as>	1 回	実行時アイデンティティを定義します。	—	なし	—
				└	<user-name>	1 回	ユーザ名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				└	<message-ref>	0 または 1 回	リソースアダプタを指定します。	—	なし	—
				└	<connection-factory>	0 または 1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				└	<connection-destination>	1 回	リソースアダプタについて定義します。	—	なし	—
				└	<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
			└─ <queue>	0 または 1 回	キュー名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
			└─ <resource-ref>	0 回以上	Message-driven Bean から参照するリソースを定義します。	—	なし	—
			└─ <res-ref-name>	1 回	リソース参照の名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
			└─ <linked-to>	1 回	対応するリソースアダプタ表示名, メール表示名を指定します。 クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—
			└─ <resource-env-ref>	0 回以上	Message-driven Bean から参照するリソース環境変数を定義します。	—	なし	—
			└─ <resource-env-ref-name>	1 回	resource-env-ref の名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
			└─ <linked-queue>	1 回	キュー名称を指定します。 DD の要素<resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。	—	なし	—
			└─ <resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
			└─ <queue>	1 回	キュー名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
			└─ <linked-adminobject>	1 回	管理対象オブジェクトを指定します。	—	なし	—
			└─ <resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
			└─ <adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。	英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できません。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$),	なし	—

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー		
			└─ <method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
			└─ <method-observation-timeout>	1 回	仕掛中メソッド監視用タイムアウト時間 (秒) を指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。	0~86400 の整数値。	0	—
			└─ <ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 — 「3.15.8」	0 回以上	EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-transaction-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>の<transaction-timeout>の値が有効となります。	—	なし	—
			└─ <method>	1 回以上	メソッドについて定義します。	—	なし	—
			└─ <method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。 Message-driven Bean 属性の設定では、このタグに値を指定できません。	—	なし	—
			└─ <method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。 アスタリスク「*」を指定した場合、すべてのメソッドを意味します。	入力は制限されません。	なし	—
			└─ <method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。	—	なし	—
			└─ <method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定します。	入力は制限されません。	なし	—

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<transaction-timeout>	1 回	トランザクションタイムアウト時間 (秒) を指定します。 0 (ゼロ) を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。	0~2147483647 の整数値。	0	—
<war>	0 回以上	WAR について定義します。	—	なし	—
<module-name>	0 または 1 回	WAR を特定するためのキーとなります。ただし、WAR アプリケーションの場合、cosminexus.xml に対し War 属性は必ず一つになるため、このタグの指定は不要です。指定しても無視されます。 次の条件に従い設定値を指定します。 application.xml を含むアプリケーションの場合 <ul style="list-style-type: none"> アーカイブ形式・展開ディレクトリ形式共通 application.xml の <application>-<module>-<web>-<web-uri> に指定した文字列を指定します。 application.xml を含まないアプリケーションの場合 <ul style="list-style-type: none"> アーカイブ形式 (cjimportapp コマンド (-f/-d)) J2EE アプリケーション中の WAR ファイルの場所を EAR のルートからの相対パスで指定します。 展開ディレクトリ形式 (cjimportapp コマンド (-a)) WAR ディレクトリの、アプリケーションディレクトリからの相対パスの末尾の "_war" を ".war" に置き 	入力は制限されません。	なし	K

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー			
		<module-name>	0 または 1 回	換えた値を指定します。	入力は制限されません。	なし	K		
		<security-role>	0 回以上	セキュリティロールを定義します。	—	なし	—		
				<role-name>	1 回	セキュリティロール名を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
				<linked-to>	1 回	アクセスコントロールリスト (cjaddsec コマンドで定義したロール名) を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				<resource-ref>	0 回以上	Servlet から参照するリソースを定義します。	—	なし	—
				<res-ref-name>	1 回	リソース参照の名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
				<linked-to>	1 回	対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。 クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。	入力は制限されません。	なし	—
				<resource-env-ref>	0 回以上	Servlet から参照するリソース環境変数を定義します。	—	なし	—
				<resource-env-ref-name>	1 回	リソース環境変数参照の名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
				<linked-queue>	1 回	キュー名称を指定します。 DD の要素<resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。	—	なし	—
				<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				<queue>	1 回	キュー名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				<linked-adminobject>	1 回	管理対象オブジェクトを指定します。	—	なし	—
				<resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。	英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できません。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 アンダースコア (_) が連続している名前 	なし	—
<linked-to>	1 回	JavaBeans リソースの表示名を指定します。 DD の要素<resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—
<thread-control> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.17」	0 または 1 回	Web アプリケーションのスレッド制御の設定をします。	—	なし	—

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
			└	<waiting-request-count>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数を監視します。	—	なし	—
			└	<enabled>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	—
			└	<high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する上限のしきい値 (単位: %) を指定します。	1~100 の整数値。ただし、<low-threshold>タグの指定値以上の値である必要があります。	80	—
			└	<low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値 (単位: %) を指定します。	0~99 の整数値。ただし、<high-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。	0	—
			└	<resource-watcher>	0 または 1 回	Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視に関するプロパティを指定します。	—	なし	—
			└	<watcher-threshold>	0 または 1 回	アラートメッセージを出力するしきい値を指定します。	1~100 の整数値。	80	—
			└	<watcher-interval>	0 または 1 回	監視間隔を指定します。	1~2147483647 の整数値。	30	—
			└	<watcher-enabled>	0 または 1 回	Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視を有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	—
			└	<watcher-writefile-enabled>	0 または 1 回	リソース使用状況をファイルに出力するかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	—
			└	<urlgroup-thread-control> 「機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」-「2.18」	0 回以上	URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の設定をします。	—	なし	—

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
			<urlgroup-thread-control-name>	1回 URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名を指定します。 URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名は Web アプリケーション内で、一意な名称を指定します。	英数字、ハイフン「-」、アンダースコア「_」を使用できます。 文字の長さは 1~64 で指定します。	なし	-
			<urlgroup-thread-control-max-threads>	1回 URL グループ単位の最大同時実行スレッド数を指定します。	1~thread-control-max-threads の整数値。	なし	-
			<urlgroup-thread-control-exclusive-threads>	0 または 1 回 URL グループ単位の占有スレッド数を指定します。	0~urlgroup-thread-control-max-threads かつ thread-control-exclusive-threads 以下の整数値。	0	-
			<urlgroup-thread-control-queue-size>	0 または 1 回 URL グループ単位の実行待ちキューのサイズを指定します。	0~2147483647 の整数値。	なし	-
			<urlgroup-thread-control-mapping>	0 回以上 制御対象となる URL のマッピング情報を設定します。	-	なし	-
			└ <url-pattern>	1回 制御対象となる URL パターンを指定します。 一つの Web アプリケーション内で同じ URL パターンを指定することはできません。 指定例を次に示します。 /soda/grape/* /foo/* /contents *.foo	入力は制限されません。	なし	-
			└ <stats-monitor> 「機能解説 運用/監視/連携編」 - 「3.4」	0 または 1 回 稼働統計の監視の設定をします。	-	なし	-
			└ <waiting-request-count>	0 または 1 回 URL グループ単位の実行待ちリクエスト数を監視します。	-	なし	-
			└ <enabled>	0 または 1 回 URL グループ単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	-

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
						┌ <high-threshold>	0 または 1 回	しきい値イベントを出力する上限しきい値 (単位: %) を指定します。	1~100 の整数値。 low-threshold 以上でなければなりません。	80	—
						└ <low-threshold>	0 または 1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値 (単位: %) を指定します。	0~99 の整数値。 high-threshold 以下でなければなりません。	0	—
						<http-request>	0 または 1 回	HTTP リクエストに関する各種設定をします。	—	なし	—
						└ <encoding> 「機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」 - 「2.6」	1 回	リクエストボディ、およびクエリのデコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 ただし、Servlet 仕様に準拠した設定 (ServletAPI および web.xml) がある場合、無効となります。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。	入力は制限されません。	なし	—
						<http-response>	0 または 1 回	HTTP レスポンスに関する各種設定をします。	—	なし	—
						└ <encoding> 「機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」 - 「2.6」	1 回	レスポンスボディのエンコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 ただし、Servlet 仕様に準拠した設定 (ServletAPI および web.xml) がある場合、無効となります。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。	入力は制限されません。	なし	—
						<jsp>	0 または 1 回	JSP に関する各種設定をします。	—	なし	—
						└ <page-encoding> 「機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」 - 「2.6」	1 回	JSP ファイルの読み込みに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。	入力は制限されません。	なし	—

タグ名			出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
		└	<page-encoding> 「機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」 - 「2.6」	1 回	ただし、Servlet 仕様に準拠した設定 (ServletAPI および web.xml) がある場合、無効となります。JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。	入力は制限されません。	なし	-
		└	<http-session>	0 または 1 回	Web アプリケーション単位の HttpSession 数の監視に関する情報を設定します。	-	なし	-
		└	<http-session-max-number> 「機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」 - 「2.7.5」	0 または 1 回	使用可能な HttpSession の最大数を指定します。 -1 を指定した場合は無制限となります。	-1 ~ 2147483647 の整数値。	-1	-
		└	<resource-watcher>	0 または 1 回	HttpSession 数の監視に関するプロパティを設定します。	-	なし	-
			└ <watcher-threshold>	0 または 1 回	アラートメッセージを出力するしきい値を指定します。	1 ~ 100 の整数値。	80	-
			└ <watcher-interval>	0 または 1 回	監視間隔を指定します。	1 ~ 2147483647 の整数値。	30	-
			└ <watcher-enabled>	0 または 1 回	HttpSession 数の監視を有効にするかどうかを指定します。 ただし、<http-session-max-number>に 0 を指定した場合、この指定に関係なく監視は無効となります。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	-
			└ <watcher-writefile-enabled>	0 または 1 回	リソース使用状況をファイルに出力するかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	-
		└	<dbsfo> 「機能解説 拡張編」 - 「6 章」	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバー機能を設定します。	-	なし	-

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<enabled>	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバ機能を有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	J2EE サーバのプロパティ値 (webserver.dbsfo.enabled)	—
<application-id>	0 または 1 回	アプリケーション識別子を設定します。	英数字、およびアンダースコア「_」を使用できます。 指定できる文字数は最大 16 文字です。	アプリケーションのコンテキストルート名から作成します。	—
<attribute-data-size-max>	0 または 1 回	グローバルセッション情報に含めることが可能な HTTP セッションの属性情報の最大サイズを設定します。	128～10485760 の整数値。	J2EE サーバのプロパティ値 (webserver.dbsfo.attribute_data_size.max)	—
<exclude-extensions>	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバ機能を抑制する拡張子を設定します。 複数の拡張子を指定する場合、コンマ「,」で区切って指定します。	次に示す文字を使って、512 文字以内で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 英数字 • 括弧「()」 • エクスクラメーション「!」 • パーセント「%」 • ドル「\$」 • アンパサンド「&」 • シングルクォート「'」 • プラス「+」 • ハイフン「-」 • イコール「=」 • 単価記号「@」 • アンダースコア「_」 • チルダ「~」 • ピリオド「.」 	J2EE サーバのプロパティ値 (webserver.dbsfo.exclude.extensions)	—

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
		└ <exclude-extensions>	0 または 1 回 データベースセッションフェイルオーバー機能を抑止する拡張子を設定します。 複数の拡張子を指定する場合、コンマ「,」で区切って指定します。	• コンマ「,」	J2EE サーバのプロパティ値 (webserver.dbso.exclude.extensions)	—
		└ <eadsfo> 「機能解説 拡張編」 - 「7 章」	0 または 1 回 EADs セッションフェイルオーバー機能を設定します。	—	なし	—
		└ <enabled>	0 または 1 回 EADs セッションフェイルオーバー機能を有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	J2EE サーバのプロパティ値 (webserver.eadsfo.enabled)	—
		└ <application-id>	0 または 1 回 アプリケーション識別子を設定します。	英数字、およびアンダースコア「_」を使用できます。 指定できる文字数は最大 128 文字です。	アプリケーションのコンテキストルート名から作成します。	—
		└ <exclude-url-patterns>	0 または 1 回 EADs セッションフェイルオーバー機能を抑止する URL パターン (完全一致指定, プリフィックス一致指定, 拡張子一致指定) を指定します。 指定した URL パターンとリクエスト URL が合致した場合、該当するリクエストで EADs セッションフェイルオーバー機能は無効となります。 なお、複数の URL パターンを指定する場合、セミコロン (;) で区切って指定します。	• 完全一致指定およびプリフィックス一致指定の場合、「/」から始まる正規化した URI を指定します。 • 拡張子一致指定の場合、「*」から始まる拡張子を指定します。	J2EE サーバのプロパティ値 (webserver.eadsfo.exclude.url_patterns)	—
		└ <session-read-only-url-patterns>	0 または 1 回 EADs セッションフェイルオーバー機能の HTTP セッションの参照専用リクエストとする URL パターンを指定します。	• 完全一致指定およびプリフィックス一致指定の場合、「/」から始まる正	J2EE サーバのプロパティ値 (webser	—

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<session-read-only-url-patterns>	0 または 1 回	指定した URL パターンとリクエスト URL が合致した場合、該当するリクエストは HTTP セッションの参照専用リクエストとなります。 なお、複数の URL パターンを指定する場合、セミコロン (;) で区切って指定します。	規化した URI を指定します。 • 拡張子一致指定の場合、「*.」から始まる拡張子を指定します。	ver.eads sfo.session_read_only.url_patterns)	—
<start-notify-error>	0 または 1 回	J2EE アプリケーションの開始時にスタートアップ時のロードが指定されている Servlet/JSP の初期化処理中や、taglib の解析中にエラーが発生した場合、エラーを通知してアプリケーションの開始を中断するかどうかを指定します。 初期表示値は、アプリケーションサーバ 06-00 以降で新規に作成した J2EE アプリケーションの場合は true、それ以外の J2EE アプリケーションは false となります。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	—
<start-order>	0 または 1 回	J2EE アプリケーションの開始および停止の順番を指定します。 開始した場合は昇順で開始処理が実行され、終了した場合は降順に停止処理が実行されます。	0~2147483647 の整数値。	10	—
<session-config>	0 または 1 回	Web アプリケーションのセッションパラメータを定義します。	—	なし	—
<cookie-config>	0 または 1 回	Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID	—	なし	—

タグ名			出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
			ト <cookie-config>	0 または 1 回	を示す HTTP Cookie を指定します。	—	なし	—
			ト <name>	0 または 1 回	Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie 名を指定します。	英数字 (0~9, A~Z, a~z) および次の特殊文字を使用できます。 エクスクラメーションマーク (!), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), アスタリスク (*), プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ストローク (), チルダ (~)	JSESSIONID	—
			└ <http-only>	0 または 1 回	Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie に HttpOnly 属性を付けるかどうかを指定します。	指定できる文字を次に示します。 • true • false	false	—
			└ <tracking-mode>	0 回以上	トラッキングモードを指定します。	指定できる文字を次に示します。 • COOKIE • URL	なし	—
			ト <filter>	0 回以上	Filter について定義します。 web.xml を含まない場合、このタグは指定できません。	—	なし	—
			ト <filter-name>	1 回	Filter を特定するためのキーとなります。 web.xml の <web-app>-<filter>-<filter-name> の設定値を指定します。	入力は制限されません。	なし	D

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
		└ <method-observation-timeout>	1 回	リクエストの延長で呼び出されるフィルタの doFilter メソッドの監視用タイムアウト時間 (秒) を指定します。 0 を指定した場合、タイムアウトしません。	0~86400 の整数値。	0	—
		└ <servlet>	0 回以上	Servlet について定義します。 web.xml を含まない場合、このタグは指定できません。	—	なし	—
		└ <servlet-name>	1 回	Servlet を特定するためのキーとなります。 web.xml の<web-app>-<servlet>-<servlet-name>の設定値を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
		└ <run-as>	0 または 1 回	実行時アイデンティティを定義します。	—	なし	—
		└ <user-name>	1 回	ユーザ名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
		└ <method-observation-timeout>	0 または 1 回	リクエストの延長で呼び出されるサーブレットの service メソッド/JSP の _jspService メソッドの監視用タイムアウト時間 (秒) を指定します。 0 を指定した場合、タイムアウトしません。	0~86400 の整数値。	0	—
		└ <rar>	0 回以上	rar に関する情報を定義します。	—	なし	—
		└ <module-name>	1 回	リソースアダプタを特定するためのキーとなります。 次の条件に従って、設定値を指定します。 application.xml を含むアプリケーションの場合 <ul style="list-style-type: none"> アーカイブ形式・展開ディレクトリ形式共通 application.xml の <application>-<module>- 	入力は制限されません。	なし	K

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<module-name>	1回	<p><connector>に指定した文字列を指定します。</p> <p>application.xml を含まないアプリケーションの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> アーカイブ形式 (cjimportapp コマンド (-f/-d)) J2EE アプリケーション中の RAR ファイルの場所を EAR のルートからの相対パスで指定します。 展開ディレクトリ形式 (cjimportapp コマンド (-a)) アプリケーションディレクトリ中の RAR ファイルの場所をアプリケーションディレクトリからの相対パスで指定します。 	入力には制限されません。	なし	K
<resourceadapter>	0 または 1 回	リソースアダプタについての情報を定義します。	—	なし	—
<outbound-resourceadapter>	0 または 1 回	アウトバウンド方向へのリソースアダプタを定義します。	—	なし	—
<connection-definition>	1 回以上	<p>コネクションインタフェース・クラスを定義します。</p> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> 下位タグの <connector-property> について <property-value> は <property-name> ごとに設定値の範囲が異なるため、それぞれのプロパティごとに記載しています。 <p><property> の指定が複数あり、<property-name> の設定値が同じ場合、一つにマージ</p>	—	なし	—

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー		
		└	<connection-definition>	1 回以上	されます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<property>の<property-value>の値が有効となります。	—	なし	—
		└	<connectionfactory-interface>	1 回	リソースによってサポートされるConnectionFactory インタフェースのクラス名を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
		└	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
			└ <property-name>	1 回	MaxPoolSize プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • MaxPoolSize	なし	—
			└ <property-value>	1 回	プロパティ値として、プールの最大値を指定します。	-1 (無制限) または 0 ~ 2147483647 の整数値。	10	—
		└	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
			└ <property-name>	1 回	MinPoolSize プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • MinPoolSize	なし	—
			└ <property-value>	1 回	プロパティ値として、プールの最小値を指定します。	0 ~ 2147483647 の整数値。	10	—
		└	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
			└ <property-name>	1 回	LogEnabled プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • LogEnabled	なし	—
			└ <property-value>	1 回	プロパティ値として、LogWriter によるログ出力の可否を指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	—

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
				┌ <connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				┌ <property-name>	1回	User プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • User	なし	—
				└ <property-value>	1回	プロパティ値として、ユーザ名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				┌ <connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				┌ <property-name>	1回	Password プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • Password	なし	—
				└ <property-value>	1回	プロパティ値として、パスワードを指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				┌ <connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				┌ <property-name>	1回	ValidationType プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • ValidationType	なし	—
				└ <property-value>	1回	プロパティ値として、コネクションチェック契機を指定します。	指定できる値を次に示します。 • 0: コネクションチェック機能オフ • 1: コネクション取得時にチェック • 2: 一定間隔でチェック	1	—
				┌ <connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				┌ <property-name>	1回	ValidationInterval プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • ValidationInterval	なし	—
				└ <property-value>	1回	プロパティ値として、コネクションチェック間隔 (秒) を指定します。	1~2147483647 の整数値。	3600	—

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
				<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				<property-name>	1回	RetryCount プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • RetryCount	なし	—
				<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクション取得リトライ回数を指定します。	0~2147483647の整数値。	0	—
				<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				<property-name>	1回	RetryInterval プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • RetryInterval	なし	—
				<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクション取得リトライ間隔(秒)を指定します。	1~2147483647の整数値。	10	—
				<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				<property-name>	1回	ConnectionTimeout プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • ConnectionTimeout	なし	—
				<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクション解放までのタイムアウト値(秒)を指定します。	0~2147483647の整数値。	0	—
				<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				<property-name>	1回	ConnectionPoolAdjustmentInterval プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • ConnectionPoolAdjustmentInterval	なし	—
				<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクション数のソフトラン	0~2147483647の整数値。	600	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
				└	<property-value>	1回	デバッグ動作調節間隔(秒)を指定します。	0~2147483647の整数値。	600	-
				┌	<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	-	なし	-
				┌	<property-name>	1回	SweeperInterval プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • SweeperInterval	なし	-
				└	<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクションスリーパ動作時間間隔(秒)を指定します。	0~2147483647の整数値。	0	-
				┌	<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	-	なし	-
				┌	<property-name>	1回	RequestQueueEnable プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • RequestQueueEnabled	なし	-
				└	<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列の要否を指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	-
				┌	<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	-	なし	-
				┌	<property-name>	1回	RequestQueueTimeout プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • RequestQueueTimeout	なし	-
				└	<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる最大値(秒)を指定します。	0~2147483647の整数値。	30	-
				┌	<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	-	なし	-
				┌	<property-name>	1回	WatchEnabled プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。	なし	-

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
				<property-name>	1回	WatchEnabled プロパティを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> • WatchEnabled 	なし	—
				<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクションプール監視のアラート出力を有効にするかどうかを指定します	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	true	—
				<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				<property-name>	1回	WatchInterval プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • WatchInterval 	なし	—
				<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクションプール監視間隔(秒)を指定します。	1~2147483647 の整数値。	30	—
				<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				<property-name>	1回	WatchThreshold プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • WatchThreshold 	なし	—
				<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクションプール使用状態を監視するしきい値 (%) を指定します。	1~100 の整数値。	80	—
				<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				<property-name>	1回	WatchWriteFileEnabled プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • WatchWriteFileEnabled 	なし	—
				<property-value>	1回	プロパティ値として、コネクションプール監視結果をファイル出力するかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	true	—
				<connector-property>	0回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー		
			<optional-name>	1 回	リソースの別名を指定します。	<p>ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~)</p> <p>ただし、次の名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 予約語の HITACHI_EJB (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 スラッシュ (/) またはピリオド (.) だけの名前 スラッシュ (/) が連続している名前 <p>文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。</p> <p>指定できる文字数は 1~255 文字です。</p>	なし	—
			┌ <res-auth>	0 または 1 回	リソースを使用するための認証元を、アプリケーション上で行うか、コンテナに任せるかを指定します。	<p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Application Container 	Container	—
			└ <res-sharing-scope>	0 または 1 回	リソース接続を共有できるようにするかどうかを指定します。	<p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Shareable Unshareable 	Shareable	—
	└		<adminobject>	0 回以上	リソースアダプタが提供する管理対象オブジェクトを定義します。	—	なし	—

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<adminobject>	0 回以上	DD の<adminobject>と同じ数分、同じ順番で設定する必要があります (設定しない場合、空タグ<adminobject/>を指定します)。すべての<adminobject>に<adminobject-name>を設定する必要があります。なければ省略できます。	-	なし	-
<adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。リソースアダプタ内でユニークでなければなりません。	英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] (]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } (}), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 アンダースコア (_) が連続している名前 	なし	-

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
	<resourceadapter-property>	0回以上	Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。	—	なし	—
	<property-name>	1回	MaxThreadPoolSize プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • MaxThreadPoolSize	なし	—
	<property-value>	1回	プロパティ値として、スレッドプールで同時に実行される最大スレッド数を指定します。	1~2147483647 の整数値。	10	—
	<resourceadapter-property>	0回以上	Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。	—	なし	—
	<property-name>	1回	MinThreadPoolSize プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • MinThreadPoolSize	なし	—
	<property-value>	1回	プロパティ値として、スレッドプールに存在する最小スレッド数を指定します。	0~1024 の整数値。	0	—
	<resourceadapter-property>	0回以上	Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。	—	なし	—
	<property-name>	1回	TPoolKeepalive プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • TPoolKeepalive	なし	—
	<property-value>	1回	プロパティ値として、スレッドプールのスレッド解放までのタイムアウト値 (秒) を指定します。	1~2147483647 の整数値。	300	—

(凡例)

— : 該当なし。

注※

指定可能値以外の文字列を使用している場合は、キュー名を指定してください。

2.2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で指定する各属性の詳細

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で指定する内容の詳細を属性ごとに説明します。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で定義する項目について次に示します。

項目名	説明
タグ名	設定するタグを表します。
説明	タグに定義する内容を示します。
ほかのタグとの依存関係	ほかのタグとの依存関係を示します。
タグの省略	タグが省略できるかどうかを示します。
値の省略	タグの値が省略できるかどうかを示します。

2.2.1 アプリケーション統合属性の詳細

cosminexus.xml のアプリケーション統合属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <security-prop>

説明

cosminexus-app のセキュリティの管理方法を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <security-method>

説明

セキュリティ設定を有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- disable_methods_without_roles
セキュリティロールを割り当てていないメソッドは実行できません。
- map_methods_without_roles

セキュリティロールを割り当てていないメソッドには、default-security-role で指定したデフォルトセキュリティロールが割り当てられます。

- no_security_for_methods_without_roles
セキュリティロールが割り当てられていないメソッドはどのユーザでも実行できます。
セキュリティロールが割り当てられているメソッドはセキュリティロールによって実行が制限されます。
- no_security_for_all_methods
セキュリティロールが割り当てられているメソッドも割り当てられていないメソッドもすべてどのユーザでも実行できます。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <default-security-role>

説明

<security-method>に map_methods_without_roles を指定した場合のデフォルトセキュリティロールを指定します。

<security-method>に map_methods_without_roles 以外が指定された場合は、このタグの設定値は無視されます。

指定可能値

入力制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <start-order>

説明

J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。

開始時は昇順で開始処理が実施され、終了時は降順に停止処理が実施されます。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(5) <scheduling-unit>**説明**

キューの配置モデルを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Application
キューをアプリケーションごとに配置する場合に指定します。
- Bean
キューを Bean ごとに配置する場合に指定します。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(6) <scheduling>**説明**

CTM 連携関連の情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(7) <queue-name>**説明**

スケジューリングを実行するキュー名を指定します。

指定可能値

英数字、およびアンダースコア「_」を使用できます。
指定できる文字数は 1~63 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(8) <parallel-count>

説明

CTM スケジューラがアプリケーションを呼ぶために用意するスレッド数を指定します。

指定可能値

1~127 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(9) <queue-length>

説明

キューの長さを指定します。

指定可能値

1~32767 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(10) <managed-by-ctm>

説明

CTM 連携をするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
CTM 連携をする。
- false
CTM 連携をしない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(11) <ref-libraries>**説明**

参照するライブラリ JAR を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(12) <classpath>**説明**

参照ライブラリのクラスパスを指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

<max-thread-pool-size>

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <method-observation-recovery-mode>**説明**

メソッドキャンセル機能の障害回復モードを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- thread

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(14) <ejb-async-props>

説明

非同期 Session Bean 呼び出し用の情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(15) <min-thread-pool-size>

説明

スレッドプールで同時に実行される最小スレッド数を指定します。

指定可能値

1~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<max-thread-pool-size>と依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(16) <max-thread-pool-size>

説明

スレッドプールで同時に実行される最大スレッド数を指定します。

指定可能値

1~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<min-thread-pool-size>と依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(17) <thread-pool-keep-alive>

説明

スレッドプールのスレッド解放までのタイムアウト値 (単位: 秒) を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(18) <result-timeout-value>**説明**

非同期呼び出しの結果を保持する時間（単位：分）を指定します。0 を指定した場合、非同期呼び出しの結果を解放しないで、アプリケーションが終了するまで保持します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

2.2.2 EJB-JAR 属性の詳細

cosminexus.xml の EJB-JAR 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <ejb-jar>**説明**

EJB-JAR について定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <module-name>

説明

EJB-JAR を特定するためのキーとなります。

次の条件に従い設定値を指定します。

application.xml を含むアプリケーションの場合

- アーカイブ形式・展開ディレクトリ形式共通
application.xml の<application>-<module>-<ejb>に指定した文字列を指定します。

application.xml を含まないアプリケーションの場合

- アーカイブ形式 (cjimportapp コマンド (-f/-d))
J2EE アプリケーション中の EJB-JAR ファイルの場所を EAR のルートからの相対パスで指定します。
- 展開ディレクトリ形式 (cjimportapp コマンド (-a))
EJB-JAR ディレクトリの、アプリケーションディレクトリからの相対パスの末尾の "_jar"を".jar"に置き換えた値を指定します。

相対パスで指定する場合の注意事項

- パスの区切り文字には"/"を使用します。
- パスの文字列の先頭に"/"は指定できません。
- パスの文字列中に, "./", "../"および"/"は指定できません。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <security-role>

説明

セキュリティロールについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <role-name>**説明**

ロール名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <linked-to>**説明**

cljddsec コマンドで定義したロール名を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

2.2.3 Session Bean 属性の詳細

cosminexus.xml の Session Bean 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <session>**説明**

Session Bean について定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <ejb-name>

説明

ejb の名称を指定します。

なお、このキーは Session Bean を特定するためのキーとなります。

ejb-jar.xml の <ejb-jar>-<enterprise-beans>-<session>-<ejb-name> の設定値を指定します。

ejb-jar.xml を含まないアプリケーションの場合、@Stateless、@Stateful、または @Singleton の name の設定値を指定します。

name が指定されていない場合は、EJB 実装クラス名のパッケージ名を取り除いたクラス名を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <security-identity>

説明

Session Bean のセキュリティアイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <run-as>

説明

実行時アイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <user-name>

説明

ユーザ名を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(6) <resource-ref>

説明

Session Bean から参照するリソースを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(7) <res-ref-name>

説明

リソース参照の名称を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <linked-to>

説明

対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。

クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。

- Connector 1.0 以前
 <リソースアダプタの表示名>
- Connector 1.5 以降のアウトバウンドリソースアダプタ
 <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子>

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(9) <resource-env-ref>

説明

Session Bean から参照するリソース環境変数を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(10) <resource-env-ref-name>

説明

リソース環境変数参照の名称を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(11) <linked-queue>

説明

キュー名称を指定します。

DD の<resource-env-ref-type>タグに「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(12) <resource-adapter>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <queue>

説明

キュー名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(14) <linked-adminobject>

説明

管理対象オブジェクトを指定します。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(15) <resourceadapter-name>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(17) <linked-to>**説明**

JavaBeans リソースの表示名を指定します。

DD の<resource-env-ref-type>タグに「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(18) <lookup-name>**説明**

クライアントから EJB をルックアップする時に使う名前を指定します。HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。

このタグを省略した場合、デフォルト値としてリソース名が使用されますが、デフォルト値に含まれる英数字とアンダースコア () 以外の文字はすべてアンダースコアに変換されます。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z)、および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), ダブルクォーテーション ("), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バールン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(19) <optional-name>

説明

リモートインタフェースの別名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次の名前は指定できません。

- 予約語の HITACHI_EJB (大文字・小文字を区別します) で始まる名前
- 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前
- スラッシュ (/) が連続している名前

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(20) <local-optional-name>

説明

ローカルインタフェースの別名を指定します。

指定可能値

指定できる文字に制限はありません。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(21) <maximum-sessions>**説明**

セッションの最大数または Bean インスタンスの最大数を指定します。

Stateless Session Bean または Singleton Session Bean の場合、この設定値は無効になります。

指定可能値

0 (無制限) または $1 \leq \text{maximum-sessions} \leq 2147483647$ の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(22) <stateless>**説明**

Session Bean の種別が Stateless の場合に指定します。

<stateless> または <stateful> のどちらかを指定するか、またはどちらも指定しません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の <session-type> タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(23) <pooled-instance>**説明**

プール内のインスタンスについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(24) <minimum>

説明

プール内のインスタンスの最小数を指定します。

指定可能値

0 または $1 \leq \text{minimum} \leq \text{maximum}$ の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<maximum>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(25) <maximum>

説明

プール内のインスタンスの最大数を指定します。

指定可能値

0 (無制限) または $1 \leq \text{maximum} \leq 2147483647$ の整数値。

また、<enable-scheduling>タグの値が true、かつアプリケーション属性<managed-by-ctm>タグの値が true の場合は、指定可能範囲が異なります。

- アプリケーション属性の<scheduling-unit>タグの指定値が Bean の場合
0 または<scheduling>-<parallel-count>以上の整数値。
- アプリケーション属性の<scheduling-unit>タグの指定値が Application の場合
0 またはアプリケーション属性<scheduling>-<parallel-count>タグ以上の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<enable-scheduling>タグ、アプリケーション属性の<managed-by-ctm>タグ、アプリケーション属性の<scheduling-unit>タグ、<scheduling>-<parallel-count>タグ、およびアプリケーション属性の<scheduling>-<parallel-count>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(26) <instance-timeout>

説明

インスタンス取得タイムアウト時間 (秒) を指定します。

0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0~86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(27) <stateful>**説明**

Session Bean の種別が Stateful の場合に指定します。

<stateless>もしくは<stateful>のどちらかを指定するか、またはどちらも指定しません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<session-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(28) <maximum-active-sessions>**説明**

アクティブセッションの最大数を指定します。

指定可能値

maximum-sessions が 0 (無制限) の場合

0 (無制限) \leq maximum-active-sessions ≤ 2147483647 の整数値。

maximum-sessions が 0 (無制限) 以外の場合

$1 \leq$ maximum-active-sessions \leq maximum-sessions の整数値。

ほかのタグとの依存関係

DD の<maximum-sessions>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(29) <inactivity-timeout>**説明**

再びアクティブ化するまでに非アクティブ状態に保持しておく時間 (分) を指定します。

指定可能値

0 (無制限) または $1 \leq$ inactivity-timeout ≤ 2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(30) <removal-timeout>

説明

セッションが削除されるまでに非アクティブ状態に保持しておく時間 (分) を指定します。

指定可能値

0 (無制限) または $1 \leq \text{removal-timeout} \leq 2147483647$ の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(31) <enable-scheduling>

説明

該当する Bean をスケジューラの Gate として使用するかどうかを指定します。

指定可能値

- true
使用する。
- false
使用しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(32) <pass-by-reference>

説明

pass-by-reference で EJB を呼び出すかどうかを指定します。

指定可能値

- true
EJB を呼び出す。
- false
EJB を呼び出さない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(33) <scheduling>

説明

CTM 連携関連の情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<session-type>タグ, <scheduling-unit>タグ, および<enable-scheduling>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(34) <queue-name>

説明

スケジューリングを実行するキュー名を指定します。

指定可能値

英数字, アンダースコア「_」を使用できます。

指定できる文字数は 1~63 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(35) <parallel-count>

説明

CTM スケジューラがアプリケーションを呼ぶために用意するスレッド数を指定します。

指定可能値

1~127 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(36) <queue-length>

説明

キューの長さを指定します。

指定可能値

1~32767 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(37) <front-ejb>

説明

フロント EJB (クライアントが直接呼び出す EJB) かどうかを指定します。

指定可能値

- true
フロント EJB である。
- false
フロント EJB でない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(38) <start-order>

説明

J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。

指定可能値

0~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(39) <ejb-method-observation-timeout>**説明**

EJB メソッドに J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間を設定する場合に指定します。<ejb-method-observation-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値 (<description>タグを除く) が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>タグの<method-observation-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(40) <method>**説明**

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(41) <method-intf>**説明**

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

指定可能値

- Home
- Remote
- LocalHome
- Local

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(42) <method-name>

説明

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合、すべてのメソッドを意味します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(43) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(44) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

空白区切り文字、行区切り文字、および段落区切り文字以外を指定します。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(45) <method-observation-timeout>**説明**

J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間 (秒) を指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0~86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(46) <ejb-transaction-timeout>**説明**

EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。

<ejb-transaction-timeout>タグの指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された <ejb-transaction-timeout>タグの<transaction-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(47) <method>**説明**

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(48) <method-intf>

説明

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

指定可能値

- Home
- Remote
- LocalHome
- Local

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(49) <method-name>

説明

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(50) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(51) <method-param>**説明**

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(52) <transaction-timeout>**説明**

トランザクションタイムアウト時間 (秒) を指定します。

0 を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

2.2.4 Entity Bean 属性の詳細

cosminexus.xml の Entity Bean 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <entity>**説明**

Entity Bean について定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <ejb-name>

説明

ejb の名称を指定します。

なお、このキーは Entity Bean を特定するためのキーとなります。

ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<entity>-<ejb-name>の設定値を指定します。

指定可能値

入力制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <security-identity>

説明

Entity Bean のセキュリティアイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <run-as>

説明

実行時アイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <user-name>

説明

ユーザ名を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(6) <resource-ref>

説明

EntityBean から参照するリソースを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(7) <res-ref-name>

説明

リソース参照の名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <linked-to>

説明

対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。
クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。

- Connector 1.0 以前
<リソースアダプタの表示名>
- Connector 1.5 以降のアウトバウンドリソースアダプタ
<リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子>

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(9) <resource-env-ref>

説明

Entity Bean から参照するリソース環境変数を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(10) <resource-env-ref-name>

説明

resource-env-ref の名称を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(11) <linked-queue>**説明**

キュー名称を指定します。

このタグは DD の<resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(12) <resource-adapter>**説明**

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <queue>**説明**

キュー名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(14) <linked-adminobject>

説明

管理対象オブジェクトを指定します。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(15) <resourceadapter-name>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] (]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ } (}), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前

- アンダースコア (_) が連続している名前

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(17) <linked-to>

説明

JavaBeans リソースの表示名を指定します。

DD の要素<resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

DD の<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(18) <lookup-name>

説明

クライアントから EJB をルックアップする時に使う名前を指定します。HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。

このタグを省略した場合、デフォルト値としてリソース名が使用されますが、デフォルト値に含まれる英数字とアンダースコア (_) 以外の文字はすべてアンダースコアに変換されます。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z)、および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), ダブルクォーテーション ("), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バールン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(19) <optional-name>

説明

リモートインタフェースの別名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z)、および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン ({}), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次の名前は指定できません。

- 予約語の HITACHI_EJB (大文字・小文字を区別します) で始まる名前
- 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前
- スラッシュ (/) が連続している名前

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(20) <local-optional-name>

説明

ローカルインタフェースの別名を指定します。

指定可能値

指定できる文字に制限はありません。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(21) <maximum-instances>

説明

Enterprise Bean インスタンスの最大数を指定します。

指定可能値

0 (無制限) または $1 \leq \text{maximum-instances} \leq 2147483647$ の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(22) <pooled-instance>

説明

インスタンスプールのプロパティを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(23) <minimum>

説明

プール内のインスタンスの最小数を指定します。

指定可能値

0 (無制限) または $1 \leq \text{minimum} \leq \text{maximum}$ 。

ほかのタグとの依存関係

DD の<maximum>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(24) <maximum>

説明

プール内のインスタンスの最大数を指定します。

指定可能値

maximum-instances が 0 (無制限) の場合

0 (無制限) \leq maximum \leq 2147483647 の整数値。

maximum-instances が 0 (無制限) 以外の場合

1 \leq maximum \leq maximum-instances の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<maximum-instances>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(25) <caching-model>

説明

キャッシングモデルを指定します。

指定可能値

- full-caching
メソッド起動間のすべての状態情報をキャッシュします。
- caching
メソッド起動間で最も頻繁に使用された状態情報をキャッシュします。
- no-caching
状態情報をキャッシュしません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(26) <entity-timeout>

説明

EJB オブジェクトの存在時間 (秒) を指定します。

0 を指定した場合, タイムアウトしません。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(27) <pass-by-reference>**説明**

pass-by-reference での EJB 呼び出しをするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
EJB 呼び出しをする。
- false
EJB 呼び出しをしない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(28) <instance-timeout>**説明**

インスタンス取得タイムアウト時間 (秒) を指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0～86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(29) <front-ejb>**説明**

フロント EJB (クライアントが直接呼び出す EJB) かどうかを指定します。

指定可能値

- true
フロント EJB の場合。
- false
フロント EJB でない場合。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(30) <cmp-map>

説明

Entity Bean のフィールドをデータベース上にマッピングします。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(31) <datasource-name>

説明

Enterprise Bean フィールドのマッピング先として開始されたリソースアダプタの表示名を指定します。

- Connector 1.0 以前
<リソースアダプタの表示名>
- Connector 1.5 以降のアウトバウンドリソースアダプタ
<リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子>

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(32) <catalog-name>

説明

Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのカatalog名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(33) <schema-name>

説明

Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのスキーマ名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(34) <table-name>

説明

Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのテーブル名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(35) <read-only-access>

説明

アプリケーションからデータベースへの書き込みを禁止するかどうかを指定します。ただし、アプリケーションサーバでは指定しても無効になります。

指定可能値

- true
書き込みを禁止する。
- false
書き込みを許可する。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(36) <transaction-isolation>

説明

トランザクション遮断レベルを指定します。

省略した場合、デフォルトのトランザクション遮断レベルが使われます (使用するデータベースおよび JDBC ドライバによって異なります)。

指定可能値

- none
トランザクションがサポートされていません。
- read_committed
ダーティ読み取りが抑制されます。
- read_uncommitted
ダーティ読み取り, 繰り返し不可の読み取り, およびファントム読み取りが起きます。
- repeatable_read
ダーティ読み取りおよび繰り返し不可の読み取りが抑制されます。
- serializable
ダーティ読み取り, 繰り返し不可の読み取り, およびファントム読み取りが抑制されます。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(37) <concurrency-protection>

説明

データベースに書き込むデータとレコードとの照合方法を指定します。

指定可能値

- primary-key

プライマリキーと照合することによってデータを更新します。

- modified-data
プライマリキーと照合して変更対象のデータの値が最後の読み出し操作以降に変更されているかどうかをチェックします。
- whole-row
プライマリキーと照合して変更対象の値を含む行内のすべての値が最後の読み出し操作以降に変更されているかどうかをチェックします。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(38) <field-impl>

説明

Entity Bean のフィールドとテーブルのカラムとのマッピングを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(39) <field-name>

説明

Entity Bean のフィールド名を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(40) <column-name>

説明

テーブルのカラム名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(41) <finder-impl>

説明

ejbFindByPrimaryKey 以外の Finder メソッドの検索条件を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(42) <method-name>

説明

Finder メソッドのメソッド名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(43) <where-clause>

説明

テーブルの検索条件を指定します。

検索条件に指定可能な演算子を次に示します。

なお、山括弧<>は、XML の構文上値には指定できません。テキストエディタで属性ファイルを編集する場合は、表内の丸括弧()のようにエンティティを使用してください。

演算子	説明	備考
IS NULL	NULL である	—
IS NOT NULL	NULL でない	—
=	等しい	Finder メソッドのパラメタが 1 個以上のとき使用可
!=	等しくない	
< (<)	～より小さい	
> (>)	～より大きい	
<= (<=)	～以下	
>= (>=)	～以上	
LIKE	検索パターンに一致する	
NOT LIKE	検索パターンに一致しない	
BETWEEN	範囲に含まれる	Finder メソッドのパラメタが 2 個以上のとき使用可
NOT BETWEEN	範囲に含まれない	

(凡例) — : 該当なし。

検索条件の構文を次に示します。

- IS NULL, IS NOT NULL 演算子を使用する場合
フィールド名 演算子
- BETWEEN, NOT BETWEEN 演算子を使用する場合
フィールド名 演算子 ?番号 AND ?番号
- そのほかの演算子を使用する場合
フィールド名 演算子 ?番号

検索条件に関する規則を次に示します。

- 検索条件は、AND または OR で接続できます。
- 検索条件、AND、OR、フィールド名は大文字小文字を区別します。
- ?番号には、Finder メソッドの引数の場所 (左から 1,2,...) を指定します。
例 id <= ?1 AND value IS NOT NULL OR name BETWEEN ?3 AND ?4
- 検索条件、AND、OR、フィールド名、?番号の間は 1 文字以上の空白を入れてください。
- 空文字列の場合は、テーブルのすべての行が検索パターンに一致するものと見なします。
- DISABLE が指定されている場合はアプリケーションからこのメソッドを使用できません。

指定可能値

指定できる値はシャープ [#] 以外です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(44) <start-order>

説明

J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。

指定可能値

0~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(45) <ejb-method-observation-timeout>

説明

EJB メソッドに J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間を設定する場合に指定します。<ejb-method-observation-timeout>タグの指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>タグの<method-observation-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(46) <method>

説明

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(47) <method-intf>**説明**

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

指定可能値

- Home
- Remote
- LocalHome
- Local

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(48) <method-name>**説明**

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(49) <method-params>**説明**

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(50) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(51) <method-observation-timeout>

説明

J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間 (秒) を指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0~86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(52) <ejb-transaction-timeout>

説明

EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。
<ejb-transaction-timeout>タグの指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された <ejb-transaction-timeout>タグの<transaction-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(53) <method>**説明**

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(54) <method-intf>**説明**

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

指定可能値

- Home
- Remote
- LocalHome
- Local

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(55) <method-name>**説明**

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(56) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(57) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(58) <transaction-timeout>

説明

トランザクションタイムアウト時間 (秒) を指定します。

0 を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

2.2.5 Message-driven Bean 属性の詳細

cosminexus.xml の Message-driven Bean 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <message>

説明

Message-driven Bean について定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <ejb-name>

説明

ejb の名称を指定します。

なお、このキーは Message-driven Bean を特定するためのキーとなります。

ejb-jar.xml の <ejb-jar>-<enterprise-beans>-<message-driven>-<ejb-name> の設定値を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <security-identity>

説明

Message-driven Bean のセキュリティアイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <run-as>

説明

実行時アイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <user-name>

説明

ユーザ名を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(6) <message-ref>

説明

リソースアダプタを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(7) <connection-factory>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。
Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(8) <connection-destination>

説明

リソースアダプタについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(9) <resource-adapter>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(10) <queue>

説明

キュー名称を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(11) <resource-ref>

説明

Message-driven Bean から参照するリソースを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(12) <res-ref-name>

説明

リソース参照の名称を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <linked-to>

説明

対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。

クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。

- Connector 1.0 以前
<リソースアダプタの表示名>

- Connector 1.5 以降のアウトバウンドリソースアダプタ
<リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子>

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(14) <resource-env-ref>**説明**

Message-driven Bean から参照するリソース環境変数を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(15) <resource-env-ref-name>**説明**

resource-env-ref の名称を定義します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <linked-queue>**説明**

キュー名称を指定します。DD の<resource-env-ref-type>タグに「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(17) <resource-adapter>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(18) <queue>

説明

キュー名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(19) <linked-adminobject>

説明

管理対象オブジェクトを指定します。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(20) <resourceadapter-name>**説明**

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(21) <adminobject-name>**説明**

管理対象オブジェクト名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(22) <linked-to>

説明

JavaBeans リソースの表示名を指定します。

DD の要素<resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

DD<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(23) <pooled-instance>

説明

プール内のインスタンスを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(24) <minimum>

説明

プール内のインスタンスの最小数を指定します。

ただし、プーリングの動作は最大数を指定することでカスタマイズできるため、このタグの設定値は無視されます。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(25) <maximum>**説明**

プール内のインスタンスの最大数を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

0 が指定された場合は 1 とみなされます。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(26) <front-ejb>**説明**

フロント EJB (クライアントが直接呼び出す EJB) かどうかを指定します。

指定可能値

- true
フロント EJB である。
- false
フロント EJB でない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(27) <start-order>**説明**

J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。

開始時は昇順で開始処理が実行され、終了時は降順に停止処理が実行されます。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(28) <ejb-method-observation-timeout>

説明

EJB メソッドに J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間を設定する場合に指定します。<ejb-method-observation-timeout>タグの指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>タグの<method-observation-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(29) <method>

説明

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(30) <method- intf>

説明

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

Message-driven Bean 属性の設定では、このタグに値を指定できません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(31) <method-name>

説明

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(32) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(33) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(34) <method-observation-timeout>

説明

J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間 (秒) を指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0~86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(35) <ejb-transaction-timeout>

説明

EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。

<ejb-transaction-timeout>タグの指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された <ejb-transaction-timeout>タグの<transaction-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(36) <method>

説明

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(37) <method-intf>

説明

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

Message-driven Bean 属性の設定では、このタグに値を指定できません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(38) <method-name>

説明

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合、すべてのメソッドを意味します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(39) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(40) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(41) <transaction-timeout>

説明

トランザクションタイムアウト時間 (秒) を指定します。

0 を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

2.2.6 War 属性の詳細

cosminexus.xml の War 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <war>

説明

WAR について定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <module-name>**説明**

WAR を特定するためのキーとなります。ただし、WAR アプリケーションの場合、cosminexus.xml に対し War 属性の設定は必ず一つになるため、このタグの指定は不要です。指定しても無視されます。次の条件に従い設定値を指定します。

application.xml を含むアプリケーションの場合

- アーカイブ形式・展開ディレクトリ形式共通
application.xml の<application>-<module>-<web>-<web-uri>に指定した文字列を指定します。

application.xml を含まないアプリケーションの場合

- アーカイブ形式 (cjimportapp コマンド (-f/-d))
J2EE アプリケーション中の WAR ファイルの場所を EAR のルートからの相対パスで指定します。
- 展開ディレクトリ形式 (cjimportapp コマンド (-a))
WAR ディレクトリの、アプリケーションディレクトリからの相対パスの末尾の"_war"を".war"に置き換えた値を指定します。

相対パスで指定する場合の注意事項

- パスの区切り文字にはスラント「/」を使用します。
- パスの文字列の先頭にスラント「/」は指定できません。
- パスの文字列中に、"./", "../"および"/"は指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <security-role>**説明**

セキュリティロールを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <role-name>

説明

セキュリティロール名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <linked-to>

説明

アクセスコントロールリスト (cjaddsec コマンドで定義したロール名) を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(6) <resource-ref>

説明

Servlet から参照するリソースを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(7) <res-ref-name>

説明

リソース参照の名称を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <linked-to>

説明

対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。

- Connector 1.0 以前
 <リソースアダプタの表示名>
- Connector 1.5 以降のアウトバウンドリソースアダプタ
 <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子>

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(9) <resource-env-ref>

説明

Servlet から参照するリソース環境変数を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(10) <resource-env-ref-name>

説明

リソース環境変数参照の名称を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(11) <linked-queue>

説明

キュー名称を指定します。DD の要素<resource-env-ref-type>タグに「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(12) <resource-adapter>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <queue>

説明

キュー名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(14) <linked-adminobject>

説明

管理対象オブジェクトを指定します。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(15) <resourceadapter-name>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] (]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } (}), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(17) <linked-to>

説明

JavaBeans リソースの表示名を指定します。

DD の要素<resource-env-ref-type>タグに「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

DD<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(18) <thread-control>

説明

Web アプリケーションのスレッド制御を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(19) <thread-control-max-threads>**説明**

Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数を指定します。

占有スレッド数以上の値を指定します。

指定可能値

1～1024 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<thread-control-exclusive-threads>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(20) <thread-control-exclusive-threads>**説明**

占有スレッド数を指定します。

Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数以下を指定します。

指定可能値

0～1024 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<thread-control-max-threads>タグ、および<urlgroup-thread-control-exclusive-threads>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(21) <thread-control-queue-size>**説明**

Web アプリケーション単位の実行待ち行列数を指定します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(22) <thread-control-stats-monitor>

説明

稼働統計の監視の設定をします。このタグ、<enabled>タグ、<high-threshold>タグ、または<low-threshold>タグを省略した場合、デフォルト値が有効になるため、しきい値イベントは有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(23) <whole-waiting-request-count>

説明

Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数を監視します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(24) <enabled>

説明

Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false

無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(25) <high-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する上限のしきい値（単位：%）を指定します。

指定可能値

1～100の整数値。<low-threshold>タグの指定値以上の値である必要があります。

ほかのタグとの依存関係

<low-threshold>タグ

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(26) <low-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する下限しきい値（単位：%）を指定します。

指定可能値

0～99の整数値。ただし、<high-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。

ほかのタグとの依存関係

<high-threshold>タグ

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(27) <waiting-request-count>

説明

Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数を監視します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(28) <enabled>

説明

Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(29) <high-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する上限のしきい値（単位：%）を指定します。

指定可能値

1～100の整数値。ただし、<low-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。

ほかのタグとの依存関係

<low-threshold>タグ

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(30) <low-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する下限しきい値（単位：%）を指定します。

指定可能値

0～99の整数値。ただし、<high-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。

ほかのタグとの依存関係

<high-threshold>タグ

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(31) <resource-watcher>**説明**

Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視に関するプロパティを設定します。

このタグか、<watcher-threshold>, <watcher-interval>, <watcher-enabled>, または<watcher-writefile-enabled>を省略した場合、デフォルト値が有効になり、監視イベントが有効になります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(32) <watcher-threshold>**説明**

アラートメッセージを出力するしきい値を指定します。

指定可能値

1~100 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(33) <watcher-interval>**説明**

監視間隔を指定します。

指定可能値

1~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(34) <watcher-enabled>

説明

Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視を有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(35) <watcher-writefile-enabled>

説明

リソース使用状況をファイルに出力するかどうかを指定します。

指定可能値

- true
出力する。
- false
出力しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(36) <urlgroup-thread-control>

説明

URL グループ単位の同時実行スレッド数制御を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(37) <urlgroup-thread-control-name>**説明**

URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名を指定します。

URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名は Web アプリケーション内で、一意な名称を指定します。

指定可能値

英数字, ハイフン [-], アンダースコア [_] を使用できます。

文字の長さは $1 \leq \text{文字列長} \leq 64$ で指定します。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(38) <urlgroup-thread-control-max-threads>**説明**

URL グループ単位の最大同時実行スレッド数を整数値で指定します。

指定可能値

1 ~ thread-control-max-threads の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<thread-control-max-threads>タグ, および<urlgroup-thread-control-exclusive-threads>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(39) <urlgroup-thread-control-exclusive-threads>**説明**

URL グループ単位の占有スレッド数を指定します。

指定可能値

0 ~ urlgroup-thread-control-max-threads かつ thread-control-exclusive-threads 以下の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<thread-control-max-threads>タグ, <thread-control-exclusive-threads>タグ, および<urlgroup-thread-control-max-threads>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(40) <urlgroup-thread-control-queue-size>

説明

URL グループ単位の実行待ちキューのサイズを指定します。

指定可能値

0~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(41) <urlgroup-thread-control-mapping>

説明

制御対象となる URL のマッピング情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(42) <url-pattern>

説明

制御対象となる URL パターンを指定します。

一つの Web アプリケーション内で同じ URL パターンを指定することはできません。

指定例を次に示します。

```
/soda/grape/*  
/foo/*  
/contents  
*.foo
```

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(43) <stats-monitor>**説明**

稼働統計の監視の設定をします。

このタグか、<enabled>、<high-threshold>、または<low-threshold>を省略した場合、デフォルト値が有効になり、しきい値イベントが有効になります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(44) <waiting-request-count>**説明**

URL グループ単位の実行待ちリクエスト数を監視します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(45) <enabled>**説明**

URL グループ単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(46) <high-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する上限しきい値（単位：%）を指定します。

指定可能値

1～100 の整数値。

low-threshold 以上でなければなりません。

ほかのタグとの依存関係

<low-threshold>と依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(47) <low-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する下限しきい値（単位：%）を指定します。

指定可能値

0～99 の整数値。

high-threshold 以下でなければなりません。

ほかのタグとの依存関係

<high-threshold>と依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(48) <http-request>

説明

HTTP リクエストに関する各種設定をします。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(49) <encoding>**説明**

リクエストボディ、およびクエリのデコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。ただし、Servlet 仕様に準拠した設定 (ServletAPI および web.xml) がある場合、無効となります。JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(50) <http-response>**説明**

HTTP レスポンスに関する各種設定をします。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(51) <encoding>**説明**

レスポンスボディのエンコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。ただし、Servlet 仕様に準拠した設定 (ServletAPI および web.xml) がある場合、無効となります。JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(52) <jsp>

説明

JSP に関する各種設定をします。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(53) <page-encoding>

説明

JSP ファイルの読み込みに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。

ただし、Servlet 仕様に準拠した設定 (ServletAPI および web.xml) がある場合、無効となります。

JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(54) <http-session>

説明

Web アプリケーション単位の HttpSession 数の監視に関する情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(55) <http-session-max-number>**説明**

使用可能な HttpSession の最大数を指定します。

-1 を指定した場合は無制限となります。

指定可能値

-1 ~ 2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(56) <resource-watcher>**説明**

HttpSession 数の監視に関するプロパティを設定します。

このタグか、<watcher-threshold>, <watcher-interval>, <watcher-enabled>, または <watcher-writefile-enabled> を省略した場合、デフォルト値が有効になり、監視イベントが有効になります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(57) <watcher-threshold>**説明**

アラートメッセージを出力するしきい値を指定します。

指定可能値

1 ~ 100 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(58) <watcher-interval>

説明

監視間隔を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(59) <watcher-enabled>

説明

HttpSession 数の監視を有効にするかどうかを指定します。

ただし、<http-session-max-number>に 0 を指定した場合、この指定に関係なく監視は無効となります。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

<http-session-max-number>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(60) <watcher-writefile-enabled>

説明

リソース使用状況をファイルに出力するかどうかを指定します。

指定可能値

- true
出力する。
- false
出力しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(61) <dbinfo>**説明**

データベースセッションフェイルオーバー機能を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(62) <enabled>**説明**

データベースセッションフェイルオーバー機能を有効にするかどうかを設定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(63) <application-id>**説明**

アプリケーション識別子を設定します。

指定可能値

英数字、およびアンダースコア「_」を使用できます。
最大 16 文字まで指定できます。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(64) <attribute-data-size-max>

説明

グローバルセッション情報に含めることが可能な HTTP セッションの属性情報の最大サイズを設定します。

指定可能値

128~10485760 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(65) <exclude-extensions>

説明

データベースセッションフェイルオーバー機能を抑止する拡張子を設定します。

URL のパスが指定した拡張子と同じ場合に、該当するリクエストでデータベースセッションフェイルオーバー機能は無効となります。指定した拡張子と URL の比較では大文字、小文字の区別はしません。データベースセッションフェイルオーバー機能を抑止する拡張子を設定しない場合は空文字列を設定します。

指定可能値

次に示す文字を 512 文字以内で指定します。

- 英数字
- 括弧「()」
- エクスクラメーション「!」
- パーセント「%」
- ドル「\$」
- アンパサンド「&」
- シングルクォート「'」
- プラス「+」
- ハイフン「-」
- イコール「=」
- 単価記号「@」
- アンダースコア「_」
- チルダ「~」

- ピリオド「.」
- コンマ「,」

なお、複数の拡張子を指定する場合、コンマ「,」で区切って指定します。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(66) <eadssfo>

説明

EADsセッションフェイルオーバ機能を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(67) <enabled>

説明

EADsセッションフェイルオーバ機能を有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(68) <application-id>

説明

アプリケーション識別子を設定します。

指定可能値

英数字、およびアンダースコア「_」を使用できます。
最大 128 文字まで指定できます。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(69) <exclude-url-patterns>

説明

EADs セッションフェイルオーバー機能を抑止する URL パターン（完全一致指定、プリフィックス一致指定、拡張子一致指定）を指定します。

指定した URL パターンとリクエスト URL が合致した場合、該当するリクエストで EADs セッションフェイルオーバー機能は無効となります。

なお、複数の URL パターンを指定する場合、セミコロン (;) で区切って指定します。

完全一致指定、プリフィックス一致指定の比較では、大文字と小文字は区別されます。拡張子一致の比較では、大文字と小文字は区別されません。

EADs セッションフェイルオーバー機能を抑止しない場合、空文字列を指定します。

指定可能値

完全一致指定およびプリフィックス一致指定の場合、「/」から始まる正規化した URI を指定します。
拡張子一致指定の場合、「*。」から始まる拡張子を指定します。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(70) <session-read-only-url-patterns>

説明

EADs セッションフェイルオーバー機能の HTTP セッションの参照専用リクエストとする URL パターンを指定します。

指定した URL パターンとリクエスト URL が合致した場合、該当するリクエストは HTTP セッションの参照専用リクエストとなります。

なお、複数の URL パターンを指定する場合、セミコロン (;) で区切って指定します。

完全一致指定、プリフィックス一致指定の比較では、大文字と小文字は区別されます。拡張子一致の比較では、大文字と小文字は区別されません。

EADs セッションフェイルオーバー機能を抑止しない場合、空文字列を指定します。

指定可能値

完全一致指定およびプリフィックス一致指定の場合、「/」から始まる正規化した URI を指定します。

拡張子一致指定の場合、「*」から始まる拡張子を指定します。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(71) <start-notify-error>

説明

J2EE アプリケーションの開始時にスタートアップ時のロードが指定されている Servlet/JSP の初期化処理中や、taglib の解析中にエラーが発生した場合、エラーを通知してアプリケーションの開始を中断するかどうかを指定します。

初期表示値は、アプリケーションサーバのバージョンが 06-00 以降で新規に作成した J2EE アプリケーションだけ true、それ以外の J2EE アプリケーションは false となります。

指定可能値

- true
エラーを通知する。
- false
エラーを通知しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(72) <start-order>

説明

J2EE アプリケーションの開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(73) <session-config>

説明

Web アプリケーションのセッションパラメタを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(74) <cookie-config>

説明

Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(75) <name>

説明

Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie の名称を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z) および次の特殊文字を使用できます。

エクスクラメーションマーク (!), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), アスタリスク (*), プラス (+), ハイフン (-), ペリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、名前の先頭にドル記号 (\$) を指定できません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(76) <http-only>

説明

Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie に HttpOnly 属性を付けるかどうかを指定します。

指定可能値

- true
HTTP Cookie に HttpOnly 属性を付ける。
- false
HTTP Cookie に HttpOnly 属性を付けない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(77) <tracking-mode>

説明

トラッキングモードを指定します。

指定可能値

- COOKIE
- URL

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。このタグを省略した場合、COOKIE と URL が指定された場合と同様に動作します。

値の省略

省略できません。

2.2.7 Filter 属性の詳細

cosminexus.xml の Filter 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <filter>

説明

Filter について定義します。

なお、web.xml を含まない場合、このタグは指定できません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <filter-name>

説明

Filter を特定するためのキーとなります。

web.xml の <web-app>-<filter>-<filter-name> の設定値を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <method-observation-timeout>

説明

リクエストの延長で呼び出されるフィルタの doFilter メソッドの監視用タイムアウト時間 (秒) を指定します。

0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0~86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

2.2.8 Servlet 属性の詳細

cosminexus.xml の Servlet 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <servlet>

説明

Servlet について定義します。

なお、web.xml を含まない場合、このタグは指定できません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <servlet-name>

説明

Servlet を特定するためのキーとなります。

web.xml の<web-app>-<servlet>-<servlet-name>の設定値を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <run-as>

説明

実行時アイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <user-name>

説明

ユーザ名を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <method-observation-timeout>

説明

リクエストの延長で呼び出されるサーブレットの service メソッド/JSP の_jspService メソッドの監視用タイムアウト時間 (秒) を指定します。

0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0~86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

2.2.9 Connector 属性の詳細

cosminexus.xml の Connector 属性の詳細について、タグごとに説明します。<property-value>タグおよび<property-name>タグで指定する値は、設定できる範囲ごとに記載しています。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <rar>

説明

rar に関する情報を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <module-name>**説明**

リソースアダプタを特定するためのキーとなります。

次の条件に従って、設定値を指定します。

application.xml を含むアプリケーションの場合

- アーカイブ形式・展開ディレクトリ形式共通
application.xml の<application>-<module>-<connector>に指定した文字列を指定します。

application.xml を含まないアプリケーションの場合

- アーカイブ形式 (cjimportapp コマンド (-f/-d))
J2EE アプリケーション中の RAR ファイルの場所を EAR のルートからの相対パスで指定します。
- 展開ディレクトリ形式 (cjimportapp コマンド (-a))
アプリケーションディレクトリ中の RAR ファイルの場所をアプリケーションディレクトリからの相対パスで指定します。

相対パスで指定する場合の注意事項

- パスの区切り文字にはスラント「/」を使用します。
- パスの文字列の先頭にスラント「/」は指定できません。
- パスの文字列中に, "./", "../"および"/"は指定できません。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <resourceadapter>**説明**

リソースアダプタについての情報を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <outbound-resourceadapter>

説明

アウトバウンド方向へのリソースアダプタを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(5) <connection-definition>

説明

コネクションインタフェース・クラスを定義します。

補足

下位タグの<connector-property>タグについて

<property-value>タグは<property-name>タグごとに設定値の範囲が異なるため、それぞれのプロパティごとに記載しています。

<property>タグの指定が複数あり、<property-name>タグの設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<property>タグの<property-value>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(6) <connectionfactory-interface>

説明

リソースによってサポートされる ConnectionFactory インタフェースのクラス名を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタの場合、このタグの値がコネクション定義識別子となります。

パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(7) <connector-property>**説明**

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(8) <property-name>**説明**

MaxPoolSize プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- MaxPoolSize

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(9) <property-value>**説明**

プロパティ値として、プールの最大値を指定します。

指定可能値

-1 (無制限) または 0~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(10) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(11) <property-name>

説明

MinPoolSize プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- MinPoolSize

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(12) <property-value>

説明

プロパティ値として、プールの最小値を指定します。

指定可能値

0~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <connector-property>**説明**

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(14) <property-name>**説明**

LogEnabled プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- LogEnabled

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(15) <property-value>**説明**

プロパティ値として、LogWriter によるログ出力の要否を指定します。

指定可能値

- true
ログを出力する。
- false
ログを出力しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(17) <property-name>

説明

User プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- User

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(18) <property-value>

説明

プロパティ値として、ユーザ名を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(19) <connector-property>**説明**

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(20) <property-name>**説明**

Password プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Password

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(21) <property-value>**説明**

プロパティ値として、パスワードを指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(22) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(23) <property-name>

説明

ValidationType プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- ValidationType

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(24) <property-value>

説明

コネクションチェック契機のプロパティ値を指定します

指定可能値

- 0：コネクションチェック機能オフ
- 1：コネクション取得時にチェック
- 2：一定間隔でチェック

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(25) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(26) <property-name>

説明

ValidationInterval プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- ValidationInterval

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(27) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションチェック間隔 (秒) を指定します。

指定可能値

1~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(28) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(29) <property-name>

説明

RetryCount プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- RetryCount

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(30) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション取得リトライ回数を指定します。

指定可能値

0~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(31) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(32) <property-name>

説明

RetryInterval プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- RetryInterval

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(33) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション取得リトライ間隔（秒）を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(34) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(35) <property-name>

説明

ConnectionTimeout プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- ConnectionTimeout

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(36) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション解放までのタイムアウト値 (秒) を指定します。

指定可能値

0~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(37) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(38) <property-name>

説明

ConnectionPoolAdjustmentInterval プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- ConnectionPoolAdjustmentInterval

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(39) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション数のソフトランディング動作調節間隔（秒）を指定します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(40) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(41) <property-name>

説明

SweeperInterval プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- SweeperInterval

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(42) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションスイーパー動作時間間隔 (秒) を指定します。

指定可能値

0~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(43) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(44) <property-name>

説明

RequestQueueEnable プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- RequestQueueEnable

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(45) <property-value>**説明**

プロパティ値として、コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列の要否を指定します。

指定可能値

- true
コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列機能を有効にする。
- false
コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列機能を無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(46) <connector-property>**説明**

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(47) <property-name>**説明**

RequestQueueTimeout プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- RequestQueueTimeout

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(48) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる最大値(秒)を指定します。

指定可能値

0~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(49) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(50) <property-name>

説明

WatchEnabled プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- WatchEnabled

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(51) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションプール監視のアラート出力を有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(52) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(53) <property-name>

説明

WatchInterval プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- WatchInterval

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(54) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションプール監視間隔（秒）を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(55) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(56) <property-name>

説明

WatchThreshold プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- WatchThreshold

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(57) <property-value>**説明**

プロパティ値として、コネクションプール使用状態を監視するしきい値 (%) を指定します。

指定可能値

1~100 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(58) <connector-property>**説明**

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(59) <property-name>**説明**

WatchWriteFileEnabled プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- WatchWriteFileEnabled

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(60) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションプール監視結果をファイル出力するかどうかを指定します。

指定可能値

- true
出力する。
- false
出力しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(61) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(62) <property-name>

説明

Warmup プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Warmup

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(63) <property-value>**説明**

プロパティ値として、コネクションプールのウォーミングアップ機能を有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(64) <connector-property>**説明**

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(65) <property-name>**説明**

NetworkFailureTimeout プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- NetworkFailureTimeout

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(66) <property-value>

説明

プロパティ値として、ネットワーク障害検知機能のタイムアウトを有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(67) <resource-external-property>

説明

リソースについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(68) <optional-name>

説明

リソースの別名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォー ト (^), ブレイス ({ } ()), ストローク (|), チルダ (~)

指定できる文字数は 1～255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(69) <res-auth>

説明

リソースを使用するための認証元を、アプリケーション上で行うか、コンテナに任せるかを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Application
- Container

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(70) <res-sharing-scope>

説明

リソース接続を共有できるようにするかどうかを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Shareable
- Unshareable

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(71) <adminobject>

説明

リソースアダプタが提供する管理対象オブジェクトを定義します。

DD の<adminobject>と同じ数分、同じ順番で設定する必要があります（設定しない場合、空タグ <adminobject/>を指定します）。

すべての<adminobject>に<adminobject-name>を設定する必要がなければ省略できます。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<adminobject>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(72) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名を指定します。リソースアダプタ内でユニークでなければなりません。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] (]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({} (}), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(73) <resourceadapter-property>

説明

Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。

なお、このタグより下位のタグは Connector 1.5 以降のリソースアダプタに対してだけ指定できます。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(74) <property-name>

説明

MaxTPoolSize プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- MaxTPoolSize

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(75) <property-value>

説明

プロパティ値として、スレッドプールで同時に実行される最大スレッド数を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(76) <resourceadapter-property>

説明

Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。

なお、このタグより下位のタグは Connector 1.5 以降のリソースアダプタに対してだけ指定できます。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(77) <property-name>

説明

MinTPoolSize プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- MinTPoolSize

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(78) <property-value>

説明

プロパティ値として、スレッドプールに存在する最小スレッド数を指定します。

指定可能値

0~1024 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(79) <resourceadapter-property>

説明

Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。

なお、このタグより下位のタグは Connector 1.5 以降のリソースアダプタに対してだけ指定できます。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(80) <property-name>**説明**

TPoolKeepalive プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- TPoolKeepalive

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(81) <property-value>**説明**

プロパティ値として、スレッドプールのスレッド解放までのタイムアウト値 (秒) を指定します。

指定可能値

1~2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

3

J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

この章では、J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイルについて説明します。

3.1 アプリケーション統合属性ファイル

アプリケーション統合属性ファイルは、アプリケーション、EJB-JAR、Session Bean、Entity Bean、Message-driven Bean、WAR、フィルタ、サーブレット/JSP およびリソースアダプタの属性を一括して取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.1.1 アプリケーション統合属性ファイルの指定内容

アプリケーション統合属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-application-all-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Application All Property 9.0//EN"
'file:///<Application Server のインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-application-all-
property_9_0.dtd'>
```

アプリケーション統合属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-application-all-property>	1 回	ルートタグ。
┌ <hitachi-application-property> │ │	0 または 1 回※1	アプリケーションの属性。 詳細については、「3.2 アプリケーション属性ファイル」を参照してください。※2
┌ <ejb-jar> │ │	0 回以上※1	EJB に関する情報。 ルートアプリケーションに含まれる EJB-JAR の数だけ出力されます。
│ ┌ <hitachi-ejb-jar-property> │ │ │ │	1 回	EJB-JAR の属性。 詳細については、「3.3 EJB-JAR 属性ファイル」を参照してください。※2, ※3
│ ┌ <hitachi-session-bean-property> │ │ │ │ │ │	0 回以上※1	Session Bean の属性。 EJB-JAR に含まれる Session Bean の数だけ出力されます。 詳細については、「3.4 Session Bean 属性ファイル」を参照してください。※2, ※3
│ ┌ <hitachi-entity-bean-property> │ │ │ │ │ │	0 回以上※1	Entity Bean の属性。 EJB-JAR に含まれる Entity Bean の数だけ出力されます。 詳細については、「3.5 Entity Bean 属性ファイル」を参照してください。※2, ※3
│ ┌ <hitachi-message-bean-property> │ │ │ │ │ │	0 回以上※1	Message-driven Bean の属性。 EJB-JAR に含まれる Message-driven Bean の数だけ出力されます。 詳細については、「3.6 MessageDrivenBean 属性ファイル」を参照してください。※2, ※3
└ <war>	0 回以上※1	WAR に関する情報。

タグ名	出現パターン	説明
<war>	0回以上※1	ルートアプリケーションに含まれる WAR の数だけ出力されます。
<hitachi-war-property>	1回	WAR の属性。 詳細については、「3.7 WAR 属性ファイル」を参照してください。※2, ※3
<hitachi-filter-property>	0回以上※1	フィルタの属性。 WAR に含まれるフィルタの数だけ出力されます。 詳細については、「3.8 フィルタ属性ファイル」を参照してください。※2, ※3
<hitachi-servlet-property>※4	0回以上※1	サーブレット/JSP の属性。 WAR に含まれるサーブレット/JSP の数だけ出力されます。 詳細については、「3.9 サーブレット属性ファイル」を参照してください。※2, ※3
<rar>	0回以上※1	RAR に関する情報。 ルートアプリケーションに含まれる RAR の数だけ出力されます。
<hitachi-connector-property>	1回	Connector の属性。 RAR に含まれる Connector の数だけ出力されます。 詳細については、「4.1 Connector 属性ファイル」を参照してください。※2, ※3
- -	-	-

注※1

タグの単位で省略できます。この場合、指定していない項目の属性は変更されません。

注※2

各属性ファイルの内容と、一部タグ名やタグの出力順序が異なっている部分があります。タグ名の違いについては、次の表を参照してください。

表 3-1 統合属性ファイルで出力されるタグ名

属性ファイル名	タグ名	統合属性ファイルのタグ名
Session Bean 属性ファイル	<runtime>	<session-runtime>
Entity Bean 属性ファイル	<runtime>	<entity-runtime>
MessageDrivenBean 属性ファイル	<runtime>	<message-runtime>
	<security-identity>	<message-security-identity>
WAR 属性ファイル	<runtime>	<war-runtime>

注※3

display-name は、変更できません。

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

注※4

アプリケーション統合属性ファイルを `cjsetappprop` コマンドで設定すると、サーブレット単位 (`<hitachi-servlet-property>` タグ単位) に設定値の反映処理を実施します。ただし、`<hitachi-servlet-property>` - `<url-pattern>` タグについては、すべてのサーブレットで重複がないかどうかのチェックを実施しています。

3.2 アプリケーション属性ファイル

アプリケーション属性ファイルは、アプリケーションの属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.2.1 アプリケーション属性ファイルの指定内容

アプリケーション属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-application-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Application Property 8.0//EN" 'file:///
<Application Server のインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-application-property_8_0.dtd'>
```

アプリケーション属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。

なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-application-property>	1 回	ルートタグ。
┌ <description> └	0 または 1 回	アプリケーションの説明。
┌ <icon> └	0 または 1 回	Deploy ツール上に表示される J2EE アプリケーションのアイコンの定義を行います。
┌ ┌ <small-icon> └ └	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
┌ ┌ <large-icon> └ └	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
┌ <lookup-name> └ └ └ └ └ └ └ └ └ └	1 回	クライアントから EJB をルックアップするときに使う名前を 255 文字以下で指定します。 HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名称>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<アプリケーションのルックアップ名>に相当します。このタグは参照専用です。ルックアップ名はアプリケーション名を基に自動的に作られます。*
┌ <library-directory> └ └ └	0 または 1 回	ライブラリ JAR を格納するディレクトリ名を表示します。DD (application.xml) にタグが指定されていないまたは、J2EE アプリケーションに DD (application.xml) が含まれていない場合は、"lib"が表示されます。空タグの場合、J2EE アプリケーションのルート直下を示します。*
┌ <security-prop> └	1 回	Enterprise Bean のセキュリティの管理方法。
┌ ┌ <security-method> └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └	1 回	セキュリティの管理方法。 次のどれかを指定します。 disable_methods_without_roles セキュリティロールを割り当てていないメソッドは実行できません。

タグ名	出現パターン	説明
<security-method>	1 回	map_methods_without_roles セキュリティロールを割り当てていないメソッドには、default-security-role で指定したデフォルトセキュリティロールが割り当てられます。 no_security_for_methods_without_roles <ul style="list-style-type: none"> セキュリティロールが割り当てられていないメソッドはどのユーザでも実行できます。 セキュリティロールが割り当てられているメソッドはセキュリティロールによって実行が制限されます。 no_security_for_all_methods セキュリティロールが割り当てられているメソッドも割り当てられていないメソッドもすべてどのユーザでも実行できます。
<default-security-role>	0 または 1 回	security-method に map_methods_without_roles を指定した場合のデフォルトセキュリティロール。 map_methods_without_roles 以外を指定している場合は省略できます (設定されていても cjsetappprop で無視されます)。
<start-order>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時および停止時の順番。 開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。 $0 \leq \text{start-order} \leq 2147483647$
<scheduling-unit> 「機能解説 拡張編」 - 「3.2.5」	0 または 1 回	キューの配置モデルの指定。 次のどちらかを指定します。 Application キューをアプリケーションごとに配置します。 デフォルトは、Application です。 Bean キューを Bean ごとに配置します。
<scheduling> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	CTM との連携についての定義。 なお、このタグは構成ソフトウェアに Component Transaction Monitor を含む製品だけに有効です。それ以外の場合に指定するとエラーになります。利用できる製品については、マニュアル「アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説」の「2.2.1 製品と構成ソフトウェアの対応」を参照してください。
<queue-name> 「機能解説 拡張編」 - 「3.2.5」	1 回	スケジューリングをするキューの名称を、63 文字までの英数字 (0~9, A~Z, a~z) およびアンダースコア () で指定します。デフォルト値は、アプリケーション名です。
<parallel-count> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	1 回	CTM がアプリケーションを呼び出すために用意するスレッド数を、1~127 の範囲で指定します。デフォルトは、1 です。 CTM 経由で呼び出される Bean で、Maximum の値が parallel-count の値より小さい場合エラーとなります。

タグ名		出現パターン	説明
	└ <queue-length> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	スケジューリングをするキューの長さを、1~32767 の整数値で指定します。 キューを共有する場合、キューを共有するアプリケーション間や Bean 間で設定値が異なるとき、すでに生成されているキューの長さが有効になります。
	└ <managed-by-ctm> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	1 回	CTM 連携をするかどうかの指定。 次のどちらかを指定します。 true CTM と連携します。 false CTM と連携しません。 デフォルト値は、false です。
	└ <ref-libraries>	0 または 1 回	参照するライブラリの指定。
	└ <classpath>	1 回以上	クラスパスの指定。 ref-libraries が指定されていて、このタグが存在しない場合、エラーとなります。 このタグを複数指定した場合、指定した順序でランタイム属性に設定されます。クラスローダに設定されるクラスパスについては、マニュアル「アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」の「付録 B.3 クラスローダに設定されるクラスパス」を参照してください。
	└ <method-observation-recovery-mode>	0 または 1 回	J2EE アプリケーションの時間監視機能の障害回復モードの指定。 ここでは、thread だけが指定できます。 thread スレッドを停止します。
-	-	-	-

注※

cigetappprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

3.2.2 DD との対応

アプリケーション属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

アプリケーション属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-application-property>	1 回	<application>	1 回
└ <description>	0 または 1 回	└ <description>	0 または 1 回
└ <icon>	0 回以上	└ <icon>	0 回以上
└ <small-icon>	0 または 1 回※	└ <small-icon>	0 または 1 回
└ <large-icon>	0 または 1 回※	└ <large-icon>	0 または 1 回

アプリケーション属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
	-		<display-name>
	<lookup-name>		-
	<library-directory>		<library-directory>
-	-	-	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※

<small-icon>と<large-icon>のどちらか一つを指定します。

3.2.3 cosminexus.xml との対応

アプリケーション属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

アプリケーション属性ファイル		cosminexus.xml	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-application-property>	1 回	<cosminexus-app>	1 回
	<security-prop>		<security-prop>
	<security-method>		<security-method>
	<default-security-role>		<default-security-role>
	<start-order>		<start-order>
	<scheduling-unit>		<scheduling-unit>
	<scheduling>		<scheduling>
	<queue-name>		<queue-name>
	<parallel-count>		<parallel-count>
	<queue-length>		<queue-length>
	<managed-by-ctm>		<managed-by-ctm>
	<ref-libraries>		<ref-libraries>
	<classpath>		<classpath>
	<method-observation-recovery-mode>		<method-observation-recovery-mode>
-	-	-	-

注※

cosminexus.xml は、カスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

3.3 EJB-JAR 属性ファイル

EJB-JAR 属性ファイルは、EJB-JAR の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.3.1 EJB-JAR 属性ファイルの指定内容

EJB-JAR 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-ejb-jar-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Ejb Jar Property 9.0//EN" 'file:///
<Application Server のインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-ejb-jar-property_9_0.dtd'>
```

EJB-JAR 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。

なお、設定先の EJB-JAR が DD (ejb-jar.xml) を保持していない場合、EJB-JAR 属性ファイルのタグは変更できません。また、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

(1) ejb-jar.xml を含む場合

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-ejb-jar-property>	1 回	ルートタグ。
┌ <description>*1	0 回以上*2	EJB-JAR の説明。*3
┌ <display-name>*1	1 回以上*2	EJB-JAR の表示名。*3 1 ≤ 文字列長 変更する場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_)
┌ <icon>*1	0 回以上*2	GUI ツール上に表示される EJB-JAR のアイコンの定義。*3
┌ ┌ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。*3
┌ ┌ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。*3
┌ <interceptors>	0 または 1 回	インターセプタの設定。*4
┌ ┌ <description>*1	0 回以上*2	Interceptors の説明。*4
┌ ┌ <interceptor>	1 回以上	インターセプタクラスの設定。*4
┌ ┌ ┌ <description>*1	0 回以上*2	interceptor-class の説明。*4
┌ ┌ ┌ <interceptor-class>	1 回	インターセプタクラスの名称。*4
┌ ┌ ┌ <around-invoke>	0 回以上	インターセプタの aroundinvoke メソッドの定義。*4
┌ ┌ ┌ ┌ <class>	0 または 1 回	インターセプタの aroundinvoke メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。*4

タグ名			出現パターン	説明
		└ <method-name>	1 回	インターセプタの aroundinvoke メソッドの名称。*4
		└ <post-construct>	0 回以上	インターセプタの post-construct メソッドの定義。*4
		└ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの post-construct メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。*4
		└ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの post-construct メソッド名を表示。*4
		└ <pre-destroy>	0 回以上	インターセプタの pre-destroy メソッドの定義。*4
		└ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの pre-destroy メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。*4
		└ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの pre-destroy メソッド名を表示。*4
		└ <post-activate>	0 回以上	インターセプタの post-activate メソッドの定義。*4
		└ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの post-activate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。*4
		└ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの post-activate メソッド名を表示。*4
		└ <pre-passivate>	0 回以上	インターセプタの pre-passivate メソッドの定義。*4
		└ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの pre-passivate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。*4
		└ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの pre-passivate メソッド名を表示。*4
		└ <relationships>	0 または 1 回	リレーションシップについての定義。EJB2.1 以前の場合に設定できます。EJB3.0 以降の場合は設定できません。*3
		└ <description>*1	0 回以上*2	relationships の説明。*3
		└ <ejb-relation>	1 回以上	二つの CMP EntityBean 間のリレーションシップについての定義。*3
		└ <description>*1	0 回以上*2	ejb-relation の説明。*3
		└ <ejb-relation-name>	0 または 1 回	relationships の名称。*3
		└ <ejb1>	1 回	ejb2 に対する ejb1 の関連情報。*3
		└ <description>*1	0 回以上*2	ejb1 の説明。*3

タグ名			出現パターン	説明
			<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回 リレーションシップロール名。*3 二つの CMP EntityBean 間のリレーションシップ定義中では、それぞれ一意な名称を指定します。別リレーションシップ定義では、同じ名称であっても指定できます。
			<multiplicity>	1 回 ejb1 のインスタンスの多重度。*3 指定できる文字列を次に示します。 • One • Many
			<cascade-delete>	0 または 1 回 ejb2 の削除時に ejb1 の自動削除をするかどうかの指定。*3 ejb2 の multiplicity が one の場合に有効です。
			<ejb-name>	1 回 ejb1 の名称。*3 指定できる文字列は、EJB-JAR 中に存在する CMP2.0 Entity Bean の EJB 名 (<ejb-name> タグの値) です。
			<cmr-field-name>	1 回 ejb2 のインスタンスを取得する CMR フィールド。*3 指定できる値は、「No EJB Name」または<ejb name>で指定した EJB が持つ CMR フィールドのどれかです。
			<cmr-field-type>	0 または 1 回 CMR フィールド用メソッドの戻り値の型。*3 表示される値は、<cmr-field-name>で指定した access メソッドの戻り値です。 「java.util.Collection」または「java.util.Set」の場合は、そのまま表示します。それ以外の場合は空文字です。
			<ejb2>	1 回 ejb1 に対する ejb2 の関連情報。*3
			<description>*1	0 回以上*2 ejb2 の説明。*3
			<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回 リレーションシップロール名。*3 二つの CMP EntityBean 間のリレーションシップ定義中では、それぞれ一意な名称を指定します。別リレーションシップ定義では、同じ名称であっても指定できます。
			<multiplicity>	1 回 ejb2 のインスタンスの多重度。*3 指定できる文字列を次に示します。 • One • Many
			<cascade-delete>	0 または 1 回 ejb1 の削除時に ejb2 の自動削除をするかどうかの指定。*3 ejb1 の multiplicity が one の場合に有効です。

タグ名		出現パターン	説明
	<interceptor-class>	0 回以上	インターセプタのクラスの名称。 <interceptor-class>と<interceptor-order>の どちらか一つを指定します。
	<interceptor-order>	1 回	インターセプタの順序性またはレベルの設定。 <interceptor-class>と<interceptor-order>の どちらか一つを指定します。
	<interceptor-class>	1 回以上	インターセプタのクラスの名称。
	<exclude-default-interceptors>	0 または 1 回	デフォルトインターセプタを除外するかどうかの 指定。 表示される文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (除外する場合) • false (除外しない場合)
	<exclude-class-interceptors>	0 または 1 回	クラスインターセプタを除外するかどうかの指 定。 表示される文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (除外する場合) • false (除外しない場合)
	<named-method>	0 または 1 回	メソッドの定義。
	<method-name>	1 回	EJB のビジネスメソッドの名称。「*」を指定した場 合、ワイルドカードとして扱いません。 指定したメソッドが、<ejb-name>に指定した Enterprise Bean がない場合、ワーニングメッセ ージ (KDJE37612-W) が出力され、指定した値が 設定されます。
	<method-params>	0 または 1 回	メソッドの引数。
	<method-param>	0 回以上	メソッドの引数。
	<application-exception>	0 回以上	アプリケーション例外に関する設定。 cjsresprop コマンドでは無視されます。 <exception-class>の値が同じ<application- exception>が複数ある場合、ワーニングメッセ ージ (KDJE37604-W) が出力され、先に設定され た値が有効になります。 また、設定先が EJB2.1 以前の場合は、ワーニング メッセージ (KDJE37613-W) が出力され、設定 が無視されます。
	<exception-class>	1 回	クライアントに通知する例外クラスの名称。
	<rollback>	0 または 1 回	指定した例外が発生したとき、クライアントに通 知する前にロールバックを行うかどうかの指定。 表示される文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (ロールバックを行う) • false (ロールバックを行わない)

タグ名			出現パターン	説明
		┆ <interceptor-class>	1 回	インターセプタクラスの名称。*4
		┆ <around-invoke>	0 回以上	インターセプタの aroundinvoke メソッドの定義。*4
		┆ ┆ <class>	0 または 1 回	インターセプタの aroundinvoke メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。*4
		┆ ┆ ┆ <method-name>	1 回	インターセプタの aroundinvoke メソッドの名称。*4
		┆ <post-construct>	0 回以上	インターセプタの post-construct メソッドの定義。*4
		┆ ┆ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの post-construct メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。*4
		┆ ┆ ┆ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの post-construct メソッド名を表示。*4
		┆ <pre-destroy>	0 回以上	インターセプタの pre-destroy メソッドの定義。*4
		┆ ┆ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの pre-destroy メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。*4
		┆ ┆ ┆ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの pre-destroy メソッド名を表示。*4
		┆ <post-activate>	0 回以上	インターセプタの post-activate メソッドの定義。*4
		┆ ┆ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの post-activate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。*4
		┆ ┆ ┆ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの post-activate メソッド名を表示。*4
		┆ ┆ ┆ <pre-passivate>	0 回以上	インターセプタの pre-passivate メソッドの定義。*4
		┆ ┆ ┆ ┆ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの pre-passivate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。*4
		┆ ┆ ┆ ┆ ┆ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの pre-passivate メソッド名を表示。*4
		┆ <interceptor-binding>	0 回以上	クラスレベルインターセプタおよびメソッドレベルインターセプタに関する設定を表示します。cjsetresprop では無視されます。*5 <ejb-name>にワイルドカード (*) を設定した <interceptor-binding>の指定が複数ある場合、ワーニングメッセージ (KDJE37604-W) を出力し、先に設定された <interceptor-binding>の <interceptor-class>の値が有効となります。

タグ名		出現パターン	説明
	<description>*1	0 回以上	interceptor-binding の説明を表示します。デフォルトインターセプタに関する定義の場合 interceptor-binding の説明を記述します。
	<ejb-name>	1 回	ワイルドカード(*), または Enterprise Bean の <ejb-name>を表示。デフォルトインターセプタに関する定義の場合、ワイルドカード(*)を記述。
	<interceptor-class>	0 回以上	インターセプタのクラス名を表示。デフォルトインターセプタに関する定義の場合。インターセプタクラスのクラス名を記述。 <interceptor-order>を指定した場合は不要です。
	<interceptor-order>	0 回以上	インターセプタの順序性およびレベルについての設定を表示。 <interceptor-class>を指定した場合は不要です。*4
	<interceptor-class>	1 回以上	インターセプタのクラス名を表示。*4
	<exclude-default-interceptors>	0 または 1 回	デフォルトインターセプタを除外するかどうかを表示。除外する場合 true, 除外しない場合 false。デフォルトは false。*4
	<exclude-class-interceptors>	0 または 1 回	クラスインターセプタを除外するかどうかを表示。除外する場合 true, 除外しない場合 false。デフォルトは false。*4
	<named-method>	0 または 1 回	メソッドの定義を表示。
	<method-name>	1 回	メソッド名を表示。*4
	<method-params>	0 または 1 回	メソッドの引数を表示。*4
	<method-param>	0 回以上	メソッドの引数を表示。*4
	<application-exception>	0 回以上	アプリケーション例外に関する設定を表示。*4
	<exception-class>	1 回	クライアントに通知する例外クラス名を表示。*4
	<rollback>	0 または 1 回	指定した例外が発生したとき、クライアントに通知する前にロールバックを行うかどうかを表示。ロールバックを行う場合 true, ロールバックを行わない場合 false。デフォルトは false。*4
	<inherited>	0 または 1 回	指定したクラスのサブクラスをアプリケーション例外として扱うかどうかの指定。 例外として扱う場合 true, 例外として扱わない場合 false。デフォルトは true。*4
	<ejb-client-jar>	0 または 1 回	クライアント JAR ファイル名を表示。

タグ名				出現パターン	説明
-	-	-	-	-	-

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en (英語)」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

EJB2.0 以前の EJB に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

アノテーションの設定値の場合は、値の変更をしないでください。

注※4

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしないでください。

注※5

デフォルトインターセプタに関する定義 (<ejb-name>タグの指定がワイルドカード (*) の場合) にだけ追加、変更できます。

3.3.2 DD との対応

EJB-JAR 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

(1) EJB2.0 の場合

EJB-JAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-eb-jar-property>	1 回	<ejb-jar>	1 回
┆ <description>	0 または 1 回	┆ <description>	0 または 1 回
┆ <display-name>	0 または 1 回	┆ <display-name>	0 または 1 回
┆ <icon>	0 または 1 回	-	-
┆ <small-icon>	0 または 1 回	┆ <small-icon>	0 または 1 回
┆ <large-icon>	0 または 1 回	┆ <large-icon>	0 または 1 回
-	-	┆ <enterprise-beans>	1 回
-	-	(省略)	-
┆ <relationships>	0 または 1 回	┆ <relationships>	0 または 1 回
┆ <description>	0 または 1 回	┆ <description>	0 または 1 回

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

EJB-JAR 属性ファイル			Deployment Descriptor							
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン					
	└	<ejb-relation>	1 回以上		└ <ejb-relation>	1 回以上				
		└ <description>	0 または 1 回			└ <description>	0 または 1 回			
		└ <ejb-relation-name>	0 または 1 回			└ <ejb-relation-name>	0 または 1 回			
		└ <ejb1>	1 回			└ <ejb-relationship-role>	1 回			
			└ <description>	0 または 1 回				└ <description>	0 または 1 回	
			└ <ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回				└ <ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回	
			└ <multiplicity>	1 回				└ <multiplicity>	1 回	
			└ <cascade-delete>	0 または 1 回				└ <cascade-delete>	0 または 1 回	
			—	—				└ <relationship-role-source>	1 回	
			—	—					└ <description>	0 回以上
			└ <ejb-name>	1 回				└ <ejb-name>	1 回	
			—	—				└ <cmr-field>	0 または 1 回	
			—	—					└ <description>	0 回以上
			└ <cmr-field-name>	1 回				└ <cmr-field-name>	1 回	
			└ <cmr-field-type>	0 または 1 回				└ <cmr-field-type>	0 または 1 回	
		└ <ejb2>	1 回			└ <ejb-relationship-role>	1 回			
			└ <description>	0 または 1 回				└ <description>	0 または 1 回	
			└ <ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回				└ <ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回	
			└ <multiplicity>	1 回				└ <multiplicity>	1 回	
			└ <cascade-delete>	0 または 1 回				└ <cascade-delete>	0 または 1 回	
			—	—				└ <relationship-role-source>	1 回	
			—	—					└ <description>	0 回以上
			└ <ejb-name>	1 回				└ <ejb-name>	1 回	

EJB-JAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
		-	-			└ <cmr-field>	0 または 1 回
		-	-			┐ <description>	0 回以上
		┐ <cmr-field-name>	1 回			┐ <cmr-field-name>	1 回
		└ <cmr-field-type>	0 または 1 回			└ <cmr-field-type>	0 または 1 回
		-	-			┐ <assembly-descriptor>	0 または 1 回
		┐ <security-role>	0 回以上			┐ <security-role>	0 回以上
		┐ <description>	0 回以上			┐ <description>	0 回以上
		┐ <role-name>	1 回			└ <role-name>	1 回
		└ <linked-to>	0 または 1 回			-	-
		-	-			(省略)	-
		└ <ejb-client-jar>	0 または 1 回			└ <ejb-client-jar>	0 または 1 回
-	-	-	-	-	-	-	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略) : タグを省略しています。

(2) EJB2.1 の場合

EJB-JAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-ejb-jar-property>	1 回	<ejb-jar>	1 回
┐ <description>	0 回以上	┐ <description>	0 回以上
┐ <display-name>	1 回以上	┐ <display-name>	0 回以上
┐ <icon>	0 回以上	┐ <icon>	0 回以上
┐ <small-icon>	0 または 1 回	┐ <small-icon>	0 または 1 回
└ <large-icon>	0 または 1 回	└ <large-icon>	0 または 1 回

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

EJB-JAR 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン	
	-	-		<enterprise-beans>	1 回
	-	-		(省略)	-
	<relationships>	0 または 1 回		<relationships>	0 または 1 回
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<ejb-relation>	1 回以上		<ejb-relation>	1 回以上
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<ejb-relation-name>	0 または 1 回		<ejb-relation-name>	0 または 1 回
	<ejb1>	1 回		<ejb-relationship-role>	1 回
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回		<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回
	<multiplicity>	1 回		<multiplicity>	1 回
	<cascade-delete>	0 または 1 回		<cascade-delete>	0 または 1 回
	-	-		<relationship-role-source>	1 回
	-	-		<description>	0 回以上
	<ejb-name>	1 回		<ejb-name>	1 回
	-	-		<cmr-field>	0 または 1 回
	-	-		<description>	0 回以上
	<cmr-field-name>	1 回		<cmr-field-name>	1 回
	<cmr-field-type>	0 または 1 回		<cmr-field-type>	0 または 1 回
	<ejb2>	1 回		<ejb-relationship-role>	1 回
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回		<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回
	<multiplicity>	1 回		<multiplicity>	1 回
	<cascade-delete>	0 または 1 回		<cascade-delete>	0 または 1 回

EJB-JAR 属性ファイル				Deployment Descriptor				
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン		
			-	-			┌ <relationship-role-source>	1 回
			-	-			┌ <description>	0 回以上
		┌	<ejb-name>	1 回			┌ <ejb-name>	1 回
			-	-			┌ <cmr-field>	0 または 1 回
			-	-			┌ <description>	0 回以上
		┌	<cmr-field-name>	1 回			┌ <cmr-field-name>	1 回
		┌	<cmr-field-type>	0 または 1 回			┌ <cmr-field-type>	0 または 1 回
			-	-			┌ <assembly-descriptor>	0 または 1 回
		┌	<security-role>	0 回以上			┌ <security-role>	0 回以上
		┌	<description>	0 回以上			┌ <description>	0 回以上
		┌	<role-name>	1 回			┌ <role-name>	1 回
		┌	<linked-to>	0 または 1 回			-	-
			-	-			(省略)	-
		┌	<ejb-client-jar>	0 または 1 回			┌ <ejb-client-jar>	0 または 1 回
-	-	-	-	-	-	-	-	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略) : タグを省略しています。

(3) EJB3.0 の場合

EJB-JAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-ejb-jar-property>	1 回	<ejb-jar>	1 回
┌ <description>	0 回以上		-
┌ <display-name>	1 回以上	┌ <display-name>	-
┌ <icon>	0 回以上		-
┌ <small-icon>	0 または 1 回		-

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

EJB-JAR 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
	└	<large-icon>	0 または 1 回		—
		—	—	┌	<enterprise-beans>
		—	—		(省略)
┌		<interceptors>	0 または 1 回		—
	┌	<description>	0 回以上		—
	└	<interceptor>	1 回以上		—
	┌	<description>	0 回以上		—
	┌	<interceptor-class>	1 回		—
	┌	<around-invoke>	0 回以上		—
		┌	<class>	0 または 1 回	
		└	<method-name>	1 回	
	┌	<post-construct>	0 回以上		—
		┌	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	
		└	<lifecycle-callback-method>	1 回	
	┌	<pre-destroy>	0 回以上		—
		┌	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	
		└	<lifecycle-callback-method>	1 回	
	┌	<post-activate>	0 回以上		—
		┌	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	
		└	<lifecycle-callback-method>	1 回	
	└	<pre-passivate>	0 回以上		—
		┌	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	
		└	<lifecycle-callback-method>	1 回	
		—	—	┌	<assembly-descriptor>
┌		<interceptor-binding>	0 回以上		┌
	┌	<description>	0 回以上		
	┌	<ejb-name>	1 回		
	┌	<interceptor-class>*	0 回以上		
				└	<interceptor-class>*

EJB-JAR 属性ファイル				Deployment Descriptor					
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン				
	┆	<interceptor-order>*	1 回		┆	<interceptor-order>	1 回		
		┆	<interceptor-class>	1 回以上			┆	<interceptor-class>	1 回以上
	┆	<exclude-default-interceptors>	0 または 1 回		┆	<exclude-default-interceptors>	0 または 1 回		
	┆	<exclude-class-interceptors>	0 または 1 回		┆	<exclude-class-interceptors>	0 または 1 回		
	┆	<named-method>	0 または 1 回		┆	<named-method>	0 または 1 回		
	┆	┆	<method-name>	1 回		┆	<method-name>	1 回	
	┆	┆	<method-params>	0 または 1 回		┆	<method-params>	0 または 1 回	
	┆	┆	<method-param>	0 回以上		┆	<method-param>	0 回以上	
┆		<application-exception>	0 回以上	┆		<application-exception>	0 回以上		
	┆	<exception-class>	1 回		┆	<exception-class>	1 回		
	┆	<rollback>	0 または 1 回		┆	<rollback>	0 または 1 回		
		—	—			(省略)	—		
┆		<ejb-client-jar>	0 または 1 回	┆		<ejb-client-jar>	0 または 1 回		
—	—	—	—	—	—	—	—		

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※

<interceptor-class>と<interceptor-order>のどちらか一つを指定します。

(4) EJB3.1 の場合

EJB-JAR 属性ファイル			Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン	
<hitachi-ebj-jar-property>		1 回	<ejb-jar>		1 回	
┆	<description>	0 回以上		—	—	
┆	<display-name>	1 回以上	┆	<display-name>	—	
┆	<icon>	0 回以上		—	—	
	┆	<small-icon>	0 または 1 回		—	—
	┆	<large-icon>	0 または 1 回		—	—
	—	—	┆	<enterprise-beans>	1 回	
	—	—		(省略)	—	

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

EJB-JAR 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
	<interceptors>	0 または 1 回		-	-
		<description>		-	-
		<interceptor>		-	-
		<description>		-	-
		<interceptor-class>		-	-
		<around-invoke>		-	-
				<class>	0 または 1 回
				<method-name>	1 回
		<post-construct>		-	-
				<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回
				<lifecycle-callback-method>	1 回
		<pre-destroy>		-	-
				<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回
				<lifecycle-callback-method>	1 回
		<post-activate>		-	-
				<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回
				<lifecycle-callback-method>	1 回
		<pre-passivate>		-	-
				<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回
				<lifecycle-callback-method>	1 回
	-	-		<assembly-descriptor>	0 または 1 回
	<interceptor-binding>	0 回以上			<interceptor-binding>
		<description>			<description>
		<ejb-name>			<ejb-name>
		<interceptor-class>*			<interceptor-class>*
		<interceptor-order>*			<interceptor-order>
					<interceptor-class>

EJB-JAR 属性ファイル			Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン	
	┌	<exclude-default-interceptors>	0 または 1 回		┌ <exclude-default-interceptors>	0 または 1 回
	┌	<exclude-class-interceptors>	0 または 1 回		┌ <exclude-class-interceptors>	0 または 1 回
	└	<named-method>	0 または 1 回		└ <named-method>	0 または 1 回
	┌	<method-name>	1 回		┌ <method-name>	1 回
	└	<method-params>	0 または 1 回		└ <method-params>	0 または 1 回
	└	<method-param>	0 回以上		└ <method-param>	0 回以上
┌		<application-exception>	0 回以上	┌	<application-exception>	0 回以上
	┌	<exception-class>	1 回		┌ <exception-class>	1 回
	┌	<rollback>	0 または 1 回		┌ <rollback>	0 または 1 回
	└	<inherited>	0 または 1 回		└ <inherited>	0 または 1 回
		—	—		(省略)	—
└		<ejb-client-jar>	0 または 1 回	└	<ejb-client-jar>	0 または 1 回
-	-	-	-	-	-	-

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※

<interceptor-class>と<interceptor-order>のどちらか一つを指定します。

3.3.3 cosminexus.xml との対応

EJB-JAR 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

EJB-JAR 属性ファイル			cosminexus.xml			
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン	
	└	—	└	<ejb-jar>	0 回以上	
	└	—	┌	<module-name>*1	1 回	
┌		<security-role>	0 回以上	└	<security-role>	0 回以上
	┌	<description>	0 回以上		—	—
	┌	<role-name>	1 回	┌	<role-name>	1 回
	└	<linked-to>	0 または 1 回	└	<linked-to>*2	1 回
┌		<interceptor-binding>	0 回以上		—	—

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

EJB-JAR 属性ファイル			cosminexus.xml			
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン	
	┌	<description>	-		-	
	┌	<ejb-name>	-		-	
	└	<interceptor-class>	-		-	
		(省略)	-		-	
-	-	-	-	-	-	

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※1

application.xml の <application>-<module>-<ejb> に対応し、属性ファイルには存在しない cosminexus.xml 独自のタグとなります。EJB-JAR を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml は、カスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

3.4 Session Bean 属性ファイル

Session Bean 属性ファイルは、Session Bean の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.4.1 Session Bean 属性ファイルの指定内容

Session Bean 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-session-bean-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Session Bean Property 9.0//EN"
'file:///<Application Server のインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-session-bean-
property_9_0.dtd'>
```

Session Bean 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。

なお、設定先の EJB-JAR が DD (ejb-jar.xml) を保持していない場合、Session Bean 属性ファイルのタグは変更できません。また、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名の欄にあるマニュアルの参照先には、そのタグの関連情報があります。マニュアル名に「アプリケーションサーバ」と記載されたマニュアルについては、名称を省略しています。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-session-bean-property>	1 回	ルートタグ。
└ <description>* ¹	0 回以上* ²	Session Bean の説明。* ⁴ , * ⁸
└ <display-name>* ¹	1 回以上* ²	Session Bean の表示名。* ⁴ xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 指定できる文字の制限はありません。 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合は、取り除かれて設定されます。
└ <icon>* ¹	0 回以上* ²	GUI ツール上に表示される Session Bean のアイコンの定義。* ⁴ , * ⁸
└ └ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。* ⁴ , * ⁸
└ └ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。* ⁴ , * ⁸
└ <mapped-name>	0 または 1 回	@Stateless, @Stateful, または@Singleton の mappedName 属性に設定されている Enterprise Bean の別名。 <optional-name>タグまたは<local-optional-name>タグで別名が設定されている場合は、<optional-name>タグまたは<local-optional-name>タグに設定されている値が優先されます。 <optional-name>タグまたは<local-optional-name>タグに別名が設定されていない場合、デフォルトの別名として使用されます。* ³ , * ⁸

タグ名	出現パターン	説明
┆ <business-local>	0 回以上	ローカルビジネスインタフェースを指定。※3, ※4
┆ <business-remote>	0 回以上	リモートビジネスインタフェースを指定。※3, ※4, ※8
┆ <session-type> 	1 回	Session Bean の種別。※3, ※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 • Stateful • Stateless • Singleton
┆ <around-invoke>	0 回以上	around-invoke メソッドの定義。※3, ※4, ※8
┆ <class> 	0 または 1 回	aroundinvoke メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※3, ※4, ※8
┆ <method-name>	1 回	around-invoke メソッドの名称。※3, ※4, ※8
┆ <post-construct>	0 回以上	post-construct メソッドの設定。※3, ※4, ※8
┆ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	post-construct メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※3, ※4, ※8
┆ <lifecycle-callback-method>	1 回	post-construct メソッド名を表示。※3, ※4, ※8
┆ <pre-destroy>	0 回以上	pre-destroy メソッドの設定。※3, ※4, ※8
┆ <lifecycle-callback-class> 	0 または 1 回	pre-destroy メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※3, ※4
┆ <lifecycle-callback-method>	1 回	pre-destroy メソッド名を表示。※3, ※4, ※8
┆ <post-activate> 	0 回以上	post-activate メソッドの設定。※3, ※4, ※8 session-type が Stateful の場合だけ表示されます。
┆ <lifecycle-callback-class> 	0 または 1 回	post-activate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※3, ※4, ※8
┆ <lifecycle-callback-method>	1 回	post-activate メソッド名を表示。※3, ※4, ※8
┆ <pre-passivate> 	0 回以上	pre-passivate メソッドの設定。※3, ※4, ※8 session-type が Stateful の場合だけ表示されます。
┆ <lifecycle-callback-class> 	0 または 1 回	pre-passivate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※3, ※4, ※8
┆ <lifecycle-callback-method>	1 回	pre-passivate メソッド名を表示。※3, ※4, ※8
┆ <timeout-method> 	0 または 1 回	timeout メソッドの設定。※3, ※4, ※8 session-type が Stateless または Singleton の場合だけ表示されます。
┆ <method-name>	1 回	timeout メソッドの名称。※3, ※4, ※8
┆ <method-params>	0 または 1 回	timeout メソッドの引数。※3, ※4, ※8

タグ名	出現パターン	説明
<method-param>	0 回以上	timeout メソッドの引数。※3, ※4, ※8
<init-method>	0 回以上	init メソッドの設定。※3, ※4, ※8 session-type が Stateful の場合だけ表示されます。
<create-method>	1 回	create メソッドの設定。※3, ※4, ※8
<method-name>	1 回	create メソッドの名称。※3, ※4, ※8
<method-params>	0 または 1 回	create メソッドの引数。※3, ※4, ※8
<method-param>	0 回以上	create メソッドの引数。※3, ※4, ※8
<bean-method>	1 回	bean メソッドの設定。※3, ※4, ※8
<method-name>	1 回	bean メソッドの名称。※3, ※4, ※8
<method-params>	0 または 1 回	bean メソッドの引数。※3, ※4, ※8
<method-param>	0 回以上	bean メソッドの引数。※3, ※4, ※8
<remove-method>	0 回以上	remove メソッドの設定。※3, ※4, ※8 session-type が Stateful の場合だけ表示されます。
<bean-method>	1 回	bean メソッドの設定。※3, ※4, ※8
<method-name>	1 回	bean メソッドの名称。※3, ※4, ※8
<method-params>	0 または 1 回	bean メソッドの引数。※3, ※4, ※8
<method-param>	0 回以上	bean メソッドの引数。※3, ※4, ※8
<retain-if-exception>	1 回	アプリケーション例外で異常終了した場合に除去されるかどうかの指定。※3, ※4, ※8 表示される文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (除去されない) • false (除去される)
<transaction-type>	1 回	トランザクション管理種別。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Bean • Container
<env-entry>	0 回以上	環境エントリについての定義。※4, ※8
<description>*1	0 回以上*2	env-entry の説明。※4, ※8
<env-entry-name>	1 回	環境エントリの名称。※4, ※8
<env-entry-type>	1 回	環境エントリのデータ型。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Boolean • java.lang.Byte

タグ名	出現パターン	説明
<env-entry-type>	1 回	<ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Short • java.lang.Integer • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Double • java.lang.String • java.lang.Character
<env-entry-value>	1 回	環境エントリの値。*4, *8 env-entry-type で指定した型に適合した値を指定します。env-entry-type に java.lang.String 以外を指定した場合、空文字は指定できません。
<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*3, *4, *8
<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラスの名称。*3, *4, *8 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。*3, *4, *8
<ejb-ref>	0 回以上	リモートインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。*4, *8
<description>*1	0 回以上*2	ejb-ref の説明。*4, *8
<ejb-ref-name>	1 回	ejb-ref の名称。*4, *8
<ejb-ref-type>	1 回	リンク先 EJB の種別。*4, *8 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Entity • Session
<home>	1 回	リンク先のホームインタフェースクラスの名称。*4, *8
<remote>	1 回	リンク先のコンポーネントインタフェースクラスの名称。*4, *8
<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。*4, *8 ネーミングの切り替え機能でリンク先を設定する場合、次の形式で指定します。 corbaname::<名前空間のホスト名>:<名前空間のポート番号>#<EJBHomeオブジェクトリファレンスのJNDI名>
<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*3, *4, *8
<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラスの名称。*3, *4, *8 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。

タグ名	出現パターン	説明
<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。*3, *4, *8
<ejb-local-ref>	0 回以上	EJB 参照情報の設定。*4, *8
<description>*1	0 回以上*2	ejb-local-ref の説明。*4, *8
<ejb-ref-name>	1 回	ejb-local-ref の名称。*4, *8
<ejb-ref-type>	1 回	リンク先 EJB の種別。*4, *8 指定できる文字列を次に示します。 • Session • Entity
<local-home>	1 回	リンク先のホームインタフェースクラスの名称。*4, *8
<local>	1 回	リンク先のコンポーネントインタフェースクラスの名称。*4, *8
<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。*4, *8
<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*3, *4, *8
<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラスの名称。*3, *4, *8 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。*3, *4, *8
<security-role-ref>	0 回以上	セキュリティロールについての定義。*4
<description>*1	0 回以上*2	security-role-ref の説明。*4, *8
<role-name>	1 回	security-role-ref の名称。*4, *8
<role-link>	0 または 1 回	リンク先のセキュリティロール名。*4, *8
<security-identity>	0 または 1 回	セキュリティアイデンティティについての定義。*4, *8
<description>*1	0 回以上*2	security-identity の説明。*4, *8
<use-caller-identity>	1 回	実行時 security-identity を使用するかどうかの指定。 *4, *8 <use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。なお、このタグは値を持ちません。
<run-as>	1 回	実行時 security-identity の定義情報。*4, *8 <use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。
<description>*1	0 回以上*2	実行時 security-identity の説明。*4, *8

タグ名		出現パターン	説明
	<description>*1	0 回以上*2	<run-as>を指定した場合だけ活性状態になります。
	<role-name>	1 回	実行時 security-identity の role の名称。*4, *8 <run-as>を指定した場合だけ活性状態になります。
	<user-name>	1 回	プリンシパル名。*5
	<resource-ref>	0 回以上	リソース参照についての定義。*4, *8
	<description>*1	0 回以上*2	resource-ref の説明。*4, *8
	<res-ref-name>	1 回	resource-ref の名称。*4, *8
	<res-type>	1 回	リソース種別。*4, *8 指定可能な文字列は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> • javax.mail.Session • javax.sql.DataSource • javax.jms.QueueConnectionFactory • javax.jms.ConnectionFactory • javax.resource.cci.ConnectionFactory • org.omg.CORBA_2_3.ORB (DD で定義しなくても lookup できるリソース) • javax.jms.TopicConnectionFactory 参照先が Connector1.5 のリソースアダプタの場合、参照先リソースアダプタのコネクション定義識別子 (<connectionfactory-interface>タグの設定値)を指定します。
	<res-auth>	1 回	認証方式。*4, *8 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Application • Container
	<res-sharing-scope>	0 または 1 回	参照したリソースを共有するかどうかの指定。*4, *8 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Shareable • Unshareable
	<mapped-name>	0 または 1 回	@Resource の mappedName 属性に設定されている、対応するリソースアダプタ表示名またはメール表示名。 *3, *4, *8 <linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*3, *4, *8
	<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラスの名称。*3, *4, *8 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。

タグ名	出現パターン	説明
<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※3, ※4, ※8
<linked-to>	0 または 1 回	<p>対応するリソースアダプタ表示名, データソース表示名, またはメール表示名。※5</p> <p>リソースアダプタ表示名の指定方法は, リソースアダプタのバージョンによって異なります。</p> <p>Connector1.0 以前 <リソースアダプタの表示名></p> <p>Connector1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子> <コネクション定義識別子>とは, ra.xml の <connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。</p> <p>クラスコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。 cjsetresprop では無視されます。</p>
<resource-env-ref>	0 回以上	リソース環境変数についての定義。※4, ※8
<description>*1	0 回以上※2	resource-env-ref の説明。※4, ※8
<resource-env-ref-name>	1 回	resource-env-ref の名称。※4, ※8
<resource-env-ref-type>	1 回	<p>リソース環境変数の値のクラスタイプを指定します。※4, ※8</p> <p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • javax.jms.Queue • javax.jms.Topic • javax.transaction.UserTransaction • javax.ejb.TimerService • javax.ejb.EJBContext • javax.ejb.SessionContext • JavaBeans リソースのクラスの名称 <p>javax.transaction.UserTransaction, javax.ejb.TimerService, javax.ejb.EJBContext, javax.ejb.SessionContext の値は, アノテーションを使用した場合にだけ出力されます。ただし, この値を設定することはできません。</p> <p><linked-adminobject>を指定した場合は, 任意のクラス名が表示されます。</p>
<mapped-name>	0 または 1 回	<p><resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合, @Resource の mappedName 属性に設定されている, 対応するキューを次の形式で表示します。</p> <p>"<リソースアダプタの表示名>#<Queue 名称>"</p> <p><linked-Queue>タグと同時に指定した場合は, <linked-Queue>タグが有効となります。</p>

タグ名	出現パターン	説明
<mapped-name>	0 または 1 回	<resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合、@Resource の mappedName 属性に設定されている、対応する JavaBeans リソースの表示名を表示します。<linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。*3, *4, *8
<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*3, *4, *8
<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラスの名称。*3, *4, *8 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。*3, *4, *8
<linked-queue>	0 または 1 回	queue 名称。*5 cjsresprop では無視されます。 <resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合だけ有効となります。
<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。*5 Connector1.5 のリソースアダプタは指定できません。
<queue>	1 回	キューの表示名を指定します。*5
<linked-adminobject>	0 または 1 回	管理対象オブジェクト。 cjsresprop では無視されます。
<resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。
<adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。 英数字 (0~9, A~Z, a~z)、および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 アンダースコア (_) が連続した名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。

タグ名	出現パターン	説明
<runtime>*5	0 または 1 回	<p>cjsetappprop で使用する場合は必須</p> <p>cjsetresprop で使用する場合は無視されます。</p>
<lookup-name>	1 回	<p>クライアントから EJB をルックアップする場合に使う名前。*5</p> <p>HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名称>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。</p> <p>ルックアップ名には、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。</p> <p>スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~)</p> <p>ただし、次に示す名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 <p>文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中に改行がある場合はエラーとなります。</p> <p>指定可能な文字数は 1~255 文字です。0 文字の場合は、タグが省略されたものと見なされます。</p>
<optional-name>	0 または 1 回	<p>リモートインタフェースの別称。*5</p> <p>設定値は、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。</p> <p>スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~)</p> <p>ただし、次の名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 予約語の "HITACHI_EJB" (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前

タグ名		出現パターン	説明
	<optional-name>	0 または 1 回	<ul style="list-style-type: none"> スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前 スラッシュ (/) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。 指定可能な文字数は 1~255 文字です。
	<local-optional-name>	0 または 1 回	ローカルインタフェースの別名。 設定値に制限はありません。 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。
	<maximum-sessions>	1 回	セッションの最大数。*5 0 (無制限) または $1 \leq \text{maximum-sessions} \leq 2147483647$ Stateless Session Bean の場合、この設定値は無効です。
	<stateless>*6	どちらか 1 回、またはどちらもなし	session-type が Stateless の場合の指定。*5 <stateless>と<stateful>のどちらか一つを指定するか、またはどちらも指定しません。
	<pooled-instance>	1 回	プール内のインスタンスについての定義。*5
	<minimum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」 - 「2.9.1」	1 回	プール内のインスタンスの最小数。*5 $0 \text{ または } 1 \leq \text{minimum} \leq \text{maximum}$ maximum に上限を指定した場合、minimum にも上限を指定しなければいけません。
	<maximum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」 - 「2.9.1」	1 回	プール内のインスタンスの最大数。*5 $0 \text{ (無制限) または } 1 \leq \text{maximum} \leq \text{maximum-sessions}$ maximum-sessions に上限を指定した場合、maximum にも上限を指定しなければいけません。
	<instance-timeout>	0 または 1 回	インスタンス取得タイムアウト時間を、0~86400 (単位: 秒) で指定します。*5 0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0 です。
	<stateful>*6	どちらか 1 回、またはどちらもなし	session-type が Stateful の場合の指定。*5 <stateless>と<stateful>のどちらか一つを指定するか、またはどちらも指定しません。
	<maximum-active-sessions>	1 回	アクティブセッションの最大数。*5 $0 \text{ (無制限) または } 1 \leq \text{maximum-active-sessions} \leq \text{maximum-sessions}$ maximum-sessions に上限を指定した場合、maximum-active-sessions にも上限を指定しなければいけません。

タグ名	出現パターン	説明
<inactivity-timeout>	1 回	再びアクティブ化するまでに非アクティブ状態に保持しておく時間 (分)。*5 0 (無制限) または $1 \leq \text{inactivity-timeout} \leq 2147483647$
<removal-timeout>	1 回	セッションが削除されるまでに非アクティブ状態に保持しておく時間 (分)。*5 0 (無制限) または $1 \leq \text{removal-timeout} \leq 2147483647$
<enable-scheduling> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	該当する Bean をスケジューリングの対象にするかどうか (スケジューラの Gate として使用するかどうか) の指定。*5 CTM 経由で呼び出される Bean で, stateless の Maximum の値が parallel-count の値より小さい場合エラーとなります。 なお, このタグは構成ソフトウェアに Component Transaction Monitor を含む製品だけ有効です。それ以外の場合に指定するとエラーになります。利用できる製品については, マニュアル「アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説」の「2.2.1 製品と構成ソフトウェアの対応」を参照してください。 また, リモートコンポーネントインタフェースを提供しない EJB (コンポーネントローカルインタフェースまたはビジネスインタフェースで提供) に対しては指定できません。指定した場合は無視されます。
<pass-by-reference>	0 または 1 回	Bean 単位でのデータの参照渡し (pass by reference) を指定します。*5
<scheduling> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	CTM 連携関連の情報。*5 Bean 単位にスケジューラを配置する場合に必要です。
<queue-name> 「機能解説 拡張編」 - 「3.2.5」	1 回	スケジューリングを行う queue 名称。*5 英数字 (0~9, A~Z, a~z) およびアンダースコア () が使用できます。デフォルト値は, ejb 名 (<ejb-name> タグの値) です。
<parallel-count> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	1 回	CTM がアプリケーションを呼び出すために用意するスレッド数を, 1~127 の範囲で指定します。*5 デフォルトは, 1 です。 CTM 経由で呼び出される Bean で, Maximum の値が parallel-count の値より小さい場合エラーとなります。
<queue-length> 「機能解説 拡張編」 - 「3.4」	0 または 1 回	スケジューリングをするキューの長さを, 1~32767 の整数値で指定します。*5 キューを共有する場合, キューを共有するアプリケーション間や Bean 間で設定値が異なるとき, すでに生成されているキューの長さが有効になります。
<front-ejb>	0 または 1 回	フロント EJB (クライアントが直接呼び出す EJB) かどうかを指定します。*5 フロント EJB の場合は true を

タグ名	出現パターン	説明
<front-ejb>	0 または 1 回	指定し、フロント EJB でない場合は false を指定します。デフォルト値は false。
<start-order>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。*5 開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。 0 ≤ start-order ≤ 2147483647
<ejb-method-observation-timeout> 「機能解説 運用／監視／連携編」－「5 章」	0 回以上	EJB のメソッドに仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間を設定する場合に指定します。*5 <ejb-method-observation-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値 (<description>タグを除く) が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE37601-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>の<method-observation-timeout>の値が有効になります。
<method>	1 回以上	— *5
<description>	0 または 1 回	メソッドの説明。*5
<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。*5 次の値が指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。*5、*7 *を指定した場合は、すべてのメソッドを表します。
<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。*5
<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。*5
<method-observation-timeout>	1 回	仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間を、0～86400 (単位：秒) で指定します。*5 0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0。
<ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」－「3.15.8」	0 回以上	EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。*5 <ejb-transaction-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値 (<description>タグを除く) が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE37601-W) が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>の<transaction-timeout>の値が有効になります。

タグ名				出現パターン	説明
			<method>	1 回以上	— ※5
			<description>	0 または 1 回	メソッドの説明。 ※5
			<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。 ※5 次の値が指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
			<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。 ※5, ※7 *を指定した場合は、すべてのメソッドを表します。
			<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。 ※5
			<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。 ※5
			<transaction-timeout>	1 回	トランザクションタイムアウト時間を、0～2147483647（単位：秒）で指定します。 ※5 デフォルト値は 0。0 を指定した場合、またはタグがない場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。
-	-	-	-	-	-

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en（英語）」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

EJB2.0 以前の EJB に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※4

アノテーションの設定値の場合は、値の変更をしてはいけません。

注※5

設定先の Session Bean を含む EJB-JAR が DD (ejb-jar.xml) を保持していない場合でも、変更できます。

注※6

08-70 以前のバージョンの場合、stateless または stateful のどちらかを指定します。

注※7

サーバ管理コマンド用の usrconf.properties ファイルの ejbserver.cui.checkmethod.compatible に「false」を指定している場合にこのタグで指定されたメソッドが存在しないとき、属性の設定でエラーになります。usrconf.properties ファイルの ejbserver.cui.checkmethod.compatible キーについては、マニュアル「アプリケーションサーバリファレンス 定義編(サーバ定義)」の「5.4 usrconf.properties (サーバ管理コマンド用システムプロパティファイル)」を参照してください。

注※8

設定先が EJB3.0 以降の場合、値の変更はできません。

3.4.2 DD との対応

Session Bean 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

Session Bean 属性ファイル		Deployment Descriptor			
タグ名	出現パターン	タグ名		出現パターン	
<hitachi-session-bean-property>	1 回	<ejb-jar>		1 回	
-	-		<description>	0 または 1 回	
-	-		<display-name>	0 または 1 回	
-	-		<icon>	0 回以上	
-	-		<small-icon>	0 または 1 回	
-	-		<large-icon>	0 または 1 回	
-	-		<enterprise-beans>	1 回	
-	-		<session>	1 回以上	
	0 回以上		<description>	0 回以上	
	1 回以上		<display-name>	0 回以上	
	0 回以上		<icon>	0 回以上	
	0 または 1 回		<small-icon>	0 または 1 回	
	0 または 1 回		<large-icon>	0 または 1 回	
-	-		<ejb-name>	1 回	
	0 または 1 回		-	-	
-	-		<home>	0 または 1 回	
-	-		<remote>	0 または 1 回	
	0 回以上		-	-	
	0 回以上		-	-	
-	-		<ejb-class>	1 回	
	1 回		<session-type>	0 または 1 回	
	0 回以上		-	-	
	0 または 1 回		-	-	
	1 回		-	-	
	0 回以上		-	-	
	0 または 1 回		-	-	

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

Session Bean 属性ファイル			Deployment Descriptor					
タグ名		出現パターン	タグ名			出現パターン		
	└	<lifecycle-callback-method>	1 回				-	-
	└	<pre-destroy>	0 回以上				-	-
	└	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回				-	-
	└	<lifecycle-callback-method>	1 回				-	-
	└	<post-activate>	0 回以上				-	-
	└	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回				-	-
	└	<lifecycle-callback-method>	1 回				-	-
	└	<pre-passivate>	0 回以上				-	-
	└	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回				-	-
	└	<lifecycle-callback-method>	1 回				-	-
	└	<timeout-method>	0 または 1 回				-	-
	└	<method-name>	1 回				-	-
	└	<method-params>	0 または 1 回				-	-
	└	<method-param>	0 回以上				-	-
	└	<init-method>	0 回以上				-	-
	└	<create-method>	1 回				-	-
		└ <method-name>	1 回				-	-
		└ <method-params>	0 または 1 回				-	-
		└ <method-param>	0 回以上				-	-
	└	<bean-method>	1 回				-	-
	└	<method-name>	1 回				-	-
	└	<method-params>	0 または 1 回				-	-
	└	<method-param>	0 回以上				-	-
	└	<remove-method>	0 回以上				-	-
	└	<bean-method>	1 回				-	-
		└ <method-name>	1 回				-	-
		└ <method-params>	0 または 1 回				-	-
		└ <method-param>	0 回以上				-	-
	└	<retain-if-exception>	0 または 1 回				-	-
	└	<transaction-type>	1 回			└ <transaction-type>	1 回	1 回

Session Bean 属性ファイル		Deployment Descriptor			
タグ名	出現パターン	タグ名		出現パターン	
┌ <env-entry>	0 回以上			┌ <env-entry>	0 回以上
┌ <description>	0 回以上			┌ <description>	0 回以上
┌ <env-entry-name>	1 回			┌ <env-entry-name>	1 回
┌ <env-entry-type>	1 回			┌ <env-entry-type>	1 回
┌ <env-entry-value>	1 回			└ <env-entry-value>	0 または 1 回
└ <injection-target>	0 回以上			└	└
┌ ┌ <injection-target-class>	1 回			└	└
┌ └ <injection-target-name>	1 回			└	└
┌ <ejb-ref>	0 回以上			┌ <ejb-ref>	0 回以上
┌ <description>	0 回以上			┌ <description>	0 回以上
┌ <ejb-ref-name>	1 回			┌ <ejb-ref-name>	1 回
┌ <ejb-ref-type>	1 回			┌ <ejb-ref-type>	1 回
┌ <home>	1 回			┌ <home>	1 回
┌ <remote>	1 回			┌ <remote>	1 回
┌ <ejb-link>	0 または 1 回			└ <ejb-link>	0 または 1 回
└ <injection-target>	0 回以上			└	└
┌ ┌ <injection-target-class>	1 回			└	└
┌ └ <injection-target-name>	1 回			└	└
┌ <ejb-local-ref>	0 回以上			┌ <ejb-local-ref>	0 回以上
┌ <description>	0 回以上			┌ <description>	0 回以上
┌ <ejb-ref-name>	1 回			┌ <ejb-ref-name>	1 回
┌ <ejb-ref-type>	1 回			┌ <ejb-ref-type>	1 回
┌ <local-home>	1 回			┌ <local-home>	1 回
┌ <local>	1 回			┌ <local>	1 回
┌ <ejb-link>	0 または 1 回			└ <ejb-link>	0 または 1 回
└ <injection-target>	0 回以上			└	└
┌ ┌ <injection-target-class>	1 回			└	└
┌ └ <injection-target-name>	1 回			└	└
┌ <security-role-ref>	0 回以上			┌ <security-role-ref>	0 回以上
┌ <description>	0 回以上			┌ <description>	0 回以上

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

Session Bean 属性ファイル			Deployment Descriptor						
タグ名		出現パターン	タグ名			出現パターン			
	┆	<role-name>	1 回				┆	<role-name>	1 回
	┆	<role-link>	0 または 1 回				┆	<role-link>	0 または 1 回
┆		<security-identity>	0 または 1 回			┆		<security-identity>	0 または 1 回
	┆	<description>	0 回以上				┆	<description>	0 回以上
	┆	<use-caller-identity>	1 回* ¹				┆	<use-caller-identity>	1 回* ¹
	┆	<run-as>	1 回* ¹				┆	<run-as>	1 回* ¹
	┆	<description>	0 回以上				┆	<description>	0 回以上
	┆	<role-name>	1 回				┆	<role-name>	1 回
	┆	<user-name>	1 回					-	-
┆		<resource-ref>	0 回以上			┆		<resource-ref>	0 回以上
	┆	<description>	0 回以上				┆	<description>	0 回以上
	┆	<res-ref-name>	1 回				┆	<res-ref-name>	1 回
	┆	<res-type>	1 回				┆	<res-type>	1 回
	┆	<res-auth>	1 回				┆	<res-auth>	1 回
	┆	<res-sharing-scope>	0 または 1 回				┆	<res-sharing-scope>	0 または 1 回
	┆	<mapped-name>	0 または 1 回					-	-
	┆	<injection-target>	0 回以上					-	-
		┆	<injection-target-class>	1 回					-
		┆	<injection-target-name>	1 回					-
	┆	<linked-to>	0 または 1 回					-	-
┆		<resource-env-ref>	0 回以上			┆		<resource-env-ref>	0 回以上
	┆	<description>	0 回以上				┆	<description>	0 回以上
	┆	<resource-env-ref-name>	1 回				┆	<resource-env-ref-name>	1 回
	┆	<resource-env-ref-type>	1 回				┆	<resource-env-ref-type>	1 回
	┆	<mapped-name>	0 または 1 回					-	-
	┆	<injection-target>	0 回以上					-	-
		┆	<injection-target-class>	1 回					-
		┆	<injection-target-name>	1 回					-
	┆	<linked-queue>	0 または 1 回					-	-
		┆	<resource-adapter>	1 回					-

Session Bean 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン		
		└ <queue>	1 回			–	–
		└ <linked-adminobject>	0 または 1 回			–	–
		└ <resourceadapter-name>	1 回			–	–
		└ <adminobject-name>	1 回			–	–
		(省略)	–			(省略)	–
		–	–	└		<assembly-descriptor>	0 または 1 回
		–	–		└	<security-role>	0 回以上
		–	–			└ <description>	0 回以上
		–	–			└ <role-name>	1 回
	└	<method-permission>	0 回以上		└	<method-permission>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
	└	<role-name>*2	1 回以上			└ <role-name>*2	1 回以上
	└	<unchecked>*2	1 回			└ <unchecked>*2	1 回
	└	<method>	1 回以上			└ <method>	1 回以上
		└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
		–	–			└ <ejb-name>	1 回
		└ <method-intf>	0 または 1 回			└ <method-intf>	0 または 1 回
		└ <method-name>	1 回			└ <method-name>	1 回
		└ <method-params>	0 または 1 回			└ <method-params>	0 または 1 回
		└ <method-param>	0 回以上			└ <method-param>	0 回以上
	└	<container-transaction>	0 回以上		└	<container-transaction>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
	└	<method>	1 回以上			└ <method>	1 回以上
		└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
		–	–			└ <ejb-name>	1 回
		└ <method-intf>	0 または 1 回			└ <method-intf>	0 または 1 回
		└ <method-name>	1 回			└ <method-name>	1 回
		└ <method-params>	0 または 1 回			└ <method-params>	0 または 1 回
		└ <method-param>	0 回以上			└ <method-param>	0 回以上
	└	<trans-attribute>	1 回			└ <trans-attribute>	1 回

Session Bean 属性ファイル			Deployment Descriptor			
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン		
<exclude-list>	0 または 1 回		<exclude-list>	0 または 1 回		
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上		
<method>	1 回以上		<method>	1 回以上		
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上		
-	-		<ejb-name>	1 回		
<method-intf>	0 または 1 回		<method-intf>	0 または 1 回		
<method-name>	1 回		<method-name>	1 回		
<method-params>	0 または 1 回		<method-params>	0 または 1 回		
<method-param>	0 回以上		<method-param>	0 回以上		
-	-		<ejb-client-jar>	0 または 1 回		
<runtime>	0 または 1 回		-	-		
(省略)	-		-	-		
- - - - -	-		- - - - -	-		

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略) : タグを省略しています。

注※1

<use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。

注※2

<role-name>と<unchecked>のどちらか一つを指定します。

3.4.3 cosminexus.xml との対応

Session Bean 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

Session Bean 属性ファイル		cosminexus.xml			
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン		
<hitachi-session-bean-property>	1 回	<session>	0 回以上		
-	-	<ejb-name>*1	1 回		
<security-identity>	0 または 1 回	<security-identity>	0 または 1 回		
<run-as>	1 回	<run-as>	1 回		
<description>	0 回以上	-	-		
<role-name>	1 回	-	-		

Session Bean 属性ファイル			cosminexus.xml			
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン		
	└ <user-name>	1 回			└ <user-name>	1 回
	└ <ejb-ref>	0 回以上			└ -	-
	└ <description>	0 回以上			└ -	-
	└ <ejb-ref-name>	1 回			└ -	-
	└ <ejb-ref-type>	1 回			└ -	-
	└ <home>	1 回			└ -	-
	└ <remote>	1 回			└ -	-
	└ <ejb-link>	0 または 1 回			└ -	-
	└ <resource-ref>	0 回以上			└ <resource-ref>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上			└ -	-
	└ <res-ref-name>	1 回			└ <res-ref-name>	1 回
	└ <res-type>	0 または 1 回			└ -	-
	└ <res-auth>	0 または 1 回			└ -	-
	└ <res-sharing-scope>	0 または 1 回			└ -	-
	└ <linked-to>	0 または 1 回			└ <linked-to>*2	1 回
	└ <resource-env-ref>	0 回以上			└ <resource-env-ref>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上			└ -	-
	└ <resource-env-ref-name>	1 回			└ <resource-env-ref-name>	1 回
	└ <resource-env-ref-type>	0 または 1 回			└ -	-
	└ <linked-queue>	0 または 1 回			└ <linked-queue>*2	1 回
	└ <resource-adapter>*3	1 回			└ <resource-adapter>	1 回
	└ <queue>*3	1 回			└ <queue>	1 回
	└ <linked-adminobject>	0 または 1 回			└ <linked-adminobject>*2	1 回
	└ <resourceadapter-name>*4	1 回			└ <resourceadapter-name>	1 回
	└ <adminobject-name>*4	1 回			└ <adminobject-name>	1 回
	└ <linked-to>	0 または 1 回			└ <linked-to>*2	1 回
	└ <runtime>	0 または 1 回			└ -	-

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

Session Bean 属性ファイル			cosminexus.xml							
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン					
		<lookup-name>	1 回				<lookup-name>*2	0 または 1 回		
		<optional-name>	0 または 1 回				<optional-name>	0 または 1 回		
		<local-optional-name>	0 または 1 回				<local-optional-name>	0 または 1 回		
		<maximum-sessions>	1 回				<maximum-sessions>*2	0 または 1 回		
		<stateless>*5	どちらか 1 回, またはどちらもなし				<stateless>*2	0 または 1 回		
			<pooled-instance>	1 回				<pooled-instance>*2	0 または 1 回	
				<minimum>	1 回				<minimum>*2	0 または 1 回
				<maximum>	1 回				<maximum>*2	0 または 1 回
				<instance-timeout>	0 または 1 回				<instance-timeout>	0 または 1 回
			<stateful>*5	どちらか 1 回, またはどちらもなし				<stateful>*2	0 または 1 回	
				<maximum-active-sessions>	1 回				<maximum-active-sessions>*2	0 または 1 回
				<inactivity-timeout>	1 回				<inactivity-timeout>*2	0 または 1 回
				<removal-timeout>	1 回				<removal-timeout>*2	0 または 1 回
				<enable-scheduling>	0 または 1 回				<enable-scheduling>	0 または 1 回
				<pass-by-reference>	0 または 1 回				<pass-by-reference>	0 または 1 回
				<scheduling>	0 または 1 回				<scheduling>	0 または 1 回
				<queue-name>	1 回				<queue-name>*2	0 または 1 回
				<parallel-count>	1 回				<parallel-count>*2	0 または 1 回
				<queue-length>	0 または 1 回				<queue-length>	0 または 1 回
				<front-ejb>	0 または 1 回				<front-ejb>	0 または 1 回
				<start-order>	0 または 1 回				<start-order>	0 または 1 回
				<ejb-method-observation-timeout>	0 回以上				<ejb-method-observation-timeout>	0 回以上
				<method>	1 回以上				<method>	1 回以上
				<description>	0 または 1 回				-	-
				<method-intf>	0 または 1 回				<method-intf>	0 または 1 回
				<method-name>	1 回				<method-name>	1 回

Session Bean 属性ファイル				cosminexus.xml			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
		└ <method-params>	0 または 1 回			└ <method-params>	0 または 1 回
		└ <method-param>	0 回以上			└ <method-param>	0 回以上
		└ <method-observation-timeout>	1 回			└ <method-observation-timeout>	1 回
		└ <ejb-transaction-timeout>	0 回以上			└ <ejb-transaction-timeout>	0 回以上
		└ <method>	1 回以上			└ <method>	1 回以上
		└ <description>	0 または 1 回			└ -	-
		└ <method-intf>	0 または 1 回			└ <method-intf>	0 または 1 回
		└ <method-name>	1 回			└ <method-name>	1 回
		└ <method-params>	0 または 1 回			└ <method-params>	0 または 1 回
		└ <method-param>	0 回以上			└ <method-param>	0 回以上
		└ <transaction-timeout>	1 回			└ <transaction-timeout>	1 回
-	-	-	-	-	-	-	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※1

ejb-jar.xml の <ejb-jar>-<enterprise-beans>-<session>-<ejb-name> に対応し、属性ファイルには存在しないタグとなります。SessionBean を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

注※3

resource-adapter にはリソースアダプタ表示名、<queue>には QUEUE 名が入ります。

注※4

<resourceadapter-name>にはリソースアダプタ表示名、<adminobject-name>には管理対象オブジェクト名が入ります。

注※5

08-70 以前のバージョンの場合、stateless または stateful のどちらかを指定します。

3.5 Entity Bean 属性ファイル

Entity Bean 属性ファイルは、Entity Bean の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.5.1 Entity Bean 属性ファイルの指定内容

Entity Bean 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-entity-bean-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Entity Bean Property 7.6//EN" 'file:///
<Application Server のインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-entity-bean-property_7_6.dtd'>
```

Entity Bean 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。また、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名の欄にあるマニュアルの参照先には、そのタグの関連情報があります。マニュアル名に「アプリケーションサーバ」と記載されたマニュアルについては、名称を省略しています。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-entity-bean-property>	1 回	ルートタグ。
┆ <description>* ¹	0 回以上* ²	Entity Bean の説明。
┆ <display-name>* ¹ 	1 回以上* ²	Entity Bean の表示名。 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。 該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 指定できる文字の制限はありません。 ただし、文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。
┆ <icon>* ¹ 	0 回以上* ²	GUI ツール上に表示される Entity Bean のアイコンの定義。
┆ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
┆ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
┆ <persistence-type> 	1 回	永続性管理種別。* ³ 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Bean • Container
┆ <prim-key-class> 	1 回	プライマリキークラス。 単一プライマリキー、複合プライマリキーとして指定できるクラス・インタフェース、プリミティブ型を指定できます。 永続性管理種別が「Bean」の場合は、具象クラス、抽象クラスおよびインタフェースが指定できません。

タグ名	出現パターン	説明
<prim-key-class>	1 回	<p>永続性管理種別が「Container」の場合は、具象クラスだけが指定できます。</p> <p>単一プライマリキーとして扱われるクラスを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Boolean • java.lang.Byte • java.lang.Character • java.lang.Short • java.lang.Integer • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Double • java.lang.String <p>複合プライマリキーとして扱われるクラスとインタフェースを次に示します。</p> <p>クラスの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Object • java.io.Serializable を実装し、boolean equals(Object obj)と int hashCode()をオーバーライドしたクラス（親クラスが java.io.Serializable を実装していても可） <p>インタフェースの場合</p> <p>java.io.Serializable を実装し、boolean equals(Object obj)と int hashCode()をオーバーライドしたクラス（親クラスが java.io.Serializable を実装していても可）に実装されるインタフェース。</p>
<reentrant>	1 回	<p>同一トランザクション内での再帰呼び出しの可否。</p> <p>指定できる値を次に示します。</p> <p>true 可</p> <p>false 不可</p>
<abstract-schema-name>	0 または 1 回	<p>EntityBean の抽象スキーマ名。</p> <p>スキーマ名が複数の場合は、それぞれ一意な値にしてください。</p>
<cmp-field>	0 回以上	<p>persistence-type に Container を指定した場合 必須</p> <p>persistence-type に Bean を指定した場合 cjsetappprop, cjsetresprop で無視されます。</p>
<description>*1	0 回以上*2	cmp-field の説明。
<field-name>	1 回	永続性管理をする Bean のフィールド名。

タグ名	出現パターン	説明
<primkey-field>	0 または 1 回	プライマリキーとなる Entity Bean のフィールド名を指定します。 persistence-type に Container が指定されていて、かつ prim-key-class に単一プライマリキーとなるクラスが指定された場合は必須。それ以外の場合は cjssetappprop, cjsresprop で無視されます。 指定できる値は cmp-field の field-name に指定されている文字列。 primkey-field に指定したフィールドのデータ型は prim-key-class の文字列と一致していなければいけません。
<env-entry>	0 回以上	環境エントリについての定義。
<description>* ¹	0 回以上* ²	環境エントリの説明。
<env-entry-name>	1 回	環境エントリの名称。
<env-entry-type>	1 回	環境エントリのデータ型。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Boolean • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Integer • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Double • java.lang.String • java.lang.Character
<env-entry-value>	1 回	環境エントリの値。 env-entry-type で指定した型に適合した値を指定します。 env-entry-type に java.lang.String 以外を指定した場合、空文字の指定はできません。
<ejb-ref>	0 回以上	リモートインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。
<description>* ¹	0 回以上* ²	ejb-ref の説明。
<ejb-ref-name>	1 回	ejb-ref の名称。
<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Entity • Session
<home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Remote Home インタフェース名。

タグ名		出現パターン	説明
	<remote>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Remote Component インタフェース名。
	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。
	<ejb-local-ref>	0 回以上	ローカルインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。
	<description>*1	0 回以上*2	ejb-local-ref の説明。
	<ejb-ref-name>	1 回	ejb-local-ref の名称。
	<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Session • Entity
	<local-home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Home インタフェース名。
	<local>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Component インタフェース名。
	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。
	<security-role-ref>	0 回以上	セキュリティロールについての定義。
	<description>*1	0 回以上*2	security-role-ref の説明。
	<role-name>	1 回	security-role-ref の名称。
	<role-link>	0 または 1 回	リンク先のロール名。
	<security-identity>	0 または 1 回	セキュリティアイデンティティについての定義。
	<description>*1	0 回以上*2	security-identity の説明。
	<use-caller-identity>	1 回	実行時 security-identity を使用するかどうかの指定。なお、このタグは値を持ちません。 <use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。
	<run-as>	1 回	実行時 security-identity の定義情報。 <use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。
	<description>*1	0 回以上*2	実行時 security-identity の説明。
	<role-name>	1 回	実行時 security-identity の role の名称。
	<user-name>	0 または 1 回	プリンシパル名。
	<resource-ref>	0 回以上	リソースへの参照情報についての定義。
	<description>*1	0 回以上*2	resource-ref の説明。
	<res-ref-name>	1 回	resource-ref の名称。

タグ名	出現パターン	説明
<res-type>	1 回	<p>リソース種別。 指定可能な文字列は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> • javax.mail.Session • javax.sql.DataSource • javax.jms.QueueConnectionFactory • javax.jms.ConnectionFactory • javax.resource.cci.ConnectionFactory • org.omg.CORBA_2_3.ORB (DD で定義しなくても lookup できるリソース) • javax.jms.TopicConnectionFactory <p>参照先が Connector1.5 のリソースアダプタの場合、参照先リソースアダプタのコネクション定義識別子(<connectionfactory-interface>タグの設定値)を指定します。</p>
<res-auth>	1 回	<p>認証方式。 指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Application • Container
<res-sharing-scope>	0 または 1 回	<p>参照したリソースを共有するかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Shareable • Unshareable
<mapped-name>	0 または 1 回	<p>対応するリソースアダプタ表示名、またはメール表示名。^{※3} <linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。</p>
<linked-to>	0 または 1 回	<p>対応するリソースアダプタ表示名、データソース表示名、またはメール表示名。 リソースアダプタ表示名の指定方法はリソースアダプタのバージョンによって異なります。</p> <p>Connector1.0 以前 <リソースアダプタの表示名></p> <p>Connector1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子> <コネクション定義識別子>とは、ra.xml の <connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。</p> <p>クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。 cjsesprop では無視されます。</p>
<resource-env-ref>	0 回以上	リソース環境変数への参照情報についての定義。

タグ名		出現パターン	説明
		<description>*1	0 回以上*2 resource-env-ref の説明。
		<resource-env-ref-name>	1 回 resource-env-ref の名称。
		<resource-env-ref-type>	1 回 リソース環境変数の値のクラスタイプ。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • javax.jms.Queue • javax.jms.Topic • JavaBeans リソースのクラス名 <linked-adminobject>を指定した場合は、任意のクラス名が表示されます。
		<mapped-name>	0 または 1 回 <resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合、対応するキュー*3 を次の形式で表示します。 "<リソースアダプタの表示名>#<Queue 名称>" <linked-Queue>タグと同時に指定した場合は、<linked-Queue>タグが有効となります。 <resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合、対応する JavaBeans リソースの表示名を表示します。<linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
		<linked-queue>	0 または 1 回 queue 名称。 cjsesresprop では無視されます。 <resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合だけ有効となります。
		<resource-adapter>	1 回 リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.5 のリソースアダプタは指定できません。
		<queue>	1 回 キューの表示名を指定します。
		<linked-adminobject>	0 または 1 回 管理対象オブジェクト。 cjsesresprop では無視されます。
		<resourceadapter-name>	1 回 リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。
		<adminobject-name>	1 回 管理対象オブジェクト名を指定します。 英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザ

タグ名		出現パターン	説明
		┆ <method-intf>	0 または 1 回 メソッドが属するインタフェース種別。 指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
		┆ <method-name>	1 回 メソッド名。 *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。
		┆ <method-params>	0 または 1 回 method-name が*以外の場合に有効。 method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある、method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、すべての method-name のメソッド。
		┆ <method-param>	0 回以上 パラメータのデータ型。 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します(名称と[]の間, []と[]の間を空けないようにしてください)。多次元配列の場合は[]を続けて指定します()と[]の間を空けないようにしてください)。配列の内部形式名(int[]の場合[], java.lang.String[]の場合[Ljava.lang.String;)は指定できません。 例 • int • short[][] • java.lang.String[]
		┆ <container-transaction>	0 回以上 コンテナのトランザクションについての定義。
		┆ <description>* ¹	0 回以上* ² container-transaction の説明。
		┆ <method>	1 回以上 メソッドについての定義。
		┆ <description>* ¹	0 回以上* ² メソッドの説明。
		┆ <method-intf>	0 または 1 回 メソッドが属するインタフェース種別。 指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。

タグ名			出現パターン	説明
		┌ <method-name>	1 回	メソッド名。 *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。 ※4
		└ <method-params>	0 または 1 回	method-name が*以外の場合に有効。 method-params の指定あり method-intf で指定したインターフェースにある、method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインターフェースにある、すべての method-name のメソッド。
		└ <method-param>	0 回以上	パラメータのデータ型。 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します (名称と[]の間, []の間を空けないようにします)。 多次元配列の場合は[]を続けて指定します ([]と[]の間を空けてはいけません)。 配列の内部形式名 (int[]の場合は[], java.lang.String[]の場合は[Ljava.lang.String;) は指定できません。 例 <ul style="list-style-type: none"> • int • short[][] • java.lang.String[]
	└	<trans-attribute>	1 回	メソッドに割り当てるトランザクション属性。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Mandatory • Never • NotSupported • Required • RequiresNew • Supports
┌		<exclude-list>	0 または 1 回	呼び出しをしないメソッドのリストの定義。
	┌	<description>*1	0 回以上※2	exclude-list の説明。
	└	<method>	1 回以上	呼び出しをしないメソッドの定義。
	┌	<description>*1	0 回以上※2	呼び出しをしないメソッドの説明。
		┌ <method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインターフェース種別。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Home • Remote

タグ名		出現パターン	説明
		<method-intf>	0 または 1 回 <ul style="list-style-type: none"> LocalHome Local 省略時は、すべてを表します。
		<method-name>	0 または 1 回 メソッド名。 *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。
		<method-params>	0 または 1 回 method-name が*以外の場合に有効。 method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある、method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、すべての method-name のメソッド。
		<method-param>	0 回以上 パラメータのデータ型。 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します (名称と [の間, [と] の間を空けないようにしてください)。多次元配列の場合は[]を続けて指定します () と [の間を空けないようにしてください)。配列の内部形式名 (int[] の場合 [I, java.lang.String[] の場合 [Ljava.lang.String;) は指定できません。 例 <ul style="list-style-type: none"> int short[] java.lang.String[]
		<runtime>	0 または 1 回 cjsetappprop で使用する場合 必須 cjsetresprop で使用する場合 無視されます。
		<lookup-name>	1 回 クライアントから EJB をルックアップに使う名前。 HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名称>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。 ルックアップ名には、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレターザン (>),

タグ名	出現パターン	説明
<lookup-name>	1 回	<p>クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ } (}), ストローク (), チルダ (~)</p> <p>ただし、次に示す名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ・ピリオド (.) だけの名前 <p>文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。</p> <p>1 ≤ 文字列長 ≤ 255</p>
<optional-name>	0 または 1 回	<p>リモートインタフェースの別名。</p> <p>設定値には、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。</p> <p>スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] (]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ } (}), ストローク (), チルダ (~)</p> <p>ただし、次の名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予約語の "HITACHI_EJB" (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 ・先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 ・スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前 ・スラッシュ (/) が連続している名前 <p>文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。</p> <p>1 ≤ 文字列長 ≤ 255</p> <p>0 文字の場合は、タグが省略されたものと見なされます。</p>
<local-optional-name>	0 または 1 回	<p>ローカルインタフェースの別名。</p> <p>設定値に制限はありません。</p> <p>文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。</p>
<maximum-instances>	1 回	Enterprise Bean インスタンスの最大数。

タグ名				出現パターン	説明
			<method>	1 回	<method>と<operation>のどちらか一つを指定します。
			└ <method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。* ³ 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
			└ <method-name>	1 回	メソッド名。* ³ *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。
			└ <method-params>	0 または 1 回	method-name が* ³ 以外の場合に有効。* ³ method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある、method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、すべての method-name のメソッド。
			└ <method-param>	0 回以上	パラメータのデータ型。* ³ プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します(名称と[]の間, []の間を空けないようにしてください)。多次元配列の場合は[]を続けて指定します()と[]の間を空けないようにしてください)。配列の内部形式名(int[]の場合[I, java.lang.String[]の場合[Ljava.lang.String;)は指定できません。 例 <ul style="list-style-type: none"> • int • short[][] • java.lang.String[]
			└ <operation>	1 回	CMP のオペレーション名を指定します。* ³ <method>と<operation>のどちらか一つを指定します。
			└ <sql>	1 回	SQL 文を指定します。* ³
			└ <cmp-map>	0 または 1 回	persistence-type が ³ Bean の場合 cjsetapprop で無視されます。 persistence-type が ³ Container の場合 必須

タグ名		出現パターン	説明	
	ト	<datasource-name>	1回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先とするデータソース、または開始されたりソースアダプタの表示名。 リソースアダプタ表示名の指定方法はリソースアダプタのバージョンによって異なります。 Connector 1.0 以前 <リソースアダプタの表示名> Connector 1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>! <コネクション定義識別子> <コネクション定義識別子>とは、ra.xml の<connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。 クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。
	ト	<catalog-name>	0 または 1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先とするデータベースのカタログ名。
	ト	<schema-name>	0 または 1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先とするデータベースのスキーマ名。
	ト	<table-name>	1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先とするデータベースのテーブル名。
	ト	<read-only-access>	1 回	アプリケーションからデータベースへの書き込みの許可/禁止。 次のどちらかを指定します。 true 書き込みを禁止します。 false 書き込みを許可します。
	ト	<available-transaction-isolations>	1 回	指定できるトランザクションについての定義。
		└ <transaction-isolation>	0 回以上	指定できるトランザクション遮断レベル。 ^{※3} 次のどれかが指定されます (cjgetapprop でプロパティファイル生成時にデータベースにアクセスして自動的に生成されます)。 none トランザクションがサポートされていません。 read committed ダーティ読み取りが抑制されます。 read uncommitted ダーティ読み取り, 繰り返し不可の読み取り, およびファントム読み取りが起こります。

タグ名			出現パターン	説明
		└ <transaction-isolation>	0 回以上	repeatable_read デアティー読み取りおよび繰り返し不可の読み取りが抑制されます。 serializable デアティー読み取り、繰り返し不可の読みおよびファントム読み取りが抑制されます。
		└ <transaction-isolation>	0 または 1 回	トランザクション遮断レベル。 available-transaction-isolations にある中から一つを指定します。 省略した場合、デフォルトのトランザクション遮断レベルが使われます (使用するデータベースおよび JDBC ドライバによって異なります)。
		└ <concurrency-protection>	0 または 1 回	データベースに書き込むデータとレコードとの照合方法。 指定できる値を次に示します。 primary-key プライマリキーと照合してデータを更新します。 modified-data プライマリキーと照合して変更対象のデータの値が最後の読み出し操作以降に変更されているかどうかをチェックします。 whole-row プライマリキーと照合して変更対象の値を含む行内のすべての値が最後の読み出し操作以降に変更されているかどうかをチェックします。 read-only-access が true の場合は省略できます。また、値が指定されていても無視します。
		└ <field-impl>	0 回以上	Entity Bean のフィールドとテーブルのカラムとのマッピングについての定義。*3
		└ <field-name>	1 回	Entity Bean のフィールド名。*3
		└ <column-name>	1 回	テーブルのカラム名。
		└ <finder-impl>	0 回以上	ejbFindByPrimaryKey 以外の Finder メソッドの検索条件。*3
		└ <method-name>	1 回	Finder メソッドのメソッド名。*3
		└ <where-clause>	1 回	テーブルの検索条件。指定できる値は"#"以外です。 <ul style="list-style-type: none"> 検索条件に指定できる演算子を次に示します。なお、<や>を値に使うことは XML の構文上許されていないため、テキストエディタで属性ファイルを編集する場合は、表内 () のようにエンティティを使用してください。

タグ名	出現パターン	説明
<p>└ <where-clause></p>	1 回	<p>IS NULL NULL です。</p> <p>IS NOT NULL NULL ではありません。</p> <p>= 等しい (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。</p> <p>!= 等しくない (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。</p> <p>< (&lt;) ~より小さい (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。</p> <p>> (&gt;) ~より大きい (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。</p> <p><= (&lt;=) ~以下 (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。</p> <p>>= (&gt;=) ~以上 (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。</p> <p>LIKE 検索パターンに一致する (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。</p> <p>NOT LIKE 検索パターンに一致しない (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。</p> <p>BETWEEN 範囲に含まれる (Finder メソッドのパラメタが 2 個以上の場合に使用できます)。</p> <p>NOT BETWEEN 範囲に含まれない (Finder メソッドのパラメタが 2 個以上の場合に使用できます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 検索条件の構文を次に示します。 <p>IS NULL, IS NOT NULL 演算子を使用する場合 フィールド名 演算子</p> <p>BETWEEN, NOT BETWEEN 演算子を使用する場合 フィールド名 演算子 ?番号 AND ?番号</p> <p>そのほかの演算子を使用する場合 フィールド名 演算子 ?番号</p> <ul style="list-style-type: none"> 検索条件は, AND または OR で接続できます。 検索条件, AND, OR, フィールド名は大文字小文字を区別します。

タグ名				出現パターン	説明
			└ <where-clause>	1 回	<ul style="list-style-type: none"> • ?番号には、Finder メソッドの引数の場所（左から 1,2,...）を指定します。 <p>例</p> <pre>id &lt;= ?1 AND value IS NOT NULL OR name BETWEEN ?3 AND ?4</pre> <ul style="list-style-type: none"> • 検索条件、AND、OR、フィールド名、?番号の間は 1 文字以上の空白を入れてください。 • 空文字列の場合は、テーブルのすべての行が検索パターンに一致するものと見なします。 <p>DISABLE が指定されている場合はアプリケーションからこのメソッドを使用できません。</p>
			└ <start-order>	0 または 1 回	<p>J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。</p> <p>$0 \leq \text{start-order} \leq 2147483647$</p>
			└ <ejb-method-observation-timeout> 「機能解説 運用/監視/連携編」 - 「5 章」	0 回以上	<p>EJB のメソッドに仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間を設定する場合に指定。</p> <p><ejb-method-observation-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値 (<description>タグを除く) が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE37601-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>の<method-observation-timeout>の値が有効になります。</p>
			└ <method>	1 回以上	—
			└ <description>	0 または 1 回	メソッドの説明。このタグは複数指定できません。
			└ <method-intf>	0 または 1 回	<p>メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。</p> <p>次の値が指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Home • Remote • LocalHome • Local <p>省略時は、すべてを表します。</p>
			└ <method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。*を指定した場合はすべてのメソッドを表します。※4
			└ <method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。
			└ <method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。
			└ <method-observation-timeout>	1 回	仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間を、0~86400（単位：秒）で指定します。0 を指定し

タグ名	出現パターン	説明
<method-observation-timeout>	1 回	た場合は、タイムアウトしません。デフォルト値は 0。
<ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 - 「3.15.8」	0 回以上	EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-transaction-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値 (<description>タグを除く) が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE37601-W) が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>の<transaction-timeout>の値が有効になります。
<method>	1 回以上	メソッドについての定義
<description>	0 または 1 回	メソッドの説明。このタグは複数指定できません。
<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。 次の値が指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。*を指定した場合、すべてのメソッドを表します。*4
<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。
<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。
<transaction-timeout>	1 回	トランザクションタイムアウト時間を、0～2147483647 (単位:秒) で指定します。デフォルト値は 0。0 を指定した場合、またはタグがない場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。
- - - - -	-	-

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en (英語)」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

EJB2.0 以前の EJB に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

cjgetapprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※4

サーバ管理コマンド用の `usrconf.properties` ファイルの `ejbserver.cui.checkmethod.compatible` に「false」を指定している場合にこのタグで指定されたメソッドが存在しないとき、属性の設定でエラーになります。

`usrconf.properties` ファイルの `ejbserver.cui.checkmethod.compatible` キーについては、マニュアル「アプリケーションサーバリファレンス 定義編(サーバ定義)」の「5.4 `usrconf.properties` (サーバ管理コマンド用システムプロパティファイル)」を参照してください。

3.5.2 DD との対応

Entity Bean 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

Entity Bean 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-entity-bean-property>	1 回	<ejb-jar>	1 回
	—		<description>
	—		<display-name>
	—		<icon>
	—		
	—		<small-icon>
	—		
	—		<large-icon>
	—		
	—		<enterprise-beans>
	—		
	—		<session>*1
	—		
	—		(省略)
	—		
	—		<entity>*1
	—		
	<description>		
			<description>
	<display-name>		
			<display-name>
	<icon>		
			<icon>
			<small-icon>
			<large-icon>
	—		<ejb-name>
	—		
	—		<home>
	—		
	—		<remote>
	—		
	—		<ejb-class>
	—		
	<persistence-type>		
			<persistence-type>
	<prim-key-class>		
			<prim-key-class>
	<reentrant>		
			<reentrant>
	<abstract-schema-name>		
			<abstract-schema-name>

Entity Bean 属性ファイル			Deployment Descriptor						
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン				
	┆	<cmp-field>	0 回以上		┆	<cmp-field>	0 回以上		
		┆	<description>	0 回以上			┆	<description>	0 回以上
		┆	<field-name>	1 回			┆	<field-name>	1 回
	┆	<primkey-field>	0 または 1 回		┆	<primkey-field>	0 または 1 回		
	┆	<env-entry>	0 回以上		┆	<env-entry>	0 回以上		
		┆	<description>	0 回以上			┆	<description>	0 回以上
		┆	<env-entry-name>	1 回			┆	<env-entry-name>	1 回
		┆	<env-entry-type>	1 回			┆	<env-entry-type>	1 回
		┆	<env-entry-value>	1 回			┆	<env-entry-value>	0 または 1 回
	┆	<ejb-ref>	0 回以上		┆	<ejb-ref>	0 回以上		
		┆	<description>	0 回以上			┆	<description>	0 回以上
		┆	<ejb-ref-name>	1 回			┆	<ejb-ref-name>	1 回
		┆	<ejb-ref-type>	1 回			┆	<ejb-ref-type>	1 回
		┆	<home>	1 回			┆	<home>	1 回
		┆	<remote>	1 回			┆	<remote>	1 回
		┆	<ejb-link>	0 または 1 回			┆	<ejb-link>	0 または 1 回
	┆	<ejb-local-ref>	0 回以上		┆	<ejb-local-ref>	0 回以上		
		┆	<description>	0 回以上			┆	<description>	0 回以上
		┆	<ejb-ref-name>	1 回			┆	<ejb-ref-name>	1 回
		┆	<ejb-ref-type>	1 回			┆	<ejb-ref-type>	1 回
		┆	<local-home>	1 回			┆	<local-home>	1 回
		┆	<local>	1 回			┆	<local>	1 回
		┆	<ejb-link>	0 または 1 回			┆	<ejb-link>	0 または 1 回
	┆	<security-role-ref>	0 回以上		┆	<security-role-ref>	0 回以上		
		┆	<description>	0 回以上			┆	<description>	0 回以上
		┆	<role-name>	1 回			┆	<role-name>	1 回
		┆	<role-link>	0 または 1 回			┆	<role-link>	0 または 1 回
	┆	<security-identity>	0 または 1 回		┆	<security-identity>	0 または 1 回		
		┆	<description>	0 回以上			┆	<description>	0 回以上
		┆	<use-caller-identity>*2	1 回			┆	<use-caller-identity>*2	1 回

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

Entity Bean 属性ファイル				Deployment Descriptor						
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン			
		└	<run-as>*2	1 回			└	<run-as>*2	1 回	
		┌	<description>	0 回以上			┌	<description>	0 回以上	
		┌	<role-name>	1 回			└	<role-name>	1 回	
		└	<user-name>	0 または 1 回				-	1 回	
	┌		<resource-ref>	0 回以上		┌		<resource-ref>	0 回以上	
		┌	<description>	0 回以上			┌	<description>	0 回以上	
		┌	<res-ref-name>	1 回			┌	<res-ref-name>	1 回	
		┌	<res-type>	1 回			┌	<res-type>	1 回	
		┌	<res-auth>	1 回			┌	<res-auth>	1 回	
		┌	<res-sharing-scope>	0 または 1 回			└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回	
		┌	<mapped-name>	0 または 1 回				-	-	
		└	<linked-to>	0 または 1 回				-	-	
	┌		<resource-env-ref>	0 回以上		┌		<resource-env-ref>	0 回以上	
		┌	<description>	0 回以上			┌	<description>	0 回以上	
		┌	<resource-env-ref-name>	1 回			┌	<resource-env-ref-name>	1 回	
		┌	<resource-env-ref-type>	1 回			└	<resource-env-ref-type>	1 回	
		┌	<mapped-name>	0 または 1 回				-	-	
		┌	<linked-queue>	0 または 1 回				-	-	
			┌	<resource-adapter>	1 回				-	-
			└	<queue>	1 回				-	-
		└	<linked-adminobject>	0 または 1 回				-	-	
		┌	<resource-adapter-name>	1 回				-	-	
		└	<adminobject-name>	1 回				-	-	
	└		<query>	0 回以上		└		<query>	0 回以上	
	┌		<description>	0 または 1 回		┌		<description>	0 または 1 回	
	┌		<query-method>	1 回		┌		<query-method>	1 回	
		┌	<method-name>	1 回			┌	<method-name>	1 回	
		└	<method-params>	1 回			└	<method-params>	1 回	
		└	<method-param>	0 回以上			└	<method-param>	0 回以上	

Entity Bean 属性ファイル			Deployment Descriptor						
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン				
	┆	<result-type-mapping>	0 または 1 回		┆	<result-type-mapping>	0 または 1 回		
	┆	<ejb-ql>	1 回		┆	<ejb-ql>	1 回		
		–	–		┆	<assembly-descriptor>	0 または 1 回		
		–	–		┆	<security-role>	0 回以上		
		–	–			┆	<description>	0 回以上	
		–	–			┆	<role-name>	1 回	
┆		<method-permission>	0 回以上		┆	<method-permission>	0 回以上		
	┆	<description>	0 回以上			┆	<description>	0 回以上	
	┆	<role-name>*3	1 回以上			┆	<role-name>*3	1 回以上	
	┆	<unchecked>*3	1 回			┆	<unchecked>*3	1 回	
	┆	<method>	1 回以上			┆	<method>	1 回以上	
	┆	<description>	0 回以上			┆	<description>	0 回以上	
		–	–			┆	<ejb-name>	1 回	
	┆	<method-intf>	0 または 1 回			┆	<method-intf>	0 または 1 回	
	┆	<method-name>	1 回			┆	<method-name>	1 回	
	┆	<method-params>	0 または 1 回			┆	<method-params>	0 または 1 回	
	┆	<method-param>	0 回以上			┆	<method-param>	0 回以上	
┆		<container-transaction>	0 回以上		┆	<container-transaction>	0 回以上		
	┆	<description>	0 回以上			┆	<description>	0 回以上	
	┆	<method>	1 回以上			┆	<method>	1 回以上	
		<description>	0 回以上				┆	<description>	0 回以上
		–	–				┆	<ejb-name>	1 回
		<method-intf>	0 または 1 回				┆	<method-intf>	0 または 1 回
		<method-name>	1 回				┆	<method-name>	1 回
		<method-params>	0 または 1 回				┆	<method-params>	0 または 1 回
		<method-param>	0 回以上				┆	<method-param>	0 回以上
	┆	<trans-attribute>	1 回			┆	<trans-attribute>	1 回	
┆		<exclude-list>	0 または 1 回		┆	<exclude-list>	0 または 1 回		
	┆	<description>	0 回以上		┆	<description>	0 回以上		
	┆	<method>	1 回以上		┆	<method>	1 回以上		

Entity Bean 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
	┌	<description>	0 回以上		┌	<description>	0 回以上
		-	-		┌	<ejb-name>	1 回
	┌	<method-intf>	0 または 1 回		┌	<method-intf>	0 または 1 回
	┌	<method-name>	1 回		┌	<method-name>	1 回
	└	<method-params>	0 または 1 回		└	<method-params>	0 または 1 回
	└	<method-param>	0 回以上		└	<method-param>	0 回以上
		-	-	└		<ejb-client-jar>	0 または 1 回
└		<runtime>	0 または 1 回			-	-
		(省略)	-			-	-
-	-	-	-	-	-	-	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略) : タグを省略しています。

注※1

<session>と<entity>のどちらか一つを指定します。

注※2

<use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。

注※3

<role-name>と<unchecked>のどちらか一つを指定します。

3.5.3 cosminexus.xml との対応

Entity Bean 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

Entity Bean 属性ファイル			cosminexus.xml					
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン			
<hitachi-entity-bean-property>		1 回		┌	<entity>	0 回以上		
		-			┌	<ejb-name>*1	1 回	
┌		<security-identity>	0 または 1 回		┌	<security-identity>	0 または 1 回	
	└	<run-as>	1 回			└	<run-as>	1 回
	┌	<description>	0 回以上				-	-
	┌	<role-name>	1 回				-	-
	└	<user-name>	0 または 1 回			└	<user-name>*2	1 回

Entity Bean 属性ファイル		cosminexus.xml				
タグ名	出現パターン	タグ名		出現パターン		
┌ <ejb-ref>	0 回以上				—	—
┌ <description>	0 回以上				—	—
┌ <ejb-ref-name>	1 回				—	—
┌ <ejb-ref-type>	1 回				—	—
┌ <home>	1 回				—	—
┌ <remote>	1 回				—	—
┌ <ejb-link>	0 または 1 回				—	—
┌ <resource-ref>	0 回以上			┌ <resource-ref>	0 回以上	0 回以上
┌ <description>	0 回以上				—	—
┌ <res-ref-name>	1 回			┌ <res-ref-name>	1 回	1 回
┌ <res-type>	1 回				—	—
┌ <res-auth>	1 回				—	—
┌ <res-sharing-scope>	0 または 1 回				—	—
┌ <mapped-name>	0 または 1 回				—	—
┌ <linked-to>	0 または 1 回			┌ <linked-to>*2	1 回	1 回
┌ <resource-env-ref>	0 回以上			┌ <resource-env-ref>	0 回以上	0 回以上
┌ <description>	0 回以上				—	—
┌ <resource-env-ref-name>	1 回			┌ <resource-env-ref-name>	1 回	1 回
┌ <resource-env-ref-type>	1 回				—	—
┌ <mapped-name>	0 または 1 回				—	—
┌ <linked-queue>	0 または 1 回			┌ <linked-queue>*2	1 回	1 回
┌ <resource-adapter>*3	1 回				┌ <resource-adapter>	1 回
┌ <queue>*3	1 回				┌ <queue>	1 回
┌ <linked-adminobject>	0 または 1 回			┌ <linked-adminobject>*2	1 回	1 回
┌ <resourceadapter-name>*4	1 回				┌ <resourceadapter-name>	1 回
┌ <adminobject-name>*4	1 回				┌ <adminobject-name>	1 回
┌ <linked-to>	0 または 1 回			┌ <linked-to>*2	1 回	1 回

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

Entity Bean 属性ファイル			cosminexus.xml			
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン		
┌ <runtime>	0 または 1 回		-	-		
┌ <lookup-name>	1 回		┌ <lookup-name>*2	0 または 1 回		
┌ <optional-name>	0 または 1 回		┌ <optional-name>	0 または 1 回		
┌ <local-optional-name>	0 または 1 回		┌ <local-optional-name>	0 または 1 回		
┌ <maximum-instances>	1 回		┌ <maximum-instances>*2	0 または 1 回		
┌ <pooled-instance>	1 回		┌ <pooled-instance>*2	0 または 1 回		
┌ <minimum>	1 回		┌ <minimum>*2	0 または 1 回		
┌ <maximum>	1 回		┌ <maximum>*2	0 または 1 回		
┌ <caching-model>	1 回		┌ <caching-model>*2	0 または 1 回		
┌ <entity-timeout>	0 または 1 回		┌ <entity-timeout>	0 または 1 回		
┌ <pass-by-reference>	0 または 1 回		┌ <pass-by-reference>	0 または 1 回		
┌ <instance-timeout>	0 または 1 回		┌ <instance-timeout>	0 または 1 回		
┌ <front-ejb>	0 または 1 回		┌ <front-ejb>	0 または 1 回		
┌ <ejb20-cmp>	0 または 1 回		-	-		
┌ <sql-statement>	0 回以上		-	-		
┌ <method>	1 回		-	-		
┌ <method-intf>	0 または 1 回		-	-		
┌ <method-name>	1 回		-	-		
┌ <method-params>	0 または 1 回		-	-		
┌ <method-param>	0 回以上		-	-		
┌ <operation>	1 回		-	-		
┌ <sql>	1 回		-	-		
┌ <cmp-map>	0 または 1 回		┌ <cmp-map>	0 または 1 回		
┌ <datasource-name>	1 回		┌ <datasource-name>	1 回		
┌ <catalog-name>	0 または 1 回		┌ <catalog-name>	0 または 1 回		
┌ <schema-name>	0 または 1 回		┌ <schema-name>	0 または 1 回		
┌ <table-name>	1 回		┌ <table-name>	1 回		
┌ <read-only-access>	1 回		┌ <read-only-access>	1 回		
┌ <available-transaction-isolations>	1 回		-	-		

Entity Bean 属性ファイル				cosminexus.xml			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
		└ <transaction-isolation>	0 回以上			└	0 回以上
		└ <transaction-isolation>	0 または 1 回			└ <transaction-isolation>	0 または 1 回
		└ <concurrency-protection>	0 または 1 回			└ <concurrency-protection>	0 または 1 回
		└ <field-impl>	0 回以上			└ <field-impl>	0 回以上
		└ <field-name>	1 回			└ <field-name>	1 回
		└ <column-name>	1 回			└ <column-name>	1 回
		└ <finder-impl>	0 回以上			└ <finder-impl>	0 回以上
		└ <method-name>	1 回			└ <method-name>	1 回
		└ <where-clause>	1 回			└ <where-clause>	1 回
└		<start-order>	0 または 1 回			└ <start-order>	0 または 1 回
└		<ejb-method-observation-timeout>	0 回以上			└ <ejb-method-observation-timeout>	0 回以上
		<method>	1 回以上			└ <method>	1 回以上
		└ <description>	0 または 1 回			└	0 または 1 回
		└ <method-intf>	0 または 1 回			└ <method-intf>	0 または 1 回
		└ <method-name>	1 回			└ <method-name>	1 回
		└ <method-params>	0 または 1 回			└ <method-params>	0 または 1 回
		└ <method-param>	0 回以上			└ <method-param>	0 回以上
	└	<method-observation-timeout>	1 回			└ <method-observation-timeout>	1 回
└		<ejb-transaction-timeout>	0 回以上			└ <ejb-transaction-timeout>	0 回以上
└		<method>	1 回以上			└ <method>	1 回以上
		└ <description>	0 または 1 回			└	0 または 1 回
		└ <method-intf>	0 または 1 回			└ <method-intf>	0 または 1 回
		└ <method-name>	1 回			└ <method-name>	1 回
		└ <method-params>	0 または 1 回			└ <method-params>	0 または 1 回
		└ <method-param>	0 回以上			└ <method-param>	0 回以上

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

Entity Bean 属性ファイル							cosminexus.xml						
タグ名				出現パターン			タグ名				出現パターン		
└			<transaction-timeout>	1	回			└			<transaction-timeout>	1	回
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※1

ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<entity>-<ejb-name>に対応し、属性ファイルには存在しないタグとなります。EntityBean を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

注※3

resource-adapter にはリソースアダプタ表示名、<queue>にはキュー名が入ります。

注※4

<resourceadapter-name>にはリソースアダプタ表示名、<adminobject-name>には管理対象オブジェクト名が入ります。

3.6 MessageDrivenBean 属性ファイル

MessageDrivenBean 属性ファイルは、Message-driven Bean の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.6.1 MessageDrivenBean 属性ファイルの指定内容

MessageDrivenBean 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-message-bean-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Message Bean Property 7.6//EN"
'file:///<Application Server のインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-message-bean-
property_7_6.dtd'>
```

MessageDrivenBean 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名の欄にあるマニュアルの参照先には、そのタグの関連情報があります。マニュアル名に「アプリケーションサーバ」と記載されたマニュアルについては、名称を省略しています。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-message-bean-property>	1 回	ルートタグ。
┌ <description>*1	0 回以上*2	Message-driven Bean についての説明。
┌ <display-name>*1 	1 回以上*2	Message-driven Bean の名称。 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定 します。該当するリソースの表示名をコマンドの 引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 指定できる文字の制限はありません。 文字列の先頭または末尾に、半角スペースがある 場合、エラーとならずに、取り除かれて設定され ます。
┌ <icon>*1 	0 回以上*2	GUI ツール上に表示される Entity Bean のアイコ ンの定義。
┌ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
└ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
┌ <messaging-type> 	0 または 1 回	Message-driven Bean のメッセージリスナイン タフェース。 記述されていない場合には、 "javax.jms.MessageListener"が仮定されます。 このタグは、EJB2.1 以降の Enterprise Bean に対 して指定できます。
┌ <transaction-type> 	1 回	トランザクションの管理方法。 「Container」または「Bean」のどちらかを指定で きます。

タグ名	出現パターン	説明
<activation-config>	0 または 1 回	Message-driven Bean の動作環境。 このタグより下位のタグは、EJB2.1 以降の Enterprise Bean に対して指定できます。
<description>*1	0 回以上	Message-driven Bean の動作環境の説明。
<activation-config-property>	1 回以上	Message-driven Bean の動作環境に関するプロパティ。
<activation-config-property-name>	1 回	Message-driven Bean の動作環境に関するプロパティ名。
<activation-config-property-value>	1 回	Message-driven Bean の動作環境に関するプロパティの値。
<message-selector>	0 または 1 回	Message-driven bean が受信するメッセージを決定するための JMS メッセージセクタ。 このタグは EJB2.0 以前の Enterprise Bean に対して指定できます。
<acknowledge-mode>	0 または 1 回	BMT の Message-driven bean の onMessage メッセージで使用する通知セマンティクス。 「Auto-acknowledge」または「Dups-ok-acknowledge」のどちらかを指定します。デフォルトは「Auto-acknowledge」です。 このタグは EJB2.0 以前の Enterprise Bean に対して指定できます。
<message-driven-destination>	0 または 1 回	JMS デスティネーションの定義。 このタグより下位のタグは EJB2.0 以前の Enterprise Bean に対して指定できます。
<destination-type>	1 回	JMS デスティネーションのタイプ。 「javax.jms.Queue」または「javax.jms.Topic」のどちらかを指定します。
<subscription-durability>	0 または 1 回	JMS デスティネーションが「javax.jms.Topic」の場合のサブスクリプション。 「Durable」または「NonDurable」のどちらかを指定します。デフォルトは後者です。
<env-entry>	0 回以上	Message-driven Bean から呼び出す環境変数についての定義。
<description>*1	0 回以上*2	環境変数についての説明。
<env-entry-name>	1 回	環境変数の名称。
<env-entry-type>	1 回	環境変数の値の Java タイプ。 指定できる値を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Boolean • java.lang.String • java.lang.Character

タグ名	出現パターン	説明
<env-entry-type>	1 回	<ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Integer • java.lang.Double • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Long • java.lang.Float
<env-entry-value>	1 回	環境変数の値。
<ejb-ref>	0 回以上	Message-driven Bean からリモートインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。
<description>*1	0 回以上*2	Enterprise Bean 参照についての説明。
<ejb-ref-name>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の名称。
<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。 指定できる値を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Session • Entity
<home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Remote Home インタフェース名。
<remote>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Remote Component インタフェース名。
<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の Enterprise Bean の名称。ネーミングの切り替え機能でリンク先を設定する場合、次の形式で指定してください。 corbaname::<名前空間のホスト名>:<名前空間のポート番号>#<EJBHomeオブジェクトリファレンスのJNDI名>
<ejb-local-ref>	0 回以上	Message-driven Bean からローカルインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。
<description>*1	0 回以上*2	ejb-local-ref の説明。
<ejb-ref-name>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の名称。
<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。 指定できる値を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Session • Entity
<local-home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Home インタフェース名。
<local>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Component インタフェース名。

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

タグ名	出現パターン	説明
<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の Enterprise Bean の名称。
<message-ref>	0 または 1 回	Connector1.0 のリソースアダプタを指定する場合、<resource-adapter>と<queue>の組み合わせは、複数のアプリケーション間でユニークにする必要があります。
<connection-factory>	0 または 1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。
<connection-destination>	1 回	cjsetresprop では無視されます。
<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。
<queue>	0 または 1 回	キューの表示名を指定します。 Connector1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。
<security-identity>	0 または 1 回	セキュリティアイデンティティについての定義。
<description>*1	0 回以上*2	security-identity の説明。
<run-as>	1 回	実行時アイデンティティの定義。
<description>*1	0 回以上*2	run-as の説明。
<role-name>	1 回	セキュリティロール名。
<user-name>	1 回	プリンシパル名。
<resource-ref>	0 回以上	Message-Driven Bean から参照するリソースの定義。
<description>*1	0 回以上*2	resource-ref の説明。
<res-ref-name>	1 回	リソース参照の名称。
<res-type>	1 回	リソース種別。 指定可能な文字列は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> • javax.mail.Session • javax.sql.DataSource • javax.jms.QueueConnectionFactory • javax.jms.ConnectionFactory • javax.resource.cci.ConnectionFactory • org.omg.CORBA_2_3.ORB (DD で定義しなくても lookup できるリソース) • javax.jms.TopicConnectionFactory 参照先が Connector1.5 のリソースアダプタの場合、参照先リソースアダプタのコネクション定義識別子(<connectionfactory-interface>タグの設定値)を指定します。

タグ名		出現パターン	説明
	<res-auth>	1 回	リソースマネージャへ登録する方法。 指定できる値は、「Container」または「Application」のどちらかです。
	<res-sharing-scope>	0 または 1 回	リソースマネージャファクトリリファレンスから取得したコネクションを共有するかどうかの指定。 設定できる値は、「Shareable」または「Unshareable」のどちらかです。デフォルトは「Shareable」です。
	<mapped-name>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名またはメール表示名。*3 <linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
	<linked-to>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名、データソース表示名、またはメール表示名。 リソースアダプタ表示名の指定方法は、リソースアダプタのバージョンによって異なります。 Connector1.0 以前 <リソースアダプタの表示名> Connector1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子> <コネクション定義識別子>とは、ra.xml の <connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。 クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。 cjsetresprop では無視されます。
	<resource-env-ref>	0 回以上	Message-driven Bean から参照するリソース環境変数の定義。
	<description>*1	0 回以上*2	resource-env-ref の説明。
	<resource-env-ref-name>	1 回	リソース環境変数参照の名称。
	<resource-env-ref-type>	1 回	リソース環境変数参照の種別。 次の Java クラスまたはインタフェース名を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • javax.jms.Queue • javax.jms.Topic • JavaBeans リソースのクラス名 <linked-adminobject>を指定した場合は、任意のクラス名が表示されます。
	<mapped-name>	0 または 1 回	<resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合、対応するキュー*3を次の形式で表示します。

タグ名		出現パターン	説明	
		<mapped-name>	0 または 1 回	"<リソースアダプタの表示名>#<Queue 名称>" <linked-Queue>タグと同時に指定した場合は、<linked-Queue>タグが有効となります。 <resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合、対応する JavaBeans リソースの表示名を表示します。<linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
		<linked-queue>	0 または 1 回	queue 名称。 cjsetresprop では無視されます。 <resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合だけ有効となります。
		<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.5 のリソースアダプタは指定できません。
		<queue>	1 回	キューの表示名を指定します。
		<linked-adminobject> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 - 「3.16」	0 または 1 回	管理対象オブジェクト。cjsetresprop では無視されます。
		<resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。
		<adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。 英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 アンダースコア (_) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。
		<linked-to>	0 または 1 回	JavaBeans リソースの表示名。

タグ名		出現パターン	説明
	└ <linked-to>	0 または 1 回	<resource-env-ref-type>に「Java.jms.リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効となります。 cjsetresprop では無視されます。
	└ <container-transaction>	0 回以上	コンテナのトランザクションについての定義。
	└ <description>*1	0 回以上*2	container-transaction の説明。
	└ <method>	1 回以上	メソッドについての定義。
	└ <description>*1	0 回以上*2	メソッドの説明。
	└ <method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。 このタグには、値を指定できません。ただし、設定先が EJB2.0 以前の EJB の場合は、"Bean"を指定できます。
	└ <method-name>	1 回	メソッド名。 *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。 *4
	└ <method-params>	0 または 1 回	method-name が*以外の場合に有効。 method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある、method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、すべての method-name のメソッド。
	└ <method-param>	0 回以上	パラメータのデータ型。 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します (名称と[]の間, []の間を空けないようにしてください)。多次元配列の場合は[]を続けて指定します ([]と[]の間を空けないようにしてください)。配列の内部形式名 (int[] の場合[], java.lang.String[] の場合 [Ljava.lang.String;) は指定できません。 例 • int • short[] • java.lang.String[]
	└ <trans-attribute>	1 回	メソッドに割り当てるトランザクション属性。 指定できる文字列を次に示します。 • Mandatory • Never • NotSupported • Required

タグ名	出現パターン	説明
<trans-attribute>	1 回	<ul style="list-style-type: none"> RequiresNew Supports
<runtime>	0 または 1 回	<p>cjsetapprop で使用する場合 必須</p> <p>cjsetresprop で使用する場合 無視されます。</p>
<pooled-instance>	1 回	プール内のインスタンスについての定義。
<minimum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」 - 「2.9.3」	1 回	プール内のインスタンスの最小数。*3 1 が表示されます。
<maximum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」 - 「2.9.3」	1 回	プール内のインスタンスの最大数。 $1 \leq \text{maximum} \leq 2147483647$ 。 0 を指定した場合、1 が設定されます。
<front-ejb>	0 または 1 回	フロント EJB (クライアントが直接呼び出す EJB) かどうかを指定します。フロント EJB の場合は true を指定し、フロント EJB でない場合は false を指定します。デフォルト値は false です。
<start-order>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。 $0 \leq \text{start-order} \leq 2147483647$
<ejb-method-observation-timeout> 「機能解説 運用/監視/連携編」 - 「5 章」	0 回以上	EJB のメソッドに仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-method-observation-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値 (<description>タグを除く) が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE37601-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>の<method-observation-timeout>の値が有効になります。
<method>	1 回以上	-
<description>	0 または 1 回	メソッドの説明。このタグは複数指定できません。
<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。 このタグには、値を指定できません。ただし、設定先が EJB2.0 以前の EJB の場合は、"Bean"を指定できます。
<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。*を指定した場合、すべてのメソッドを表します。*4
<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

タグ名				出現パターン	説明
			└ <method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。
			└ <method-observation-timeout>	1 回	仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間を、0~86400 (単位:秒) で指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0。
			└ <ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 - 「3.15.8」	0 回以上	EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-transaction-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値 (<description>タグを除く) が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE37601-W) が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>の<transaction-timeout>の値が有効になります。
			└ <method>	1 回以上	-
			└ <description>	0 または 1 回	メソッドの説明。このタグは複数指定できません。
			└ <method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。 このタグには、値を指定できません。ただし、設定先が EJB2.0 以前の EJB の場合は、"Bean"を指定できます。
			└ <method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。*を指定した場合はすべてのメソッドを表します。※4
			└ <method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。
			└ <method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。
			└ <transaction-timeout>	1 回	トランザクションタイムアウト時間を、0~2147483647 (単位:秒) で指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0。
-	-	-	-	-	-

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en (英語)」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

EJB2.0 以前の EJB に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

cjgretresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※4

サーバ管理コマンド用の usrconf.properties ファイルの ejbserver.cui.checkmethod.compatible に「false」を指定している場合にこのタグで指定されたメソッドが存在しないとき、属性の設定でエラーになります。

usrconf.properties ファイルの ejbserver.cui.checkmethod.compatible キーについては、マニュアル「アプリケー

ションサーバリファレンス 定義編(サーバ定義)の「5.4 usrconf.properties (サーバ管理コマンド用システムプロパティファイル)」を参照してください。

3.6.2 DD との対応

MessageDrivenBean 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

(1) EJB2.0 の場合

MessageDrivenBean 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-message-bean-property>	1 回	<ejb-jar>	1 回
	—		<description>
	—		0 または 1 回
	—		<enterprise-beans>
	—		1 回
	—		(省略)
	—		—
	—		<message-driven>
	—		1 回以上
	<description>		<description>
	0 回以上		0 回以上
	<display-name>		<display-name>
	1 回以上		0 回以上
	<icon>		<icon>
	0 回以上		0 回以上
	<small-icon>		<small-icon>
	0 または 1 回		0 または 1 回
	<large-icon>		<large-icon>
	0 または 1 回		0 または 1 回
	<transaction-type>		<transaction-type>
	1 回		1 回
	<message-selector>		<message-selector>
	0 または 1 回		0 または 1 回
	<acknowledge-mode>		<acknowledge-mode>
	0 または 1 回		0 または 1 回
	<message-driven-destination>		<message-driven-destination>
	0 または 1 回		0 または 1 回
	<destination-type>		<destination-type>
	1 回		1 回
	<subscription-durability>		<subscription-durability>
	0 または 1 回		0 または 1 回
	<env-entry>		<env-entry>
	0 回以上		0 回以上
	<description>		<description>
	0 回以上		0 回以上
	<env-entry-name>		<env-entry-name>
	1 回		1 回
	<env-entry-type>		<env-entry-type>
	1 回		1 回
	<env-entry-value>		<env-entry-value>
	1 回		0 または 1 回
	<ejb-ref>		<ejb-ref>
	0 回以上		0 回以上
	<description>		<description>
	0 回以上		0 回以上
	<ejb-ref-name>		<ejb-ref-name>
	1 回		1 回
	<ejb-ref-type>		<ejb-ref-type>
	1 回		1 回

MessageDrivenBean 属性ファイル		Deployment Descriptor			
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン	
<home>	1 回		<home>	1 回	
<remote>	1 回		<remote>	1 回	
<ejb-link>	0 または 1 回		<ejb-link>	0 または 1 回	
> <ejb-local-ref>	0 回以上		> <ejb-local-ref>	0 回以上	
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上	
<ejb-ref-name>	1 回		<ejb-ref-name>	1 回	
<ejb-ref-type>	1 回		<ejb-ref-type>	1 回	
<local-home>	1 回		<local-home>	1 回	
<local>	1 回		<local>	1 回	
<ejb-link>	0 または 1 回		<ejb-link>	0 または 1 回	
> <security-identity>	0 または 1 回		> <security-identity>	0 または 1 回	
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上	
-	-		<use-caller-identity>*	1 回	
<run-as>	1 回		<run-as>*	1 回	
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上	
<role-name>	1 回		<role-name>	1 回	
<user-name>	1 回		-	-	
> <container-transaction>	0 回以上		> <container-transaction>	0 回以上	
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上	
<method>	1 回以上		<method>	1 回以上	
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上	
<method-intf>	0 または 1 回		<method-intf>	0 または 1 回	
<method-name>	1 回		<method-name>	1 回	
<method-params>	0 または 1 回		<method-params>	0 または 1 回	
<method-param>	0 回以上		<method-param>	0 回以上	
<trans-attribute>	1 回		<trans-attribute>	1 回	
> <resource-ref>	0 回以上		> <resource-ref>	0 回以上	
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上	
<res-ref-name>	1 回		<res-ref-name>	1 回	
<res-type>	1 回		<res-type>	1 回	

MessageDrivenBean 属性ファイル			Deployment Descriptor				
タグ名		出現パターン	タグ名			出現パターン	
		<res-auth>	1 回			<res-auth>	1 回
		<res-sharing-scope>	0 または 1 回			<res-sharing-scope>	0 または 1 回
		<mapped-name>	0 または 1 回			—	—
		<linked-to>	0 または 1 回			—	—
		<resource-env-ref>	0 回以上			<resource-env-ref>	0 回以上
		<description>	0 回以上			<description>	0 回以上
		<resource-env-ref-name>	1 回			<resource-env-ref-name>	1 回
		<resource-env-ref-type>	1 回			<resource-env-ref-type>	1 回
		<mapped-name>	0 または 1 回			—	—
		<linked-queue>	0 または 1 回			—	—
		<resource-adapter>	1 回			—	—
		<queue>	1 回			—	—
		<runtime>	0 または 1 回			—	—
		(省略)	—			—	—
—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※

<use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。

(2) EJB2.1 以降の場合

MessageDrivenBean 属性ファイル			Deployment Descriptor				
タグ名		出現パターン	タグ名			出現パターン	
<hitachi-message-bean-property>		1 回	<ejb-jar>			1 回	
		—			<description>	0 または 1 回	
		—			<enterprise-beans>	1 回	
		—			(省略)	—	
		—			<message-driven>	1 回以上	
		<description>	0 回以上			<description>	0 回以上
		<display-name>	1 回以上			<display-name>	0 回以上

MessageDrivenBean 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
┆ <icon>	0 回以上	┆ <icon>	0 回以上
┆ ┆ <small-icon>	0 または 1 回	┆ ┆ <small-icon>	0 または 1 回
┆ ┆ <large-icon>	0 または 1 回	┆ ┆ <large-icon>	0 または 1 回
┆ <messaging-type>	0 または 1 回	┆ <messaging-type>	0 または 1 回
┆ <transaction-type>	1 回	┆ <transaction-type>	1 回
┆ <activation-config>	0 または 1 回	┆ <activation-config>	0 または 1 回
┆ ┆ <description>	0 回以上	┆ ┆ <description>	0 回以上
┆ ┆ <activation-config-property>	1 回以上	┆ ┆ <activation-config-property>	1 回以上
┆ ┆ ┆ <activation-config-property-name>	1 回	┆ ┆ ┆ <activation-config-property-name>	1 回
┆ ┆ ┆ <activation-config-property-value>	1 回	┆ ┆ ┆ <activation-config-property-value>	1 回
┆ <env-entry>	0 回以上	┆ <env-entry>	0 回以上
┆ ┆ <description>	0 回以上	┆ ┆ <description>	0 回以上
┆ ┆ <env-entry-name>	1 回	┆ ┆ <env-entry-name>	1 回
┆ ┆ <env-entry-type>	1 回	┆ ┆ <env-entry-type>	1 回
┆ ┆ <env-entry-value>	1 回	┆ ┆ <env-entry-value>	0 または 1 回
┆ <ejb-ref>	0 回以上	┆ <ejb-ref>	0 回以上
┆ ┆ <description>	0 回以上	┆ ┆ <description>	0 回以上
┆ ┆ <ejb-ref-name>	1 回	┆ ┆ <ejb-ref-name>	1 回
┆ ┆ <ejb-ref-type>	1 回	┆ ┆ <ejb-ref-type>	1 回
┆ ┆ <home>	1 回	┆ ┆ <home>	1 回
┆ ┆ <remote>	1 回	┆ ┆ <remote>	1 回
┆ ┆ ┆ <ejb-link>	0 または 1 回	┆ ┆ ┆ <ejb-link>	0 または 1 回
┆ <ejb-local-ref>	0 回以上	┆ <ejb-local-ref>	0 回以上
┆ ┆ <description>	0 回以上	┆ ┆ <description>	0 回以上
┆ ┆ <ejb-ref-name>	1 回	┆ ┆ <ejb-ref-name>	1 回
┆ ┆ <ejb-ref-type>	1 回	┆ ┆ <ejb-ref-type>	1 回
┆ ┆ <local-home>	1 回	┆ ┆ <local-home>	1 回
┆ ┆ <local>	1 回	┆ ┆ <local>	1 回
┆ ┆ ┆ <ejb-link>	0 または 1 回	┆ ┆ ┆ <ejb-link>	0 または 1 回

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

MessageDrivenBean 属性ファイル			Deployment Descriptor			
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン		
┆ <security-identity>	0 または 1 回		┆ <security-identity>	0 または 1 回		
┆ <description>	0 回以上		┆ <description>	0 回以上		
	-		┆ <use-caller-identity>*	1 回		
┆ <run-as>	1 回		┆ <run-as>*	1 回		
┆ <description>	0 回以上		┆ <description>	0 回以上		
┆ <role-name>	1 回		┆ <role-name>	1 回		
┆ <user-name>	1 回			-		-
┆ <container-transaction>	0 回以上		┆ <container-transaction>	0 回以上		
┆ <description>	0 回以上		┆ <description>	0 回以上		
┆ <method>	1 回以上		┆ <method>	1 回以上		
┆ <description>	0 回以上		┆ <description>	0 回以上		
┆ <method-intf>	0 または 1 回		┆ <method-intf>	0 または 1 回		
┆ <method-name>	1 回		┆ <method-name>	1 回		
┆ <method-params>	0 または 1 回		┆ <method-params>	0 または 1 回		
┆ <method-param>	0 回以上		┆ <method-param>	0 回以上		
┆ <trans-attribute>	1 回		┆ <trans-attribute>	1 回		
┆ <resource-ref>	0 回以上		┆ <resource-ref>	0 回以上		
┆ <description>	0 回以上		┆ <description>	0 回以上		
┆ <res-ref-name>	1 回		┆ <res-ref-name>	1 回		
┆ <res-type>	1 回		┆ <res-type>	1 回		
┆ <res-auth>	1 回		┆ <res-auth>	1 回		
┆ <res-sharing-scope>	0 または 1 回		┆ <res-sharing-scope>	0 または 1 回		
┆ <mapped-name>	0 または 1 回			-		-
┆ <linked-to>	0 または 1 回			-		-
┆ <resource-env-ref>	0 回以上		┆ <resource-env-ref>	0 回以上		
┆ <description>	0 回以上		┆ <description>	0 回以上		
┆ <resource-env-ref-name>	1 回		┆ <resource-env-ref-name>	1 回		
┆ <resource-env-ref-type>	1 回		┆ <resource-env-ref-type>	1 回		
┆ <mapped-name>	0 または 1 回			-		-
┆ <linked-queue>	0 または 1 回			-		-

MessageDrivenBean 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン		
		┌ <resource-adapter>	1 回				—
		└ <queue>	1 回				—
		└ <linked-adminobject>	0 または 1 回				—
		┌ <resourceadapter-name>	1 回				—
		└ <adminobject-name>	1 回				—
		└ <runtime>	0 または 1 回				—
		(省略)	—				—
—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※

<use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。

3.6.3 cosminexus.xml との対応

MessageDrivenBean 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

Message Driven Bean 属性ファイル		cosminexus.xml	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-message-bean-property>	1 回	<message>	0 回以上
	—	<ejb-name>*1	1 回
┌ <security-identity>	0 または 1 回	<security-identity>	0 または 1 回
	└ <run-as>		└ <run-as>
	┌ <description>		
	┌ <role-name>		
	└ <user-name>		└ <user-name>
┌ <ejb-ref>	0 回以上		—
	┌ <destination>		—
	┌ <ejb-ref-name>		—
	┌ <ejb-ref-type>		—
	┌ <home>		—
	┌ <remote>		—

Message Driven Bean 属性ファイル					cosminexus.xml						
タグ名					出現パターン						
				<transaction-timeout>	1 回					<transaction-timeout>	1 回
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※1

ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<message-driven>-<ejb-name>に対応し、属性ファイルには存在しないタグとなります。Message-Driven Bean を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

注※3

resource-adapter にはリソースアダプタ表示名、<queue>にはキュー名が入ります。

注※4

<resourceadapter-name>にはリソースアダプタ表示名、<adminobject-name>には管理対象オブジェクト名が入ります。

3.7 WAR 属性ファイル

WAR 属性ファイルは、WAR の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.7.1 WAR 属性ファイルの指定内容

WAR 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-war-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD War Property 9.0//EN" 'file:///<Application Serverのインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-war-property_9_0.dtd'>
```

WAR 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名の欄にあるマニュアルの参照先には、そのタグの関連情報があります。マニュアル名に「アプリケーションサーバ」と記載されたマニュアルについては、名称を省略しています。

(1) web.xml を含む場合

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-war-property>	1 回	ルートタグ。
┆ <description>* ¹	0 回以上* ¹	WAR の説明。
┆ <display-name>* ¹	1 回以上* ¹	WAR の表示名。 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 xml:lang 属性が"en"のタグの場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_) xml:lang 属性が"en"のタグ以外の場合、文字の制限はありません。
┆ <icon>* ¹	0 回以上* ¹	Deploy ツール上に表示される Web アプリケーションのアイコンの定義。
┆┆ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
┆┆ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
┆ <distributable>	0 または 1 回	分散したサーブレットコンテナにデプロイできるようにプログラムされている場合に指定。なお、このタグは値を持ちません。
┆ <context-param>	0 回以上	コンテキスト初期化パラメタについての定義。
┆┆ <description>* ¹	0 回以上* ¹	Context-param の説明。

タグ名		出現パターン	説明
	<small-icon>	0 または 1 回	JSP プロパティグループの小アイコン用の画像ファイル名。 WAR ファイル中での画像ファイルの場所をルートからの相対パスで指定します。画像ファイルのサイズは 16×16 です。画像ファイルの形式は、JPEG ファイルか GIF ファイルです。
	<large-icon>	0 または 1 回	JSP プロパティグループの大アイコン用の画像ファイル名。 WAR ファイル中での画像ファイルの場所をルートからの相対パスで指定します。画像ファイルのサイズは 32×32 です。画像ファイルの形式は、JPEG ファイルか GIF ファイルです。
	<url-pattern>	1 回以上	パラメタを適用する URL パターン。
	<el-ignored>	0 または 1 回	EL (式言語) を無視するかどうかの指定。指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (無視する場合) • false (無視しない場合)
	<page-encoding>	0 または 1 回	ページエンコーディング名。
	<scripting-invalid>	0 または 1 回	スクリプティング要素を無効にするかどうかの指定。
	<is-xml>	0 または 1 回	XML 構文で記述されているかどうかの指定。
	<include-prelude>	0 回以上	各ページのヘッダとしてインクルードするファイルのパス (コンテキストルートからの相対パス)。
	<include-coda>	0 回以上	各ページのフッタとしてインクルードするファイルのパス (コンテキストルートからの相対パス)。
	<deferred-syntax-allowed-as-literal>	0 または 1 回	EL が使用できない部分で、#{の文字列があった場合にエラーにするかの定義。デフォルトは false です。 true 文字列リテラルとして使用します。 false 文字列リテラルとして使用しません。 Servlet 2.4 以前の WAR に対して、このタグを指定できません。
	<trim-directive-whitespaces>	0 または 1 回	JSP から余分な空白を出力しないようにするかの定義。デフォルトは false です。 true 余分な空白を削除します。

タグ名	出現パターン	説明
└ ┆ <mapped-name>	0 または 1 回	<resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合、対応するキュー※6を次の形式で表示します。 "<リソースアダプタの表示名>#<Queue 名称>" <linked-Queue>タグと同時に指定した場合は、<linked-Queue>タグが有効となります。 <resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合、対応する JavaBeans リソースの表示名を表示します。<linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
└ ┆ <injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※6
└ ┆ ┆ ┆ <injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。※5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
└ ┆ ┆ ┆ ┆ <injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※5
└ ┆ <linked-queue>	0 または 1 回	対応するデータソース表示名またはメール表示名。※6 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。 <resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効となります。
└ ┆ ┆ ┆ ┆ <resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。※6 Connector1.5 のリソースアダプタは指定できません。
└ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ <queue>	1 回	キューの表示名を指定します。※6
└ ┆ <linked-adminobject>	0 または 1 回	管理対象オブジェクト。 cjsetresprop では無視されます。
└ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ <resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。
└ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ <adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。 英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン

タグ名	出現パターン	説明
<adminobject-name>	1 回	(:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ({ } (}), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ } (}), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 アンダースコア (_) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。
<linked-to>	0 または 1 回	JavaBeans リソースの表示名を指定します。* 6 <resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効となります。 cjsesprop で使用する場合は無視されます。
<persistence-context-ref>	0 回以上	永続化コンテキストの設定を記述します。
<description>*1	0 回以上*2	永続化コンテキストについての説明を記述します。*6
<persistence-context-ref-name>	1 回	永続化コンテキストの参照の名称を設定します。名称は java:comp/env コンテキストに関連づけられた JNDI 名。*6
<persistence-unit-name>	0 または 1 回	永続化ユニットの名前を設定します。*6
<persistence-context-type>	0 または 1 回	永続化コンテキストの参照の transactional nature を設定します。指定可能な文字列は以下のとおり。*6 <ul style="list-style-type: none"> Transaction Extended
<persistence-property>	0 回以上	コンテナまたは、永続化プロバイダのプロパティを設定します。*6
<name>	1 回	プロパティの名称を設定します。*6
<value>	1 回	プロパティの値を設定します。*6
<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定を記述します。*6
<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名を指定します。パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから指定します。*6

タグ名		出現パターン	説明
	└ <injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子を指定します。
└	<persistence-unit-ref>	0 回以上	永続化ユニットの参照の設定を記述します。*6
	└ <description>	0 回以上	永続化ユニットの参照についての説明を記述します。*6
	└ <persistence-unit-ref-name>	1 回	永続化ユニットの参照の名称を設定します。名称は java:comp/env コンテキストに関連づけられた JNDI 名。*6
	└ <persistence-unit-name>	0 または 1 回	永続化ユニットの名前を設定します。*6
	└ <injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定を記述します。*6
	└ └ <injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名を指定します。パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから指定します。*6
	└ └ <injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子を指定します。*6
└	<post-construct>	0 回以上	post-construct メソッドの定義を記述します。*6
	└ └ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	post-construct メソッドを保持するクラスの名称を記述します。省略時は、<post-construct> タグの指定が無視されます。*6
	└ └ <lifecycle-callback-method>	1 回	post-construct メソッド名を記述します。*6
└	<pre-destroy>	0 回以上	pre-destroy メソッドの定義を記述します。*6
	└ └ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	pre-destroy メソッドを保持するクラスの名称を記述します。省略時は、<pre-destroy> タグの指定が無視されます。*6
	└ └ <lifecycle-callback-method>	1 回	pre-destroy メソッド名を記述します。*6
└	<locale-encoding-mapping-list>	0 回以上*1	ローケルとエンコーディング方法のマッピングの設定。 Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを指定できません。
	└ └ <locale-encoding-mapping>	1 回以上	ローケルとエンコーディング方法のマッピングの設定。
	└ └ └ <locale>	1 回	ローケルを記述。
	└ └ └ <encoding>	1 回	エンコード方法を記述。
└	<runtime>	0 または 1 回	cjsetapprop で使用する場合 必須

タグ名	出現パターン	説明
<runtime>	0 または 1 回	cjsetresprop で使用する場合 無視されます。
<context-root>	1 回	コンテキストルート。 指定できる文字は、URI (RFC3986) で使用できる文字です。ルート指定時は、空文字列またはスラッシュ (/) を指定してください。
<thread-control> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.17」	0 または 1 回	スレッド制御グループの設定。 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。
<thread-control-max-threads>	1 回	Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数。 占有スレッド数以上の値を指定してください。 1~1024
<thread-control-exclusive-threads>	1 回	占有スレッド数。 Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数以下の値を指定してください。 0~1024
<thread-control-queue-size>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちキューサイズ。 0~2147483647
<thread-control-stats-monitor> 「機能解説 運用/監視/連携編」 - 「3.4」	1 回	稼働統計の監視の設定。
<whole-waiting-request-count>	1 回	Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視をします。
<enabled>	1 回	Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。
<high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する上限のしきい値を 1~100 の整数値 (単位: %) で指定します。デフォルトは 80 です。 ただし、<low-threshold> タグの指定値以上の値である必要があります。
<low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値を 0~99 の整数値 (単位: %) で指定します。デフォルトは 0 です。 ただし、<high-threshold> タグの指定値以下の値である必要があります。

タグ名	出現パターン	説明
<waiting-request-count>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視をします。
<enabled>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。
<high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する上限のしきい値を 1~100 の整数値 (単位: %) で指定します。デフォルトは 80 です。 ただし、<low-threshold>タグの指定値以上の値である必要があります。
<low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値を 0~99 の整数値 (単位: %) で指定します。デフォルトは 0 です。 ただし、<high-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。
<resource-watcher>	1 回	Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視に関するプロパティ。
<watcher-threshold>	1 回	アラートメッセージを出力するしきい値。1~100 の整数値 (単位: %) を指定します。デフォルトは 80 です。
<watcher-interval>	1 回	監視間隔。 1~2147483647 の整数値 (単位: 秒) で指定します。デフォルトは 30 です。
<watcher-enabled>	1 回	リクエスト実行待ちキュー格納数の監視を有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。<thread-control-queue-size>に 0 を指定した場合は監視は無効となります。
<watcher-writefile-enabled>	1 回	リソース使用状況をファイルに出力するかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (出力する) • false (出力しない) デフォルトは true です。

タグ名	出現パターン	説明
<ul style="list-style-type: none"> └─ <urlgroup-thread-control> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 – 「2.18」 	0 回以上	URL グループ単位の同時実行スレッド数制御。
<ul style="list-style-type: none"> └─ <urlgroup-thread-control-name> 	1 回	URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名。 URL グループ単位の同時スレッド数制御の定義名には Web アプリケーション内で一意となる文字列を指定します。英数字 (0~9, A~Z, a~z), ハイフン (-) およびアンダースコア (_) が使用できます。文字列の長さは $1 \leq \text{文字列長} \leq 64$ で指定してください。
<ul style="list-style-type: none"> └─ <urlgroup-thread-control-max-threads> 	1 回	URL グループ単位の最大同時実行スレッド数。 $1 \sim \text{thread-control-max-threads}$ の整数値を指定します。
<ul style="list-style-type: none"> └─ <urlgroup-thread-control-exclusive-threads> 	1 回	URL グループ単位の占有スレッド数。 指定できる値は、 $0 \sim \text{urlgroup-thread-control-max-threads}$ かつ $\text{thread-control-exclusive-threads}$ 以下です。なお、<urlgroup-thread-control> を定義している場合は次の設定範囲を満たす必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • $\text{thread-control-max-threads} \neq \text{thread-control-exclusive-threads}$ の場合 $\text{thread-control-exclusive-threads} \geq \text{urlgroup-thread-control-exclusive-threads}$ の総和。 • $\text{thread-control-max-threads} = \text{thread-control-exclusive-threads}$ の場合 $\text{thread-control-exclusive-threads} > \text{urlgroup-thread-control-exclusive-threads}$ の総和。
<ul style="list-style-type: none"> └─ <urlgroup-thread-control-queue-size> 	1 回	URL グループ単位の実行待ちキューのサイズ。 指定できる値は、 $0 \sim 2147483647$ の整数値です。
<ul style="list-style-type: none"> └─ <urlgroup-thread-control-mapping> 	0 回以上	制御対象となる URL のマッピング情報。 省略時は、制御対象となる URL がない状態で動作します。
<ul style="list-style-type: none"> └─ <url-pattern> 	1 回	制御対象となる URL パターン。 一つの Web アプリケーション内で同じ URL パターンを指定することはできません。指定例を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • /soda/grape/* • /foo/* • /contents

タグ名		出現パターン	説明
		└ <url-pattern>	1 回 • *.foo
		└ <stats-monitor> 「機能解説 運用/監視/連携編」 - 「3.4」	1 回 稼働統計の設定。
		└ <waiting-request-count>	1 回 URL グループ単位の実行待ちリクエスト数を監視。
		└ <enabled>	1 回 URL グループ単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • true (有効にする) • false (無効にする)
		└ <high-threshold>	1 回 しきい値イベントを出力する上限しきい値。 指定できる値は、1~100 の整数値 (単位:%) です。なお、low-threshold 以上の値を指定してください。
		└ <low-threshold>	1 回 しきい値イベントを出力する下限しきい値。 指定できる値は、0~99 の整数値 (単位:%) です。なお、high-threshold 以下の値を指定してください。
		└ <http-request>	0 または 1 回 -
		└ <encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.6」	0 または 1 回 リクエストボディ、およびクエリのデコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。 ^{*7} デフォルトは指定なしです。
		└ <http-response>	0 または 1 回 -
		└ <encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.6」	0 または 1 回 レスポンスボディのエンコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。 ^{*7} デフォルトは指定なしです。
		└ <jsp>	0 または 1 回 -
		└ <page-encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.6」	0 または 1 回 JSP ファイルの読み込みに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。 ^{*7} デフォルトは指定なしです。
		└ <http-session>	0 または 1 回 -
		└ <http-session-max-number>	1 回 使用可能な HttpSession の最大数。

タグ名		出現パターン	説明
	「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.7.5」 	1 回	指定できる値は、-1~2147483647 の整数値です。-1 を指定した場合は無制限となります。デフォルトは、-1 です。
	<resource-watcher> 	1 回	HttpSession 数の監視に関するプロパティを設定。
	<watcher-threshold> 	1 回	アラートメッセージを出力するしきい値。 指定できる値は、1~100 の整数値 (単位: %) です。デフォルトは 80 です。
	<watcher-interval> 	1 回	監視間隔。 指定できる値は、1~2147483647 の整数値 (単位: 秒) です。デフォルトは 30 です。
	<watcher-enabled> 	1 回	HttpSession 数の監視を有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。ただし、http-session-max-number に 0 を指定した場合、監視は無効となります。
	<watcher-writefile-enabled> 	1 回	リソース使用状況をファイルに出力するかどうかの指定。指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (出力する) • false (出力しない) デフォルトは true です。
	<dbsfo> 「機能解説 拡張編」 - 「6 章」	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバ機能の設定をします。
	<enabled> 	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバ機能を有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (有効にする) • false (無効にする)
	<application-id> 	0 または 1 回	アプリケーション識別子を設定します。英数字 (0~9,A~Z,a~z)、アンダースコア (_) だけ使用できます。最大 16 文字まで指定できます。
	<attribute-data-size-max> 	0 または 1 回	グローバルセッション情報に含めることができる HTTP セッションの属性情報の最大サイズを設定します。設定可能な範囲は 128~10485760 の整数値 (単位: バイト) です。
	<exclude-extensions> 	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバ機能を抑止する拡張子を設定します。

タグ名	出現パターン	説明
<p>└ <exclude-extensions></p>	<p>0 または 1 回</p>	<p>URL のパスが指定した拡張子と同じ場合、該当するリクエストでのデータベースセッションフェイルオーバ機能は無効となります。指定した拡張子と URL の比較では大文字・小文字は区別しません。</p> <p>データベースセッションフェイルオーバ機能を抑止する拡張子を設定しない場合は、空文字列を設定します。</p> <p>次に示す文字を、512 文字以内で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英数字 • 括弧 ((), ()) • エクスクラメーション (!) • パーセント (%) • ドル記号 (\$) • アンパサンド (&) • シングルクォート (') • プラス (+) • ハイフン (-) • イコール (=) • 単価記号 (@) • アンダースコア (_) • チルダ (~) • ピリオド (.) • コンマ (,) <p>拡張子を複数指定する場合は、コンマ (,) で区切って指定します。</p>
<p>└ <start-notify-error></p>	<p>0 または 1 回</p>	<p>J2EE アプリケーション開始時にエラー通知をするかどうかの指定。</p> <p>J2EE アプリケーションの開始時に、load-on-startup が指定されているサーブレット/JSP の初期化処理中や、taglib の解析中にエラーが発生した場合、エラーを通知してアプリケーションの開始を中断するかどうかを指定します。</p> <p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true (エラーを通知する) • false (エラーを通知しない) <p>デフォルト値は true です。</p>
<p>└ <start-order></p>	<p>0 または 1 回</p>	<p>J2EE アプリケーション開始時および停止時の順番。</p> <p>開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。</p> <p>0 ≤ start-order ≤ 2147483647</p>
<p>- - - - -</p>	<p>-</p>	<p>-</p>

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en (英語)」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

mime-mapping タグで指定する拡張子と MIME タイプの対応づけのデフォルト値については、マニュアル「アプリケーションサーバリファレンス 定義編(サーバ定義)」の「付録 B.1 拡張子と MIME タイプの対応づけ」を参照してください。

注※4

error-code または exception-type のどちらかです。

注※5

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※6

アノテーションの設定値の場合は、値の変更をしてはいけません。

注※7

デフォルトの文字エンコーディングとして設定できる文字は、JavaVM がサポートしている文字エンコーディングとなります。JavaVM がサポートしている文字エンコーディングについては、JDK のドキュメントのサポートされているエンコーディングに関する説明を参照してください。また、指定できる文字列は、java.nio API 用の正準名と java.lang API 用の正準名に記載されている文字エンコーディング、およびそれらの別名になります。

(2) web.xml を含まない場合 (Servlet2.5 以降)

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-war-property>	1 回	ルートタグ。
└ <description>*1	0 回以上*1	WAR の説明。*5
└ <display-name>*1	1 回以上*1	WAR の表示名。*5 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 xml:lang 属性が"en"のタグの場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および特殊文字を使用できます。 プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_) xml:lang 属性が"en"のタグ以外の場合、文字の制限はありません。
└ <icon>*1	0 回以上*1	Deploy ツール上に表示される Web アプリケーションのアイコンの定義。*5
└ └ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。

タグ名	出現パターン	説明
<large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
<security-role>	0 回以上	セキュリティロールについての定義。
<description>*1	0 回以上*1	security-role の説明。*5
<role-name>	1 回	ロール名称。*5
<linked-to>	0 または 1 回	cjaddsec コマンドで定義したロール名。 cjsetresprop で使用する場合、無視されます。
<env-entry>	0 または 1 回	環境エントリについての定義。*5
<description>*1	0 回以上*1	環境エントリの説明。*5
<env-entry-name>	1 回	環境エントリの名称。*5
<env-entry-type>	1 回	環境エントリのデータ型。*5 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Boolean • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Integer • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Double • java.lang.String • java.lang.Character
<env-entry-value>	1 回	環境エントリの値。*5 env-entry-type で指定した型に適合した値を指定します。 env-entry-type に java.lang.String 以外を指定した場合、空文字の指定はできません。
<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*5
<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。*5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。*5
<ejb-ref>	0 回以上	リモートインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。*5
<description>*1	0 回以上*1	ejb-ref の説明。*6

タグ名		出現パターン	説明
	<ejb-ref-name>	1 回	ejb-ref の名称。*6
	<ejb-ref-type>	0 または 1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。*6 指定できる文字列を次に示します。 • Entity • Session
	<home>	0 または 1 回	リンク先の Home インタフェースクラス名。*6
	<remote>	0 または 1 回	リンク先の Component インタフェースクラス名。*6
	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。*6 ネーミングの切り替え機能でリンク先を設定する場合、次の形式で指定します。 corbaname: : <名前空間のホスト名> : <名前空間のポート番号> # <EJBHome オブジェクトリファレンスの JNDI 名>
	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*5
	<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。*5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
	<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。*5
	<ejb-local-ref>	0 回以上	ローカルインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。*6
	<description>*1	0 回以上*1	ejb-local-ref の説明。*6
	<ejb-ref-name>	1 回	ejb-local-ref の名称。*6
	<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。*6 指定できる文字列を次に示します。 • Entity • Session
	<local-home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Home インタフェース名。*6
	<local>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Component インタフェース名。*6
	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。*6
	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*5
	<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。*5

タグ名		出現パターン	説明
	<injection-target-class>	1 回	パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
	<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。*5
	<resource-ref>	0 回以上	リソース参照についての定義。*5
	<description>*1	0 回以上*1	resource-ref の説明。*6
	<res-ref-name>	1 回	resource-ref の名称。*6
	<res-type>	0 または 1 回	リソース種別。*6 指定可能な文字列は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> • javax.mail.Session • javax.sql.DataSource • javax.jms.QueueConnectionFactory • javax.jms.ConnectionFactory • javax.resource.cci.ConnectionFactory • org.omg.CORBA_2_3_ORB (DD で定義しなくても lookup できるリソース) • javax.jms.TopicConnectionFactory 参照先が Connector1.5 のリソースアダプタの場合、参照先リソースアダプタのコネクション定義識別子 (<connectionfactory-interface> タグの設定値) を指定します。
	<res-auth>	0 または 1 回	認証方式。*6 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Application • Container Servlet2.5 以降の場合、デフォルトは Container となります。
	<res-sharing-scope>	0 または 1 回	参照したリソースを共有するかどうかを指定します。*6 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Shareable • Unshareable
	<mapped-name>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名またはメール表示名。*5 <linked-to> タグと同時に指定した場合は、<linked-to> タグが有効となります。
	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*5
	<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。*5

タグ名	出現パターン	説明
<injection-target-class>	1 回	パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。*5
<linked-to>	0 または 1 回	<p>対応するリソースアダプタ表示名、データソース表示名またはメール表示名を指定します。*6</p> <p>リソースアダプタ表示名の指定方法は、リソースアダプタのバージョンによって異なります。</p> <p>Connector1.0 以前 <リソースアダプタの表示名></p> <p>Connector1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子></p> <p><コネクション定義識別子>とは、ra.xml の<connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。</p> <p>クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタは指定できません。</p> <p>cjsetresprop で使用する場合は無視されます。</p>
<resource-env-ref>	0 回以上	リソース環境変数についての定義。*6
<description>*1	0 回以上*1	resource-env-ref の説明。*6
<resource-env-ref-name>	1 回	resource-env-ref の名称。*6
<resource-env-ref-type>	1 回	<p>リソース環境変数の値のクラスタイプ。*6</p> <p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • javax.jms.Queue • javax.jms.Topic • javax.transaction.UserTransaction • javax.ejb.TimerService • javax.ejb.EJBContext • JavaBeans リソースのクラス名 <p>javax.transaction.UserTransaction, javax.ejb.TimerService, javax.ejb.EJBContext は、アノテーションを使用した場合にだけ出力されます。ただし、この値を設定することはできません。</p>

タグ名	出現パターン	説明
<resource-env-ref-type>	1 回	<linked-adminobject>を指定した場合は、任意のクラス名が表示されます。
<mapped-name>	0 または 1 回	<p><resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合、対応するキュー^{※5}を次の形式で表示します。 "<リソースアダプタの表示名>#<Queue 名称>"</p> <p><linked-Queue>タグと同時に指定した場合は、<linked-Queue>タグが有効となります。</p> <p><resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合、対応する JavaBeans リソースの表示名を表示します。<linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。</p>
<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。 ^{※5}
<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。 ^{※5} パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。 ^{※5}
<linked-queue>	0 または 1 回	<p>対応するデータソース表示名またはメール表示名。^{※6}</p> <p>cjsetresprop で使用する場合は無視されません。</p> <p><resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効となります。</p>

タグ名	出現パターン	説明
┌ <persistence-context-ref>	0 回以上	永続化コンテキストの設定を記述。*5
┌ <description>*1 	0 回以上	永続化コンテキストについての説明を記述。*6
┌ <persistence-context-ref-name> 	1 回	永続化コンテキストの参照の名称を設定する。名称は java:comp/env コンテキストに関連づけられた JNDI 名。*6
┌ <persistence-unit-name>	0 または 1 回	永続化ユニットの名前を設定する。*6
┌ <persistence-context-type> 	0 または 1 回	永続化コンテキストの参照の transactional nature を設定する。指定可能な文字列は以下のとおり。*6 <ul style="list-style-type: none"> • Transaction • Extended
┌ <persistence-property> 	0 回以上	コンテナまたは、永続化プロバイダのプロパティを設定する。*6
┌ <name>	1 回	プロパティの名称を設定する。*6
└ <value>	1 回	プロパティの値を設定する。*6
└ <injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定を記述。*6
┌ ┌ <injection-target-class> 	1 回	injection の対象となるクラス名を指定。パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから指定。*6
┌ └ <injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子を指定。
┌ <persistence-unit-ref>	0 回以上	永続化ユニットの参照の設定を記述。*5
┌ <description>*1 	0 回以上	永続化ユニットの参照についての説明を記述。*6
┌ <persistence-unit-ref-name> 	1 回	永続化ユニットの参照の名称を設定する。名称は java:comp/env コンテキストに関連づけられた JNDI 名。*6
┌ <persistence-unit-name>	0 または 1 回	永続化ユニットの名前を設定する。*6
└ <injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定を記述。*6
┌ ┌ <injection-target-class> 	1 回	injection の対象となるクラス名を指定。パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから指定。*6
┌ └ <injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子を指定。*6

タグ名	出現パターン	説明
<post-construct>	0 回以上	post-construct メソッドの定義を記述。*5
<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	post-construct メソッドを保持するクラスの名称を記述。省略時は、<post-construct>タグの指定が無視されます。*6
<lifecycle-callback-method>	1 回	post-construct メソッド名を記述。*6
<pre-destroy>	0 回以上	pre-destroy メソッドの定義を記述。*5
<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	pre-destroy メソッドを保持するクラスの名称を記述。省略時は、<pre-destroy>タグの指定が無視されます。*6
<lifecycle-callback-method>	1 回	pre-destroy メソッド名を記述。*6
<runtime>	0 または 1 回	cjsetapprop で使用する場合 必須 cjsetresprop で使用する場合 無視されます。
<context-root>	1 回	コンテキストルート。 指定できる文字は、URI (RFC3986) で使用できる文字です。ルート指定時は、空文字列またはスラッシュ (/) を指定してください。
<thread-control> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.17」	0 または 1 回	スレッド制御グループの設定。 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。
<thread-control-max-threads>	1 回	Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数。 占有スレッド数以上の値を指定してください。 1~1024
<thread-control-exclusive-threads>	1 回	占有スレッド数。 Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数以下の値を指定してください。 0~1024
<thread-control-queue-size>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちキューサイズ。 0~2147483647
<thread-control-stats-monitor> 「機能解説 運用/監視/連携編」 - 「3.4」	1 回	稼働統計の監視の設定。

タグ名				出現パターン	説明
			<whole-waiting-request-count>	1 回	Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視をします。
			<enabled>	1 回	Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。
			<high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する上限のしきい値を 1~100 の整数値 (単位: %) で指定します。デフォルトは 80 です。 ただし、<low-threshold>タグの指定値以上の値である必要があります。
			<low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値を 0~99 の整数値 (単位: %) で指定します。 デフォルトは 0 です。 ただし、<high-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。
			<waiting-request-count>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視をします。
			<enabled>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。
			<high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する上限のしきい値を 1~100 の整数値 (単位: %) で指定します。デフォルトは 80 です。 ただし、<low-threshold>タグの指定値以上の値である必要があります。
			<low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値を 0~99 の整数値 (単位: %) で指定します。 デフォルトは 0 です。 ただし、<high-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。

タグ名		出現パターン	説明
	<resource-watcher>	1 回	Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視に関するプロパティ。
	<watcher-threshold>	1 回	アラートメッセージを出力するしきい値。1~100 の整数値 (単位: %) を指定します。デフォルトは 80 です。
	<watcher-interval>	1 回	監視間隔。 1~2147483647 の整数値 (単位: 秒) で指定します。デフォルトは 30 です。
	<watcher-enabled>	1 回	Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視を有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。ただし、thread-control-queue-size に 0 を指定した場合、監視は無効となります。
	<watcher-writefile-enabled>	1 回	リソース使用状況をファイルに出力するかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (出力する) • false (出力しない) デフォルトは true です。
	<urlgroup-thread-control> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」-「2.18」	0 回以上	URL グループ単位の同時実行スレッド数制御。
	<urlgroup-thread-control-name>	1 回	URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名。 URL グループ単位の同時スレッド数制御の定義名には Web アプリケーション内で一意となる文字列を指定します。英数字 (0~9, A~Z, a~z), ハイフン (-) およびアンダースコア (_) が使用できます。文字列の長さは 1 ≤ 文字列長 ≤ 64 で指定してください。
	<urlgroup-thread-control-max-threads>	1 回	URL グループ単位の最大同時実行スレッド数。 1~thread-control-max-threads の整数値を指定します。
	<urlgroup-thread-control-exclusive-threads>	1 回	URL グループ単位の占有スレッド数。 指定できる値は、0~urlgroup-thread-control-max-threads かつ thread-

タグ名		出現パターン	説明
		<urlgroup-thread-control-exclusive-threads>	1 回 control-exclusive-threads 以下です。なお、<urlgroup-thread-control>を定義している場合は次の設定範囲を満たす必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • thread-control-max-threads ≠ thread-control-exclusive-threads の場合 thread-control-exclusive-threads ≥ urlgroup-thread-control-exclusive-threads の総和。 • thread-control-max-threads = thread-control-exclusive-threads の場合 thread-control-exclusive-threads > urlgroup-thread-control-exclusive-threads の総和。
		└ <urlgroup-thread-control-queue-size>	1 回 URL グループ単位の実行待ちキューのサイズ。 指定できる値は、0～2147483647 の整数値です。
		└ <urlgroup-thread-control-mapping>	0 回以上 制御対象となる URL のマッピング情報。
		└└ <url-pattern>	1 回 制御対象となる URL パターン。 一つの Web アプリケーション内で同じ URL パターンを指定することはできません。指定例を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • /soda/grape/* • /foo/* • /contents • *.foo
		└└└ <stats-monitor> 「機能解説 運用/監視/連携編」 - 「3.4」	1 回 稼働統計の設定。
		└└└ <waiting-request-count>	1 回 URL グループ単位の実行待ちリクエスト数を監視。
		└└└└ <enabled>	1 回 URL グループ単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (有効にする) • false (無効にする)
		└└└└ <high-threshold>	1 回 しきい値イベントを出力する上限しきい値。 指定できる値は、1～100 の整数値 (単位: %) です。なお、low-threshold 以上の値を指定してください。

タグ名	出現パターン	説明
 <ul style="list-style-type: none"> └ <low-threshold> 	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値。 指定できる値は、0~99の整数値（単位：%）です。なお、high-threshold以下の値を指定してください。
└ <http-request>	0 または 1 回	—
 <ul style="list-style-type: none"> └ <encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.6」 	0 または 1 回	リクエストボディ、およびクエリのデコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。*7 デフォルトは指定なしです。
└ <http-response>	0 または 1 回	—
 <ul style="list-style-type: none"> └ <encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.6」 	0 または 1 回	レスポンスボディのエンコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。*7 デフォルトは指定なしです。
└ <jsp>	0 または 1 回	—
 <ul style="list-style-type: none"> └ <page-encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.6」 	0 または 1 回	JSP ファイルの読み込みに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。*7 デフォルトは指定なしです。
└ <http-session>	0 または 1 回	—
 <ul style="list-style-type: none"> └ <http-session-max-number> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 - 「2.7.5」 	1 回	使用可能な HttpSession の最大数。 指定できる値は、-1~2147483647の整数値です。-1を指定した場合は無制限となります。デフォルトは、-1です。
 <ul style="list-style-type: none"> └ <resource-watcher> 	1 回	HttpSession 数の監視に関するプロパティを設定。
 <ul style="list-style-type: none"> └ <watcher-threshold> 	1 回	アラートメッセージを出力するしきい値。 指定できる値は、1~100の整数値（単位：%）です。デフォルトは 80 です。
 <ul style="list-style-type: none"> └ <watcher-interval> 	1 回	監視間隔。 指定できる値は、1~2147483647の整数値（単位：秒）です。デフォルトは 30 です。

タグ名		出現パターン	説明	
		ト <watcher-enabled>	1 回	<p>HttpSession 数の監視を有効にするかどうかの指定。</p> <p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true (有効にする) • false (無効にする) <p>デフォルトは true です。ただし、http-session-max-number に 0 を指定した場合、監視は無効となります。</p>
		ル <watcher-writefile-enabled>	1 回	<p>リソース使用状況をファイルに出力するかどうかの指定。指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true (出力する) • false (出力しない) <p>デフォルトは true です。</p>
	ル	<dbsfo> 「機能解説 拡張編」 – 「6 章」	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバー機能の設定を行う。
		ト <enabled>	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバー機能の有効、無効を設定する。有効の場合は "true", 無効の場合は "false" を指定する。
		ト <application-id>	0 または 1 回	アプリケーション識別子を設定する。英数字(0~9,A~Z,a~z), アンダースコア(_) だけ使用可。最大 16 文字。
		ト <attribute-data-size-max>	0 または 1 回	グローバルセッション情報に含めることが可能な HTTP セッションの属性情報の最大サイズを設定する。設定可能な範囲は 128~10485760 の整数値 (単位: バイト)。
	ル	<exclude-extensions>	0 または 1 回	<p>データベースセッションフェイルオーバー機能を抑止する拡張子を設定します。</p> <p>URL のパスが指定した拡張子と同じ場合、該当するリクエストでデータベースセッションフェイルオーバー機能は無効となります。指定した拡張子と URL の比較では大文字・小文字は区別しません。</p> <p>データベースセッションフェイルオーバー機能を抑止する拡張子を設定しない場合は、空文字列を設定します。</p> <p>次に示す文字を、512 文字以内で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英数字 • 括弧 ((), ()) • エクスクラメーション (!) • パーセント (%) • ドル記号 (\$)

タグ名	出現パターン	説明
<code><exclude-extensions></code>	0 または 1 回	<ul style="list-style-type: none"> • アンパサンド (&) • シングルクォート (') • プラス (+) • ハイフン (-) • イコール (=) • 単価記号 (@) • アンダースコア (_) • チルダ (~) • ピリオド (.) • コンマ (,) 拡張子を複数指定する場合は、コンマ (,) で区切って指定します。
<code><start-notify-error></code>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時にエラー通知をするかどうかの指定。 J2EE アプリケーションの開始時に、load-on-startup が指定されているサーブレット/JSP の初期化処理中や、taglib の解析中にエラーが発生した場合、エラーを通知してアプリケーションの開始を中断するかどうかを指定します。 指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true (エラーを通知する) • false (エラーを通知しない) デフォルト値は true です。
<code><start-order></code>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時および停止時の順番。 開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。 $0 \leq \text{start-order} \leq 2147483647$
-	-	-

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en (英語)」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

mime-mapping タグで指定する拡張子と MIME タイプの対応づけのデフォルト値については、マニュアル「アプリケーションサーバリファレンス 定義編(サーバ定義)」の「付録 B.1 拡張子と MIME タイプの対応づけ」を参照してください。

注※4

error-code または exception-type のどちらかです。

注※5

cigetappprop, cigetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※6

アノテーションの設定値の場合は、値の変更をしてはいけません。

注※7

デフォルトの文字エンコーディングとして設定できる文字は、JavaVM がサポートしている文字エンコーディングとなります。JavaVM がサポートしている文字エンコーディングについては、JDK のドキュメントのサポートされているエンコーディングに関する説明を参照してください。また、指定できる文字列は、java.nio API 用の正準名と java.lang API 用の正準名に記載されている文字エンコーディング、およびそれらの別名となります。

3.7.2 DD との対応

WAR 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

(1) Servlet2.3 の場合

WAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-war-property>	1 回	<web-app>	1 回
┆ <description>	0 または 1 回	┆ <description>	0 または 1 回
┆ <display-name>	1 回	┆ <display-name>	0 または 1 回
┆ <icon>	0 または 1 回	┆ <icon>	0 または 1 回
┆ ┆ <small-icon>	0 または 1 回	┆ ┆ <small-icon>	0 または 1 回
┆ ┆ <large-icon>	0 または 1 回	┆ ┆ <large-icon>	0 または 1 回
┆ <distributable>	0 または 1 回	┆ <distributable>	0 回以上
┆ <context-param>	0 回以上	┆ <context-param>	0 回以上
┆ ┆ <description>	0 または 1 回	┆ ┆ <description>	0 または 1 回
┆ ┆ <param-name>	1 回	┆ ┆ <param-name>	1 回
┆ ┆ <param-value>	1 回	┆ ┆ <param-value>	1 回
┆ <filter-mapping>	0 回以上	┆ <filter-mapping>	0 回以上
┆ ┆ <filter-name>	1 回	┆ ┆ <filter-name>	1 回
┆ ┆ <url-pattern>*1	1 回	┆ ┆ <url-pattern>*1	1 回
┆ ┆ <servlet-name>*1	1 回	┆ ┆ <servlet-name>*1	1 回
┆ <listener>	0 回以上	┆ <listener>	0 回以上
┆ ┆ <listener-class>	1 回	┆ ┆ <listener-class>	1 回
┆ ┆ ┆	┆	┆ (省略)	┆
┆ <session-config>	0 または 1 回	┆ <session-config>	0 または 1 回

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor						
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン				
	└	<session-timeout>	0 または 1 回		└	<session-timeout>	0 または 1 回		
┌		<mime-mapping>	0 回以上	┌		<mime-mapping>	0 回以上		
	┌	<extension>	1 回		┌	<extension>	1 回		
	└	<mime-type>	1 回		└	<mime-type>	1 回		
┌		<welcome-file-list>	0 または 1 回	┌		<welcome-file-list>	0 または 1 回		
	└	<welcome-file>	1 回以上		└	<welcome-file>	1 回以上		
┌		<error-page>	0 回以上	┌		<error-page>	0 回以上		
	┌	<error-code>*2	1 回		┌	<error-code>*2	1 回		
	┌	<exception-type>*2	1 回		┌	<exception-type>*2	1 回		
	└	<location>	1 回		└	<location>	1 回		
┌		<taglib>	0 回以上	┌		<taglib>	0 回以上		
	┌	<taglib-uri>	1 回		┌	<taglib-uri>	1 回		
	└	<taglib-location>	1 回		└	<taglib-location>	1 回		
┌		<security-constraint>	0 回以上	┌		<security-constraint>	0 回以上		
	┌	<display-name>	0 または 1 回		┌	<display-name>	0 または 1 回		
	┌	<web-resource-collection>	1 回以上		┌	<web-resource-collection>	1 回以上		
		┌	<description>	0 または 1 回			┌	<description>	0 または 1 回
		┌	<web-resource-name>	1 回			┌	<web-resource-name>	1 回
		┌	<url-pattern>	0 回以上			┌	<url-pattern>	0 回以上
		└	<http-method>	0 回以上			└	<http-method>	0 回以上
	┌	<auth-constraint>	0 または 1 回		┌	<auth-constraint>	0 または 1 回		
		┌	<description>	0 または 1 回			┌	<description>	0 または 1 回
		└	<role-name>	0 回以上			└	<role-name>	0 回以上
	┌	<user-data-constraint>	0 または 1 回		└	<user-data-constraint>	0 または 1 回		
		┌	<description>	0 または 1 回			┌	<description>	0 または 1 回
		└	<transport-guarantee>	1 回			└	<transport-guarantee>	1 回
	└	<original-name>	1 回			-	-		
┌		<login-config>	0 または 1 回	┌		<login-config>	0 または 1 回		
	┌	<auth-method>	0 または 1 回		┌	<auth-method>	0 または 1 回		
	┌	<realm-name>	0 または 1 回		┌	<realm-name>	0 または 1 回		

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor				
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン		
	└	<form-login-config>	0 または 1 回		└	<form-login-config>	0 または 1 回
	┌	<form-login-page>	1 回		┌	<form-login-page>	1 回
	└	<form-error-page>	1 回		└	<form-error-page>	1 回
┌		<security-role>	0 回以上	┌		<security-role>	0 回以上
	┌	<description>	0 または 1 回		┌	<description>	0 または 1 回
	┌	<role-name>	1 回		└	<role-name>	1 回
	└	<linked-to>	0 または 1 回			-	-
┌		<env-entry>	0 回以上	┌		<env-entry>	0 回以上
	┌	<description>	0 または 1 回		┌	<description>	0 または 1 回
	┌	<env-entry-name>	1 回		┌	<env-entry-name>	1 回
	┌	<env-entry-type>	1 回		┌	<env-entry-type>	1 回
	└	<env-entry-value>	1 回		└	<env-entry-value>	0 または 1 回
┌		<ejb-ref>	0 回以上	┌		<ejb-ref>	0 回以上
	┌	<description>	0 または 1 回		┌	<description>	0 または 1 回
	┌	<ejb-ref-name>	1 回		┌	<ejb-ref-name>	1 回
	┌	<ejb-ref-type>	1 回		┌	<ejb-ref-type>	1 回
	┌	<home>	1 回		┌	<home>	1 回
	┌	<remote>	1 回		┌	<remote>	1 回
	└	<ejb-link>	0 または 1 回		└	<ejb-link>	0 または 1 回
┌		<ejb-local-ref>	0 回以上	┌		<ejb-local-ref>	0 回以上
	┌	<description>	0 または 1 回		┌	<description>	0 または 1 回
	┌	<ejb-ref-name>	1 回		┌	<ejb-ref-name>	1 回
	┌	<ejb-ref-type>	1 回		┌	<ejb-ref-type>	1 回
	┌	<local-home>	1 回		┌	<local-home>	1 回
	┌	<local>	1 回		┌	<local>	1 回
	└	<ejb-link>	0 または 1 回		└	<ejb-link>	0 または 1 回
┌		<resource-ref>	0 回以上	┌		<resource-ref>	0 回以上
	┌	<description>	0 または 1 回		┌	<description>	0 または 1 回
	┌	<res-ref-name>	1 回		┌	<res-ref-name>	1 回
	┌	<res-type>	1 回		┌	<res-type>	1 回

WAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<res-auth>	1 回	<res-auth>	1 回
<res-sharing-scope>	0 または 1 回	<res-sharing-scope>	0 または 1 回
<linked-to>	0 または 1 回	-	-
<resource-env-ref>	0 回以上	<resource-env-ref>	0 回以上
<description>	0 または 1 回	<description>	0 または 1 回
<resource-env-ref-name>	1 回	<resource-env-ref-name>	1 回
<resource-env-ref-type>	1 回	<resource-env-ref-type>	1 回
<linked-queue>	0 または 1 回	-	-
<resource-adapter>	1 回	-	-
<queue>	1 回	-	-
<linked-adminobject>	0 または 1 回	-	-
<resourceadapter-name>	1 回	-	-
<adminobject-name>	1 回	-	-
<runtime>	0 または 1 回	-	-
<context-root>	1 回	-	-
- - - - -	-	- - - - -	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略) : タグを省略しています。

注※1

<url-pattern>と<servlet-name>のどちらか一つを指定します。

注※2

<error-code>と<exception-type>のどちらか一つを指定します。

(2) Servlet2.4 の場合

WAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-war-property>	1 回	<web-app>	1 回
<description>	0 回以上	<description>	0 回以上
<display-name>	1 回以上	<display-name>	0 回以上
<icon>	0 回以上	<icon>	0 回以上
<small-icon>	0 または 1 回	<small-icon>	0 または 1 回

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

WAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
⊣ <large-icon>	0 または 1 回	⊣ <large-icon>	0 または 1 回
⊢ <distributable>	0 または 1 回	⊢ <distributable>	0 回以上
⊢ <context-param>	0 回以上	⊢ <context-param>	0 回以上
⊢ <description>	0 回以上	⊢ <description>	0 回以上
⊢ <param-name>	1 回	⊢ <param-name>	1 回
⊣ <param-value>	1 回	⊣ <param-value>	1 回
⊢ <filter-mapping>	0 回以上	⊢ <filter-mapping>	0 回以上
⊢ <filter-name>	1 回	⊢ <filter-name>	1 回
⊢ <url-pattern>*1	1 回	⊢ <url-pattern>*1	1 回
⊢ <servlet-name>*1	1 回	⊢ <servlet-name>*1	1 回
⊣ <dispatcher>	0 または 4 回以下	⊣ <dispatcher>	0 または 4 回以下
⊢ <listener>	0 回以上	⊢ <listener>	0 回以上
⊢ <description>	0 回以上	⊢ <description>	0 回以上
⊢ <display-name>	0 回以上	⊢ <display-name>	0 回以上
⊢ <icon>	0 回以上	⊢ <icon>	0 回以上
⊢ <small-icon>	0 または 1 回	⊢ <small-icon>	0 または 1 回
⊣ <large-icon>	0 または 1 回	⊣ <large-icon>	0 または 1 回
⊣ <listener-class>	1 回	⊣ <listener-class>	1 回
-	-	(省略)	-
⊢ <session-config>	0 回以上	⊢ <session-config>	0 回以上
⊣ <session-timeout>	0 または 1 回	⊣ <session-timeout>	0 または 1 回
⊢ <mime-mapping>	0 回以上	⊢ <mime-mapping>	0 回以上
⊢ <extension>	1 回	⊢ <extension>	1 回
⊣ <mime-type>	1 回	⊣ <mime-type>	1 回
⊢ <welcome-file-list>	0 回以上	⊢ <welcome-file-list>	0 回以上
⊣ <welcome-file>	1 回以上	⊣ <welcome-file>	1 回以上
⊢ <error-page>	0 回以上	⊢ <error-page>	0 回以上
⊢ <error-code>*2	1 回	⊢ <error-code>*2	1 回
⊢ <exception-type>*2	1 回	⊢ <exception-type>*2	1 回

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor						
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン				
	└	<location>	1 回		└	<location>	1 回		
	┌	<jsp-config>	0 回以上		┌	<jsp-config>	0 回以上		
	┌	<taglib>	0 回以上		┌	<taglib>	0 回以上		
		┌	<taglib-uri>	1 回			┌	<taglib-uri>	1 回
		└	<taglib-location>	1 回			└	<taglib-location>	1 回
	└	<jsp-property-group>	0 回以上		└	<jsp-property-group>	0 回以上		
	┌	<description>	0 回以上		┌	<description>	0 回以上		
	┌	<display-name>	0 回以上		┌	<display-name>	0 回以上		
	┌	<icon>	0 回以上		┌	<icon>	0 回以上		
		┌	<small-icon>	0 または 1 回			┌	<small-icon>	0 または 1 回
		└	<large-icon>	0 または 1 回			└	<large-icon>	0 または 1 回
	┌	<url-pattern>	1 回以上		┌	<url-pattern>	1 回以上		
	┌	<el-ignored>	0 または 1 回		┌	<el-ignored>	0 または 1 回		
	┌	<page-encoding>	0 または 1 回		┌	<page-encoding>	0 または 1 回		
	┌	<scripting-invalid>	0 または 1 回		┌	<scripting-invalid>	0 または 1 回		
	┌	<is-xml>	0 または 1 回		┌	<is-xml>	0 または 1 回		
	┌	<include-prelude>	0 回以上		┌	<include-prelude>	0 回以上		
	└	<include-coda>	0 回以上		└	<include-coda>	0 回以上		
	┌	<security-constraint>	0 回以上		┌	<security-constraint>	0 回以上		
	┌	<display-name>	0 回以上		┌	<display-name>	0 回以上		
	┌	<web-resource-collection>	1 回以上		┌	<web-resource-collection>	1 回以上		
		┌	<description>	0 回以上			┌	<description>	0 回以上
		┌	<web-resource-name>	1 回			┌	<web-resource-name>	1 回
		┌	<url-pattern>	1 回以上			┌	<url-pattern>	1 回以上
		└	<http-method>	0 回以上			└	<http-method>	0 回以上
	┌	<auth-constraint>	0 または 1 回		┌	<auth-constraint>	0 または 1 回		
		┌	<description>	0 回以上			┌	<description>	0 回以上
		└	<role-name>	0 回以上			└	<role-name>	0 回以上
	┌	<user-data-constraint>	0 または 1 回		┌	<user-data-constraint>	0 または 1 回		
		┌	<description>	0 回以上			┌	<description>	0 回以上

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名		出現パターン
		└ <transport-guarantee>	1 回		└ <transport-guarantee>	1 回
		└ <original-name>	1 回		└ -	-
┌		<login-config>	0 回以上	┌	<login-config>	0 回以上
	┌	<auth-method>	0 または 1 回		┌ <auth-method>	0 または 1 回
	┌	<realm-name>	0 または 1 回		┌ <realm-name>	0 または 1 回
	└	<form-login-config>	0 または 1 回		└ <form-login-config>	0 または 1 回
		┌ <form-login-page>	1 回		┌ <form-login-page>	1 回
		└ <form-error-page>	1 回		└ <form-error-page>	1 回
┌		<security-role>	0 回以上	┌	<security-role>	0 回以上
	┌	<description>	0 回以上		┌ <description>	0 回以上
	┌	<role-name>	1 回		└ <role-name>	1 回
	└	<linked-to>	0 または 1 回		└ -	-
┌		<env-entry>	0 回以上	┌	<env-entry>	0 回以上
	┌	<description>	0 回以上		┌ <description>	0 回以上
	┌	<env-entry-name>	1 回		┌ <env-entry-name>	1 回
	┌	<env-entry-type>	1 回		┌ <env-entry-type>	1 回
	┌	<env-entry-value>	1 回		└ <env-entry-value>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└ -	-
		┌ <injection-target-class>	1 回		└ -	-
		└ <injection-target-name>	1 回		└ -	-
┌		<ejb-ref>	0 回以上	┌	<ejb-ref>	0 回以上
	┌	<description>	0 回以上		┌ <description>	0 回以上
	┌	<ejb-ref-name>	1 回		┌ <ejb-ref-name>	1 回
	┌	<ejb-ref-type>	1 回		┌ <ejb-ref-type>	1 回
	┌	<home>	1 回		┌ <home>	1 回
	┌	<remote>	1 回		┌ <remote>	1 回
	┌	<ejb-link>	0 または 1 回		└ <ejb-link>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└ -	-
		┌ <injection-target-class>	1 回		└ -	-
		└ <injection-target-name>	1 回		└ -	-

WAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
┆ <ejb-local-ref>	0 回以上	┆ <ejb-local-ref>	0 回以上
┆ ┆ <description>	0 回以上	┆ ┆ <description>	0 回以上
┆ ┆ <ejb-ref-name>	1 回	┆ ┆ <ejb-ref-name>	1 回
┆ ┆ <ejb-ref-type>	1 回	┆ ┆ <ejb-ref-type>	1 回
┆ ┆ <local-home>	1 回	┆ ┆ <local-home>	1 回
┆ ┆ <local>	1 回	┆ ┆ <local>	1 回
┆ ┆ <ejb-link>	0 または 1 回	┆ ┆ <ejb-link>	0 または 1 回
┆ ┆ ┆ <injection-target>	0 回以上	┆ ┆ ┆ -	-
┆ ┆ ┆ ┆ <injection-target-class>	1 回	┆ ┆ ┆ ┆ -	-
┆ ┆ ┆ ┆ <injection-target-name>	1 回	┆ ┆ ┆ ┆ -	-
┆ <resource-ref>	0 回以上	┆ <resource-ref>	0 回以上
┆ ┆ <description>	0 回以上	┆ ┆ <description>	0 回以上
┆ ┆ <res-ref-name>	1 回	┆ ┆ <res-ref-name>	1 回
┆ ┆ <res-type>	1 回	┆ ┆ <res-type>	1 回
┆ ┆ <res-auth>	1 回	┆ ┆ <res-auth>	1 回
┆ ┆ <res-sharing-scope>	0 または 1 回	┆ ┆ ┆ <res-sharing-scope>	0 または 1 回
┆ ┆ <mapped-name>	0 または 1 回	┆ ┆ ┆ -	-
┆ ┆ ┆ <injection-target>	0 回以上	┆ ┆ ┆ -	-
┆ ┆ ┆ ┆ <injection-target-class>	1 回	┆ ┆ ┆ ┆ -	-
┆ ┆ ┆ ┆ <injection-target-name>	1 回	┆ ┆ ┆ ┆ -	-
┆ ┆ ┆ <linked-to>	0 または 1 回	┆ ┆ ┆ -	-
┆ <resource-env-ref>	0 回以上	┆ <resource-env-ref>	0 回以上
┆ ┆ <description>	0 回以上	┆ ┆ <description>	0 回以上
┆ ┆ <resource-env-ref-name>	1 回	┆ ┆ <resource-env-ref-name>	1 回
┆ ┆ <resource-env-ref-type>	1 回	┆ ┆ ┆ <resource-env-ref-type>	1 回
┆ ┆ <mapped-name>	0 または 1 回	┆ ┆ ┆ -	-
┆ ┆ ┆ <injection-target>	0 回以上	┆ ┆ ┆ -	-
┆ ┆ ┆ ┆ <injection-target-class>	1 回	┆ ┆ ┆ ┆ -	-
┆ ┆ ┆ ┆ <injection-target-name>	1 回	┆ ┆ ┆ ┆ -	-
┆ ┆ ┆ <linked-queue>	0 または 1 回	┆ ┆ ┆ -	-

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
		┆	<resource-adapter>	1 回			-
		┆	<queue>	1 回			-
		┆	<linked-adminobject>	0 または 1 回			-
		┆	<resourceadapter-name>	1 回			-
		┆	<adminobject-name>	1 回			-
┆			<locale-encoding-mapping-list>	0 回以上	┆		<locale-encoding-mapping-list>
		┆	<locale-encoding-mapping>	1 回以上		┆	<locale-encoding-mapping>
		┆	<locale>	1 回		┆	<locale>
		┆	<encoding>	1 回		┆	<encoding>
	┆		<runtime>	0 または 1 回			-
		┆	<context-root>	1 回			-
-	-	-	-	-	-	-	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略) : タグを省略しています。

注※1

<url-pattern>と<servlet-name>のどちらか一つを指定します。

注※2

<error-code>と<exception-type>のどちらか一つを指定します。

(3) Servlet2.5 の場合

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
			<hitachi-war-property>	1 回			<web-app>
┆			<description>	0 回以上	┆		<description>
┆			<display-name>	1 回以上	┆		<display-name>
┆			<icon>	0 回以上	┆		<icon>
	┆		<small-icon>	0 または 1 回		┆	<small-icon>
		┆	<large-icon>	0 または 1 回			┆
┆			<distributable>	0 または 1 回	┆		<distributable>
┆			<context-param>	0 回以上	┆		<context-param>
	┆		<description>	0 回以上		┆	<description>

WAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<param-name>	1 回	<param-name>	1 回
<param-value>	1 回	<param-value>	1 回
<filter-mapping>	0 回以上	<filter-mapping>	0 回以上
<filter-name>	1 回	<filter-name>	1 回
<url-pattern>*1	1 回以上	<url-pattern>*1	1 回以上
<servlet-name>*1	1 回以上	<servlet-name>*1	1 回以上
<dispatcher>	0 または 4 回以下	<dispatcher>	0 または 4 回以下
<listener>	0 回以上	<listener>	0 回以上
<description>	0 回以上	<description>	0 回以上
<display-name>	0 回以上	<display-name>	0 回以上
<icon>	0 回以上	<icon>	0 回以上
<small-icon>	0 または 1 回	<small-icon>	0 または 1 回
<large-icon>	0 または 1 回	<large-icon>	0 または 1 回
<listener-class>	1 回	<listener-class>	1 回
-	-	(省略)	-
<session-config>	0 回以上	<session-config>	0 回以上
<session-timeout>	0 または 1 回	<session-timeout>	0 または 1 回
<mime-mapping>	0 回以上	<mime-mapping>	0 回以上
<extension>	1 回	<extension>	1 回
<mime-type>	1 回	<mime-type>	1 回
<welcome-file-list>	0 回以上	<welcome-file-list>	0 回以上
<welcome-file>	1 回以上	<welcome-file>	1 回以上
<error-page>	0 回以上	<error-page>	0 回以上
<error-code>*2	1 回	<error-code>*2	1 回
<exception-type>*2	1 回	<exception-type>*2	1 回
<location>	1 回	<location>	1 回
<jsp-config>	0 回以上	<jsp-config>	0 回以上
<taglib>	0 回以上	<taglib>	0 回以上
<taglib-uri>	1 回	<taglib-uri>	1 回

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor					
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン		
		└	<taglib-location>	1 回			└	<taglib-location>	1 回
		└	<jsp-property-group>	0 回以上			└	<jsp-property-group>	0 回以上
		┌	<description>	0 回以上			┌	<description>	0 回以上
		┌	<display-name>	0 回以上			┌	<display-name>	0 回以上
		┌	<icon>	0 回以上			┌	<icon>	0 回以上
		┌	<small-icon>	0 または 1 回			┌	<small-icon>	0 または 1 回
		└	<large-icon>	0 または 1 回			└	<large-icon>	0 または 1 回
		┌	<url-pattern>	1 回以上			┌	<url-pattern>	1 回以上
		┌	<el-ignored>	0 または 1 回			┌	<el-ignored>	0 または 1 回
		┌	<page-encoding>	0 または 1 回			┌	<page-encoding>	0 または 1 回
		┌	<scripting-invalid>	0 または 1 回			┌	<scripting-invalid>	0 または 1 回
		┌	<is-xml>	0 または 1 回			┌	<is-xml>	0 または 1 回
		┌	<include-prelude>	0 回以上			┌	<include-prelude>	0 回以上
		└	<inclide-coda>	0 回以上			└	<inclide-coda>	0 回以上
		┌	<deferred-syntax-allowed-as-literal>	0 または 1 回			┌	<deferred-syntax-allowed-as-literal>	0 または 1 回
		└	<trim-directive-whitespaces>	0 または 1 回			└	<trim-directive-whitespaces>	0 または 1 回
		┌	<security-constraint>	0 回以上			┌	<security-constraint>	0 回以上
		┌	<display-name>	0 回以上			┌	<display-name>	0 回以上
		┌	<web-resource-collection>	1 回以上			┌	<web-resource-collection>	1 回以上
		┌	<description>	0 回以上			┌	<description>	0 回以上
		┌	<web-resource-name>	1 回			┌	<web-resource-name>	1 回
		┌	<url-pattern>	1 回以上			┌	<url-pattern>	1 回以上
		└	<http-method>	0 回以上			└	<http-method>	0 回以上
		┌	<auth-constraint>	0 または 1 回			┌	<auth-constraint>	0 または 1 回
		┌	<description>	0 回以上			┌	<description>	0 回以上
		└	<role-name>	0 回以上			└	<role-name>	0 回以上
		┌	<user-data-constraint>	0 または 1 回			└	<user-data-constraint>	0 または 1 回
		┌	<description>	0 回以上			┌	<description>	0 回以上
		└	<transport-guarantee>	1 回			└	<transport-guarantee>	1 回

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
	└	<original-name>	1 回		└
	┌	<login-config>	0 回以上		┌
	┌	<auth-method>	0 または 1 回		┌
	┌	<realm-name>	0 または 1 回		┌
	└	<form-login-config>	0 または 1 回		└
	┌	<form-login-page>	1 回		┌
	└	<form-error-page>	1 回		└
	┌	<security-role>	0 回以上		┌
	┌	<description>	0 回以上		┌
	┌	<role-name>	1 回		└
	└	<linked-to>	0 または 1 回		└
	┌	<env-entry>	0 回以上		┌
	┌	<description>	0 回以上		┌
	┌	<env-entry-name>	1 回		┌
	┌	<env-entry-type>	0 または 1 回		┌
	┌	<env-entry-value>	1 回		┌
		└	└		┌
	└	<injection-target>	0 回以上		└
	┌	<injection-target-class>	1 回		┌
	└	<injection-target-name>	1 回		└
	┌	<ejb-ref>	0 回以上		┌
	┌	<description>	0 回以上		┌
	┌	<ejb-ref-name>	1 回		┌
	┌	<ejb-ref-type>	0 または 1 回		┌
	┌	<home>	0 または 1 回		┌
	┌	<remote>	0 または 1 回		┌
	┌	<ejb-link>	0 または 1 回		┌
		└	└		┌
	└	<injection-target>	0 回以上		└
	┌	<injection-target-class>	1 回		┌

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor				
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン		
	└	<injection-target-name>	1 回		└	<injection-target-name>	1 回
	┌	<ejb-local-ref>	0 回以上		┌	<ejb-local-ref>	0 回以上
	┌	<description>	0 回以上		┌	<description>	0 回以上
	┌	<ejb-ref-name>	1 回		┌	<ejb-ref-name>	1 回
	┌	<ejb-ref-type>	0 または 1 回		┌	<ejb-ref-type>	0 または 1 回
	┌	<local-home>	0 または 1 回		┌	<local-home>	0 または 1 回
	┌	<local>	0 または 1 回		┌	<local>	0 または 1 回
	┌	<ejb-link>	0 または 1 回		┌	<ejb-link>	0 または 1 回
		—			┌	<mapped-name>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
	┌	<injection-target-class>	1 回		┌	<injection-target-class>	1 回
	└	<injection-target-name>	1 回		└	<injection-target-name>	1 回
	┌	<resource-ref>	0 回以上		┌	<resource-ref>	0 回以上
	┌	<description>	0 回以上		┌	<description>	0 回以上
	┌	<res-ref-name>	1 回		┌	<res-ref-name>	1 回
	┌	<res-type>	0 または 1 回		┌	<res-type>	0 または 1 回
	┌	<res-auth>	0 または 1 回		┌	<res-auth>	0 または 1 回
	┌	<res-sharing-scope>	0 または 1 回		┌	<res-sharing-scope>	0 または 1 回
	┌	<mapped-name>	0 または 1 回		┌	<mapped-name>	0 または 1 回
	┌	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		<injection-target-class>	1 回		┌	<injection-target-class>	1 回
		<injection-target-name>	1 回		└	<injection-target-name>	1 回
	└	<linked-to>	0 または 1 回			—	—
	┌	<resource-env-ref>	0 回以上		┌	<resource-env-ref>	0 回以上
	┌	<description>	0 回以上		┌	<description>	0 回以上
	┌	<resource-env-ref-name>	1 回		┌	<resource-env-ref-name>	1 回
	┌	<resource-env-ref-type>	0 または 1 回		┌	<resource-env-ref-type>	0 または 1 回
	┌	<mapped-name>	0 または 1 回		┌	<mapped-name>	0 または 1 回
	┌	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		<injection-target-class>	1 回		┌	<injection-target-class>	1 回

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
		└ <linked-queue>	0 または 1 回			—	—
		└ <resource-adapter>	1 回			—	—
		└ <queue>	1 回			—	—
		└ <linked-adminobject>	0 または 1 回			—	—
		└ <resourceadapter-name>	1 回			—	—
		└ <adminobject-name>	1 回			—	—
		└ <persistence-context-ref>	0 回以上			└ <persistence-context-ref>	0 回以上
		└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
		└ <persistence-context-ref-name>	1 回			└ <persistence-context-ref-name>	1 回
		└ <persistence-unit-name>	0 または 1 回			└ <persistence-unit-name>	0 または 1 回
		└ <persistence-context-type>	0 または 1 回			└ <persistence-context-type>	0 または 1 回
		└ <persistence-property>	0 回以上			└ <persistence-property>	0 回以上
		└ <name>	1 回			└ <name>	1 回
		└ <value>	1 回			└ <value>	1 回
		—	—			└ <mapped-name>	0 または 1 回
		└ <injection-target>	0 回以上			└ <injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
		└ <persistence-unit-ref>	0 回以上			└ <persistence-unit-ref>	0 回以上
		└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
		└ <persistence-unit-ref-name>	1 回			└ <persistence-unit-ref-name>	1 回
		└ <persistence-unit-name>	0 または 1 回			└ <persistence-unit-name>	0 または 1 回
		—	—			└ <mapped-name>	0 または 1 回
		└ <injection-target>	0 回以上			└ <injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
		└ <post-construct>	0 回以上			└ <post-construct>	0 回以上
		└ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回			└ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回
		└ <lifecycle-callback-method>	1 回			└ <lifecycle-callback-method>	1 回

WAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
┆ <pre-destroy>	0 回以上	┆ <pre-destroy>	0 回以上
┆ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	┆ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回
┆ <lifecycle-callback-method>	1 回	┆ <lifecycle-callback-method>	1 回
┆ <locale-encoding-mapping-list>	0 回以上	┆ <locale-encoding-mapping-list>	0 回以上
┆ <locale-encoding-mapping>	1 回以上	┆ <locale-encoding-mapping>	1 回以上
┆ <locale>	1 回	┆ <locale>	1 回
┆ <encoding>	1 回	┆ <encoding>	1 回
┆ <runtime>	0 または 1 回	┆	┆
┆ <context-root>	1 回	┆	┆
┆ ┆ ┆ ┆ ┆	┆	┆ ┆ ┆ ┆ ┆	┆

(凡例)

┆ : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略) : タグを省略しています。

注※1

<url-pattern>と<servlet-name>のどちらか一つまたは両方を指定します。

注※2

<error-code>と<exception-type>のどちらか一つを指定します。

(4) Servlet3.0 の場合

WAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-war-property>	1 回	<web-app>	1 回
┆ <description>	0 回以上	┆ <description>	0 回以上
┆ <display-name>	1 回以上	┆ <display-name>	0 回以上
┆ <icon>	0 回以上	┆ <icon>	0 回以上
┆ <small-icon>	0 または 1 回	┆ <small-icon>	0 または 1 回
┆ <large-icon>	0 または 1 回	┆ <large-icon>	0 または 1 回
┆ <distributable>	0 または 1 回	┆ <distributable>	0 回以上
┆ <context-param>	0 回以上	┆ <context-param>	0 回以上
┆ <description>	0 回以上	┆ <description>	0 回以上
┆ <param-name>	1 回	┆ <param-name>	1 回
┆ <param-value>	1 回	┆ <param-value>	1 回

WAR 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
┌ <filter-mapping>	0 回以上	┌ <filter-mapping>	0 回以上
└ ┌ <filter-name>	1 回	└ ┌ <filter-name>	1 回
└ ┌ <url-pattern>*1	1 回以上	└ ┌ <url-pattern>*1	1 回以上
└ ┌ <servlet-name>*1	1 回以上	└ ┌ <servlet-name>*1	1 回以上
└ └ ┌ <dispatcher>	0 または 5 回以下	└ └ ┌ <dispatcher>	0 または 5 回以下
└ <listener>	0 回以上	└ <listener>	0 回以上
└ ┌ <description>	0 回以上	└ ┌ <description>	0 回以上
└ ┌ <display-name>	0 回以上	└ ┌ <display-name>	0 回以上
└ ┌ <icon>	0 回以上	└ ┌ <icon>	0 回以上
└ └ ┌ <small-icon>	0 または 1 回	└ └ ┌ <small-icon>	0 または 1 回
└ └ └ ┌ <large-icon>	0 または 1 回	└ └ └ ┌ <large-icon>	0 または 1 回
└ └ ┌ <listener-class>	1 回	└ └ ┌ <listener-class>	1 回
└ ─	─	└ (省略)	─
└ <session-config>	0 回以上	└ <session-config>	0 回以上
└ └ ┌ <session-timeout>	0 または 1 回	└ └ ┌ <session-timeout>	0 または 1 回
└ <mime-mapping>	0 回以上	└ <mime-mapping>	0 回以上
└ ┌ <extension>	1 回	└ ┌ <extension>	1 回
└ └ ┌ <mime-type>	1 回	└ └ ┌ <mime-type>	1 回
└ <welcome-file-list>	0 回以上	└ <welcome-file-list>	0 回以上
└ └ ┌ <welcome-file>	1 回以上	└ └ ┌ <welcome-file>	1 回以上
└ <error-page>	0 回以上	└ <error-page>	0 回以上
└ ┌ <error-code>*2	どちらか 1 回, またはどちら もなし	└ ┌ <error-code>*2	どちらか 1 回, またはどちらも なし
└ ┌ <exception-type>*2	どちらか 1 回, またはどちら もなし	└ ┌ <exception-type>*2	どちらか 1 回, またはどちらも なし
└ └ ┌ <location>	1 回	└ └ ┌ <location>	1 回
└ <jsp-config>	0 回以上	└ <jsp-config>	0 回以上
└ ┌ <taglib>	0 回以上	└ ┌ <taglib>	0 回以上
└ └ ┌ <taglib-uri>	1 回	└ └ ┌ <taglib-uri>	1 回

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor				
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン		
		<taglib-location>	1 回			<taglib-location>	1 回
	└	<jsp-property-group>	0 回以上		└	<jsp-property-group>	0 回以上
	┌	<description>	0 回以上		┌	<description>	0 回以上
	┌	<display-name>	0 回以上		┌	<display-name>	0 回以上
	┌	<icon>	0 回以上		┌	<icon>	0 回以上
		┌ <small-icon>	0 または 1 回			┌ <small-icon>	0 または 1 回
		└ <large-icon>	0 または 1 回			└ <large-icon>	0 または 1 回
	┌	<url-pattern>	1 回以上		┌	<url-pattern>	1 回以上
	┌	<el-ignored>	0 または 1 回		┌	<el-ignored>	0 または 1 回
	┌	<page-encoding>	0 または 1 回		┌	<page-encoding>	0 または 1 回
	┌	<scripting-invalid>	0 または 1 回		┌	<scripting-invalid>	0 または 1 回
	┌	<is-xml>	0 または 1 回		┌	<is-xml>	0 または 1 回
	┌	<include-prelude>	0 回以上		┌	<include-prelude>	0 回以上
	└	<inclide-coda>	0 回以上		└	<inclide-coda>	0 回以上
	┌	<deferred-syntax-allowed-as-literal>	0 または 1 回		┌	<deferred-syntax-allowed-as-literal>	0 または 1 回
	└	<trim-directive-whitespaces>	0 または 1 回		└	<trim-directive-whitespaces>	0 または 1 回
┌		<security-constraint>	0 回以上	┌		<security-constraint>	0 回以上
	┌	<display-name>	0 回以上		┌	<display-name>	0 回以上
	┌	<web-resource-collection>	1 回以上		┌	<web-resource-collection>	1 回以上
		┌ <description>	0 回以上			┌ <description>	0 回以上
		┌ <web-resource-name>	1 回			┌ <web-resource-name>	1 回
		┌ <url-pattern>	0 回以上			┌ <url-pattern>	1 回以上
		┌ <http-method>*3	0 回以上			┌ <http-method>*3	0 回以上
		└ <http-method-omission>*3	0 回以上			└ <http-method-omission>*3	0 回以上
	┌	<auth-constraint>	0 または 1 回		┌	<auth-constraint>	0 または 1 回
		┌ <description>	0 回以上			┌ <description>	0 回以上
		└ <role-name>	0 回以上			└ <role-name>	0 回以上
	┌	<user-data-constraint>	0 または 1 回		┌	<user-data-constraint>	0 または 1 回

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
		┆ <description>	0 回以上			┆ <description>	0 回以上
		┆ <transport-guarantee>	1 回			┆ <transport-guarantee>	1 回
	┆	<original-name>	1 回			—	—
┆		<login-config>	0 回以上	┆		<login-config>	0 回以上
	┆	<auth-method>	0 または 1 回		┆	<auth-method>	0 または 1 回
	┆	<realm-name>	0 または 1 回		┆	<realm-name>	0 または 1 回
	┆	<form-login-config>	0 または 1 回		┆	<form-login-config>	0 または 1 回
		┆ <form-login-page>	1 回			┆ <form-login-page>	1 回
		┆ <form-error-page>	1 回			┆ <form-error-page>	1 回
┆		<security-role>	0 回以上	┆		<security-role>	0 回以上
	┆	<description>	0 回以上		┆	<description>	0 回以上
	┆	<role-name>	1 回		┆	<role-name>	1 回
	┆	<linked-to>	0 または 1 回			—	—
┆		<env-entry>	0 回以上	┆		<env-entry>	0 回以上
	┆	<description>	0 回以上		┆	<description>	0 回以上
	┆	<env-entry-name>	1 回		┆	<env-entry-name>	1 回
	┆	<env-entry-type>	0 または 1 回		┆	<env-entry-type>	0 または 1 回
	┆	<env-entry-value>	1 回		┆	<env-entry-value>	0 または 1 回
		—	—		┆	<mapped-name>	0 または 1 回
	┆	<injection-target>	0 回以上		┆	<injection-target>	0 回以上
		┆ <injection-target-class>	1 回			┆ <injection-target-class>	1 回
		┆ <injection-target-name>	1 回			┆ <injection-target-name>	1 回
┆		<ejb-ref>	0 回以上	┆		<ejb-ref>	0 回以上
	┆	<description>	0 回以上		┆	<description>	0 回以上
	┆	<ejb-ref-name>	1 回		┆	<ejb-ref-name>	1 回
	┆	<ejb-ref-type>	0 または 1 回		┆	<ejb-ref-type>	0 または 1 回
	┆	<home>	0 または 1 回		┆	<home>	0 または 1 回
	┆	<remote>	0 または 1 回		┆	<remote>	0 または 1 回
	┆	<ejb-link>	0 または 1 回		┆	<ejb-link>	0 または 1 回
		—	—		┆	<mapped-name>	0 または 1 回

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor					
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン			
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上	
	┐	<injection-target-class>	1 回		┐	<injection-target-class>	1 回	
	└	<injection-target-name>	1 回		└	<injection-target-name>	1 回	
┐		<ejb-local-ref>	0 回以上	┐		<ejb-local-ref>	0 回以上	
	┐	<description>	0 回以上		┐	<description>	0 回以上	
	┐	<ejb-ref-name>	1 回		┐	<ejb-ref-name>	1 回	
	┐	<ejb-ref-type>	0 または 1 回		┐	<ejb-ref-type>	0 または 1 回	
	┐	<local-home>	0 または 1 回		┐	<local-home>	0 または 1 回	
	┐	<local>	0 または 1 回		┐	<local>	0 または 1 回	
	┐	<ejb-link>	0 または 1 回		┐	<ejb-link>	0 または 1 回	
		-			┐	<mapped-name>	0 または 1 回	
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上	
	┐	<injection-target-class>	1 回		┐	<injection-target-class>	1 回	
	└	<injection-target-name>	1 回		└	<injection-target-name>	1 回	
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上	
	┐	<injection-target-class>	1 回		┐	<injection-target-class>	-	
	└	<injection-target-name>	1 回		└	<injection-target-name>	-	
┐		<resource-ref>	0 回以上	┐		<resource-ref>	0 回以上	
	┐	<description>	0 回以上		┐	<description>	0 回以上	
	┐	<res-ref-name>	1 回		┐	<res-ref-name>	1 回	
	┐	<res-type>	0 または 1 回		┐	<res-type>	0 または 1 回	
	┐	<res-auth>	0 または 1 回		┐	<res-auth>	0 または 1 回	
	┐	<res-sharing-scope>	0 または 1 回		└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回	
	┐	<mapped-name>	0 または 1 回		┐	<mapped-name>	0 または 1 回	
	┐	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上	
		┐	<injection-target-class>	1 回		┐	<injection-target-class>	1 回
		└	<injection-target-name>	1 回		└	<injection-target-name>	1 回
	└	<linked-to>	0 または 1 回			-	-	
┐		<resource-env-ref>	0 回以上	┐		<resource-env-ref>	0 回以上	
	┐	<description>	0 回以上		┐	<description>	0 回以上	

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor						
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン				
	┆	<resource-env-ref-name>	1 回		┆	<resource-env-ref-name>	1 回		
	┆	<resource-env-ref-type>	0 または 1 回		┆	<resource-env-ref-type>	0 または 1 回		
	┆	<mapped-name>	0 または 1 回		┆	<mapped-name>	0 または 1 回		
	┆	<injection-target>	0 回以上		┆	<injection-target>	0 回以上		
	┆	<injection-target-class>	1 回		┆	<injection-target-class>	1 回		
	┆	<injection-target-name>	1 回		┆	<injection-target-name>	1 回		
	┆	<linked-queue>	0 または 1 回			—	—		
		┆	<resource-adapter>	1 回			—		
		┆	<queue>	1 回			—		
	┆	<linked-adminobject>	0 または 1 回			—	—		
	┆	<resourceadapter-name>	1 回			—	—		
	┆	<adminobject-name>	1 回			—	—		
┆		<persistence-context-ref>	0 回以上	┆		<persistence-context-ref>	0 回以上		
	┆	<description>	0 回以上		┆	<description>	0 回以上		
	┆	<persistence-context-ref-name>	1 回		┆	<persistence-context-ref-name>	1 回		
	┆	<persistence-unit-name>	0 または 1 回		┆	<persistence-unit-name>	0 または 1 回		
	┆	<persistence-context-type>	0 または 1 回		┆	<persistence-context-type>	0 または 1 回		
	┆	<persistence-property>	0 回以上		┆	<persistence-property>	0 回以上		
		┆	<name>	1 回			┆	<name>	1 回
		┆	<value>	1 回			┆	<value>	1 回
			—			┆	<mapped-name>	0 または 1 回	
	┆	<injection-target>	0 回以上		┆	<injection-target>	0 回以上		
	┆	<injection-target-class>	1 回		┆	<injection-target-class>	1 回		
	┆	<injection-target-name>	1 回		┆	<injection-target-name>	1 回		
┆		<persistence-unit-ref>	0 回以上			<persistence-unit-ref>	0 回以上		
	┆	<description>	0 回以上		┆	<description>	0 回以上		
	┆	<persistence-unit-ref-name>	1 回		┆	<persistence-unit-ref-name>	1 回		
	┆	<persistence-unit-name>	0 または 1 回		┆	<persistence-unit-name>	0 または 1 回		
			—		┆	<mapped-name>	0 または 1 回		
	┆	<injection-target>	0 回以上		┆	<injection-target>	0 回以上		

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン		
		<injection-target-class>	1 回			<injection-target-class>	1 回
		<injection-target-name>	1 回			<injection-target-name>	1 回
		<post-construct>	0 回以上			<post-construct>	0 回以上
		<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回			<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回
		<lifecycle-callback-method>	1 回			<lifecycle-callback-method>	1 回
		<pre-destroy>	0 回以上			<pre-destroy>	0 回以上
		<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回			<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回
		<lifecycle-callback-method>	1 回			<lifecycle-callback-method>	1 回
		<locale-encoding-mapping-list>	0 回以上			<locale-encoding-mapping-list>	0 回以上
		<locale-encoding-mapping>	1 回以上			<locale-encoding-mapping>	1 回以上
		<locale>	1 回			<locale>	1 回
		<encoding>	1 回			<encoding>	1 回
		<runtime>	0 または 1 回			—	—
		<context-root>	1 回			—	—
—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

<url-pattern>と<servlet-name>のどちらか一つまたは両方を指定します。

注※2

<error-code>と<exception-type>のどちらか一つを指定するか、両方とも指定しません。

注※3

<http-method>と<http-method-omission>のどちらか一つを指定します。それぞれのタグは0回以上指定できます。

3.7.3 cosminexus.xml との対応

WAR 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

WAR 属性ファイル		cosminexus.xml	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-war-property>	1 回	<war>	0 回以上
	—	<module-name>*1	1 回

WAR 属性ファイル		cosminexus.xml			
タグ名	出現パターン	タグ名		出現パターン	
(省略)	-	(省略)		-	
<security-role>	0 回以上	<security-role>		0 回以上	
<description>	0 回以上	-		-	
<role-name>	1 回	<role-name>		1 回	
<linked-to>	0 または 1 回	<linked-to>*2		1 回	
(省略)	-	(省略)		-	
<ejb-ref>	0 回以上	-		-	
<destination>	0 回以上	-		-	
<ejb-ref-name>	1 回	-		-	
<ejb-ref-type>	1 回	-		-	
<home>	1 回	-		-	
<remote>	1 回	-		-	
<ejb-link>	0 または 1 回	-		-	
<resource-ref>	0 回以上	<resource-ref>		0 回以上	
<description>	0 回以上	-		-	
<res-ref-name>	1 回	<res-ref-name>		1 回	
<res-type>	1 回	-		-	
<res-auth>	1 回	-		-	
<linked-to>	0 または 1 回	<linked-to>*2		1 回	
<resource-env-ref>	0 回以上	<resource-env-ref>		0 回以上	
<description>	0 または 1 回	-		-	
<resource-env-ref-name>	1 回	<resource-env-ref-name>		1 回	
<resource-env-ref-type>	1 回	-		-	
<linked-queue>	0 または 1 回	<linked-queue>*2		1 回	
<resource-adapter>*3	1 回	<resource-adapter>		1 回	
<queue>*3	1 回	<queue>		1 回	
<linked-adminobject>	0 または 1 回	<linked-adminobject>*2		1 回	
<resourceadapter-name>*4	1 回	<resourceadapter-name>		1 回	
<adminobject-name>*4	1 回	<adminobject-name>		1 回	

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

WAR 属性ファイル			cosminexus.xml				
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン		
	└	<linked-to>	0 または 1 回			└ <linked-to>*2	1 回
┌		<runtime>	0 または 1 回			—	—
	└	<context-root>	1 回			—	—
┌		<thread-control>	0 または 1 回		┌	<thread-control>	0 または 1 回
	┌	<thread-control-max-threads>	1 回			┌ <thread-control-max-threads>	1 回
	┌	<thread-control-exclusive-threads>	1 回			┌ <thread-control-exclusive-threads>*2	0 または 1 回
	┌	<thread-control-queue-size>	1 回			┌ <thread-control-queue-size>	1 回
	┌	<thread-control-stats-monitor>	1 回			┌ <thread-control-stats-monitor>	0 または 1 回
		┌ <whole-waiting-request-count>	1 回			┌ <whole-waiting-request-count>	1 回
		┌ <enabled>	1 回			┌ <enabled>	0 または 1 回
		┌ <high-threshold>	1 回			┌ <high-threshold>	0 または 1 回
		└ <low-threshold>	1 回			└ <low-threshold>	0 または 1 回
		└ <waiting-request-count>	1 回			└ <waiting-request-count>	1 回
		┌ <enabled>	1 回			┌ <enabled>	0 または 1 回
		┌ <high-threshold>	1 回			┌ <high-threshold>	0 または 1 回
		└ <low-threshold>	1 回			└ <low-threshold>	0 または 1 回
	┌	<resource-watcher>	1 回			┌ <resource-watcher>	1 回
		┌ <watcher-threshold>	1 回			┌ <watcher-threshold>	1 回
		┌ <watcher-interval>	1 回			┌ <watcher-interval>	1 回
		┌ <watcher-enabled>	1 回			┌ <watcher-enabled>	1 回
		└ <watcher-writefile-enabled>	1 回			└ <watcher-writefile-enabled>	1 回
	└	<urlgroup-thread-control>	0 回以上			└ <urlgroup-thread-control>	0 回以上
		┌ <urlgroup-thread-control-name>	1 回			┌ <urlgroup-thread-control-name>	1 回
		┌ <urlgroup-thread-control-max-threads>	1 回			┌ <urlgroup-thread-control-max-threads>	1 回

WAR 属性ファイル				cosminexus.xml			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
		<urlgroup-thread-control-max-threads>	1 回			<urlgroup-thread-control-max-threads>	1 回
		<urlgroup-thread-control-exclusive-threads>	1 回			<urlgroup-thread-control-exclusive-threads>*2	0 または 1 回
		<urlgroup-thread-control-queue-size>	1 回			<urlgroup-thread-control-queue-size>	1 回
		<urlgroup-thread-control-mapping>	0 回以上			<urlgroup-thread-control-mapping>	0 回以上
		└ <url-pattern>	1 回			└ <url-pattern>	1 回
		└ <stats-monitor>	1 回			└ <stats-monitor>	1 回
		└ <waiting-request-count>	1 回			└ <waiting-request-count>	1 回
		└ <enabled>	1 回			└ <enabled>	1 回
		└ <high-threshold>	1 回			└ <high-threshold>	1 回
		└ <low-threshold>	1 回			└ <low-threshold>	1 回
		└ <http-request>	0 または 1 回			└ <http-request>	0 または 1 回
		└ <encoding>	0 または 1 回			└ <encoding>*2	1 回
		└ <http-response>	0 または 1 回			└ <http-response>	0 または 1 回
		└ <encoding>	0 または 1 回			└ <encoding>*2	1 回
		└ <jsp>	0 または 1 回			└ <jsp>	0 または 1 回
		└ <page-encoding>	0 または 1 回			└ <page-encoding>*2	1 回
		└ <http-session>	0 または 1 回			└ <http-session>	0 または 1 回
		└ <http-session-max-number>	1 回			└ <http-session-max-number>*2	0 または 1 回
		└ <resource-watcher>	1 回			└ <resource-watcher>	1 回
		└ <watcher-threshold>	1 回			└ <watcher-threshold>	1 回
		└ <watcher-interval>	1 回			└ <watcher-interval>	1 回
		└ <watcher-enabled>	1 回			└ <watcher-enabled>	1 回
		└ <watcher-writefile-enabled>	1 回			└ <watcher-writefile-enabled>	1 回

WAR 属性ファイル					cosminexus.xml														
タグ名					出現パターン					タグ名					出現パターン				
	└	<dbsfo>			0 または 1 回			└	<dbsfo>			0 または 1 回							
		┐	<enabled>		0 または 1 回				┐	<enabled>		0 または 1 回							
		┐	<application-id>		0 または 1 回				┐	<application-id>		0 または 1 回							
		┐	<attribute-data-size-		0 または 1 回				┐	<attribute-data-size-		0 または 1 回							
			max>							max>									
		└	<exclude-extensions>		0 または 1 回				└	<exclude-extensions>		0 または 1 回							
	┐	<start-notify-error>			0 または 1 回			┐	<start-notify-error>			0 または 1 回							
		└	<start-order>		0 または 1 回				└	<start-order>		0 または 1 回							
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

application.xml の<application>-<module>-<web>-<web-uri>に対応し、属性ファイルには存在しない cosminexus.xml 独自のタグとなります。WAR を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

注※3

resource-adapter にはリソースアダプタ表示名、<queue>には QUEUE 名が入ります。

注※4

<resourceadapter-name>にはリソースアダプタ表示名、<adminobject-name>には管理対象オブジェクト名が入ります。

3.8 フィルタ属性ファイル

フィルタ属性ファイルは、フィルタの属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.8.1 フィルタ属性ファイルの指定内容

フィルタ属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-filter-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Filter Property 7.0//EN" 'file:///Application Server のインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-filter-property_7_0.dtd'>
```

フィルタ属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-filter-property>	1 回	ルートタグ。
├ <description>* ¹	0 回以上* ²	フィルタの説明。
├ <display-name>* ¹	1 回以上* ²	フィルタの表示名。 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。 該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 文字の制限はありません。 複数のフィルタが存在する場合、それぞれに一意となる文字列を指定します。
├ <icon>* ¹	0 回以上* ²	Deploy ツール上に表示されるフィルタのアイコンの定義。
│ └ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
│ └ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
├ <filter-name>	1 回	フィルタ名称。* ³ 複数のフィルタが存在する場合、それぞれ一意となる文字列を指定します。
├ <filter-class>	1 回	フィルタのクラス名。* ³ パッケージが定義されている場合、パッケージ名から指定します。
├ <init-param>	0 回以上	初期化パラメタについての定義。
│ └ <description>* ¹	0 回以上* ²	パラメタの説明。
│ └ <param-name>	1 回	初期化パラメタ名称。 複数のフィルタ名が存在する場合、それぞれに一意な文字列を指定します。
│ └ <param-value>	1 回	初期化パラメタの値。

タグ名	出現パターン	説明
└ <method-observation-timeout>	0 または 1 回	フィルタ内のメソッド共通の仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間。 指定できる値は、0~86400 (単位:秒) です。0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0 です。
- -	-	-

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en (英語)」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対して、タグ名の変更、タグの追加・削除、または値の変更をしてはいけません。

3.8.2 DD との対応

フィルタ属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

フィルタ属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-filter-property>	1 回	<web-app>	1 回
(省略)	-	(省略)	-
-	-	└ <filter>	0 回以上
└ <icon>	0 回以上	└ <icon>	0 回以上
└ <small-icon>	0 または 1 回	└ <small-icon>	0 または 1 回
└ <large-icon>	0 または 1 回	└ <large-icon>	0 または 1 回
└ <filter-name>	1 回	└ <filter-name>	1 回
└ <display-name>	1 回以上	└ <display-name>	0 回以上
└ <description>	0 回以上	└ <description>	0 回以上
└ <filter-class>	1 回	└ <filter-class>	1 回
└ <init-param>	0 回以上	└ <init-param>	0 回以上
└ <param-name>	1 回	└ <param-name>	1 回
└ <param-value>	1 回	└ <param-value>	1 回
└ <description>	0 回以上	└ <description>	0 回以上
- -	-	- - -	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

3.8.3 cosminexus.xml との対応

フィルタ属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

フィルタ属性ファイル		cosminexus.xml	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-filter-property>	1 回	┌ <war>	0 回以上
(省略)	-	-	-
-	-	┌ <filter>	0 回以上
-	-	┌ <filter-name>*1	1 回
└ <method-observation-timeout>	0 または 1 回	└ <method-observation-timeout>*2	1 回
-	-	- - -	-

(凡例)

-：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

web.xml の<web-app>-<filter>-<filter-name>に対応し、属性ファイルには存在しないタグとなります。Filter を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

3.9 サブレット属性ファイル

サブレット属性ファイルは、サブレット/JSP の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.9.1 サブレット属性ファイルの指定内容

サブレット属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-servlet-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Servlet Property 7.0//EN" 'file:///
<Application Server のインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-servlet-property_7_0.dtd'>
```

サブレット属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。また、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-servlet-property>	1 回	ルートタグ。
┌ <description>*1 └	0 回以上*2	サブレット/JSP の説明。
┌ <display-name>*1 └ └ └ └ └	1 回以上*2	サブレット/JSP の表示名。 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。 該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 文字の制限はありません。
┌ <icon>*1 └	0 回以上*2	Deploy ツール上に表示される Servlet のアイコンの定義。
┌ ┌ <small-icon> └ └	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
┌ ┌ <large-icon> └ └	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
┌ <init-param> └	0 回以上	初期化パラメタについての定義。
┌ ┌ <description>*1 └ └	0 回以上*2	init-param の説明。
┌ ┌ <param-name> └ └	1 回	初期化パラメタの名称。
┌ ┌ <param-value> └ └	1 回	初期化パラメタの値。
┌ <load-on-startup> └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └ └	0 または 1 回	スタートアップ時のロード指定。 指定できる整数値を次に示します。 -2147483648 ≤ load-on-startup ≤ -1 必要になった時点でロードされます。 -1 以外を指定しても -1 として扱われます。 0 スタートアップ時にロードします。 ロードする順番は、Container が決定します。 1 ≤ load-on-startup ≤ 2147483647 スタートアップ時にロードします。

タグ名	出現パターン	説明
<load-on-startup> 	0 または 1 回	ロードする順番は、小さな値から大きな値の順となります。 なお、Servlet2.5 以降より、空文字も指定できます。
└ <run-as>	0 または 1 回	実行時アイデンティティについての定義。*3
└ <description>*1	0 回以上*2	run-as の説明。*3
└ <role-name>	1 回	セキュリティロール名。*3
└ <user-name>	1 回	ユーザ名を指定します。
└ <security-role-ref>	0 回以上	セキュリティロールについての定義。
└ <description>*1	0 回以上*2	security-role-ref の説明。
└ <role-name>	1 回	security-role-ref の名称。
└ <role-link>	0 または 1 回	リンク先のロール名。
└ <url-pattern>*4 	0 回以上	サーブレットの URL。 アプリケーション統合属性ファイルで、このタグの情報を別のサーブレットの情報と入れ替える場合は、登録されているアプリケーション内のすべてのサーブレットの<url-pattern>の情報を cjsetappprop コマンドで削除したあと、正しい情報を設定してください。
└ <method-observation-timeout>	0 または 1 回	サーブレット内のメソッド共通の仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間。 指定できる値は、0~86400 (単位: 秒) です。0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0 です。
- - -	-	-

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en (英語)」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

アノテーションの設定値だった場合、値の変更は無視されます。

注※4

アプリケーション統合属性ファイルを cjsetappprop コマンドで設定すると、サーブレット単位 (<hitachi-servlet-property>タグ単位) に設定値の反映処理を実施します。ただし、<hitachi-servlet-property>-<url-pattern>タグについては、すべてのサーブレットで重複がないかどうかのチェックを実施しています。

3.9.2 DD との対応

サーブレット属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

サブレット属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-servlet-property>	1 回	<web-app>	1 回
-	-	(省略)	-
-	-	<servlet>	0 回以上
<description>	0 回以上	<description>	0 回以上
<display-name>	1 回以上	<display-name>	0 回以上
-	-	<servlet-name>	1 回
<icon>	0 回以上	<icon>	0 回以上
<small-icon>	0 または 1 回	<small-icon>	0 または 1 回
<large-icon>	0 または 1 回	<large-icon>	0 または 1 回
-	-	<servlet-class>*	1 回
-	-	<jsp-file>*	1 回
<init-param>	0 回以上	<init-param>	0 回以上
<description>	0 回以上	<description>	0 回以上
<param-name>	1 回	<param-name>	1 回
<param-value>	1 回	<param-value>	1 回
<load-on-startup>	0 または 1 回	<load-on-startup>	0 または 1 回
<run-as>	0 または 1 回	<run-as>	0 または 1 回
<description>	0 回以上	<description>	0 回以上
<role-name>	1 回	<role-name>	1 回
<security-role-ref>	0 回以上	<security-role-ref>	0 回以上
<description>	0 回以上	<description>	0 回以上
<role-name>	1 回	<role-name>	1 回
<role-link>	0 または 1 回	<role-link>	0 または 1 回
-	-	<servlet-mapping>	0 回以上
-	-	<servlet-name>	1 回
<url-pattern>	0 回以上	<url-pattern>	1 回以上
-	-	(省略)	-
- -	-	- - -	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※

<servlet-class>と<jsp-file>のどちらか一つを指定します。

3.9.3 cosminexus.xml との対応

サーブレット属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

サーブレット属性ファイル		cosminexus.xml			
タグ名	出現パターン	タグ名		出現パターン	
<hitachi-servlet-property>	1 回	┌	<war>	1 回	
	—		┌ <servlet>	0 回以上	
	—		┌ <servlet-name>*	1 回	
┌ <run-as>	0 または 1 回		┌ <run-as>	0 または 1 回	
	┌ <description>				—
	┌ <role-name>				—
	└ <user-name>			└ <user-name>	1 回
└ <method-observation-timeout>	0 または 1 回			└ <method-observation-timeout>	0 または 1 回
—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※

web.xml の<web-app>-<servlet>-<servlet-name>に対応し、属性ファイルには存在しないタグとなります。Servlet を特定するためのキーとなります。

4

リソースの設定で使用する属性 ファイル

この章では、アプリケーションサーバで使用するリソースを設定するファイルについて説明します。

4.1 Connector 属性ファイル

Connector 属性ファイルは、リソースアダプタの属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容

Connector 属性ファイルの表中で用いる項目と、その項目の説明を記します。

項目名	説明
タグ名	設定するタグを表します。
出現パターン	タグが出現する回数を示します。
内容	タグに定義する内容を示します。
指定可能値	タグに指定できる値を示します。指定できない場合にはハイフン「-」を記述します。
デフォルト	タグに指定する内容が省略されている場合に有効になる指定値を示します。デフォルト値がない場合は"なし"を記述します。
バージョン	定義できるアプリケーションサーバのバージョンを記述します。

キーの省略、値の省略および内容の詳細については、Connector 属性ファイルの各定義の詳細に記載しています。

Connector 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-connector-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Connector Property 7.6//EN" "file:///
<Application Serverのインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-connector-property_7_6.dtd">
```

Connector 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<hitachi-connector-property>	0 または 1 回	ルートタグ。	-	なし	05-05
<description>	0 回以上	リソースアダプタについての説明。	入力は制限されません。	なし	05-05
<display-name>	1 回以上	Deploy ツール上に表示されるリソースアダプタの名称。	英数字, アンダースコア「_」だけ使用できます。 1 ≤ 文字列長 ≤ 240 の範囲で指定できます。指定できる文字	なし	05-05

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<display-name>	1 回以上	Deploy ツール上に表示されるリソースアダプタの名称。	<p>数は 1~作業ディレクトリのパス長の見積もり式[*]で見積もった範囲の長さです。</p> <p>変更する場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。</p> <p>プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_)</p> <p>「TP1/Message Queue - Access」は TP1/Message Queue - Access の rar の表示名であるため指定できます。</p> <p>ただし、次に示す名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 <p>次の名称を指定した場合、J2EE アプリケーションの操作ができなくなるおそれがあります。このため、次の名称を指定しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 記号の前後にアンダースコア(_)を指定している名称 (例: abc+_001) 記号で終わる名称 (例: abc+) 	なし	05-05
<icon>	0 回以上	Deploy ツール上に表示されるリソースアダプタのアイコンの定義。	-	なし	05-05

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<small-icon>	0または1回	スモールアイコン（16×16）のファイル名。	入力は制限されません。	なし	05-05
<large-icon>	0または1回	ラージアイコン（32×32）のファイル名。	入力は制限されません。	なし	05-05
<vendor-name>	1回	リソースアダプタプロバイダベンダ名。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<spec-version>	1回	リソースアダプタがサポートしているコネクタアーキテクチャ仕様のバージョン。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<eis-type>	1回	EISのタイプについての情報。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<version>	1回	リソースアダプタのバージョン。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<license>	0または1回	リソースアダプタモジュールのライセンス要求についての定義。	—	なし	05-05

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<license>	0 または 1 回	リソースアダプタモジュールのライセンス要求についての定義。	—	なし	05-05
┌<description>	0 回以上	license についての説明。	入力は制限されません。	なし	07-60
└<license-required>	1 回	リソースアダプタのデプロイ、使用時のライセンス要求用フラグ。 変更不可。	指定できる文字列を次に示します。 • true: 要求する • false: 要求しない	なし	05-05
┌<resourceadapter>	1 回	リソースアダプタの設定についての定義。	—	なし	05-05
┌<resourceadapter-class>	0 または 1 回	javax.resource.spi.ResourceAdapter を実装した Java クラス名。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-50
┌<config-property>	0 回以上	ResourceAdapter インスタンスのためのコンフィグレーションプロパティの定義。 Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。	—	なし	05-05
┌┌<description>	0 回以上	コンフィグレーションプロパティについての説明。	入力は制限されません。	なし	05-05

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<config-property-name>	1 回	コンフィグレーションプロパティの名称。	<p>名称の重複指定はできません。</p> <p>TP1 インバウンドアダプタの設定については、[4.1.11 TP1 インバウンドアダプタに設定する <config-property> に指定できるプロパティ]を参照してください。</p> <p>CJMS プロバイダのリソースアダプタの設定については、[4.1.12 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する <config-property> タグに指定できるプロパティ]を参照してください。</p>	なし	05-05
<config-property-type>	1 回	ResourceAdapter に よって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。	<p>次のどれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Boolean • java.lang.String • java.lang.Integer • java.lang.Double • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Character 	なし	05-05
<config-property-value>	0 または 1 回	<p>コンフィグレーションプロパティの値。</p> <p><config-property-value> タグが指定されていない場合は、そのプ</p>	<p>入力は制限されません。</p>	なし	05-05

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<config-property-value>	0 または 1 回	ロパティの情報は変更しません。すでに設定されている情報がそのまま残ります。 <config-property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報が空が設定されます。 <config-property-value>タグを指定して、値を指定している場合は、指定した値がプロパティに設定されます。	入力は制限されません。	なし	05-05
<outbound-resourceadapter>	0 または 1 回	Outbound 方向へのリソースアダプタの定義を指定します。	—	なし	07-50
<connection-definition>	1 回以上	コネクションインタフェースクラスについての定義。	—	なし	07-50
<managedconnectionfactory-class>	1 回	javax.resource.spi.ManagedConnectionFactory インタフェースを実装した Java クラス名。 パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<config-property>	0 回以上	コンフィグレーションプロパティについての定義。	—	なし	05-05
<description>	0 回以上	コンフィグレーションプロパティについての説明。	入力は制限されません。	なし	05-05

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<config-property-name>	1 回	コンフィグレーションプロパティの名称。	<p>名称の重複指定はできません。</p> <p>DB Connector の設定については、 「4.1.10 DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ」を参照してください。</p> <p>CJMS プロバイダのリソースアダプタの設定については、 「4.1.12 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ」を参照してください。</p>	なし	05-05
<config-property-type>	1 回	ResourceAdapter によって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。	<p>次のどれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Boolean • java.lang.String • java.lang.Integer • java.lang.Double • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Character 	なし	05-05
<config-property-value>	0 または 1 回	コンフィグレーションプロパティの値。 <config-property-value>タグが指定されていない場合は、そのプロパティの情報は変更されません。すでに設定され	入力は制限されません。	なし	05-05

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
	0 または 1 回	<p>ている情報がそのまま残ります。</p> <p><config-property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報が空が設定されます。</p> <p><config-property-value>タグを指定して、値を指定している場合は、指定した値がプロパティに設定されます。</p> <p><config-property-name>タグに「XAOpenString」が設定されていて、<config-property-value>タグに値が設定されている場合、セキュリティ上の理由で、<config-property-value>タグは表示されません。変更する場合は、<config-property-value>タグを追加して、変更後の値を設定してください。</p> <p>cjgetresprop, cjgetrarprop 実行時に、<config-property-name>タグに「XAOpenString」が設定されている場合、タグは次のように表示されます。</p> <p>値が設定されている場合：</p> <pre>コメントタグ<!-- The config-property-value has already been set. --></pre> <p>値が設定されていない場合：</p> <pre>空タグ<></pre>	入力制限されません。	なし	05-05

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<connectionfactory-interface>	1 回	リソースでサポートされる ConnectionFactory インタフェースのクラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。 Connector1.5 のリソースアダプタの場合、このタグの値がコネクション定義識別子となります。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<connectionfactory-impl-class>	1 回	ConnectionFactory インタフェースを実装した Java クラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<connection-interface>	1 回	リソースアダプタでサポートされる Connection インタフェースのクラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<connection-impl-class>	1 回	Connection インタフェースを実装した Java クラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<connector-runtime>	0 または 1 回	実行時プロパティについての定義。	—	なし	07-50

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	05-05
<property-name>	1 回	プロパティ名。	次のどれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • MaxPoolSize • MinPoolSize • LogEnabled • User • Password • ValidationType • ValidationInterval • RetryCount • RetryInterval • ConnectionTimeout • SweeperInterval • RequestQueueEnabled • RequestQueueTimeout • WatchEnabled • WatchInterval • WatchThreshold • WatchWriteFileEnabled • ConnectionPoolAdjustmentInterval • Warmup • NetworkFailureTimeout 	なし	05-05
<property-type>	1 回	プロパティ値の Java の型。	入力は制限されません。	なし	05-05

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン	
						<property-type>	1 回	プロパティ値の Java の型。	入力は制限されません。	なし	05-05
						<property-value>	0 または 1 回	<p>プロパティの値。</p> <p><property-value>タグが指定されていない場合は、そのプロパティの情報は変更しません。すでに設定されている情報がそのまま残ります。</p> <p><property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報が空で設定されます。</p> <p><property-value>タグを指定して、値が指定されている場合は、指定した値がプロパティに設定されます。</p> <p><property-name>タグに「User」または「Password」が指定されており、<property-value>タグに値が指定されている場合は、セキュリティ上の理由で表示しません。変更する場合は、<property-value>タグを追加して、変更後の値を設定します。</p> <p>値が設定されている場合：</p> <pre>コメントタグ<!-- The property-value has already been set. --></pre> <p>値が設定されていない場合：</p> <pre>空タグ<></pre>	入力は制限されません。 [4.1.13 <property>タグに指定できるプロパティ]を参照してください。	—	05-05

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<property-default-value>	0 または 1 回	プロパティのデフォルト値。 変更不可。	入力は制限されません。	—	05-05
<resource-external-property>	0 回以上	リソースのエクステナルプロパティの定義。 <resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、警告メッセージ (KDJE37600-W) が出力され、後ろに定義された<resource-external-property>の<res-auth>や<res-sharing-scope>の値が有効になります。	—	なし	07-00
<description>	0 または 1 回	リソースのオプション名の説明。	入力は制限されません。	なし	07-00
<optional-name>	1 回	リソースの別名。 このタグについては、マニュアル 同一リソース内に <resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の指定値がほかの<optional-name>の指定値の下位階層となるような関係の場合は、警告メッセージ (KDJE37602-W) が出力されます。 (例) 別名 1 : AAA	英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できません。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド	なし	07-00

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<optional-name>	1 回	別名 2 : AAA/BBB 1 ≤ 文字列長 ≤ 255	(.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({}), ストローク (), チルダ (~) 文字数は 1 ~ 255 文字です。 次の名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 予約語である HITACHI_EJB (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前 スラッシュ (/) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。 また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。	なし	07-00
<res-auth>	0 または 1 回	リソースを使用するための認証元を、アプリケーション上で行うか、コンテナに任せるかの指定。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> Application Container 	Container	07-00

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
					└ <res-sharing-scope>	0 または 1 回	リソース接続を共有するかどうかの指定。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Shareable • Unshareable 	Shareable	07-00
					└ <transaction-support>	1 回	リソースアダプタで提供されるトランザクションサポートのレベル。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • NoTransaction • LocalTransaction • XATransaction 	なし	05-05
					└ <reauthentication-support>	1 回	ManagedConnection インスタンスの再認証をサポートするかどうかの指定。	指定できる文字列を次に示します。 なお、DB Connector を使用する場合、true に設定しても値は有効になりません。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	なし	05-05
					└ <inbound-resourceadapter>	0 または 1 回	Inbound 方向へのリソースアダプタの定義。 変更不可。	—	なし	07-60
					└ <messageadapter>	0 または 1 回	リソースアダプタのメッセージング関連の機能の定義。 変更不可。	—	なし	07-60
					└ <messagelistener>	1 回以上	メッセージリスナの定義。 変更不可。	—	なし	07-60
					└ <messagelistener-type>	1 回	メッセージリスナのタイプ。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-60

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
			<messagelistener-type>	1回	メッセージリスナのタイプ。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-60
			└─<activationspec>	1回	メッセージエンドポイント活性化のための情報。 変更不可。	—	なし	07-60
			└─<activationspec-class>	1回	ActivationSpec インタフェースを実装するクラス。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-60
			└─<required-config-property>	0回以上	メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティ。 変更不可。	—	なし	07-60
			└─<description>	0回以上	メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティについての説明。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-60
			└─<config-property-name>	1回	メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティの名称。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-60
			└─<adminobject>	0回以上	リソースアダプタが提供する管理対象オブジェクトについての定義。 管理対象オブジェクトについての定義は、Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。	—	なし	07-60

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<adminobject-name>	0 または 1 回	管理対象オブジェクト名。 リソースアダプタ内でユニークである必要があります。	英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) なお、連続したアンダースコア (_) は使用できません。 次に示す名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 アンダースコア (_) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取	なし	07-60

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<adminobject-name>	0または1回	管理対象オブジェクト名。 リソースアダプタ内でユニークである必要があります。	り除かれて設定されます。	なし	07-60

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<adminobject-interface>	1 回	管理対象オブジェクトのクラスが実装するインタフェース。	入力は制限されません。	なし	07-60
<adminobject-class>	1 回	管理対象オブジェクトのクラス。	入力は制限されません。	なし	07-60
<config-property>	0 回以上	管理対象オブジェクトのためのコンフィグレーションプロパティの定義。	—	なし	07-60
<description>	0 回以上	コンフィグレーションプロパティについての説明。	入力は制限されません。	なし	07-60
<config-property-name>	1 回	コンフィグレーションプロパティの名称。	名称の重複指定はできません。	なし	07-60
<config-property-type>	1 回	adminobject インスタンスによって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。	次のどれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • java.lang.Boolean • java.lang.String • java.lang.Integer • java.lang.Double • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Character 	なし	07-60
<config-property-value>	0 または 1 回	コンフィグレーションプロパティの値。 cjsetresprop コマンド,	入力は制限されません。	なし	07-60

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<config-property-value>	0 または 1 回	<p>および csetrarprop コマンド実行時の動作を次に示します。</p> <p><config-property-value>タグ指定なしの場合 プロパティの情報を空に設定します。</p> <p><config-property-value>タグが指定されていて、値が空の場合 プロパティの情報を空に設定します。</p> <p><config-property-value>タグが指定されていて、値が指定されている場合 プロパティに指定された値を設定します。</p>	入力は制限されません。	なし	07-60
<security-permission>	0 回以上	セキュリティパーミッションについての定義。 変更不可。	—	なし	05-05
<description>	0 回以上	リソースアダプタのコードから要求されるセキュリティパーミッションについての説明。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<security-permission-spec>	1 回	セキュリティポリシーファイル上のセキュリティパーミッション。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	05-05
<resourceadapter-runtime>	0 または 1 回	Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。	—	なし	07-50

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<property>	0 回以上	リソースアダプタに関する独自情報を設定します。	—	なし	05-05
<property-name>	1 回	プロパティ名を指定します。	次のどれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 「MaxThreadPoolSize」 「MinThreadPoolSize」 「ThreadPoolKeepalive」 	なし	05-05
<property-type>	1 回	プロパティのタイプ。	入力は制限されません。	なし	05-05
<property-value>	0 または 1 回	プロパティ値の Java の型。	入力は制限されません。 [4.1.13 <property>タグに指定できるプロパティ]を参照してください。	—	05-05
<property-default-value>	0 または 1 回	プロパティのデフォルト値。 変更不可。	入力は制限されません。 [4.1.13 <property>タグに指定できるプロパティ]を参照してください。	—	05-05

注※

作業ディレクトリのパス長の見積もり式の詳細については、マニュアル「アプリケーションサーバ システム構築・運用ガイド」の「付録 C.1 J2EE サーバの作業ディレクトリ」を参照してください。

(凡例)

—：指定できる値はありません。

4.1.2 リソースアダプタの定義

Connector 属性ファイルのリソースアダプタの定義に関する情報について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <hitachi-connector-property>

説明

ルートタグ。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <description>

説明

リソースアダプタについての説明。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(3) <display-name>

説明

Deploy ツール上に表示されるリソースアダプタの名称。

指定可能値

1 ≤ 文字列長 ≤ 240 の範囲で指定できます。指定できる文字数は 1 ~ 作業ディレクトリのパス長の見積もり式*で見積もった範囲の長さです。変更する場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z)、および次の特殊文字を使用できます。

プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前

また、「TP1/Message Queue - Access」は TP1/Message Queue - Access の rar の表示名であるため指定できます。

次の名称を指定した場合、J2EE アプリケーションの操作ができなくなるおそれがあります。このため、次の名称を指定しないでください。

- 記号の前後にアンダースコア(_)を指定している名称 (例: abc+_001)
- 記号で終わる名称 (例: abc+)

注※

作業ディレクトリのパス長の見積もり式の詳細については、マニュアル「アプリケーションサーバシステム構築・運用ガイド」の「付録 C.1 J2EE サーバの作業ディレクトリ」を参照してください。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <icon>

説明

Deploy ツール上に表示されるリソースアダプタのアイコンの定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(5) <small-icon>

説明

スモールアイコン (16×16) のファイル名。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(6) <large-icon>

説明

ラージアイコン (32×32) のファイル名。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(7) <vendor-name>

説明

リソースアダプタプロバイダベンダ名。
変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <spec-version>

説明

リソースアダプタがサポートしているコネクタアーキテクチャ仕様のバージョン。
変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(9) <eis-type>

説明

EIS のタイプについての情報。
変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(10) <version>

説明

リソースアダプタのバージョン。
変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(11) <license>**説明**

リソースアダプタモジュールのライセンス要求についての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(12) <description>**説明**

license についての説明。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(13) <license-required>**説明**

リソースアダプタのデプロイ、使用時のライセンス要求用フラグ。

変更不可。

指定可能値

- true : 要求する
- false : 要求しない

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

4.1.3 リソースアダプタの設定

Connector 属性ファイルのリソースアダプタの設定の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <resourceadapter>

説明

リソースアダプタの設定についての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(2) <resourceadapter-class>

説明

javax.resource.spi.ResourceAdapter を実装した Java クラス名。

変更不可。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

4.1.4 ResourceAdapter インスタンスに関するコンフィグレーションプロパティの定義

Connector 属性ファイルの ResourceAdapter インスタンスのコンフィグレーションプロパティの詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <config-property>

説明

ResourceAdapter インスタンスのためのコンフィグレーションプロパティの定義。

Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <description>

説明

コンフィグレーションプロパティについての説明。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(3) <config-property-name>

説明

コンフィグレーションプロパティの名称。

指定可能値

名称の重複指定はできません。

TP1 インバウンドアダプタの設定については、「4.1.11 TP1 インバウンドアダプタに設定する<config-property>に指定できるプロパティ」を参照してください。

CJMS プロバイダのリソースアダプタの設定については、「4.1.12 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ」を参照してください。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <config-property-type>

説明

ResourceAdapter によって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。

指定可能値

次のどれかを指定します。

- 「java.lang.Boolean」
- 「java.lang.String」
- 「java.lang.Integer」
- 「java.lang.Double」
- 「java.lang.Byte」
- 「java.lang.Short」
- 「java.lang.Long」
- 「java.lang.Float」
- 「java.lang.Character」

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <config-property-value>

説明

コンフィグレーションプロパティの値。

<config-property-value>タグが指定されていない場合は、そのプロパティの情報は変更しません。すでに設定されている情報がそのまま残ります。<config-property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報が空が設定されます。

<config-property-value>タグを指定して、値を指定している場合は、指定した値がプロパティに設定されます。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

4.1.5 アウトバウンドリソースアダプタの定義

Connector 属性ファイルのアウトバウンドリソースアダプタの定義の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <outbound-resourceadapter>

説明

Outbound 方向へのリソースアダプタの定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <connection-definition>

説明

コネクションインタフェースクラスについての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <managedconnectionfactory-class>**説明**

javax.resource.spi.ManagedConnectionFactory インタフェースを実装した Java クラス名。
パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <config-property>**説明**

コネクションインタフェースクラスに関するコンフィグレーションプロパティについての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(5) <description>**説明**

コンフィグレーションプロパティについての説明。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(6) <config-property-name>**説明**

コンフィグレーションプロパティの名称。

指定可能値

名称の重複指定はできません。

DB Connector の設定については、「4.1.10 DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ」を参照してください。

CJMS プロバイダのリソースアダプタの設定については、「4.1.12 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ」を参照してください。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(7) <config-property-type>

説明

ResourceAdapter によって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。

指定可能値

次のどれかを指定します。

- 「java.lang.Boolean」
- 「java.lang.String」
- 「java.lang.Integer」
- 「java.lang.Double」
- 「java.lang.Byte」
- 「java.lang.Short」
- 「java.lang.Long」
- 「java.lang.Float」
- 「java.lang.Character」

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <config-property-value>

説明

コンフィグレーションプロパティの値。

<config-property-value>タグが指定されていない場合は、そのプロパティの情報は変更しません。すでに設定されている情報がそのまま残ります。

<config-property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報が空に設定されます。

<config-property-value>タグを指定して、値を指定している場合は、指定した値がプロパティに設定されます。

<config-property-name>タグに「XAOpenString」が設定されていて、<config-property-value>タグに値が設定されている場合、セキュリティ上の理由で、<config-property-value>タグは表示されません。変更する場合は、<config-property-value>タグを追加して、変更後の値を設定してください。

cjgetresprop, cjgetrarprop 実行時に、<config-property-name>タグに「XAOpenString」が設定されている場合、タグは次のように表示されます。

値が設定されている場合：

コメントタグ<!-- The config-property-value has already been set. -->

値が設定されていない場合：

空タグ<>

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(9) <connectionfactory-interface>

説明

リソースでサポートされる ConnectionFactory インタフェースのクラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

Connector1.5 のリソースアダプタの場合、このタグの値がコネクション定義識別子となります。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(10) <connectionfactory-impl-class>

説明

ConnectionFactory インタフェースを実装した Java クラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(11) <connection-interface>

説明

リソースアダプタでサポートされる Connection インタフェースのクラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(12) <connection-impl-class>

説明

Connection インタフェースを実装した Java クラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <connector-runtime>

説明

実行時プロパティについての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(14) <property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(15) <property-name>**説明**

プロパティ名。

指定可能値

次のどれかを指定します。

- 「MaxPoolSize」
- 「MinPoolSize」
- 「LogEnabled」
- 「User」
- 「Password」
- 「ValidationType」
- 「ValidationInterval」
- 「RetryCount」
- 「RetryInterval」
- 「ConnectionTimeout」
- 「SweeperInterval」
- 「RequestQueueEnable」
- 「RequestQueueTimeout」
- 「WatchEnabled」
- 「WatchInterval」
- 「WatchThreshold」
- 「WatchWriteFileEnabled」
- 「ConnectionPoolAdjustmentInterval」
- 「Warmup」
- 「NetworkFailureTimeout」

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <property-type>**説明**

プロパティ値の Java の型。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(17) <property-value>

説明

プロパティの値。

<property-value>タグが指定されていない場合は、そのプロパティの情報は変更しません。すでに設定されている情報がそのまま残ります。

<property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報に空が設定されます。

<property-value>タグを指定して、値が指定されている場合は、指定した値がプロパティに設定されます。

<property-name>タグに「User」または「Password」が指定されており、<property-value>タグに値が指定されている場合は、セキュリティ上の理由で表示しません。変更する場合は、<property-value>タグを追加して、変更後の値を設定します。

値が設定されている場合：

コメントタグ<!-- The property-value has already been set. -->

値が設定されていない場合：

空タグ<>

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(18) <property-default-value>

説明

プロパティのデフォルト値。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(19) <resource-external-property>

説明

リソースのエクスターナルプロパティの定義。

<resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、警告メッセージ (KDJE37600-W) が出力され、後ろに定義された <resource-external-property>の<res-auth>や<res-sharing-scope>の値が有効になります。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(20) <description>

説明

リソースの別名の説明。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(21) <optional-name>

説明

リソースの別名。

同一リソース内に<resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の指定値がほかの<optional-name>の指定値の下位階層となるような関係の場合は、警告メッセージ (KDJE37600-W) が出力されます。

(例)

```
別名1 : AAA
別名2 : AAA/BBB
1 ≤ 文字列長 ≤ 255
```

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z)、および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。

文字数は 1~255 文字です。

次の名前は指定できません。

- 予約語である” HITACHI_EJB” (大文字・小文字を区別します) で始まる名前

- 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前
- スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前
- スラッシュ (/) が連続している名前

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(22) <res-auth>

説明

リソースを使用するための認証元を、アプリケーション上で行うか、コンテナに任せるかの指定。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Application
- Container

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(23) <res-sharing-scope>

説明

リソース接続を共有するかどうかの指定。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Shareable
- Unshareable

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(24) <transaction-support>

説明

リソースアダプタで提供されるトランザクションサポートのレベル。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- NoTransaction
- LocalTransaction
- XATransaction

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(25) <reauthentication-support>**説明**

ManagedConnection インスタンスの再認証をサポートするかどうかの指定。

指定可能値

- true
- false

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

4.1.6 インバウンドリソースアダプタの定義

Connector 属性ファイルのインバウンドリソースアダプタの定義の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <inbound-resourceadapter>**説明**

Inbound 方向へのリソースアダプタの定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <messageadapter>**説明**

リソースアダプタのメッセージング関連の機能の定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(3) <messagelistener>

説明

メッセージリスナの定義。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <messagelistener-type>

説明

メッセージリスナのタイプ。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <activationspec>

説明

メッセージエンドポイント活性化のための情報。

指定可能値

—

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(6) <activationspec-class>

説明

ActivationSpec インタフェースを実装するクラス。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(7) <required-config-property>

説明

メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティ。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(8) <description>

説明

メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティについての説明。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(9) <config-property-name>

説明

メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティの名称。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

4.1.7 管理対象オブジェクトの定義

Connector 属性ファイルの管理対象オブジェクトについての定義の詳細について、タグごとに説明します。管理対象オブジェクトについての定義は、Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。

なお、ここでは、「4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <adminobject>

説明

リソースアダプタが提供する管理対象オブジェクトについての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名。

リソースアダプタ内でユニークである必要があります。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(3) <adminobject-interface>

説明

管理対象オブジェクトのクラスが実装するインタフェース。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <adminobject-class>

説明

管理対象オブジェクトのクラス。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <config-property>

説明

管理対象オブジェクトのためのコンフィグレーションプロパティの定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(6) <description>

説明

コンフィグレーションプロパティについての説明。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(7) <config-property-name>

説明

コンフィグレーションプロパティの名称。

指定可能値

名称の重複指定はできません。

「4.1.10 DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ」を参照してください。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <config-property-type>

説明

adminobject インスタンスによって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。

指定可能値

次のどれかを指定します。

- [java.lang.Boolean]
- [java.lang.String]
- [java.lang.Integer]
- [java.lang.Double]
- [java.lang.Byte]
- [java.lang.Short]
- [java.lang.Long]
- [java.lang.Float]
- [java.lang.Character]

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(9) <config-property-value>

説明

コンフィグレーションプロパティの値。

cjsetresprop コマンド、および cjsetrarprop コマンド実行時の動作を次に示します。

<config-property-value>タグ指定なしの場合

プロパティの情報を空に設定します。

<config-property-value>タグが指定されていて、値が空の場合

プロパティの情報を空に設定します。

<config-property-value>タグが指定されていて、値が指定されている場合

プロパティに指定された値を設定します。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

4.1.8 セキュリティパーミッションの定義

Connector 属性ファイルのセキュリティパーミッションの定義の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <security-permission>

説明

セキュリティパーミッションについての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <description>

説明

リソースアダプタのコードから要求されるセキュリティパーミッションについての説明。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(3) <security-permission-spec>

説明

セキュリティポリシーファイル上のセキュリティパーミッション。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

4.1.9 リソースアダプタの実行時情報

Connector 属性ファイルのリソースアダプタの実行時情報の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <resourceadapter-runtime>

説明

Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <property>

説明

リソースアダプタに関する独自情報を設定します。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(3) <property-name>

説明

プロパティ名。

指定可能値

次のどれかを指定します。

- 「MaxTPoolSize」
- 「MinTPoolSize」
- 「TPoolKeepalive」

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <property-type>

説明

プロパティのタイプ。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <property-value>**説明**

プロパティ値の Java の型。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(6) <property-default-value>**説明**

プロパティのデフォルト値。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

4.1.10 DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ

DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できる値について説明します。

なお、Reliable Messaging を使用する上で必要な情報については、マニュアル「Reliable Messaging」を参照してください。

(1) HiRDB Type4 JDBC Driver を使用して HiRDB に接続する場合

- DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar, DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar, DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar
トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar を使用します。指定できるプロパティについては、表 4-1 を参照してください。
- DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar または DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar

グローバルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用します。

指定できるプロパティについては、表 4-2 を参照してください。

- DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar
グローバルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用します。
指定できるプロパティについては、表 4-3 を参照してください。

表 4-1 DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar,
DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar,
DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または
DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
CallableStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 －「3.14.4」	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの CallableStatement のプール数を設定します。有効範囲は 0～4095 です。 0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。	0～4095 の整数で指定します。	10	07-00
CancelStatement	java.lang.Boolean	トランザクションタイムアウトや UAP 強制停止時にステートメントのキャンセルを実行するかどうかを設定します。 true を指定した場合： 実行中の SQL をキャンセルします。 false を指定した場合： 実行中の SQL をキャンセルしません。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-00
DBHostName	java.lang.String	接続する HiRDB および XDM/RD E2 のホスト名を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setDBHostName メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-00
description	java.lang.String	データベースへの接続に必要な接続付加情報を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setDescription メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-00

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
encodeLang	java.lang.String	データ変換時の文字セット名称を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setEncodeLang メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-10
environmentVariables	java.lang.String	HiRDB クライアント環境変数を指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setEnvironmentVariables メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-10
HiRDBCursorMode	java.lang.Boolean	HiRDB がコミットを行った場合に ResultSet クラスのオブジェクトを有効とするかを指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setHiRDBCursorMode メソッドに渡されます。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	false	07-00
JDBC_IF_TRACE	java.lang.Boolean	JDBC インタフェースメソッドトレースの取得の有無を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setJDBC_IF_TRACE メソッドに渡されます。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	false	07-00
loginTimeout	java.lang.Integer	getConnection メソッドで Connection オブジェクトを取得する際の、HiRDB サーバとの物理接続確立の最大待ち時間（秒）を指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLoginTimeout メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	8	07-00
logLevel	java.lang.String	DB Connector が出力するログトレースのレベルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 または ERROR • 10 または WARNING 	次のどれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 または ERROR • 10 または WARNING 	ERROR	07-00

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
logLevel	java.lang.String	<ul style="list-style-type: none"> 20 または INFORMATION 	<ul style="list-style-type: none"> 20 または INFORMATION 	ERROR	07-00
LONGVARBINARY_Access	java.lang.String	JDBC SQL タイプ LONGVARBINARY (HiRDB データ型である列属性 BLOB, 列属性 BINARY) のデータベースアクセス方法を指定します。設定された値は, HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLONGVARBINARY_Access メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	REAL	07-00
LONGVARBINARY_AccessSize	java.lang.Integer	HiRDB サーバに対して一度に要求する JDBC SQL タイプ LONGVARBINARY 型データの長さを指定します。設定された値は, HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLONGVARBINARY_AccessSize メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	0	07-00
LONGVARBINARY_TruncateError	java.lang.Boolean	JDBC SQL タイプ LONGVARBINARY 型データ取得時に切り捨てが発生した場合に例外を投入することを指定します。設定された値は, HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLONGVARBINARY_TruncateError メソッドに渡されます。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> true false 	true	07-10
maxBinarySize	java.lang.Integer	JDBC SQL タイプ LONGVARBINARY 型データ取得時のデータサイズの上限を設定します。設定された値は, HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setMaxBinarySize メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	0	07-10
PreparedStatementPoolSize	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの PreparedStatement のプール数を設定します。有効範囲は 0~4095 です。	0~4095 の整数で指定します。	10	07-00

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
「機能解説 基本・開発編(コネクタ共通機能)」 - 「3.14.4」	java.lang.Integer	0を指定した場合、ステートメントをプールしません。	0~4095の整数で指定します。	10	07-00
SQLInNum	java.lang.Integer	実行するSQLの入力パラメタの最大数を指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC DriverのDataSource系インタフェースのsetSQLInNumメソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	300	07-10
SQLOutNum	java.lang.Integer	実行するSQLの検索項目の最大数を指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC DriverのDataSource系インタフェースのsetSQLOutNumメソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	300	07-10
SQLWarningIgnore	java.lang.Boolean	データベースから返される警告をConnectionクラスで保持しないかどうかの情報を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC DriverのDataSource系インタフェースのsetSQLWarningIgnoreメソッドに渡されます。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	false	07-00
SQLWarningLevel	java.lang.String	SQL実行時に発生した警告保持レベルを指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC DriverのDataSource系インタフェースのsetSQLWarningLevelメソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	SQLWARN	07-10
TRC_NO	java.lang.Integer	JDBC インタフェースメソッドトレースのエントリ数を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC DriverのDataSource系インタフェースのsetTRC_NOメソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	500	07-00
uapName	java.lang.String	アプリケーション名称を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC DriverのDataSource系インタ	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-10

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
uapName	java.lang.String	フェースの setUpName メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-10

表 4-2 DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar または DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
linkedResourceAdapterName	java.lang.String	連携する Reliable Messaging リソースアダプタの表示名を指定します。 DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できます。

表 4-3 DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
linkedResourceAdapterName	java.lang.String	連携する Reliable Messaging リソースアダプタの表示名を指定します。 DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できます。
XACloseString	java.lang.String	XA クローズ文字列を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setXACloseString メソッドに渡されます。
XALocalCommitMode	java.lang.String	トランザクションがグローバルトランザクションでないときにオートコミット機能を有効にするかどうかを設定します。設定された値は HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setXALocalCommitMode メソッドに渡されます。なお、false を指定した場合、リソースの接続テスト (cjtestres コマンド)、コネクション障害検知機能が正常に動作しません。リソースの接続テスト (cjtestres コマンド)、コネクション障害検知機能を使用する場合、false は指定しないでください。 また、DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar の場合、false は指定しないでください。
XAOpenString	java.lang.String	XA オープン文字列を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setXAOpenString メソッドに渡されます。

(2) Oracle JDBC Thin Driver を使用して Oracle に接続する場合

- DBConnector_Oracle_CP.rar, DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar, DBConnector_Oracle_XA.rar または DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar
トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar を使用します。
指定できるプロパティについては、表 4-4 を参照してください。
- DBConnector_Oracle_CP.rar または DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar
トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar を使用します。
DBConnector_Oracle_CP.rar で指定できるプロパティについては、表 4-5 を参照してください。また、DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar で指定できるプロパティについては、表 4-6 を参照してください。
- DBConnector_Oracle_XA.rar または DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar
グローバルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用します。
DBConnector_Oracle_XA.rar で指定できるプロパティについては、表 4-5 および表 4-7 を参照してください。また、DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar で指定できるプロパティについては、表 4-6 および表 4-7 を参照してください。

なお、プロパティで設定可能な値については、Oracle のマニュアルを参照してください。

表 4-4 DBConnector_Oracle_CP.rar, DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar, DBConnector_Oracle_XA.rar または DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
CallableStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 ー 「3.14.4」	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの CallableStatement のプール数を設定します。 0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。	0~2147483647 の整数で指定します。	10	07-00
CancelStatement	java.lang.Boolean	トランザクションタイムアウトや業務アプリケーション強制停止時に、Statement クラス、CallableStatement クラスおよび PreparedStatement クラスで実行中の SQL をキャンセルするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-00

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
CancelStatement	java.lang.Boolean	true を指定した場合 実行中の SQL をキャンセルします。 false を指定した場合 実行中の SQL をキャンセルしません。 専用サーバ接続をする場合は、 false を指定してください。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-00
ConnectionIDUpdate	java.lang.Boolean	コネクション ID を DataSource#getConnection メソッドごとに更新するかどうかを指定します。 true を指定した場合 DataSource#getConnection メソッドのたびにコネクション ID を生成します。 false を指定した場合 DataSource#getConnection メソッドで新規の物理コネクションを確立したときにコネクション ID を生成し、そのあとは更新しません。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	07-00
databaseName	java.lang.String	Oracle サーバ上の特定のデータベース名 (SID) を指定します。設定された値は、Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setDatabaseName メソッドに渡されます。	Oracle のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-00
loginTimeout	java.lang.Integer	データベースへの接続試行のタイムアウト (単位: ミリ秒) を指定します。設定された値は秒単位に切り上げて、Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setLoginTimeout メソッドに渡されます。	Oracle のマニュアルを参照してください。ただし、秒単位に切り上げた値を setLoginTimeout メソッドに渡します。	8000	07-00
logLevel	java.lang.String	DB Connector が出力するログ・トレースのレベルを指定します。 次の値が指定できます。 • 0 または ERROR • 10 または WARNING	次のどれかを指定します。 • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION	ERROR	07-00

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
logLevel	java.lang.String	<ul style="list-style-type: none"> 20 または INFORMATION 	<p>次のどれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 または ERROR 10 または WARNING 20 または INFORMATION 	ERROR	07-00
portNumber	java.lang.Integer	Oracle のサーバが要求をリスニングするポート番号を指定します。設定された値は、Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setPortNumber メソッドに渡されます。	Oracle のマニュアルを参照してください。	1521	07-00
PreparedStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテンツ共通機能)」 － [3.14.4]	java.lang.Integer	<p>コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの PreparedStatement のプール数を設定します。</p> <p>0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。</p>	0~2147483647 の整数で指定します。	10	07-00
serverName	java.lang.String	Oracle サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。設定された値は、Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setServerName メソッドに渡されます。	Oracle のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-00
url	java.lang.String	<p>Oracle JDBC Thin Driver がデータベースに接続するために必要な JDBC URL を指定します。設定された値は Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setURL メソッドに渡されます。</p> <p>このプロパティに値が設定された場合、databaseName, portNumber, serverName で指定された値は無視されます。また、ユーザが url で指定を行う場合は JDBC URL に thin ドライバを指定します。</p>	Oracle のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-00

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
url	java.lang.String	(例) jdbc:oracle:thin:@Server A:1521:service1	Oracle のマニュアル を参照してください。	(空文字列)	07-00

表 4-5 DBConnector_Oracle_CP.rar または DBConnector_Oracle_XA.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
appendZero	java.lang.Boolean	java.sql.ResultSet インタフェースの getString メソッドで、NUMBER 型または、FLOAT 型の列から、整数部が 0 である小数を取得する場合、整数部に 0 を補完するかどうかを指定します。 true を指定した場合 整数部に 0 を補完します。 false を指定した場合 整数部に 0 を補完しません。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	09-50
forceFixedString	java.lang.Boolean	java.sql.PreparedStatement インタフェースの setString メソッドまたは、 setObject メソッドで、CHAR 型 (固定長文字列) の列の値を設定する際に、その値が列のサイズよりも小さい場合は、列のサイズに合わせて空白文字を埋め込むかどうかを指定します。 true を指定した場合 固定長文字列の空白文字を埋め込みます。 false を指定した場合 固定長文字列の空白文字を埋め込みません。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	09-50

表 4-6 DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar または DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
linkedResourceAdapterName	java.lang.String	連携する Reliable Messaging リソースアダプタの表示名を指定します。 DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できます。

表 4-7 DBConnector_Oracle_XA.rar または DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
sessionTimeout	java.lang.Integer	Oracle サーバでのセッションタイムアウト（トランザクションブランチがアクティブでない状態でいられる最大時間）を秒単位で指定します。J2EE サーバのトランザクションタイムアウトよりも長い時間を指定する必要があります。デフォルト値は 300 秒です。設定された値は Oracle JDBC Thin Driver の XAResource.setTransactionTimeout メソッドに渡されます。

(3) SQL Server JDBC Driver を使用して、SQL Server に接続する場合

- DBConnector_SQLServer_CP.rar

トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。指定できるプロパティについては、次の表を参照してください。

表 4-8 DBConnector_SQLServer_CP.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
applicationIntent	java.lang.String	SQL Server 2012 可用性グループまたは SQL Server 2012 フェールオーバークラスター機能使用時に、フェールオーバー先のデータベースへの接続を、読み取り専用、または読み取り/書き込みを指定します。 設定された値は、JDBC Driver 4.0 for SQL Server の DataSource 系インタフェースの setApplicationIntent メソッドに渡されます。詳細については、JDBC Driver 4.0 for SQL Server のマニュアルを参照してください。 JDBC Driver 4.0 for SQL Server を使用する場合に指定できます。	次のどれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • ReadOnly • ReadWrite 	ReadWrite	09-50
applicationName	java.lang.String	SQL Server に接続するアプリケーションの名前を指定します。設定された値は、SQL Server の管理ツールなどに表示されます。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setApplicationName メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-50

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
CallableStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 - 「3.14.4」	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの CallableStatement のプール数を設定します。 0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。	0~2147483647 の整数で指定します。	10	07-00
CancelStatement	java.lang.Boolean	トランザクションタイムアウトやアプリケーションの強制停止時にステートメントのキャンセル機能を実行するかどうかを設定します。 true を設定した場合 ステートメントのキャンセル機能が実行されます。 false を設定した場合 ステートメントのキャンセル機能は実行されません。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• true• false	true	07-00
databaseName	java.lang.String	接続する SQL Server のデータベース名を指定します。値を指定しない場合には、すでに定義されたデータベースに接続されます。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setDatabaseName メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-00
failoverPartner	java.lang.String	データベースミラーリング構成で使われるフェイルオーバーサーバの名前を指定します。databaseName プロパティと組み合わせて使用してください。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setFailoverPartner メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-50
instanceName	java.lang.String	接続する SQL Server のインスタンス名を指定します。値を指定しない場合は、既定のインスタンスに接続されます。設定された値は、SQL Server	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-50

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
instanceName	java.lang.String	JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setInstanceName メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-50
integratedSecurity	java.lang.Boolean	SQL Server へ接続するための認証方法を指定します。 true を設定した場合 Windows 認証を使用します。 false を設定した場合 SQL Server 認証を使用します。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setIntegratedSecurity メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	07-50
lastUpdateCount	java.lang.Boolean	サーバに渡された SQL ステートメントから、最終的な更新数だけを返すかどうかを指定します。 true を設定した場合 サーバに渡された SQL ステートメントから、最終的な更新数だけを返します。 また、SELECT、INSERT、および DELETE ステートメントのどれか一つで使用して、サーバのトリガによって追加された更新数を無視することができます。 false を設定した場合 サーバのトリガによって返される更新数を含む、すべての更新数が返されます。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLastUpdateCount メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-50

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
lockTimeout	java.lang.Integer	データベースがロックタイムアウトを通知するまでに待機する時間 (単位: ミリ秒) を指定します。-1 を指定するとタイムアウトは無限になります。0 を指定すると待機しないこととなります。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLockTimeout メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	-1	07-50
loginTimeout	java.lang.Integer	データベースへの接続試行中に、データソースが待機する最長時間 (単位: 秒) を設定します。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLoginTimeout メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	8	07-00
logLevel	java.lang.String	DB Connector が出力するログ・トレースのレベルを指定します。 次の値が指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> 0 または ERROR 10 または WARNING 20 または INFORMATION 	次のどれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 0 または ERROR 10 または WARNING 20 または INFORMATION 	ERROR	07-00
multiSubnetFailover	java.lang.Boolean	SQL Server 2012 可用性グループまたは SQL Server 2012 フェールオーバークラスターインスタンスの可用性グループリスナーに接続する場合、true を指定します。 設定された値は、JDBC Driver 4.0 for SQL Server の DataSource 系インタフェースの setMultiSubnetFailover メソッドに渡されます。詳細については、JDBC Driver 4.0 for SQL Server のマニュアルを参照してください。 JDBC Driver 4.0 for SQL Server を使用する場合に指定できます。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> true false 	false	09-50
packetSize	java.lang.Integer	SQL Server との通信に使用されるネットワークパケットサイズ (単位: バイト) を指定し	SQL Server のマニュアルを参照してください。	4096	07-50

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
packetSize	java.lang.Integer	ます。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setPacketSize メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	4096	07-50
portNumber	java.lang.Integer	接続する SQL Server のポート番号を指定します。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setPortNumber メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	1433	07-00
PreparedStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテンツ共通機能)」 － [3.14.4]	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの PreparedStatement のプール数を設定します。 0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。	0～2147483647 の整数で指定します。	10	07-00
selectMethod	java.lang.String	select 文の実行時に、データベースカーソルを使用するかどうかを指定します。 小文字で設定してください。 cursor データベースカーソルが作成されます。データベースの検索結果を分割してクライアントに返します。 direct データベースカーソルは作成されません。データベースの検索結果を一度の要求ですべてクライアントに返します。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setSelectMethod メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• cursor• direct	cursor	07-00

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
sendStringParametersAsUnicode	java.lang.Boolean	<p>SQL Server に送信される文字列パラメータを Unicode で送るか、データベースのデフォルトの文字エンコーディングで送るかを指定します。</p> <p>true を設定した場合 文字列パラメータは Unicode で送られます。</p> <p>false を設定した場合 文字列パラメータはデータベースのデフォルトの文字エンコーディングで送られます。</p> <p>設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setSendStringParametersAsUnicode メソッドに渡されます。</p>	<p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	true	07-00
serverName	java.lang.String	<p>接続する SQL Server のホスト名または IP アドレスを指定します。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setServerName メソッドに渡されます。</p>	<p>SQL Server のマニュアルを参照してください。</p>	(空文字列)	07-00
workstationID	java.lang.String	<p>アプリケーションサーバのホスト名を指定します。設定された値は、SQL Server の管理ツールなどに表示されます。</p> <p>設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setWorkstationID メソッドに渡されます。</p>	<p>SQL Server のマニュアルを参照してください。</p>	(空文字列)	07-50
xopenStates	java.lang.Boolean	<p>java.sql.SQLException.getStateメソッドの戻り値の SQL 規格を指定します。</p> <p>true を設定した場合 getStateメソッドは、X/Open 規格で定義された状態コードを返します。</p> <p>false を設定した場合 getStateメソッドは、SQL 99 規格で定義された状態コードを返します。</p>	<p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	false	07-50

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
xopenStates	java.lang.Boolean	設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setXopenStates メソッドに渡されます。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	false	07-50

(4) クラスタコネクションプールを使用して Oracle に接続する場合（ルートリソースアダプタ）

- DBConnector_CP_ClusterPool_Root.rar

トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。指定できるプロパティについては、次の表を参照してください。

表 4-9 DBConnector_CP_ClusterPool_Root.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
algorithm	java.lang.String	クラスタコネクションプール機能のコネクションプール選択方式を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • RoundRobin 最後に選択したコネクションプールの次の優先度のコネクションプールから優先度順に、コネクションの取得を試みます。優先度が最も低いコネクションプールに達した場合には、優先度が最も高いコネクションプールが選択されます。すべてのコネクションプールからコネクションが取得できない場合は、例外となります。 クラスタデータベースがアクティブ/アクティブ構成で、各インスタンスで負荷分散を図る場合に指定します。 デフォルト値は RoundRobin です。
dbCheckInterval	java.lang.Integer	一時停止状態のコネクションプールで、DB ノードの状態をチェックする間隔を、2~2147483647 の整数（単位：秒）で指定します。有効範囲外の値を指定した場合には、デフォルト値となります。デフォルト値は 30 です。 メンバリソースアダプタで Oracle JDBC Thin Driver を使用するときは、各メンバリソースアダプタの loginTimeout プロパティの値よりも長い時間を指定してください。
enableAutoPoolResume	java.lang.Boolean	コネクションプールの自動再開機能を有効とするか、無効とするかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true を設定した場合 コネクションプールの自動再開機能が有効となります。 • false を設定した場合 コネクションプールの自動再開機能が無効となります。 デフォルト値は true です。
enableAutoPoolSuspend	java.lang.Boolean	コネクションプールの自動一時停止機能を有効とするか、無効とするかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true を設定した場合

config-property-name	config-property-type	config-property-value
enableAutoPoolSuspend	java.lang.Boolean	<p>コネクションプールの自動一時停止機能が有効となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • false を設定した場合 コネクションプールの自動一時停止機能が無効となります。 <p>デフォルト値は true です。</p>
logLevel	java.lang.String	<p>DB Connector が出力するログ・トレースのレベルを指定します。</p> <p>次の値が指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION <p>デフォルト値は、0 または ERROR です。</p>
memberResourceAdapterName[n]	java.lang.String	<p>優先度 n のメンバリソースアダプタの表示名を指定します。このプロパティは、デフォルトでは定義されていないので、必要に応じて追加してください。n は 1～100 の範囲で指定します。</p>
memberResourceAdapterName1	java.lang.String	<p>優先度 1 のメンバリソースアダプタの表示名を指定します。優先度は値が小さいほど高くなります。</p>
memberResourceAdapterName2	java.lang.String	<p>優先度 2 のメンバリソースアダプタの表示名を指定します。</p>

(5) クラスタコネクションプールを使用して Oracle に接続する場合（メンバリソースアダプタ）

- DBConnector_Oracle_CP_ClusterPool_Member.rar
トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。指定できるプロパティについては、次の表を参照してください。

表 4-10 DBConnector_Oracle_CP_ClusterPool_Member.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
CallableStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 - 「3.14.4」	java.lang.Integer	<p>コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの CallableStatement のプール数を設定します。デフォルトは 10 です。</p> <p>0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。</p>
CancelStatement	java.lang.Boolean	<p>トランザクションタイムアウトやアプリケーション強制停止時に、Statement クラス、CallableStatement クラスおよび PreparedStatement クラスで実行中の SQL をキャンセルするかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true を指定した場合 実行中の SQL をキャンセルします。 • false を指定した場合 実行中の SQL をキャンセルしません。

config-property-name	config-property-type	config-property-value
CancelStatement	java.lang.Boolean	デフォルト値は true です。 専用サーバ接続をする場合は、false を指定してください。
ConnectionIDUpdate	java.lang.Boolean	コネクション ID を DataSource#getConnection メソッドごとに更新するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true を指定した場合 DataSource#getConnection メソッドのたびにコネクション ID を生成します。 • false を指定した場合 最初の DataSource#getConnection メソッドでコネクション ID を生成し、そのあとは更新しません。 デフォルト値は false です。
databaseName	java.lang.String	Oracle サーバ上の特定のデータベース名 (SID) を指定します。設定された値は、Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setDatabaseName メソッドに渡されます。
loginTimeout	java.lang.Integer	データベースへの接続試行のタイムアウトを、1～2147483647 の整数 (単位: ミリ秒) で指定します。 有効範囲外の値を指定した場合には、デフォルト値が使用されます。デフォルト値は 8000 です。設定された値は秒単位に切り上げて Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setLoginTimeout メソッドに渡されます。
logLevel	java.lang.String	DB Connector が出力するログ・トレースのレベルを指定します。 次の値が指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION デフォルトは、0 または ERROR です。
portNumber	java.lang.Integer	Oracle のサーバが要求をリスニングするポート番号を指定します。デフォルトは 1521 番ポートです。設定された値は、Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setPortNumber メソッドに渡されます。
PreparedStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 - 「3.14.4」	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの PreparedStatement のプール数を設定します。デフォルトは 10 です。 0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。
serverName	java.lang.String	Oracle サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。設定された値は、Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setServerName メソッドに渡されます。
url	java.lang.String	Oracle JDBC Thin Driver がデータベースに接続するために必要な JDBC URL を指定します。設定された値は Oracle JDBC Thin Driver の setURL メソッドに渡されます。

config-property-name	config-property-type	config-property-value
url	java.lang.String	このプロパティに値が設定された場合、databaseName, portNumber, serverName で指定された値は無視されます。また、ユーザが url で指定を行う場合は JDBC URL に thin ドライバを指定します。 (例) jdbc:oracle:thin:@ServerA:1521:service1

4.1.11 TP1 インバウンドアダプタに設定する<config-property>に指定できるプロパティ

TP1 インバウンドアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティについて説明します。

表 4-11 TP1 インバウンドアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
backlog_count	java.lang.Integer	RPC 要求を待ち受けるポートの Listen キューの長さを、1~4096 の整数で指定します。デフォルト値は 50 です。 指定できるキューの長さの最大値は OS ごとに異なります。詳細は各 OS の listen() について説明しているマニュアル、および各 OS の TCP/IP について説明しているドキュメントを参照してください。
connection_timeout	java.lang.Integer	RPC 要求の応答を送信するときのコネクション確立処理のタイムアウト時間 (秒単位) を、0~65535 の整数で指定します。デフォルト値は 8 です。 0 を指定した場合はタイムアウトしません。
ipc_sockctl_watchtime	java.lang.Integer	一時クローズ応答の待ち時間 (秒単位) を、0~65535 の整数で指定します。デフォルト値は 180 です。 0 を指定した場合は動作しません。
ipc_tcpnodelay	java.lang.Boolean	OpenTP1 とのコネクションの接続で使用するソケットに TCP_NODELAY オプションを使用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true を指定した場合 TCP_NODELAY オプションを使用します。 • false を指定した場合 TCP_NODELAY オプションを使用しません。 デフォルト値は false です。
max_connections	java.lang.Integer	RPC 要求を待ち受けるポートへの最大同時接続数を、1~2032 の整数で指定します。デフォルト値は 64 です。
node_id	java.lang.String	ノード識別子を 4 文字で指定します。 1 文字目は英字 (A~Z a~z), 2 文字目以降は、英数字 (A~Z a~z 0~9), またはアンダースコア「_」で指定してください。TP1 インバウンドアダプ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
node_id	java.lang.String	タごとに一意な文字列を指定してください。デフォルトは Cos_ です。
receive_buffer_size	java.lang.Integer	受信時の受信バッファサイズを、8192~10485761の整数で指定します。デフォルト値は8192です。
rpc_close_after_send	java.lang.Boolean	OpenTP1 へ電文を送信したあとに接続を切断するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true を指定した場合 OpenTP1 へ電文を送信したあと、接続を切断します。 • false を指定した場合 OpenTP1 へ電文を送信したあと、接続を切断しません。 デフォルト値は false です。08-50 と同様にする場合は true を指定してください。
rpc_max_thread_count	java.lang.Integer	最大同時 RPC 要求受け付けスレッド数を、1~1024の整数で指定します。デフォルト値は10です。
rpc_receive_timeout	java.lang.Integer	RPC 要求の受信のタイムアウト時間（秒単位）を、0~65535の整数で指定します。デフォルトは180です。 0を指定した場合はタイムアウトしません。
rpc_receive_timeout_interval	java.lang.Integer	RPC 要求の受信のタイムアウト監視の監視間隔を、1~65535の整数で指定します。デフォルト値は5です。
rpc_sockctl_highwater	java.lang.Integer	RPC 受信接続の一時クローズ処理開始のしきい値（パーセント（%）単位）を、0~100の整数で指定します。デフォルト値は100です。
rpc_sockctl_lowwater	java.lang.Integer	RPC 受信接続の一時クローズ処理を非対象とする接続数の割合（パーセント（%）単位）を、0~100の整数で指定します。デフォルト値は0です。
scd_port	java.lang.Integer	RPC 要求を待ち受けるポートのポート番号を、5001~65535の整数で指定します。デフォルト値は23700です。
send_buffer_size	java.lang.Integer	応答時の送信バッファサイズを、8192~10485761の整数で指定します。デフォルト値は8192です。
send_retry_count	java.lang.Integer	サーバの応答送信時に TCP/IP 接続の接続でエラーが発生した場合のリトライ回数を、0~65535の整数で指定します。デフォルト値は1です。 0を指定した場合は、リトライしません。
send_retry_interval	java.lang.Integer	サーバの応答送信時に TCP/IP 接続の接続でエラーが発生した場合のリトライ間隔（ミリ秒単位）を、0~300000の整数で指定します。デフォルト値は0です。

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

config-property-name	config-property-type	config-property-value
send_retry_interval	java.lang.Integer	0を指定した場合、間隔を空けないでリトライします。 このプロパティは、send_retry_countに1~65535を指定した場合に有効になります。
service_group	java.lang.String	TP1 インバウンドアダプタのサービスグループ名を1~31文字で指定します。 1文字目が英字 (A~Z a~z)、2文字目以降は英数字 (A~Z a~z 0~9) もしくはアンダースコア「_」で指定してください。 J2EE サーバ内で一意のサービスグループ名を指定してください。
tcp_receive_timeout	java.lang.Integer	コネクションを接続してから、またはデータを受信してから、次のデータを受信するまでのタイムアウト時間 (秒単位) を、0~65535の整数で指定します。デフォルト値は10です。 0を指定した場合はタイムアウトしません。
tcp_send_timeout	java.lang.Integer	RPC 要求の応答送信時のタイムアウト時間 (秒単位) を、0~65535の整数で指定します。デフォルト値は10です。 0を指定した場合はタイムアウトしません。
tcp_send_timeout_interval	java.lang.Integer	RPC 要求の応答送信時のタイムアウト監視の監視間隔を、1~65535の整数で指定します。デフォルト値は5です。 なお、08-53以降ではこのプロパティの設定は無視されます。
trn_max_connections	java.lang.Integer	RPC 送信コネクションの最大同時接続数を、1~2032の整数で指定します。デフォルト値は64です。
trn_max_thread_count	java.lang.Integer	最大同時同期点電文送受信スレッド数を、1~1024の整数で指定します。デフォルト値は1です。
trn_port	java.lang.Integer	同期点待ち受けポートのポート番号を、5001~65535の整数で指定します。デフォルト値は23900です。
trn_sockctl_highwater	java.lang.Integer	RPC 送信コネクションの一時クローズ処理開始のしきい値 (パーセント (%) 単位) を、0~100の整数で指定します。デフォルト値は100です。
trn_sockctl_lowwater	java.lang.Integer	RPC 送信コネクションの一時クローズ処理を非対象とするコネクション数の割合 (パーセント (%) 単位) を、0~100の整数で指定します。デフォルト値は0です。

4.1.12 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ

CJMS プロバイダのリソースアダプタ (CJMSP リソースアダプタ) に設定する<config-property>タグに指定できる値について説明します。

なお, CJMSP リソースアダプタのプロパティの設定では, テンプレートファイルを使用できます。テンプレートファイルについては, 「4.1.14 Connector 属性ファイルのテンプレートファイル」を参照してください。

(1) リソースアダプタ (<resourceadapter>) の設定

リソースアダプタに設定できるプロパティについて説明します。

表 4-12 リソースアダプタ (<resourceadapter>) に設定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
connectionURL	java.lang.String	CJMS プロバイダと接続するための URL を指定します。 URL には, ホスト名, ポート番号およびサービス名が含まれます。
reconnectAttempts	java.lang.Integer	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合のリトライ回数を, 1~2147483647 の整数で指定します。デフォルト値は 6 です。
reconnectEnabled	java.lang.Boolean	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合にリトライを実行するかどうかを, true (リトライする) または false (リトライしない) で指定します。デフォルト値は false です。
reconnectInterval	java.lang.Integer	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合のリトライ間隔 (ミリ秒単位) を, 0~2147483647 の整数で指定します。デフォルト値は 30000 です。

指定例を次に示します。

```
<resourceadapter-class>com.cosminexus.jmsprovider.messaging.jms.ra.ResourceAdapter</resourceadapter-class>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ConnectionURL</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value>mq://localhost:7676</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectEnabled</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
    <config-property-value>>false</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectAttempts</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>6</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectInterval</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>30000</config-property-value>
  </config-property>
```

! 注意事項

リソースアダプタのプロパティの設定で、キューまたはトピックごとの管理対象オブジェクト (AdminObject) の値を編集しないでリソースアダプタを開始しようとすると、例外がスローされます。この例外は、J2EE サーバのログディレクトリ下の cjexceptionN.log (N はログファイルの面数) に出力されます。

(2) ManagedConnectionFactory (<managedconnectionfactory-class>の<config-property>) の設定

ManagedConnectionFactory (<managedconnectionfactory-class>の<config-property>) に設定できるプロパティについて説明します。

表 4-13 ManagedConnectionFactory (<managedconnectionfactory-class>の<config-property>) に設定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
clientId	java.lang.String	CJMS プロバイダと接続するためのクライアントの ID を指定します。
reconnectAttempts	java.lang.Integer	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合のリトライ回数を、1~2147483647 の整数で指定します。デフォルト値は 6 です。
reconnectEnabled	java.lang.Boolean	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合にリトライを実行するかどうかを、true (リトライする) または false (リトライしない) で指定します。デフォルト値は false です。
reconnectInterval	java.lang.Integer	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合のリトライ間隔 (ミリ秒単位) を、1~2147483647 の整数で指定します。デフォルト値は 30000 です。

指定例を次に示します。なお、clientId はデフォルトの状態では設定されていません。必要に応じて、太字の部分を追加してください。

```
<managedconnectionfactory-class>com.cosminexus.jmsprovider.messaging.jms.ra.ManagedConnectionFactory</
managedconnectionfactory-class>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectEnabled</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
    <config-property-value>>false</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectAttempts</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>6</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectInterval</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>30000</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <config-property-name>ClientId</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value>Test</config-property-value>
  </config-property>
```

(3) 管理対象オブジェクト (<adminobject>) の設定

管理対象オブジェクト (<adminobject>の<config-property>) に設定できるプロパティについて説明します。

表 4-14 管理対象オブジェクト (<adminobject>の<config-property>) に設定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
Description	java.lang.String	付加情報を指定するプロパティです。必要な説明を指定してください。空白も指定できます。
Name	java.lang.String	<adminobject>タグ下に指定した送信先を作成する際に使用する、送信先の名前を指定します。送信先は、このプロパティに指定した名前で作成されます。

管理対象オブジェクトの設定のタグ情報を次に示します。この例は、キューを作成する例です。トピックを作成する場合は、送信先の種類を変更してください。

```
<adminobject>
  <adminobject-name>TestQueue</adminobject-name>
  <adminobject-interface>javax.jms.Queue</adminobject-interface>
  <adminobject-class>com.cosminexus.jmsprovider.messaging.Queue</adminobject-class>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>Name</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value>TestQueue</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>Description</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value></config-property-value>
  </config-property>
</adminobject>
```

(4) ログに関する設定

ログについて設定するプロパティについて説明します。

表 4-15 ログについて設定するプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
ExpLogFileNum	java.lang.Integer	例外ログを出力するログファイルの最大数を指定します。1~16の整数で指定します。デフォルト値は2です。
ExpLogFileSize	java.lang.Integer	例外ログを出力するログファイルの最大サイズをバイトで指定します。8192~4194304の整数で指定します。デフォルト値は1048576です。 指定したサイズに到達すると、新しいファイルが作成され、ログの出力先が作成したファイルに切り替わります。
MsgLogFileNum	java.lang.Integer	メッセージログを出力するログファイルの最大数を指定します。1~16の整数で指定します。デフォルト値は2です。

config-property-name	config-property-type	config-property-value
MsgLogFileSize	java.lang.Integer	メッセージログを出力するログファイルの最大サイズをバイトで指定します。8192~4194304の整数で指定します。デフォルト値は1048576です。 指定したサイズに到達すると、新しいファイルが作成され、ログの出力先が作成したファイルに切り替わります。
MsgLogLevel	java.lang.String	ログのレベルを指定します。 指定したレベルに基づいた情報がログファイルに出力されます。 次のどれかの値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • ERROR • WARNING • INFO デフォルトはERRORです。

! 注意事項

- CJMSP リソースアダプタのログファイルは、<ejb.server.log.directory>ディレクトリ下の cjms ディレクトリに出力されます。cjms ディレクトリがない場合は、<ejb.server.log.directory>ディレクトリ下に cjms ディレクトリが作成され、ログが出力されます。
- リソースアダプタのプロパティの検証は、J2EE サーバと CJMSP リソースアダプタの両方で実施されます。J2EE サーバによるプロパティの検証で問題があった場合、J2EE サーバのログファイルにエラーメッセージが出力され、処理が停止します。CJMSP リソースアダプタによるプロパティの検証で問題があった場合、CJMSP リソースアダプタのログファイルに警告メッセージが出力されますが、プロパティの値をデフォルト値として処理は続行されます。

4.1.13 <property>タグに指定できるプロパティ

<property>タグに指定できる値について説明します。

表 4-16 <property>タグに設定する情報一覧

property-name	property-type	property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
ConnectionPoolAdjustmentInterval	int	コネクション数調節機能の動作間隔を整数（単位：秒）で指定します。 0を指定した場合は動作しません。	0~2147483647の整数で指定します。	600	06-70
ConnectionTimeout	int	コネクション解放までのタイムアウト値を整数（単位：秒）で指定します。 コネクションの最終利用時刻からタイムアウト判定までの時間が指定値を超えるとコネクションスイーパーによる削除対象になります。0を指定し	0~2147483647の整数で指定します。	0	06-50

property-name	property-type	property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
Connection Timeout	int	た場合はタイムアウトしません。 3600 以上の値を設定することを推奨しています。	0~2147483647 の整数で指定します。	0	06-50
LogEnabled	boolean	LogWriter によるログ出力を するかどうかを指定します。 true を指定した場合： LogWriter によるログ出力 をします。 false を指定した場合： LogWriter によるログ出力 をしません。	指定できる文字列を 次に示します。 • true • false	true	05-05
MaxPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 －「3.14.1」	int	プール内の接続の最大数を指定します。なお、-1 を指定した場合は無制限となります。	指定できる値 (整数) を次に示します。 • -1 • 0~2147483647	10	05-05
MaxThreadPoolSize*	int	スレッドプールで同時に実行される最大スレッド数を整数で指定します。 ライフサイクル管理機能が有効でない場合 (<resourceadapter-class> が指定されていない場合)、プロパティ値は無視されます。	1~2147483647 の整数で指定します。	10	07-50
MinPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 －「3.14.1」	int	プール内の接続の最小数を指定します。	0~2147483647 の整数で指定します。	10	05-05
MinThreadPoolSize*	int	スレッドプールに存在する最小スレッド数を整数で指定します。 ライフサイクル管理機能が有効でない場合 (<resourceadapter-class> が指定されていない場合)、プロパティ値は無視されます。	0~1024 の整数で指定します。	0	07-50
NetworkFailureTimeout	boolean	ネットワーク障害検知機能のタイムアウトを有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-00

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

property-name	property-type	property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
NetworkFailureTimeout	boolean	<p>true を指定した場合： ネットワーク障害検知機能のタイムアウトを有効にします。</p> <p>false を指定した場合： ネットワーク障害検知機能のタイムアウトを無効にします。</p>	<p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	true	07-00
Password	String	<p>パスワード。</p> <p><property-value>タグに値が設定されている場合は、セキュリティ上の理由で表示されません。変更する場合は、<property-value>タグを追加して、変更後の値を設定してください。</p> <p>cjgetresprop, cjgetrarprop 実行時に、<property-name>タグに「User」または「Password」が設定されている場合、タグは次のように表示されます。</p> <p>値が設定されている場合： コメントタグ<!-- The property-value has already been set. --></p> <p>値が設定されていない場合： 空タグ<></p>	<p>入力は制限されません。</p>	なし	05-05
RequestQueueEnable	boolean	<p>コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列を有効にするかどうかを指定します。</p> <p>true を指定した場合： コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列機能を有効にします。</p> <p>false を指定した場合： コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列機能を無効にします。</p>	<p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	true	06-50
RequestQueueTimeout	int	<p>コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる時間の最大値を整数（単位：秒）で指定します。</p> <p>0 を指定した場合、待ち行列で無制限に待ち続けます。</p>	<p>0~2147483647 の整数で指定します。</p>	30	06-50

property-name	property-type	property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
RetryCount	int	コネクション取得リトライ回数を整数（単位：回）で指定します。	0～2147483647 の整数で指定します。	0	05-05
RetryInterval	int	コネクション取得リトライ間隔を整数（単位：秒）で指定します。 RetryCount が 1 以上の場合に有効です。	1～2147483647 の整数で指定します。	10	05-05
SweeperInterval	int	コネクションスイーパー動作時間間隔を整数（単位：秒）で指定します。 指定した間隔でコネクションスイーパーが動作して、タイムアウトしたコネクションを削除します。0 を指定した場合は動作しません。 3600 以上の値を設定することを推奨しています。	0～2147483647 の整数で指定します。	0	06-50
TPoolKeepalive*	int	スレッドプールのスレッド解放までのタイムアウト値（秒）を整数で指定します。 ライフサイクル管理機能が有効でない場合（<resourceadapter-class>が指定されていない場合）、プロパティ値は無視されます。	1～2147483647 の整数で指定します。	300	07-50
User	String	ユーザ名。 <property-value>タグに値が設定されている場合は、セキュリティ上の理由で表示されません。変更する場合は、<property-value>タグを追加して、変更後の値を設定してください。 cjgetresprop, cjgetrarprop 実行時に、<property-name>タグに「User」または「Password」が設定されている場合、タグは次のように表示されます。 値が設定されている場合： コメントタグ<!-- The property-value has already been set. --> 値が設定されていない場合： 空タグ<>	入力は制限されません。	なし	05-05

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

property-name	property-type	property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
ValidationInterval	int	コネクションチェック間隔を整数（単位：秒）で指定します。	1～2147483647 の整数で指定します	3600	05-05
ValidationType 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 －「3.15.1」	int	コネクションチェック契機。指定可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0:コネクションチェック機能オフ • 1:コネクション取得時にチェック • 2:一定間隔でチェック 	指定できる値（整数）を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 • 1 • 2 	1	05-05
Warmup	boolean	コネクションプールのウォーミングアップ機能を有効にするかどうかを指定します。 true を指定した場合： コネクションプールのウォーミングアップ機能を有効にします。 false を指定した場合： コネクションプールのウォーミングアップ機能を無効にします。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	true	07-00
WatchEnabled	boolean	コネクションプール監視のアラート出力を有効にするかどうかを指定します。 true を指定した場合： 有効にします。 false を指定した場合： 無効にします。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	true	06-50
WatchInterval	int	コネクションプール監視間隔を整数（単位：秒）で指定します。	1～2147483647 の整数で指定します。	30	06-50
WatchThreshold	int	コネクションプール使用状態を監視するしきい値を整数（単位：%）で指定します。	1～100 の整数で指定します。	80	06-50
WatchWriteFileEnabled	boolean	コネクションプール監視結果をファイル出力するかどうかを指定します。 true を指定した場合： ファイル出力します。 false を指定した場合： ファイル出力しません。	指定できる文字列を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • true • false 	true	06-50

(凡例) - : 設定なし

注※ ライフサイクル管理機能が有効でない場合 (<resourceadapter-class>が指定されていない場合)、プロパティ値は無視されます。

4.1.14 Connector 属性ファイルのテンプレートファイル

DB Connector, TP1 インバウンドアダプタ, および CJMS プロバイダのリソースアダプタのプロパティを新規に設定する場合, Component Container が提供しているテンプレートファイルが利用できます。

このテンプレートファイルを使用すると, DB Connector をインポートする前に, Connector 属性ファイルを編集しておくことができます。テンプレートファイルはコピーして使用してください。テンプレートファイルは xml ファイル形式です。

なお, すでにプロパティが設定されている DB Connector, TP1 インバウンドアダプタ, および CJMS プロバイダのリソースアダプタのプロパティを変更する場合は, テンプレートファイルは使用しないでください。インポートした DB Connector, TP1 インバウンドアダプタ, および CJMS プロバイダのリソースアダプタの Connector 属性を取得して, Connector 属性ファイルを編集してください。

ここでは, DB Connector, TP1 インバウンドアダプタ, および CJMS プロバイダのリソースアダプタのテンプレートファイルの格納先と, テンプレートファイルについて説明します。

(1) DB Connector のテンプレートファイル

ファイルの格納先

- Windows の場合
 <Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%templates%
- UNIX の場合
 /opt/Cosminexus/CC/admin/templates/

テンプレートファイル

Component Container が提供している DB Connector のテンプレートファイルを次に示します。

表 4-17 DB Connector のテンプレートファイル一覧

テンプレートファイル名	説明
DBConnector_HiRDB_Type4_CP_cfg.xml	HiRDB Type4 JDBC Driver 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル (ローカルトランザクション用)。
DBConnector_HiRDB_Type4_XA_cfg.xml	HiRDB Type4 JDBC Driver 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル (グローバルトランザクション用)。
DBConnector_Oracle_CP_cfg.xml	Oracle JDBC Thin Driver 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル (ローカルトランザクション用)。
DBConnector_Oracle_XA_cfg.xml	Oracle JDBC Thin Driver 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル (グローバルトランザクション用)。
DBConnector_SQLServer_CP_cfg.xml	SQL Server JDBC Driver 用 DB Connector の Connector 属性のテンプレートファイル (ローカルトランザクション用)。

テンプレートファイル名	説明
DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM_cfg.xml	HiRDB Type4 JDBC Driver 用 DB Connector for Reliable Messaging の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル (ローカルトランザクション用)。
DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM_cfg.xml	HiRDB Type4 JDBC Driver 用 DB Connector for Reliable Messaging の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル (グローバルトランザクション用)。
DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM_cfg.xml	Oracle JDBC Thin Driver 用 DB Connector for Reliable Messaging の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル (ローカルトランザクション用)。
DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM_cfg.xml	Oracle JDBC Thin Driver 用 DB Connector for Reliable Messaging の Connector 属性のテンプレートファイル (グローバルトランザクション用)。
DBConnector_CP_ClusterPool_Root_cfg.xml	クラスタコネクションプールのルートリソースアダプタの Connector 属性ファイルのテンプレートファイル (ローカルトランザクション用)。
DBConnector_Oracle_CP_ClusterPool_Member_cfg.xml	クラスタコネクションプールのメンバリソースアダプタである、Oracle JDBC Thin Driver 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル (ローカルトランザクション用)。

(2) TP1 インバウンドアダプタのテンプレートファイル

ファイルの格納先

- Windows の場合
 <Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%templates%
- UNIX の場合
 /opt/Cosminexus/CC/admin/templates/

テンプレートファイル

Component Container が提供している TP1 インバウンドアダプタのテンプレートファイルを次に示します。

表 4-18 TP1 インバウンドアダプタのテンプレートファイル一覧

テンプレートファイル名	説明
TP1InboundAdapter_cfg.xml	TP1 インバウンドアダプタの Connector 属性ファイルのテンプレートファイル。

(3) CJMS プロバイダのリソースアダプタのテンプレートファイル

ファイルの格納先

- Windows の場合
 <Application Server のインストールディレクトリ>%CC%cjmsp%lib%templates%
- UNIX の場合
 /opt/Cosminexus/CC/cjmsp/lib/templates/

テンプレートファイル

Component Container が提供している CJMS プロバイダのリソースアダプタのテンプレートファイルを次に示します。

表 4-19 CJMS プロバイダのリソースアダプタのテンプレートファイル一覧

テンプレートファイル名	説明
Cosminexus_JMS_Provider_RA_cfg.xml	Cosminexus_JMS_Provider_RA 用の属性ファイルのテンプレートファイル。

(4) 注意事項

テンプレートファイルで提供している属性ファイルをサーバ管理コマンド以外の方法で使用する場合、DOCTYPE 宣言内の URL の指定を、使用している環境に合わせて書き直す必要があります。

例

変更前

C:/Program%20Files/Hitachi/Cosminexus

変更後

<Application Server のインストールディレクトリ>

4.1.15 DD との対応

Connector 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

(1) Connector1.0 の場合

Connector 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-connector-property>	1 回	<connector>	1 回
┌ <description> └	0 回以上	┌ <description> └	0 または 1 回
┌ <display-name> └	0 回以上	┌ <display-name> └	0 または 1 回
┌ <icon> └	0 回以上	┌ <icon> └	0 または 1 回
┌ ┌ <small-icon> └ └	0 または 1 回	┌ ┌ <small-icon> └ └	0 または 1 回
┌ ┌ <large-icon> └ └	0 または 1 回	┌ ┌ <large-icon> └ └	0 または 1 回
┌ <vendor-name> └	1 回	┌ <vendor-name> └	1 回
┌ <spec-version> └	1 回	┌ <spec-version> └	1 回

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

Connector 属性ファイル				Deployment Descriptor					
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン			
				<eis-type>	1 回			<eis-type>	1 回
				<version>	1 回			<version>	1 回
				<license>	0 または 1 回			<license>	0 または 1 回
								<description>	0 または 1 回
				<license-required>	1 回			<license-required>	1 回
				<resourceadapter>	1 回			<resourceadapter>	1 回
				<outbound-resourceadapter>	0 または 1 回			-	-
				<connection-definition>	1 回以上			-	-
				<managedconnectionfactory-class>	1 回			<managedconnectionfactory-class>	1 回
				<config-property>	0 回以上			<config-property>	0 回以上
				<description>	0 回以上			<description>	0 または 1 回
				<config-property-name>	1 回			<config-property-name>	1 回
				<config-property-type>	1 回			<config-property-type>	1 回
				<config-property-value>	0 または 1 回			<config-property-value>	0 または 1 回
				<connectionfactory-interface>	1 回			<connectionfactory-interface>	1 回
				<connectionfactory-impl-class>	1 回			<connectionfactory-impl-class>	1 回
				<connection-interface>	1 回			<connection-interface>	1 回
				<connection-impl-class>	1 回			<connection-impl-class>	1 回

Connector 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
			└ <connector-runtime>	0 または 1 回			—
			(省略)	—			—
			┐ <transaction-support>	1 回		┐ <transaction-support>	1 回
			—	—		┐ <authentication-mechanism>	0 回以上
			—	—		┐ <description>	0 または 1 回
			—	—		┐ <authentication-mechanism-type>	1 回
			—	—		└ <credential-interface>	1 回
			└ <reauthentication-support>	1 回		┐ <reauthentication-support>	1 回
			└ <security-permission>	0 回以上		└ <security-permission>	0 回以上
			┐ <description>	0 回以上		┐ <description>	0 または 1 回
			└ <security-permission-spec>	1 回		└ <security-permission-spec>	1 回
			└ <resourceadapter-runtime>	0 または 1 回			—
—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

(2) Connector1.5 の場合

Connector 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-connector-property>	1 回	<connector>	1 回
┐ <description>	0 回以上	┐ <description>	0 回以上

Connector 属性ファイル			Deployment Descriptor				
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン		
		<display-name>	0 回以上			<display-name>	0 回以上
		<icon>	0 回以上			<icon>	0 回以上
						<small-icon>	0 または 1 回
						<large-icon>	0 または 1 回
		<vendor-name>	1 回			<vendor-name>	1 回
		<spec-version>	1 回			(<connector>タグの version 属性)	—
		<eis-type>	1 回			<eis-type>	1 回
		<version>	1 回			<resourceadapter-version>	1 回
		<license>	0 または 1 回			<license>	0 または 1 回
						<description>	0 回以上
						<license-required>	1 回
		<resourceadapter>	1 回			<resourceadapter>	1 回
						<resourceadapter-class>	0 または 1 回
		<config-property>	0 回以上			<config-property>	0 回以上
						<description>	0 回以上
						<config-property-name>	1 回
						<config-property-type>	1 回
						<config-property-value>	0 または 1 回

Connector 属性ファイル				Deployment Descriptor				
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン		
			<outbound-resourceadapter>	0 または 1 回			<outbound-resourceadapter>	0 または 1 回
			<connection-definition>	1 回以上			<connection-definition>	1 回以上
			<managedconnectionfactory-class>	1 回			<managedconnectionfactory-class>	1 回
			<config-property>	0 回以上			<config-property>	0 回以上
			<description>	0 回以上			<description>	0 回以上
			<config-property-name>	1 回			<config-property-name>	1 回
			<config-property-type>	1 回			<config-property-type>	1 回
			<config-property-value>	0 または 1 回			<config-property-value>	0 または 1 回
			<connectionfactory-interface>	1 回			<connectionfactory-interface>	1 回
			<connectionfactory-impl-class>	1 回			<connectionfactory-impl-class>	1 回
			<connection-interface>	1 回			<connection-interface>	1 回
			<connection-impl-class>	1 回			<connection-impl-class>	1 回
			<connector-runtime>	0 または 1 回			-	-
			(省略)	-			-	-
			<transaction-support>	1 回			<transaction-support>	1 回
			-	-			<authentication-mechanism>	0 回以上
			-	-			<description>	0 回以上
			-	-			<authentication-mechanism-type>	1 回

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

Connector 属性ファイル				Deployment Descriptor				
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン		
			—			└	<credential-interface>	1 回
		└	<reauthentication-support>	1 回		└	<reauthentication-support>	1 回
		└	<inbound-resourceadapter>	0 または 1 回		└	<inbound-resourceadapter>	0 または 1 回
		└	<messageadapter>	0 または 1 回		└	<messageadapter>	0 または 1 回
		└	<messagelistener>	1 回以上		└	<messagelistener>	1 回以上
		└	<messagelistener-type>	1 回		└	<messagelistener-type>	1 回
		└	<activationspec>	1 回		└	<activationspec>	1 回
		└	<activationspec-class>	1 回		└	<activationspec-class>	1 回
		└	<required-config-property>	0 回以上		└	<required-config-property>	0 回以上
		└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
		└	<config-property-name>	1 回		└	<config-property-name>	1 回
		└	<adminobject>	0 回以上		└	<adminobject>	0 回以上
		└	<adminobject-name>	0 または 1 回			—	—
		└	<adminobject-interface>	1 回		└	<adminobject-interface>	1 回
		└	<adminobject-class>	1 回		└	<adminobject-class>	1 回
		└	<config-property>	0 回以上		└	<config-property>	0 回以上
		└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
		└	<config-property-name>	1 回		└	<config-property-name>	1 回

Connector 属性ファイル				Deployment Descriptor				
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン		
			┌ <config-property-type>	1 回			┌ <config-property-type>	1 回
			┌ <config-property-value>	0 または 1 回			┌ <config-property-value>	0 または 1 回
			└ <config-property-value>	0 または 1 回			└ <config-property-value>	0 または 1 回
			└ <security-permission>	0 回以上			└ <security-permission>	0 回以上
			┌ <description>	0 回以上			┌ <description>	0 回以上
			└ <security-permission-spec>	1 回			└ <security-permission-spec>	1 回
			└ <resourceadapter-runtime>	0 または 1 回			└ -	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-

(凡例)

- : 対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略) : タグを省略しています。

4.1.16 cosminexus.xml との対応

Connector 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

Connector 属性ファイル		cosminexus.xml	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-connector-property>	1 回	└ <rar>	0 回以上
┌ <description>	0 回以上	-	-
┌ <display-name>	0 回以上	-	-
-	-	┌ <module-name>*1	1 回
┌ <resourceadapter>	0 または 1 回	┌ <resourceadapter>*2	0 または 1 回
	┌ <outbound- resourceadapter>		┌ <outbound- resourceadapter>
	0 または 1 回		0 または 1 回

4 リソースの設定で使用する属性ファイル

Connector 属性ファイル				cosminexus.xml					
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン			
		└	<connection-definition>	1 回以上			└	<connection-definition>	1 回以上
			-	-			┐	<connectionfactor <property-interface>	1 回
		└	<connector-runtime>	0 または 1 回				-	-
			<property>	0 回以上			┐	<connector-property>	0 回以上
			<property-name>	1 回				<property-name>	1 回
			<property-type>	1 回				-	-
			<property-value>	0 または 1 回				<property-value>*2	1 回
			<property-default-value>	0 または 1 回				-	-
		└	<resource-external-property>	0 回以上			└	<resource-external-property>	0 回以上
			<description>	0 または 1 回				-	-
			<optional-name>	1 回				<optional-name>	1 回
			<res-auth>	0 または 1 回				<res-auth>	0 または 1 回
		└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回			└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回
			<adminobject>	0 回以上			└	<adminobject>	0 回以上
		└	<adminobject-name>	0 または 1 回			└	<adminobject-name>*2	1 回
			(省略)	-				-	-
		└	<security-permission>	0 回以上				-	-
			(省略)	-				-	-

Connector 属性ファイル		cosminexus.xml			
タグ名	出現パターン	タグ名		出現パターン	
└─ <resourceadapter-runtime>	0 または 1 回		└─	─	
└─ <property>	0 回以上	└─	<resourceadapter-property>	0 回以上	
└─ <property-name>	1 回	└─	<property-name>	1 回	
└─ <property-type>	1 回		─	─	
└─ <property-value>	0 または 1 回	└─	<property-value>*2	1 回	
└─ <property-default-value>	0 または 1 回	─	─	─	
─	─	─	─	─	

(凡例)

─：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

application.xml の<application>-<module>-<connector>に対応し、属性ファイルには存在しない cosminexus.xml 独自のタグとなります。リソースアダプタを特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

4.2 JavaBeans リソース属性ファイル

JavaBeans リソース属性ファイルは、JavaBeans の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

4.2.1 JavaBeans リソース属性ファイルの指定内容

JavaBeans リソース属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-javabeans-resource-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD JavaBeans Resource Property 7.0//EN" 'file:///Application Server のインストールディレクトリ/CC/admin/dtds/hitachi-javabeans-resource-property_7_0.dtd'>
```

JavaBeans リソース属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-javabeans-resource-property>	1 回	ルートタグ。
┌ <description> │ └	0 または 1 回	JavaBeans リソースの説明を記述。
┌ <display-name> │ └	1 回	JavaBeans リソースの表示名。 1 ≤ 文字列長 ≤ 240 変更する場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z)、および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), パーレン (()), プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), セミコロン (;), レスザン (<), グレーターザン (>), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 また、先頭または末尾に半角スペースがある場合、エラーとならないで取り除かれて設定されます。
┌ <res-type> │ └	0 または 1 回	リソースのタイプ。 JavaBeans リソースのクラス名を指定します。<class-name>と同じ名称の場合は省略できます。
┌ <class-name> │ └	1 回	実装クラス名。 JavaBeans リソースの実装クラス名を指定します。

タグ名	出現パターン	説明
└ <runtime>	1 回	—
└ ┆ <property>	0 回以上	<property>の指定が複数あり、<property-name>の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、警告メッセージ (KDJE37600-W) が出力され、後ろに定義された<property>の<property-value>の値が有効になります。
┆ ┆ ┆ <property-name>	1 回	プロパティ名。 JavaBeans リソースの set メソッド名や get メソッド名を指定します。
┆ ┆ ┆ <property-type>	1 回	プロパティ値の Java の型。 指定できる型を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • int • long • short • byte • double • float • boolean • char • java.lang.Integer • java.lang.Long • java.lang.Short • java.lang.Byte • java.lang.Double • java.lang.Float • java.lang.Boolean • java.lang.Character • java.lang.String
┆ ┆ ┆ ┆ <property-value>	0 または 1 回	プロパティの値。
└ <resource-env-external-property>	0 回以上	—
┆ ┆ ┆ <description>	0 または 1 回	リソース環境の別名の説明。
┆ ┆ ┆ ┆ <optional-name>	1 回	リソース環境の別名。 設定する場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z)、および次の特殊文字を使用できます。

タグ名	出現パターン	説明
L <optional-name>	1 回	<p>スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バレーン ({}), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ペリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({}), ストローク (), チルダ (~)</p> <p>ただし、次の名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 予約語である” HITACHI_EJB” (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 • 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 • スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前 • スラッシュ (/) が連続している名前 <p>文字列の前後に空白、改行がある場合はエラーとなりませんが、取り除かれます。文字列の途中に空白、改行がある場合はエラーとなります。</p> <p>同一リソース内に<resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の指定値がほかの<optional-name>の指定値の下位階層となるような関係の場合は、警告メッセージ (KDJE37602-W) が出力されます。</p> <p>(例)</p> <p>別名 1 : AAA</p> <p>別名 2 : AAA/BBB</p> <p>1 ≤ 文字列長 ≤ 255</p>

4.3 メール属性ファイル

メール属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-mail-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Mail Property 7.1//EN" 'file:///<Application Server のインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-mail-property_7_1.dtd'>
```

メール属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-mail-property>	1 回	ルートタグ。
┌ ┌ <description>	0 または 1 回	設定情報についての説明。
┌ ┌ <display-name>	1 回	メール表示名。 1 ≤ 文字列長 ≤ 240 変更する場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z)、および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), パーレン (()), プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), セミコロン (;), レスザン (<), グレーターザン (>), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ピリオド (.) だけの名前 また、先頭または末尾に半角スペースがある場合、エラーとならないで取り除かれて設定されます。
┌ ┌ <from>	1 回	送信者のメールアドレス。
┌ ┌ <server>	1 回	メールサーバのホスト名または IP アドレス。
┌ ┌ <runtime>	0 または 1 回	—
┌ ┌ ┌ <resource-external-property>	0 回以上	<resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、警告メッセージ (KDJE37600-W) が出力され、後ろに定義された<resource-external-property>の<res-auth>や<res-sharing-scope>の値が有効になります。
┌ ┌ ┌ ┌ <description>	0 または 1 回	リソースの別名の説明。
┌ ┌ ┌ ┌ <optional-name>	1 回	リソースの別名。

	タグ名	出現パターン	説明
	<optional-name>	1 回	<p>設定する場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z), アンダースコア (_), ハイフン (-), ピリオド (.), および階層区切り文字としてスラッシュ (/) が使用できます。</p> <p>ただし、次の名前は指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 予約語である” HITACHI_EJB” (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 • 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 • スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前 • スラッシュ (/) が連続している名前 <p>文字列の前後に空白、改行がある場合はエラーとなりませんが、取り除かれます。文字列の途中で空白、改行がある場合はエラーとなります。</p> <p>同一リソース内に<resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の指定値がほかの<optional-name>の指定値の下位階層となるような関係の場合は、警告メッセージ (KDJE37602-W) が出力されます。</p> <p>(例)</p> <p>別名 1 : AAA 別名 2 : AAA/BBB 1 ≤ 文字列長 ≤ 255</p>
	<res-auth>	0 または 1 回	<p>リソースを使用するための認証元を、アプリケーション上で行うか、コンテナに任せるかの指定。</p> <p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Application • Container <p>デフォルトは Container です。</p>
	<res-sharing-scope>	0 または 1 回	<p>リソース接続を共有するかどうかの指定。</p> <p>指定できる文字列を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Shareable • Unshareable <p>デフォルトは Shareable です。</p>

索引

記号

<property>タグに設定する情報一覧 414

C

Connector 属性の詳細 [cosminexus.xml] 152
Connector 属性ファイル 346
Connector 属性ファイルの指定内容 346
Connector 属性ファイルのテンプレートファイル 419
cosminexus.xml 9
cosminexus.xml との対応 [Connector 属性ファイル] 427
cosminexus.xml との対応 [EJB-JAR 属性ファイル] 205
cosminexus.xml との対応 [Entity Bean 属性ファイル] 254
cosminexus.xml との対応 [MessageDrivenBean 属性ファイル] 273
cosminexus.xml との対応 [Session Bean 属性ファイル] 228
cosminexus.xml との対応 [WAR 属性ファイル] 332
cosminexus.xml との対応 [アプリケーション属性ファイル] 188
cosminexus.xml との対応 [サーブレット属性ファイル] 343
cosminexus.xml との対応 [フィルタ属性ファイル] 339

D

DBConnector_CP_ClusterPool_Root.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 405
DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar,
DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar, DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または
DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 390
DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar または
DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 394
DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または
DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_

RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 394

DBConnector_Oracle_CP_ClusterPool_Member.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 406
DBConnector_Oracle_CP.rar,
DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar,
DBConnector_Oracle_XA.rar または
DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 395
DBConnector_Oracle_XA.rar または
DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 399
DBConnector_SQLServer_CP.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 399
DD との対応 [Connector 属性ファイル] 421
DD との対応 [EJB-JAR 属性ファイル] 197
DD との対応 [Entity Bean 属性ファイル] 250
DD との対応 [MessageDrivenBean 属性ファイル] 268
DD との対応 [Session Bean 属性ファイル] 223
DD との対応 [WAR 属性ファイル] 312
DD との対応 [アプリケーション属性ファイル] 187
DD との対応 [サーブレット属性ファイル] 341
DD との対応 [フィルタ属性ファイル] 338

E

EJB-JAR 属性の詳細 [cosminexus.xml] 67
EJB-JAR 属性ファイル 189
EJB-JAR 属性ファイルの指定内容 189
Entity Bean 属性の詳細 [cosminexus.xml] 87
Entity Bean 属性ファイル 232
Entity Bean 属性ファイルの指定内容 232

F

Filter 属性の詳細 [cosminexus.xml] 149

J

J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル 181
JavaBeans リソース属性ファイル 430
JavaBeans リソース属性ファイルの指定内容 430

M

MessageDrivenBean 属性ファイル 259

MessageDrivenBean 属性ファイルの指定内容 259
 Message-driven Bean 属性の詳細
 [cosminexus.xml] 109

R

ResourceAdapter インスタンスに関するコンフィグ
 レーションプロパティの定義 [Connector 属性フ
 ァイル] 370

S

Servlet 属性の詳細 [cosminexus.xml] 150
 Session Bean 属性の詳細 [cosminexus.xml] 69
 Session Bean 属性ファイル 207
 Session Bean 属性ファイルの指定内容 207

W

War 属性の詳細 [cosminexus.xml] 122
 WAR 属性ファイル 277
 WAR 属性ファイルの指定内容 277

あ

アウトバウンドリソースアダプタの定義 [Connector
 属性ファイル] 372
 アプリケーション属性ファイル 185
 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) 9
 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)
 で指定する各属性の詳細 61
 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)
 の指定内容 10
 アプリケーション属性ファイルの指定内容 185
 アプリケーション統合属性の詳細 [cosminexus.xml]
 61
 アプリケーション統合属性ファイル 182
 アプリケーション統合属性ファイルの指定内容 182

い

インバウンドリソースアダプタの定義 [Connector 属
 性ファイル] 381

か

管理対象オブジェクトの定義 [Connector 属性フ
 ァイル] 383

さ

サーバ管理コマンド実行時の引数に指定するファイル
 2

サーブレット属性ファイル 340
 サーブレット属性ファイルの指定内容 340

せ

セキュリティパーミッションの定義 [Connector 属性
 ファイル] 387

そ

属性ファイル 181
 属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先
 (UNIX の場合) 5
 属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先
 (Windows の場合) 4

ふ

フィルタ属性ファイル 337
 フィルタ属性ファイルの指定内容 337

め

メール属性ファイル 433

り

リソースアダプタの実行時情報 [Connector 属性フ
 ァイル] 387
 リソースアダプタの設定 [Connector 属性ファイル]
 369
 リソースアダプタの定義 [Connector 属性ファイル]
 365